

平成 22 年度「大学生の就業力育成支援事業」
『持続型職業人SOZOプロジェクト』
成果報告書

学校法人藤ノ花学園

豊橋創造大学

豊橋創造大学短期大学部

目 次

はじめに	1
『持続型職業人SOZOプロジェクト』概要	2
文部科学省申請概略	4
I. 平成22年度活動実績	7
1. iPad 配布説明会	8
2. メンタルタフネスベーシック講座	9
3. 就業に関するアンケート	19
II. 平成23年度活動実績	23
1. 「豊橋を知る」キックオフ講演会	24
2. 携帯情報端末アプリケーション導入説明会	34
3. 職業研究	35
4. 社会人基礎講座	36
5. キャリアプランニング I	37
6. メンタルタフネスアセスメント講習	38
7. 情報ビジネス学部：プロジェクト演習「中間発表会」	43
8. メンタルタフネスセルフモチベーション講座	48
9. 卒業生業界別交流会	53
10. 在学生&卒業生交流会	55
11. メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座（1）	59
12. プロジェクト管理システム(version2)導入説明会	67
13. メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座（2）	68
14. キャリアプランニング科：プロジェクト成果発表会	74
15. 情報ビジネス学部：プロジェクト成果発表会	82
III. 事業グループ成果報告書	93
1. メンタルタフネスグループ	98
2. プロジェクト実践グループ	110
3. ユビキタスキャンパスグループ	121
4. 大学コミュニティーグループ	127
IV. プロジェクト演習成果報告書（教員）	131
V. プロジェクト演習協力企業・団体一覧	179
VI. 発行済パンフレット	181

はじめに

本報告書は、平成22年度、文部科学省にて採択された大学改革推進事業補助金「大学生の就業力育成支援事業」の活動とその成果を取りまとめたものである。「就業力育成支援事業」の取り組みは、豊橋創造大学情報ビジネス学部ならびに豊橋創造大学短期大学部キャリアプランニング科の2つの学科がともに進めてきたものである。

この就業力については、2010年2月に改正され、2011年度から施行される大学設置基準では、「学生が卒業後自らの素質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力」を就業力と定義がなされ、学生が自分に合った仕事を見つける能力のことを意味している。

本学では、これまでフレッシュマンプログラム、キャリア教育、インターンシップ、資格支援など、就業力育成に多くの力を割いてきたが、それでも就業後数年以内に離職をするなどの現象も現れている。今回の大学改革推進事業補助金「大学生の就業力育成支援事業」の採択を受け、「魅力ある大学づくり」に向けて就業力育成を組織的に展開することとした。このため、本学の就業力の育成に関わる現状を踏まえ、またこれまで展開してきた一連のプログラムの見直しを行い、学生のメンタル面とスキル面双方の強さを備えた、『職業人』を育成することをテーマに、就業後の安易な離職と早期退職を防止することを課題として推進してきた。

具体的には『職業人としての就業力』の育成を、①メンタルタフネスの育成 ②実践的スキルのブラッシュアップ（プロジェクトマネジメント体験）③ユビキタスキャンパスの始動 ④大学コミュニティーを活用した社会人基礎教育の展開 の4つを柱として展開してきた。本報告書は、平成22・23年度において、この4つの柱を中心に活動・実施内容と成果をとりまとめた。

豊橋創造大学情報ビジネス学部ならびに豊橋創造大学短期大学部キャリアプランニング科では、これまでの活動を基礎に、就業力育成を継続的に改善を加えて展開する所存ですので、本報告書をご覧いただき、忌憚のないご意見を頂戴いただければ幸いです。

2012年3月

「持続型職業人SOZOプロジェクト」

事業推進責任者

豊橋創造大学情報ビジネス学部長 佐藤勝尚

文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に採択されました「持続型職業人 SOZO プロジェクト」の成果報告書をお届けします。

本学は、平成二十二年度以来、大学改革推進事業補助金（大学生の就業力育成支援事業）を柱に魅力ある大学づくりに取り組んでいます。この事業は、本学と短期大学部が共同で推進している、スキル面とメンタル面の両方の強さを備えた職業人育成を目的としたプロジェクトであります。下記の解決策を通じて、社会的・職業的自立に繋がる学生の就業力育成を目的としています。

豊橋創造大学情報ビジネス学部ならびに短期大学部キャリアプランニング科ではこれまで1学年 170 名程度の少人数を活かした密度の濃いキャリア教育、スキル育成プログラムによって、職業人として必要な就業力育成を行ってきた。その結果、就職率は90%を超え、フリーター、ニートを出さない大学として定着しつつあります。しかしながら、就業後に目を向けてみると、卒業後数年内に安易な離職をしてしまう卒業生も存在し、その原因はストレス耐性や我慢の欠如などメンタルタフネスの不足に依拠するケースが見受けられました。

そのため、本取組では就業力育成のため、具体的施策を以下の4点を柱としてこれを推進することにしました。

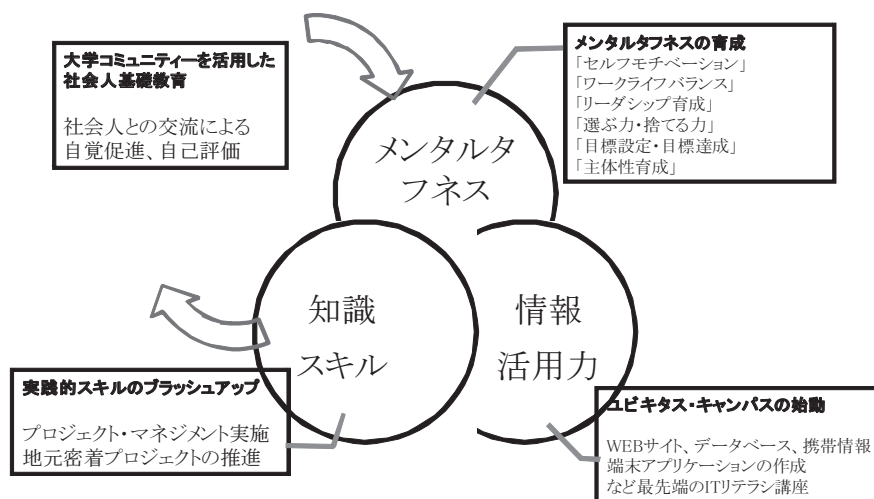
- 1)メンタルタフネスの育成 : セルフモチベーション、ストレスコントロールなどグループでの実技演習と座学を組み合わせる学生自身の経験知を高める教育プログラムの開発・展開しました。また、学部学生用としてビジネス研究講座を開講することによって学部学生の就業観の育成をおこなっています。
- 2)実践的スキルのブラッシュアップ[プロジェクトマネジメント体験] : 学生自身が企画・立案・運営するプロジェクトを立ち上げる場の提供を行い、そのプロジェクトの運営を通して、学生自ら気づき・学ぶ「SOZOプロジェクト」を推進しています。そのプロジェクト運営を通してプロジェクトマネジメント体験やプロジェクト運営に不可欠なウェブ検索サイトや携帯情報端末を活用したITリテラシーを体得させる事業を展開しています。
- 3)ユビキタス・キャンパスの始動 : 「持続型職業人SOZOプロジェクト」に特化したWEBサイト・データベースの構築・運用。大学と学生をインタラクティブに結ぶために、携帯情報端末を貸与し、専用アプリケーション開発支援や学内IT環境の整備などをおこなっています。



4) 大学コミュニティを活用した社会人基礎教育の展開：これまで多くの卒業生を地元へ輩出した強みを生かし、卒業生の人的ネットワークを再構築するために、社会活動豊富な卒業生と在学部生の交流を推進しています。

次ページ以降に本取組の詳細についてご報告いたします。次年度以降も教職員一同、全力をあげて本事業を遂行していく所存ですので、本事業においてますますのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本申請事業の概略図



持続型職業人 SOZO プロジェクト委員会



1. 大学等名／設置者名	豊橋創造大学／学校法人 藤ノ花学園
2. 事業名	「大学生の就業力育成支援事業」
3. 取組名	「持続型職業人」SOZO プロジェクト
4. 選定年度	平成22年度
5. 事業推進代表者／ 事業推進責任者	事業推進代表者 (所属部局・職名・氏名) 学長 伊藤 晴康 事業推進責任者 (所属部局・職名・氏名) 情報ビジネス学部 学部長 佐藤 勝尚
6. 事務担当者	担当 (所属部局・職名・氏名) キャリアセンター 渉外部長 中村 隆三
7. 選定取組の概要	<p>豊橋創造大学情報ビジネス学部ならびに豊橋創造大学短期大学部キャリアプランニング科ではこれまで1学年170名程度(情報ビジネス学部70名, キャリアプランニング科100名)の少人数を活かした密度の濃いキャリア教育、スキル育成プログラムによって、職業人として必要な就業力育成を行ってきた。その結果、就職率は90%を超え、フリーター、ニートを出さない大学として定着しつつある。しかし、就業後に目を向けてみると、卒業後数年内に安易な離職をしてしまう卒業生も存在し、その原因は仕事に対するストレス耐性や我慢の欠如などメンタルタフネスの不足に依拠するケースが見受けられる。これらの現状を踏まえ、社会的・職業的自立に繋がるスキルの更なる向上と共に、メンタル面の育成を強化し、早期離職防止を図るため、以下の4点を具体的施策の柱として推進する。</p> <p>1)メンタルタフネスの育成 2)実践的スキルのブラッシュアップ 3)上記2点を実現するためのユビキタス・キャンパスの始動 4)大学コミュニティーを活用した社会人基礎教育の展開</p>
8. 補助事業の目的・必要性	<p>(全体)</p> <p>本補助事業の目的はスキル面とメンタル面の両方の強さを兼ね備えた職業人を育成することにより、学生の本質的な就業力を向上させることである。その必要性は就業後の「安易な離職」や「早期退職」等を背景としたものであり、この問題を解決することによって、持続的に社会に貢献出来る職業人を育成することである。</p> <p>本補助事業の目的を実現するための具体的施策は以下の4つを柱として、これを推進する。</p> <p>1 メンタルタフネスの育成: ストレス対応法、セルフモチベーション、メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座、目標設定などの理論的背景と実技演習を組み合わせることで学生自身の経験知を高める教育プログラムを開発・展開する。</p>

2 実践的スキルのブラッシュアップ: 学生自身が企画・立案・運営するプロジェクトを立ち上げる場の提供を行い、そのプロジェクトの運営を通して、学生自ら気づき・学ぶ「創造プロジェクト」を推進する。そのプロジェクト運営を通してプロジェクトマネジメント体験やプロジェクト運営に不可欠なウェブ検索サイトや携帯情報端末を活用した IT リテラシーを体得させる事業を展開する。

3 上記2点を実現するためのユビキタス・キャンパスの始動: 「持続型職業人 SOZO プロジェクト」に特化した WEB サイト・データベースの構築・運用。大学と学生をインタラクティブに結ぶための携帯情報端末アプリケーションの開発・運用をする。

4 卒業生との大学コミュニティーを活用した社会人基礎教育の展開: これまで輩出した卒業生とのパイプを活かし人的ネットワークを再構築し、その社会活動豊富な卒業生と在学部生の交流を推進し、学生の社会人力の養成を行う事業を展開する。

平成 22 年度活動実績

行事名	実施日	関連資料
iPad 配布説明会	2 月 9 日	概要 P8
	3 月 25 日	
メンタルタフネスベーシック講座	3 月 23 日	概要 P9
	3 月 24 日	テキスト P10
就業に関するアンケート		概要 P19
		送付文書 P20
		集計結果 P21

「持続型職業人 SOZO プロジェクト」の4つの柱（グループ事業）のひとつである「ユビキタス・キャンパスの始動」では、大学と学生をインタラクティブに結ぶユビキタス・キャンパスの実現を目的としている。本グループ事業では、携帯情報端末を日常的に利用させることを通じて、現代の社会活動において不可欠である基礎的な IT スキルの習得・向上させることを目的のひとつとしている。

平成22年度末には、対象学生および学生を指導する教職員に対して、携帯情報端末（iPad）の配布説明会を実施した。説明会では、iPad の基本的な利用方法、学内無線 LAN 接続の設定方法、ならびに、ポータルサイト（マニュアル等を集約した Web サイト）へのアクセス方法について説明を行い、4月から iPad を活用したプロジェクト活動等を円滑に実施できるよう準備させた。

iPad 配付説明会（教員）

開催日：平成23年2月9日（水）

会場：豊橋創造大学 A23 教室

参加人数：情報ビジネス学部教員 18名

キャリアプランニング科教員 9名

職員 9名

iPad 配付説明会（学生）

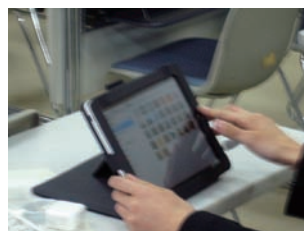
開催日：平成23年3月25日（金）

会場：豊橋創造大学 B23 教室

参加人数：情報ビジネス学部新3年生 51名

キャリアプランニング科新2年生 88名

教職員 17名



平成 22 年度に文部科学省より「大学生の就業力育成支援事業」の採択を受けた本事業のスタートとして、メンタルタフネスベーシック講座を実施した。

本学はこれまで、1 学年 170 名程度の少人数を活かした密度の濃いキャリア教育、スキル育成プログラムによる職業人として必要な就業力育成を行ってきた。その結果、就職率は 90% を超え、フリーター、ニートを出さない大学として定着しつつあるが、就業後に目を向けてみると、卒業後数年内に安易な離職をしてしまう卒業生も存在する。その原因はストレス耐性や我慢の欠如などメンタルタフネスの不足によるケースが見受けられることから、学生をメンタル面とスキル面の両方の強さを備えた『職業人』として育成し、学生の本質的な就業力を向上させ、就業後の「安易な離職」や「早期退職」を防ぐことに繋げるために企画したものである。

当初、1 泊 2 日の合宿形式での実施を予定していたが、平成 22 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の甚大な被害により、宿泊形式での参加が危ぶまれた学生もいたことから、急遽、学内での実施に切り替えて実施した。

メンタルタフネスベーシック講座

開催日：平成 23 年 3 月 23 日（水）・24 日（木）

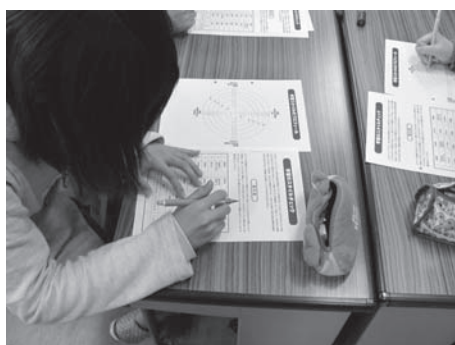
会場：豊橋創造大学 A23 教室・A24 教室

参加人数：情報ビジネス学部新 3 年生 49 名

キャリアプランニング科新 2 年生 86 名

教職員 27 名

講師：キャラメルソース(株)代表取締役 初見 康行 様



第1回

メンタルタフネス
ベーシック講座

この講座では、次のことを学びます。

- ストレスとは？
- なぜ、メンタルタフネスが必要か？
- メンタルタフネスを自分のものにするにはどうしたらいいのか？

この講座を学び、それを実践することによってあなたは

- 自分の学び方を理解することができる
- ストレスにより深い興味を持ち、自信を持ってこれからの環境変化に対応することができる
- あなた自身が日常生活において気軽に実行できるストレス対応手法を身につけることができる

学ぶこと・メンタルタフネス

メンタルとタフネスの意味を辞書（大辞泉）で調べると、

- ・メンタル：精神や知能に関するさま。精神的であるさま。
- ・タフネス：疲れを知らない粘り強さ。強じん性。頑丈であること。

では、メンタルタフネスを発揮している人と思っている人とメンタルタフネスを発揮しきれない人とはどのような人でしょうか？

メンタルタフネスを発揮している人は、

- ① 身体が健康であり、生活習慣も安定
- ② 精神面も安定
- ③ バイタリティーがある
- ④ 様々な環境になじんだ感じ（適応感）や意欲が高く満足度も高い

その反対は、

- ① 疲労が強く、体調が悪い。生活習慣も不規則
- ② 抑うつ的で不安定
- ③ 自信が持てず消極的
- ④ 将来への希望、適応感、帰属意識が不足…ということになります。

メンタルタフネスとは、「ストレスに対応する適応力」です。

私たちは、メンタルタフネスを発揮している人のように、全てが充実しているときには、意識してメンタルタフネスについて考えることは少ないものです。人は困らなければ考える行動を起こさないうちです。

メンタルタフネスについて考える行動を起こさすきっかけは3つあります。

- 1つ目は「心のエネルギーが低下し、活気がない状態＝うつ状態・半健康人。になったときが多いほうです。
 - 2つ目は、就職の不安など将来に「悩み」があるときです。
 - 3つ目は、最も重要ですが、人が何かを成し遂げようとする目的と目標を持ったり、責任を感じたりする時にメンタルタフネスについて意識します。
- 特に、目的や目標を持つ人は、予測される強いプレッシャーへ対応するため、あるいは困難時の予期せぬ過剰な負荷へ備えて、メンタルタフネス力の向上に努めています。

例えば、その姿を大リーグ・マリナースのイチロー選手やサッカーの三浦和良選手など、トップアスリートに見ることができます。

1

学ぶこと・四つの資源

この講座では、次の四つの資源を備えている人を「ストレスに対応する適応力」の持つ人であると考えます。

1) 生理的コンディション資源

生きていくためには、気力や体力など、生理的コンディションは絶対条件です。この資源が良好な状態であることが基本です。

2) ソーシャル・スキル資源

スキル（skill）とは、訓練（学ぶこと）によって得られる技能や技術です。ビジネスの世界で活躍するには、対人関係スキル・課題解決スキルが必要となります。

3) ソーシャル・サポート資源

私たちは、一人で生きているわけではありません。自分ひとりで解決できないことも家族や多くの仲間の手助けで多くの困難を解決することが出来ます。この助けを求めるとの出来る資源をサポート資源といえます。

4) 意味の充足資源

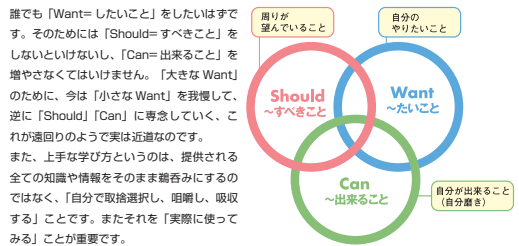
意味の資源とは、自分自身の存在を意味づける力です。働く意味・生きがいや仕事のやりがいなど、自分で見つけなければならない人生の目的とも言える資源です。

この四つの資源を身に着けて頂くために、4回の講座を実施します。

2

上手な学び方

本講座ではみなさんに「楽しく生き生き」学んでもらいたいと考えています。学ぶこと（学び方）を考える時に良く使われるのが、下の三つの輪です。



- ① 取捨選択とは、様々な情報の中から、「自分に役立つところだけを抜き取る」という意味です。
- ② 取捨とは、それをさらに「自分の使いやすい形にコンパクトにまとめる」ということです。
- ③ 吸収するとは、「実際に使う」ということです。

逆に言うと、上手でない学び方というのは、「何でもかんでも全部・丸ごと 詰め込もうとして、結局身動き取れなくなってしまふようなやり方」です。これでは、「役に立たない学び」になってしまいます。また、「自分が理解・納得できないところに反論する」という学び方や「自分へのこだわり」が強すぎることは、デメリットが多いものです。それでは、あまり「役に立たない学び方」になってしまう場合があります。

参考

サッカーの三浦和良（横浜F C 元日本代表）さんは、学びについて次のように語っています。

- ・学ばない者は、人のせいにする
 - ・学びつつある者は、自分のせいにする
 - ・学ぶということを知っている者は、誰のせいにもしない。
- 僕は学び続ける人間でいたい。

*ブラジルでの経験談より（17歳のころ悩んでいた僕に…）

三浦：「僕はいつだって考えている」
 コーチ：「考えるだけでとまっている人間はたくさんいる。お前もそうだ。考え、悩め。でも前に出る！失敗して、人生のルールを踏み外すこともある。その時も、フアラでもいからとまるな。いっしょに100m進まなくてもいい。カズ、1センチでもいいから前へ進んだ。考えるだけでダメだ！」

3

学び(学習)のプロセス

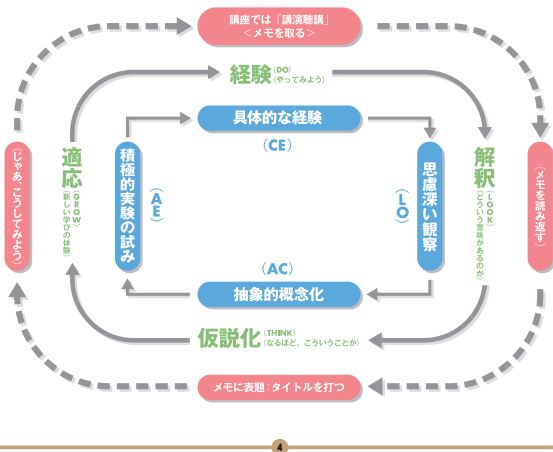
学び(学習)とは、各自の欲求(ニーズ)と意識(あるいは目的や目標)によって定まります。

- ① 自分の目標に関係のある経験を得ようとする。
- ② 目標に照らして、その経験を解釈しようとする。
- ③ そこから概念化・仮説化がされ、何らかの結論を得る。
- ④ その結論が自分の目標・欲求に達しているか確かめてみる。

したがって学び方(学習のスタイル)は、それぞれ個人に独特な傾向を表し、それぞれの勉強している環境、求められている事柄にも影響されつつ、さまざまな形で示されることとなります。

学び(学習)は、教室の中に限られたものではなく、日々の体験や生活も学習の場です。

学習には、四つのプロセスがあり、それは常に循環しています。



4

なぜ、学び方が必要か

学校とビジネス社会には、大きな違いがあります。

学校での勉強が、知識を吸収するということが目標であるとするならば、ビジネスの世界では、覚えた知識を使うことが目標です。覚えた知識を使うということは、「実際の状況で活かす」という意味です。

学校では、先生方から何を学ぶべきか、情報はどこにあるかなどの知識が提供されます。そして、試験の出題範囲が示され試験が行われます。提供された知識は、後で試験に出ることが分かっているため熱心にノートをとりまわす。宿題の出された教科書の範囲も予習します。

そこで、次のようなことはありませんでしたか？

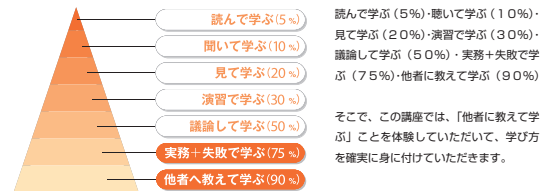
- ・授業を受けて先生の話を聞いてメモをとる。
- ・あとで「メモ」を読み返す。
- ・何が書いてあるかわからない。

これは授業を受けて「学んだ」つもりになっていることを示しています。これでは、本当の学びとはいえません。

大学を出てからの学びは、学校での学びと全く違います。試験範囲も指示されませんし、学校のような試験もありません。社会に出れば、自分が自分の先生です。何を学ぶべきか、情報はどこにあるかなど、自分で考えるしかありません。つまり、自分にあった「学び方」をしっかり身に付けることが大切なのです。

では、どのように学び方を身につければいいのでしょうか？

学び方は、方法によって、次のように理解度が違うといわれています。

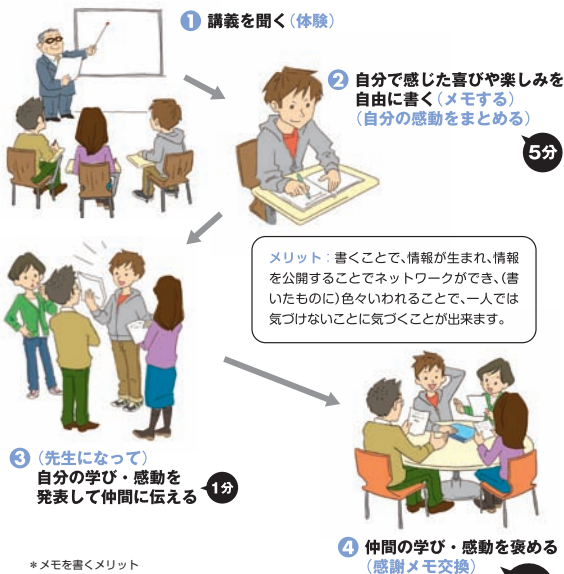


“学びのピラミッド”
 学問から学ぶ知識の理解度
 出典: "Learning Pyramid"
 National Training Laboratories,
 Bethel, Maine

5

講座の進め方

メンタルタフネス講座では、情報を発信する側(先生)と受信する側(生徒)の関係だけでなく、以下のように誰もが情報の発信者(先生)になって頂きます。



*メモを書くメリット

- ・書くことで、自分の関心がどこにあるのかが見えてくる。
- ・書くうちに、「何を書出すべきか」とそのことが楽しくなってくる。
- ・書くことでそれを人に伝えたいくなる。
- ・そこに人と人の輪(ネットワーク)ができる。
- ・書くことで、学びが楽しくなる。

6

進め方のポイント

1) 配布した「学びメモシート」に書きます。

- ① 書く……三つのルールを守って書きます。
 - (1) 各講義が終わるたびに書く
 - (2) 書いたものの質や量を問わない
 - (3) 考えず、話すように書く
- ② 書く……概念化(要約して)してタイトルをつけることで、あなたの知識・情報にします(なります)。
- ③ 書く……今の体験が、新しい自分の学びや発見につながります。

2) 講義の最後に、書いた内容を発表します。

発表しあうことで、いままでは、情報を発信する側(先生・講師)と受信する側(生徒)が明確に分かれていたのですが、この発表の場では、誰もが自分の感じ取ったことを言葉にし、誰もが情報の発信者(先生・講師)になって頂きます。そして、多くの仲間と対等に情報の共有(コミュニケーション)を行い、誰からでも相互に「学び」取れる場にしていきます。

□学びメモの書き方

- 1) 講義の内容をそのまま書くのではなく、この場で話されていることや、フツと浮かんだことなどを「書く」……何を書いてもいいです。
- 2) でも、感想を書くものではありません。この場にはいない人に伝えるつもりで、「自分が感じ取った喜びや楽しみ、そして学びをその人に分かるように」書きます。
- 3) そうすることで、自分のこころの中でおきた変化や「自分は何に関心が向いているか」「何を人に伝えたいか」など、書いているうちにその意味がはっきりします。

7

参考：わかりやすい発表（話し方）のヒント

わかりやすい発表（話し方）は「め・す・ひ・な・ま」で！

め：「目配り」をしなから話す

一人ひとりに目を合わせながら話す。「アイコンタクト」
一言ごとに異なる聴衆に目を配る。「ワンセンテンス・ワンパーソン」

す：「すべて」を使って話す

相手が話を聞いているとき、相手の目は終始、あなた（話し手）の全身の立ち振舞いを正確に観察しています。全身全霊で相手に訴える姿勢がなければ、人は真の意味で感動しきれません。

*立ち振る舞いの全て！ 情熱、迫力、態度、マナー、人柄、姿勢、身振り、手振り、服装、顔つき、外見、表情、視線

ひ：「ひとつあります」といって話す

話の整理は、あなた（話し手）の責任です。徹底的に論点を絞ってまとめ上げ、重要度順にポイントをナンバリングして最初から全体のナンバリーを言って、その通りに終わります。例えば、ポイントのひとつあります。それは〇〇ということ。また、論点は二つあります。一つ目は〇〇ということです。二つ目は□□ということです。

×「それから」とか「まず」とか「次に」「最後に」という表現は使わないこと！

な：「なぜならば」といって話す

論拠（*）を明確にしなから話す。

「私は、〇〇と考える。なぜならば…であるからである。」

（口癖にすれば、話が早い。）相手から「なぜですか？」と聞かれる前に、自分から「なぜならば…」と話せば、説得力・納得性を増す。

ただし、論拠が論拠としてしっかり主張したいポイントの裏づけになっていなければならない。

*論拠とは、話のテーマのよりどころ・根拠である。

ま：「まとめます」といって話す

「今の話をまとめますとポイントはひとつです。それは〇〇ということです」

話の行き違いをなくす（少なくする）。

話を聞いたあとの頭の中は、必ずしも話し手の期待通りにまとまっているわけではない。かなり勝手な解釈をしている場合が多い。

⇒「自分の考えをうまく話せない」のは、

「うまく、考えることが出来ない」ということ。「考えられない」から、話をうまく組み立てられない。話を組み立てられないから話せない。話せないことは書けない。書けないことは、伝わらない。

ストレスとは何か

「ストレス」という言葉を最初に使ったのは、セリエという学者です。によると、ストレスとは、「ストレッサー」と呼ばれるストレスを引き起こす刺激によって、覚醒水準が高まることを指します。ストレス自体は、本来はネガティブなものでもポジティブなものでもありません。ただ、覚醒水準が自分の思っている以上に高かったり、思ったときに下げることができなかったり、不快なものや認知されるようになると、負の意味でストレスと感ずるようになります。

●どんなものでもストレッサーになり得ます。

例えば、秋の「鈴虫の声」。日本人にとっては、鈴虫の声を聞くことはリラクゼーションになりますが、外国の人にとって鈴虫はストレッサーになることがあります。米国では鈴虫が鳴くと、「秋は鈴虫がうるさいよね〜、眠れる？」というような感じの会話が普通に行われているのです。鈴虫の声がストレッサーなのです。同様に、同じものがすべての人にとってストレスと感ずられるとは限りません。つまり、同じ刺激でも、ストレスになる人とならない人がいる。人によって何をストレッサーとして捉えるかが違うのです。

ストレッサーによって覚醒水準が上がっていることをストレスといいますが、本来、完全なストレスフリーという状態はあり得ません。もし、そういうことになると人間は退化してしまいます。極端な例ですが、感覚遮断実験というものがあります。被験者を「見えず、聞こえず、触れず」という状態にする実験ですが、被験者は2〜3時間でその状況に耐えられなくなります。この「見えず、聞こえず、触れず」という状態は、視覚にも、聴覚にも、体感覚にもストレスがない状態です。一見、こんなに幸せなことはないはずなのに3時間も持たない。だから、ストレスがないという状態はないのです。ただ、自分にとって、ちょうどいいストレスかどうか、望みのストレスかどうか、ということなのです。

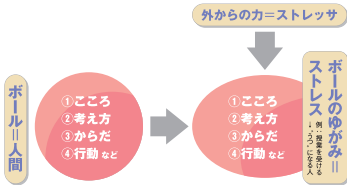
人をボールに例えると

ストレスは、外部から様々な刺激が加わったときに起こる、人の「こころからだ」などのゆがみの状態を指します。

人間を軟らかいゴムボールだとすると、ボールに力を加えるとボールはつぶれます。力を取り除くと、つぶれたボールはもとのボールに戻ります。しかし、ゴムが変形するほど大きな力を加えると元には戻りません。

人間も同じです。私たちの周りには、環境の問題や人間関係の問題など、ストレスの原因(ストレッサー)が数多くあります。そして、その問題に対応しようとするときに様々な変化が生まれます。この変化を私たちは、頭や心で感じるだけでなく、様々なこととして認識しています。この認識している状態=ゆがみがストレスです。

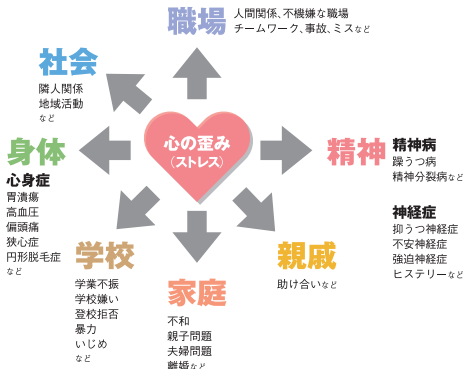
同じストレッサーにさらされても、それによる影響の表れ方は、人によって異なる。たとえば疲労や不眠、また頭痛といった身体面に症状が表れる人もいれば、不安や抑うつといった心理面に症状が表れる人もいます。また、遅刻の増加や無意識に嫌な相手を選べるなど、行動面に出る人もいます。依存やあきらめといった考え方に変化が起きる人も…といった具合で様々です。



同じストレスを受けても、それをストレスと思わない人もいれば、強いストレスを感じてしまう人もいます。また、同じ環境でもストレスに打ち勝てる人とそうでない人がいます。その違いは、ストレスに耐えられる心の柔軟さや強さ、つまり「メンタルタフネス」の高低によるものです。

ストレスと心身の因果関係

先にも述べたように、同じストレッサーにさらされても、それによる影響の表れ方は、人によって異なり、図のような様々な症状によって現れます。



覚醒水準が上がる、つまりストレスがたまってくると「Fight or Flight (ファイト オア フライト)」——戦うか逃げるか、という状態になります。これは脳の中枢、脳幹の中枢で起こっていることで、動物は覚醒水準が上がると、自分が向かっていくか、それとも逃げるか、という意識状態になります。仕事をしている状態もそうです。戦うか逃げるか、という状態で作業をしています。

本当は、自分の意志でストレッサーを避けたり、ストレスを減らしたり、また上げたり、というように、コントロールできるようになれるのです。ところが、ストレッサーが多すぎて、ひっきりなしに対処している状態、常に電源オンのような状態になると、これはよくありません。

ストレスへの対処法

一つは、飛んできた石、つまりストレッサーから逃げるという方法です。もう一つは、ストレスと付き合うという方法です。これはストレスにうまく対処するという事です。また、石がぶつかったときのショックを和らげるために、スポンジのような緩衝材をあてがうという方法もあります。このスポンジの役割をするのがソーシャルサポート資源です。友人や同僚、家族といった存在がこれにあたります。しかし、友人や家族は最大のストレッサーといわれることもありすが、同時に最大の支援者にもなり得ます。

では、仲間がスポンジの役割を果たすにはどうすればいいのでしょうか、まずは仲間の話をしっかり聞くことが重要です。そこで最近、注目されているのが人の話を聞く際のテクニックである「傾聴」です。カウンセリングマインド、座る場所や姿勢、質問や言葉の選び方など、話を聞くための実践的な技術に関するセミナーは数多く、受講者も増えているといえます。

意見の対立があったときに、一方的に自分の意見を押し付けるのでも、我慢をするのでもなく、自分も相手も尊重しながら行うさわやかな自己主張の仕方。あなたは仲間のいうことに耳を傾け、仲間はあなたに明るく前向きな自己主張をすることで、これだけで友人同士のストレスはかなり軽減されるはずです。当たり前のように、これができていると胸を張れる人は、そう多くないと思います。

メンタルタフネスにはストレスの受け止め方の違いも大いに関係しています。たとえちょっとした自損事故を起こしたとき、車両保険で修理すれば車は元通りになるのに、これで保険料が上がってしまうなど、余計なことまで考えていつまでも落ち込んでしまう人がいますね。このように、ものごとの受け止め方に偏りがあると、うつになりやすいといわれます。こういう人の多くは、ストレスにとらわれているのに、気が付いていないようです。

メンタルタフネスで大切なのは、まずストレスに気付くことです。そのためにはカウンセラーに相談するのが一番ですが、現実にはなかなか難しいといえます。そこで、その代わりにしてくれるのが、グチや不満を話せる友人の存在です。ストレスの原因や、自分の感情

がはっきりするというのが、話すことの効用です。ストレスを客観的に捉え、その受け止め方の偏りを自分自身で気付かせ修正できるようになります。何でも話せる友人を同じクラスだけでなくそれ以外に2人以上は作りましょう。

ストレスチェック

ストレスの客観化を合理的に行えるのがストレスチェックです。

ストレスがたまった状態（うつ）は、体は健康なのにそれを動かすエネルギーがない状態のことです。いわばガソリンが切れた車のようなものです。うつになる人の多くは、マジメで脇目もふらずに走っているから、ガスマーターが少なくなっても気が付かない人です。ストレスチェックをすることはメーター類を自ら確認するという作業です。ストレスに気付くことができれば、それ以上ストレスを強めないようブレーキを踏むこともできるのです。

生きる機能の減退

本能機能の減退

- ① 食欲（味覚含む）
- ② 性欲
- ③ 睡眠欲
 - ・入眠
 - ・熟眠…ゆめ
 - ・早朝覚醒
- ④ 集団欲

新陳代謝機能の減退

- ① 疲れが残る（朝）
- ② 肩こり
- ③ 頭痛

思考記録票と目標設定

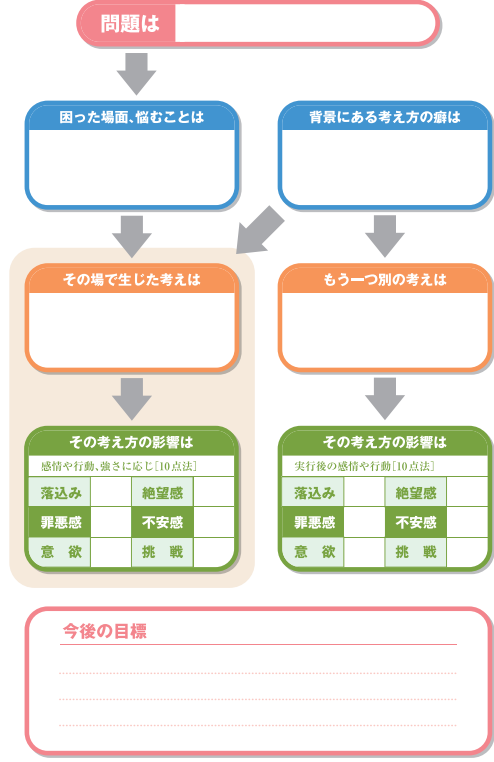
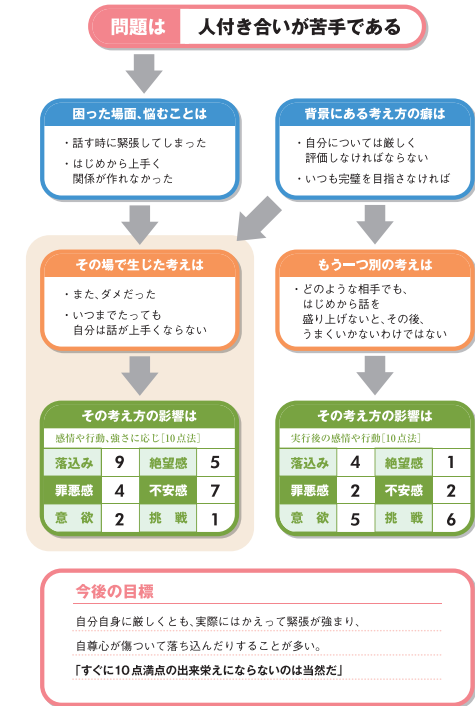
ストレスを溜め込む人には、事態を必要以上に深刻にとらえてしまう人がいます。自分の考え方の癖を知り、合理的でない思考やその元になっている信念に気づいて、以下の七つのステップを踏んでいけば、それを変えることができます。結果、合理的な思考が身に付いてストレスへ適切に対応できることになります。

ステップ①	困っていること、悩んでいる問題をはっきりさせよう。[問題の認識]
ステップ②	どういう場面で、そのことが起こっているか、考えてみよう。[動揺させた事実]
ステップ③	その場で生じている感情、行動および思考について調べてみよう。[自動思考]
ステップ④	その思考が、その時の感情や行動にどのように影響しているか、考えてみよう。[自動思考の影響]
ステップ⑤	その思考が適切か、役に立っているか、考えてみよう。[背景にある考え方のクセ]
ステップ⑥	同じ出来事を、別の思考や見方ができないか、考えてみよう。[合理的思考の探索]
ステップ⑦	その別の思考や見方を実行してみてもどうなるか、試してみよう。[合理的思考の影響]
★今後の目標	

★自動思考：自分の意思と関係なく、頭の中に何度も出てきてしまう考えを「自動思考」という。この思考が連んでいる（合理的でない）と、ストレスが溜まりやすい。

考え方の癖を直してストレスへ上手に対応する → 思考の合理化

七つのステップの記入例



過度な合理的思考がメンタルタフネスの妨げになる

悩みというものは合理的に考えても、解決しないことが多いものです。それでも「もっと深く考えれば治るはずだ」「原因突き止めれば治るはずだ」ということをしてしまいます。特に物事をいつも合理的に考えやすい人はそうではありませんか？

仕事などでは、合理的、論理的な思考が求められます。問題点があれば、原因を探り、それを取り除くための対処、そうすれば将来どうなるかの見通しを立てます。ところが悩みに対してはその思考方法が役に立つとは限りません。実はこのような思考方法で考え続けていくと、さらに苦悩が増すことがあります。

例えば、仕事でミスをして落ち込んだとします。

そして「自分は仕事もロクにできない人間だ」とレッテルをはります。「同僚から馬鹿にされてるんだろなあ」「同僚よりも自分は劣っている」と他人の目を気にしたり、他人と比較したりします。「そういえば昔からそうだったなあ」と過去に原因をもとめたり「この先もずっとこのかなあ」と未来を想像したりします。そうすると、後悔、絶望感という新たな苦悩が生まれ、落ち込んでいきます。どう考えても落ち込んでいく一方なのに、「考えれば解決するはずだ」という信念があるために、考え続けるのです。

このように、初めは「仕事でミスをした」という現在の事実から、他人との比較、過去や未来という1〜7チャルな世界に思考が飛んでしまうのです。小さな出来事が頭の中でだんだん大きく変化していき、苦悩を増大させる一要因となります。

メンタルタフネスが弱っている人（うつの人）に考えてほしいのは、「考え続ける」ことなのか「解決したい」のか、どちらでしょう、ということです。「考え続ける＝解決」とは限りません。

堂々巡りになっているときは、「考え続ける」という罠にはまっているものです。罠にはまらないためには、その罠から気付き、思考記録票で行った「考え方を変える」、「認知の歪みを治す」などの対処スキルが必要となります。

16

リラクゼーションとは

神経には自律神経と随意神経があります。随意神経とは自分の意志で動かせる神経、自律神経は自分でコントロールできない神経です。

例えば、「心臓の鼓動のスピードをちょっと変えてみてください」といわれてもできません。心臓は自律神経で動いています。ただし、ヨ力を極めた人などは変えられます。でもそれはイメージを使っていることです。怖い場面や興奮する場面を頭の中にイメージして速くしたり、海をイメージしてリラックスさせてゆっくりさせたり、といった方法です。基本的には、自律神経は自分の意志ではコントロールできません。

さて、自律神経と随意神経には、それぞれにアクセルとブレーキがあります。アクセルが「交感神経」で、ブレーキが「副交感神経」です。ストレスで悩んでいる方々は、アクセルばかり踏んで、ブレーキを踏んでいない状態になっているのです。ブレーキが壊れているのです。どうなるでしょう。当然、事故を起こします。

交感神経が活発になっている状態、アクセルを踏んでエンジンがフル回転になっている状態が、ストレスの状態です。走りっぱなしだといつか壊れてしまいますね。だから、ブレーキをかけて休む必要があります。つまり副交感神経を活発にさせる必要があるのです。副交感神経が活発になっている状態が、リラックスしている状態です。

交感神経が活発になればなるほどストレスを感じ、副交感神経が活発になればなるほどリラックスします。要は、この交感神経と副交感神経のオン/オフができるようにしたいわけです。ブレーキである副交感神経は、自分で完全にコントロールできるものではありませんが、これから紹介する方法で、ある程度はコントロールできます。この副交感神経を刺激してリラックスした状態にもっていくことを、リラクゼーションといいます。今回はいくつかの切り口を通してリラクゼーションの技法を紹介します。

17

二種類の緊張とメンタルタフネス

二種類の緊張 ⇒ 「不安のない緊張」「不安のある緊張」

不安がないときは、緊張に比例する形で発揮能力が高まってきます。

しかし、「うまくいかなかったらどうしよう」とか「またこの前のように失敗するのではないか」といった不安（これを「予期不安」という）があったり、またなんとなく漠然とした不安があったりすると、「あがり」が早く訪れます。

メンタルタフネスが豊かで落ち着いた行動ができるとき不安はなく、発揮曲線も点線になります。不安がなくなると、不安があったときに「あがり」をもたらず緊張がちょうどほどよい緊張となり、発揮能力が最大になります。（Peak Performance：ピークパフォーマンスという）。

メンタルタフネスは、「ゆったりした気分」味わう事により、「デイリーハッスル（日々のいら立ち）」を解消し、心身のリズムを本来の状態にもどしてくれます。また、「あがり」の防止にも効果があります。その理由は、「ゆったりした気分」の時には「不安」が消えていることになるからです。

スポーツの世界で、ピークパフォーマンスを目指して、メンタルトレーニングとしてメンタルタフネスの強化（心のリラックス法）が使われることが多いのもこの理由によることです。

日頃から心のリラックス法を行い、「ゆったりした気分」を味わっておくと、困難な場面に遭遇してもあわてふためかず、冷静沈着に行動できて、本来の力、持っている力が100%発揮されるのです。

ブルペン・エース、稽古場横綱、チャンスに弱い4番バッターなどと言われることはなくなるのです。

18

リラクゼーションを体験しよう①

～リラックスで元気をつくる！～

① リラックス呼吸法のすすめ

日常生活の中で、上手にリラックスしている（できている）人は、「メンタルタフネスのスキルが高い」と言えます。

リラクゼーションは、よりよいストレス・コーピングに役立ちます。ストレス状態をリラックスモードに切り替えられる人は、リラクゼーションが上手といえます。リラクゼーションの習慣を身につけると、心身の状態への気づきが深まり、早めに無理なく心身をよい方向に調整できます。

いつもあなたが取り入れているリラックスモードへの切り替え方は、どんなことですか。【例えば、仕事の区切りにお茶を飲みながら窓外の景色を見ることもなく眺めてボーとしていること】

ここでは、ストレス解消やリラックスモードへの切り替えとして、誰にでもすぐ簡単にできる「リラックス呼吸法」を体験してみましょう。

② セッション(session)の練習手順

<以下のステップ1～4を2～3回繰り返します。これを1セッションといい、2～4分位の時間でできます>

0. 準備：くつろげる場所やゆったりできる服装であることよい

（体を締め付けているものは外すか緩めるかする）
（気になるような小用は済ませておく）

1. 姿勢を整える

（楽な姿勢をとる、背筋を伸ばして肩の力を取り、両足は肩幅程度に開いて前の方に軽く置く）

2. リラックスして軽く目を閉じる

（顔は正面向け、全身の力がほどよく抜けて緩んでいる姿勢）

3. 深呼吸を3回行う

①吐くときには、口からできるだけゆっくりと肺の中の空気を全部はきだすつもりで、途中息をつかずに、風船を膨らますような感じで吐きつける）

②吸うときには、鼻から深く一気に吸い込む）

③息を吸ったあとは、息を止めたままやや時間を置いて、また①に戻り息を吐き出す）

4. 目を静かに開ける

（普通の呼吸に戻している。活動できる姿勢に戻る）

19

- 自分がリラックスしている情景をイメージして行なっても良いです
- または、ゆったりできるBGMなどを聴きながら行っても良いです
- あるいは、溜まっているストレスを吐き出すつもり（気持ち）で息を吐いていくとよいでしょう
- 深い呼吸は、横隔膜の上下運動を活発に（通常は2～3cmのところ約10cm）し、その刺激を受けてβエンドルフィン（脳内のモルヒネ）の分が多くなり、リラクゼーション効果をもたらします。

深呼吸のコツ

息を吐いているときは、吐くことに専念します
⇒ その一時、心は何も思わず考えない状態になっています



20

日頃のあなたのリラックス上手度をチェック

日ごろのあなたは、リラックスすることについて、意識したり行動したりすることをどの程度していますか。

下記の項目で、簡単に振り返って見ましょう。該当する欄にそれぞれ印をつけて下さい。

質問項目	はい ◎	時々 ○	いいえ △
1) 笑顔が自然に出たり、冗談がいえる			
2) 気分転換することができる			
3) 自分なりにリラックスの仕方をもっている			
4) 忙しい時でもほっと一息つくことができる			
5) 肩こりやイライラ感などからストレスに気づき、対処行動をとる			
合計			

【判定】 あなたのリラックス上手度は、下記のとおりです

- A) ◎印が二つ以上ある⇒大変高い
- B) ◎印が一つある⇒高い
- C) ◎印がない場合で○印が二つ以上⇒普通
- D) 上記（A、B、C）に該当しない場合⇒低い

【アドバイス】 下記の点を今後の参考にしてください

- 判定A・Bの方は、リラックス上手といえます。
◎印がより多くあると良いですね。今の習慣を大事にして下さい。
- 判定Cの方は、◎印を1つでも加えて、習慣性をさらに高められると良いですね。
- 判定Dの方は、低かった質問項目の習慣性を補強したり、自分なりのリラックスを心がけましょう。

21

リラクゼーションを体験しよう②

～過剰な緊張をとって、ストレス対応のベースを整える！～

1 心のリラックス法（簡易自律訓練法）のすすめ

●**自律訓練法の簡易版である「心のリラックス法」とは**
自律訓練法の標準練習の基本部分である両腕・両脚の温重感練習を集中講座や通信講座で習得し、日々の練習を通じて習熟度を高めていくものです（個人差はありますが2、3ヶ月位が習熟の目安）。
容易に習得できて、職場や家庭などでチョットした時間に、気軽に実践できるという利点があります。メンタルタフネスのベースを整えられるので下記に述べる様な幅広い効果が期待できます。

●自律訓練法の基本課題

自律訓練法は1932年にドイツの神経科医J・H・シュルツによって、催眠療法などをヒントにして完成された「緊張や不安を取り除くことを基本課題として、心の状態を柔軟にかつ強靱にする」もので、心理生理学的裏付けのもとに組み立てられています。

●心のリラックス法の効果

私たちが歯みがきを朝晩おこなうように、日常生活習慣の一つとして、心の上手な休息法としての「心のリラックス法」の実践を継続していきますと、各人に見合う効果を味わうことができます。

身体のコわばりところのこだわりが解れて、心身のリズムが整えられ、本来の活力を取り戻し、家庭や職場における諸活動がいっそう充実してきます。

22

（簡易自律訓練法）の体験《実習一手足の温重感》

2 セッション(session)の練習手順

<以下のステップ1～7を2～3回繰り返します。これを1セッションといい、2～4分位の時間でできます>

0. **くつろげる場所とゆったりできる服装であることを確認する**
(暑すぎず、寒すぎず、明るすぎず、暗すぎず、静かな部屋)
(極端な満腹・空腹はさける)
(体を締め付けているものは外すか緩めるかする)
(気になるような小物は消しておく)
1. **姿勢を整える**
(楽な姿勢をとる、背筋を伸ばして肩の力を取り、両足は肩幅程度に開いて前の方に軽く置く)
2. **軽く目を閉じる**
3. **深呼吸を2回行う**
(吐くときに、できるだけゆっくりと胸の中の空気を全部は吐き出すつもりで)
4. **リラックスする**
(普通の呼吸に戻し、全身の力が抜けて緩んでいる姿勢)
5. **受動的な注意集中の状態に入る**
(両手・両足にそれとなく注意を向け、次の公式を心の中で声を出さず、ゆっくりと唱える)
2～3分（または2～3回）

気持ち落ち着いている……………(繰り返す)
両手（両腕）両足（両脚）が温かくて重たい……………(繰り返す)
温かくて重たい……………(繰り返す)
6. **消去運動（目覚まし運動）**
(時間がきたら、目を閉じたまま、上体を起こし、背筋を伸ばして、消去運動を2～3回繰り返す)
さらに、あくび、伸び、ストレッチを行う）消去運動（目覚まし運動）
<これらの力を入れる動作は、筋紡錘を押しつぶし、インパルスを大脳に送り込むことを目的としている>
7. **おわりに、静かに目を開ける**

23

学習のスタイルチェック

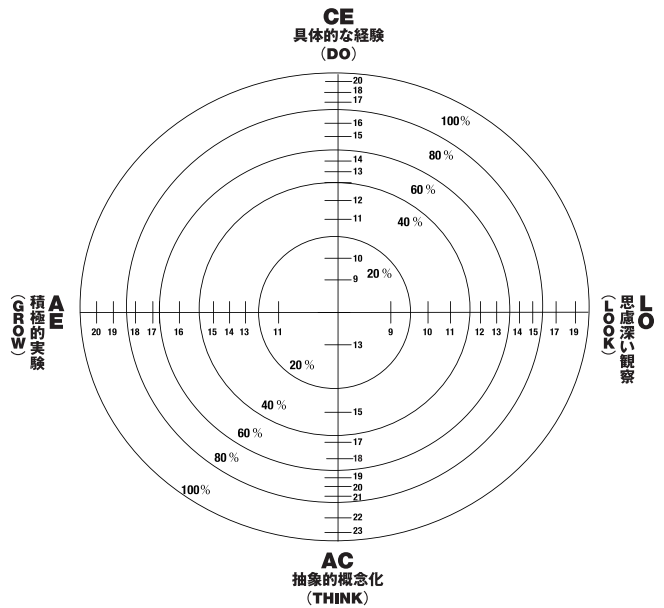
このチェックリストは、あなた自身の学習のスタイルを振り返ってみることができるように作成されたものです。正解はありません。ここに掲げられている単語は、すべて等しく、いわばよい特徴を表しています。この目的は、あなたの学習のスタイル、すなわち仕事への取り組み姿勢を把握するためのものであり、学習能力を評価しようとするものではありません。

記入法

以下 4 つの単語からなる 9 つのセットが書かれています。各セットごとにあなたの学習スタイルを最もよく表していると思う単語に 4、その次と思うものに 3、その次が 2、そして最も遠いと思われるものに 1、をつけて下さい。同じ順位はつけないで、それぞれの単語に必ず 1 から 4 までの番号を記入して下さい。

1.	識別的 ()	暫定的 ()	投入的 ()	実際の ()
2.	開放的に受け入れる ()	適切性を考慮する ()	分析的 ()	不偏中立的であろうとする ()
3.	感じる ()	よく見る ()	考える ()	行動する ()
4.	受容的 ()	冒険的 ()	評価的 ()	意識的 ()
5.	直感的 ()	生産的 ()	論理的 ()	懐疑的 ()
6.	抽象的 ()	観察的 ()	具体的 ()	活動的 ()
7.	現在指向的 ()	反省的 ()	未来指向的 ()	実用的 ()
8.	経験 ()	観察 ()	概念化 ()	実験的 ()
9.	集中的 ()	消極的 ()	理性的 ()	自主的 ()
領域	CE	RO	AC	AE
合計する質問NO.	2,3,4,5,7,8.	1,3,6,7,8,9.	2,3,4,5,8,9.	1,3,6,7,8,9.
合計				

学習スタイルのプロフィール



ストレス反応レベル セルフチェックシート

心の健康度は自分でもなかなか自覚しづらく、定期的なチェックが必要です。最近、1ヶ月のあなたの状態について、チェックしてみましょう。

ほとんどいつもあった…1点		しばしばあった…2点	
ときどきあった…3点		ほとんどなかった…4点	
メンタル面チェック項目		フィジカル面チェック項目	
1	活気がわいてこない	1	ひどく疲れている
2	元気がない	2	へとへとだ
3	生き生きしていない	3	だるい
4	怒りを感じる	4	めまいがする
5	内心腹立たしい	5	体のふしぶしが痛む
6	イライラしている	6	頭が重かったり頭痛がしたりする
7	気がはりつめている	7	首筋や肩がこる
8	不安だ	8	腰が痛い
9	落ち着かない	9	目が疲れる
10	ゆううつだ	10	動悸や息切れがする
11	何をやるのも面倒だ	11	胃腸の具合が悪い
12	物事に集中できない	12	食欲がない
13	気分が晴れない	13	便秘や下痢をする
14	仕事が手につかない	14	よく眠れない
15	悲しいと感じる	15	
メンタルレベル指数	合計点	フィジカルレベル指数	合計点

指示書

- あなたのチームの席の配列は右のとおりです。
- B・Cはあなたをサポートする「サブリーダー」です。
- BはD、CはEという「メンバー」をもっています。
- 各人は4枚のカードの入った封筒をもっています。
- それぞれのカードには、あるマークが一つ描かれています。
- プロジェクト活動の目的は、各人が同一種類のカードを4枚そろえることです。
- あなたは、B・Cとだけメモのやり取りができます。
- あなたは、だれにも手元のカードを見せてはいけません。他の人も、あなたに見せることは禁じられています。
- ただし、あなたが要求すれば、BとCは1回につき2枚以内のカードを、あなたに回してきます。しかし、そのとき、あなたは必ず同じ枚数のカードを返さなくてはなりません。
- カード交換のとき以外、手元には必ず4枚のカードがなければなりません。
- メモには必ず発信者、受信者をA・B・Cの記号で書いてください。

<例>

- 全員の作業が完了したら、手を挙げて講師に報告してください。

指示書

- あなたのチームの席の配列は右のとおりです。
- B・Cは、Aをサポートする「サプリーダー」であり、それぞれAとメモを交換できます。
しかし、B・C相互のメモの交換はできません。
- DはBをサポートする「メンバー」であり、Bとしかメモの交換はできません。
- EはCをサポートする「メンバー」であり、Cとしかメモの交換はできません。
- 上記以外のコミュニケーションは許されません。
- あなたは、だれにも手元のカードを見せてはいけません。
他の人も、あなたに見せることは禁じられています。
ただし、Aからの**要求があれば、あなたは1回につき2枚以内のカードをAに回してやる**ことができます。
しかし、そのとき必ずAから同じ枚数だけカードを返してもらわなければなりません。
同じように、あなたが**要求すれば、DもしくはEは1回につき2枚以内のカードをあなたに回してきます**(DはBに、EはCに)。
しかし、そのとき、あなたは必ず**同じ枚数のカードを返さなくてはなりません**。
- カード交換のとき以外、手元には必ず4枚のカードがなければなりません。
- メモには必ず受信者、発信者をA・B・C・D・Eの記号で書いてください。

※100円ショップシートは、先田の方向のみ可。

<例>

指示書

- あなたのチームの席の配列は右のとおりです。
- B・CはAをサポートする「サプリーダー」であり、それぞれAとメモを交換できます。
しかし、B・C相互のメモの交換はできません。
- DはBをサポートする「メンバー」であり、Bとしかメモの交換はできません。
- EはCをサポートする「メンバー」であり、Cとしかメモの交換はできません。
- 上記以外のコミュニケーションは許されません。
- あなたは、だれにも手元のカードを見せてはいけません。
他の人も、あなたに見せることは禁じられています。
ただし、BもしくはCからの**要求があれば、あなたは1回につき2枚以内のカードをBもしくはCに回してやる**ことができます(DはBに、EはCに)。
しかし、そのとき、あなたは必ず**同じ枚数のカードを返してもらわなければなりません**。
- カード交換のとき以外、手元には必ず4枚のカードがなければなりません。
- メモには必ず受信者、発信者をB・C・D・Eの記号で書いてください。

※100円ショップシートは、先田の方向のみ可。

<例>

～おもしろ村～

参加者への指示書

あなたの課題は、チームとしてある課題を解決することです。
そのために必要な情報は、すべて情報紙の中にあります。
各情報紙には、部分的な情報しか書かれていませんが、
全員の情報を集めれば、課題を解決することができます。
各自がもっている情報は、口頭で伝えてください。
他者の情報紙を見たり、他者に渡したり、見せたりすることはできません。
スタートの合図から30分で作業を打ち切ります。

犬の飼い主は、
ブドウ園をもっている
家の隣に住んでいます。

川田さんの隣に
住んでいる人は、
ライトバンを
運転しています。

情報 **1**

1軒は、この村の
東の端に建っています。

山口さんは、
ウサギを
飼育しています。

ハトを飼っている人は、
ベランダのある
木造平屋建に住んでいます。

～おもしろ村～

参加者への指示書

あなたの課題は、チームとしてある課題を解決することです。
そのために必要な情報は、すべて情報紙の中にあります。
各情報紙には、部分的な情報しか書かれていませんが、
全員の情報を集めれば、課題を解決することができます。
各自がもっている情報は、口頭で伝えてください。
他者の情報紙を見たり、他者に渡したり、見せたりすることはできません。
スタートの合図から30分で作業を打ち切ります。

この村の家は、
互いに隣りあっていて、
しかも、半円形に
並んで建っています。

海野さんは、
赤レンガの家の
隣に住んでいます。

情報 **2**

犬を飼っている人は、
モモを栽培しています。

川田さんの
隣の人は、猿を
飼育しています。

あなたのグループの課題の
1つは、トラックを運転している
人が誰かを決めることです。

～おもしろ村～

参加者への指示書

あなたの課題は、チームとしてある課題を解決することです。
そのために必要な情報は、すべて情報紙の中にあります。
各情報紙には、部分的な情報しか書かれていませんが、
全員の情報を集めれば、課題を解決することができます。
各自がもっている情報は、口頭で伝えてください。
他者の情報紙を見たり、他者に渡したり、見せたりすることはできません。
スタートの合図から30分で作業を打ち切ります。

月岡さんは、
海野さんの隣に
住んでいます。

牧場がある家の車庫には、
ジープがあります。

情報 3

星川さんは、
ナシを
栽培しています。

住民は、それぞれ
違った種類の動物を
飼育しています。

オートバイは、いつも
丸太小屋の家の後ろの
庭に置いてあります。

～おもしろ村～

参加者への指示書

あなたの課題は、チームとしてある課題を解決することです。
そのために必要な情報は、すべて情報紙の中にあります。
各情報紙には、部分的な情報しか書かれていませんが、
全員の情報を集めれば、課題を解決することができます。
各自がもっている情報は、口頭で伝えてください。
他者の情報紙を見たり、他者に渡したり、見せたりすることはできません。
スタートの合図から30分で作業を打ち切ります。

猫を飼っている人は、
クリの木がある家の
東隣に住んでいます。

丸太小屋の家の門のところに、
小さな犬小屋があります。

情報 4

この村は、
北西の風が
よく吹きます。

この村に住んでいる
5人の住民は、
それぞれ違った
種類の乗り物も
っています。

あなたのグループの課題の
1つは、この村の北東に
住んでいる人が
誰であるかを決めることです。

～おもしろ村～

参加者への指示書

あなたの課題は、チームとしてある課題を解決することです。
そのために必要な情報は、すべて情報紙の中にあります。
各情報紙には、部分的な情報しか書かれていませんが、
全員の情報を集めれば、課題を解決することができます。
各自がもっている情報は、口頭で伝えてください。
他者の情報紙を見たり、他者に渡したり、見せたりすることはできません。
スタートの合図から30分で作業を打ち切ります。

丸太小屋の家は、
この村の最も北に
あります。

海野さんは、
ハトを飼っています。

情報 5

月岡さんは、
乗用車を
運転しています。

住民は、それぞれ
異なった種類の
果物を
栽培しています。

牧場のある家は、
山小屋風の家の隣に
建っています。

～おもしろ村～

参加者への指示書

あなたの課題は、チームとしてある課題を解決することです。
そのために必要な情報は、すべて情報紙の中にあります。
各情報紙には、部分的な情報しか書かれていませんが、
全員の情報を集めれば、課題を解決することができます。
各自がもっている情報は、口頭で伝えてください。
他者の情報紙を見たり、他者に渡したり、見せたりすることはできません。
スタートの合図から30分で作業を打ち切ります。

海野さんは、
この村の西の端に
住んでいます。

川田さんは、丸太小屋の
家に住んでいます。

情報 6

牧場にある
家には、
ウサギがいます。

それぞれの住民は、
異なった形の家に
住んでいます。

あなたのグループの課題の1つは、
リンゴを栽培している人は
だれであるかを決めることです。

大学コミュニティグループでは、『卒業生とのパイプを活かした人的ネットワークを再構築し、その社会活動豊富な卒業生と在学生との交流を推進し、学生の社会人力の養成を行う事業を展開する』という本グループの活動目的の足掛かりとして、本学の教育方法の改善につなげるための就業状況アンケートを実施した。

今回の集計からも、人間関係等のメンタル面の躓きをきっかけに早期離職をしてしまう結果が見受けられた。この結果を踏まえ、次年度以降の本事業の取り組みに活かしていきたい。

また、今回のアンケートでは在学生の企業訪問を活発化させるための情報整理に繋げる項目も実施しており、今後の就職指導にも役立てていく予定である。

豊橋創造大学 豊橋創造大学短期大学部
「持続型職業人」SOZOプロジェクト委員会
委員長 佐藤 勝尚

就業に関するアンケートのお願い

拝啓 卒業生の皆様にはますますご健勝にてご活躍のことと存じます。
さて、豊橋創造大学・同短期大学部（豊橋短期大学）は、短期大学においては
28年、大学では14年が経過し、その間に教育・研究を貫き今日では地域社会
において高い評価を受けるようになりました。これは創立当初からの実学教育の
理念を堅持してこられた諸先哲、教職員等の努力、ご父母からのご支援、ご協力、
ならびに卒業生各位の社会におけるご活躍によるものと存じ、心から感謝して
おります。

母校では、21世紀に向けての高等教育機関として教育研究の環境を整備し飛
躍的發展の基盤づくりを考えています。ご承知かと存じますが平成21年に保健
医療学部を新たに開設し、また平成24年には、経営学部を開設する予定です。

現在、母校では、“持続的に就業力を高める”ための取り組みをいたしております
が、この取り組みが文部科学省【大学生の就業力育成支援事業】に採択され、
今般『持続型職業人 SOZO プロジェクト—2年以内の早期離職防止を目指した
メンタルタフネスとスキルの育成—』としてプロジェクトで展開中であります。

このたび、このプロジェクトの一環として、卒業生の皆様へ『就業に関する
アンケート』をお願いいたすこととなりました。本アンケートは、卒業生の皆様の
就業の実態を把握し、これからの本学の教育方法の改善に利用するものです。ご
回答いただければ幸いです。なお、アンケートの結果については、後ほど報告書
としてご報告させていただきます。

卒業生の皆様には、平素から種々ご援助いただいておりますが、後輩のため、
母校の発展のためアンケートのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら今後より一層のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

敬具

豊橋創造大学 豊橋創造大学短期大学部
「持続型職業人」SOZOプロジェクト委員会
キャリアセンター
渉外部長 中村 隆三

【卒業生の就業に関するアンケートのお願い】

卒業生の皆様には各方面でますますご活躍のこととお喜び申し上げます。
さて、ご案内のように本学での取り組み『持続型職業人 SOZO プロジェクト』が
文部科学省『大学生の就業力育成支援事業』に採択されました。
そこで、この事業の一環として卒業生の皆様方に本学の教育方法の改善を目的
とした就業に関するアンケートをお願いいたします。平素より種々ご援助いた
いておりますが、後輩のため、母校の発展のため、アンケートのご回答をお願い
申し上げます。
末筆になりましたが、皆様とご家族のご健康、ご発展をお祈り申し上げます。

【対象卒業生】

豊橋短期大学 (秘書科 ・ 経営情報科)
豊橋創造大学短期大学部 (実務教育科 ・ キャリアプランニング科)
豊橋創造大学 (経営情報学部 ・ 情報ビジネス学部)

【回答方法】以下よりご都合のよい方法にてご回答をお願いします。

- ◆パソコンでWebより回答をお願いします。
Top ページ http://www.sozo.ac.jp =>卒業生アンケートパネル
ユーザー名: onq パスワード: obog
◆右QRコードより携帯メールサイトでご回答下さい。
◆同封のアンケート用紙をFAXで返信ください。(FAX: 050-2
※A3アンケートをA4に切り離して送信してください。
◆同封のアンケート用紙を返信封筒に入れて郵送下さい



【卒業3年以内の卒業生の皆様へのお祝い】

大変申し訳ございませんが、3年以内の離職率調査が必要なため来年以降もアンケート
お願いさせていただきますのでよろしくお願いたします。

【アンケートの問い合わせ先】

キャリアセンター 富安 中村 Email job@sozo.ac.jp
TEL: 050-2017-2104 FAX: 050-2017-2112

アンケート回答の提出期限 平成 23 年 3 月 31 日 (木)

*本調査は、個人情報保護法にそって、①本学のキャリア教育におけるデータとしての利用、②在学生
の就職活動に関する情報提供、③本学からの書類等送付(同意会活動含む)のために住所等の最新情報へ
の更新、に限って利用させていただきます。その他の目的に利用することは一切ありません。

豊橋創造大学 豊橋創造大学短期大学部

卒業生アンケート調査票

お答えにくい質問にはご回答いただかなくても結構です。

【回答方法】以下よりご都合のよい方法にてご回答をお願いします。
・パソコンでWebより回答をお願いします。 http:
・右QRコードより携帯メールサイトよりご回答下さい。 QRコード
・同封のアンケート用紙をFAXで返信(FAX 050-2017-2112)
・同封のアンケート用紙を返信封筒に入れて郵送下さい

各項目について、該当するものに○を付ける、または語句をご記入ください(本書に直接ご記入ください)。

★回答締切は平成23年3月31日(木)とします。

Table with fields for name, address, contact info, and employment history.

パート・アルバイト・派遣・契約は非正規、家事手伝い・主婦業は家事に○をつけて下さい。

II. 大学卒業時の就職先についてお伺いします。

Q1 大学卒業後、離職又は転職をされましたか。(一つ選んで下さい)
①はい()回 ②いいえ

※「はい」と御回答された方 => 引き続きページQ2以後の回答をお願いします。
「いいえ」と御回答された方 => 次ページQ5へお進みください。(裏面)

Q2 大学卒業時の就職先を離職又は転職された理由を教えてください。(第1理由◎ 第2理由○をつけて下さい)

- ①仕事内容が予想と違った ②会社に将来性がないと思った ③キャリアアップのため
③適性に疑問を持った ④労働時間が長すぎた(不規則であった)
⑤給与水準が低かった ⑥人間関係が悪かった ⑦前の職場より待遇(給与水準、休日等)が良かった
⑧家族や私的な事情(結婚含む) ⑨期限付きの採用であった
⑩その他()

(次面に続く)

Q3 転職、離職をして良かったと感じていますか。(一つ選んで下さい)

- はい() いいえ() 【差し支えない範囲で、以下お答え下さい】
「はい」とお答えいただいた方は、どのような点が良かったのか、
「いいえ」とお答えいただいた方は、どのような点がつらく、どのような変化があったか教えてください

Blank box for Q3 response details.

Q4 最初の離職又は転職をした時期について教えてください。(一つ選んで下さい)

- ①入社後3ヶ月以内 ②半年以内 ③1年以内 ④2年以内
⑤3年以内 ⑥4年以内 ⑦5年以内 ⑧5年以上

III 全員お答え下さい

Q5 【全員】社会に出て一番役になった大学の授業は何でしたか?

- ・科目名() 教員() 先生
・科目名() 教員() 先生
・科目名() 教員() 先生

Q6 【全員】今の勤め先に創造大学の後輩から就職相談の依頼があった場合に対応していただけますか。

- ・相談可能 (TEL ・ メール) ・相談不可

Q7 【全員】大学コミュニティとして、大学のキャリアセンターに再就職のあっせん、紹介システムがあれば利用しますか?

- ・利用したい ・不要

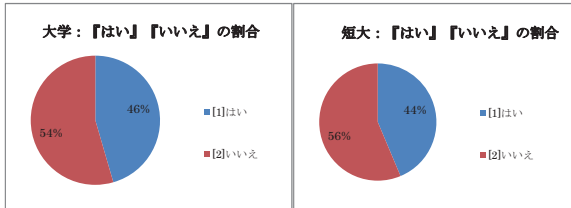
Q10 【全員】その他大学に対する、要望、ご提案があればご記入下さい。

Q11 【全員】先輩に伝えたいことや豊橋創造大学へのご要望等をご自由にお書きください

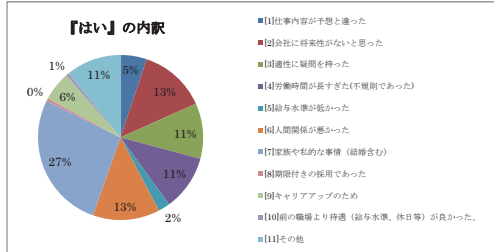
Q12 【全員】本学公開講座、資格取得講座の案内をご希望ですか?

*本調査は、個人情報保護法にそって本学のキャリア教育におけるデータとしての利用、在学生の就職活動に関する
情報提供、本学からの書類等送付(同意会活動含む)のために住所等の最新情報への更新に限って利用させていただきます。
その他の目的に利用することは一切ありません。

Q1. 大学卒業後、離職または転職をされましたか？



Q2. 大学卒業後、離職または転職をされましたか？『はい』の第1理由



Q3. 大学卒業後、離職または転職をされましたか？『いいえ』の理由

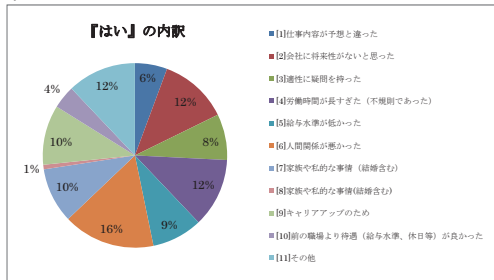
Q3. 転職離職をしてよかったと感じていますか？『はい』の主な理由

- ・ そう思わないとやっていたらいい。
- ・ フライベットの時間が持て、自分の時間が安定した。
- ・ 家から近い点良かった。
- ・ 家族の変化に対応できていたから。
- ・ 学生時代から働いてみたかった企業に転職できた。
- ・ 学歴ではなく、人間性を重視し、楽しく自分らしく働かせて頂けている。
- ・ 休みがしっかりと取れる点。
- ・ 給料がよく福利厚生もよくなった。
- ・ 今の職場のが、仕事内容が自分に合ってるし、人間関係もいい。
- ・ 資格をいかし、やりたかった事ができてとても充実していた。
- ・ 自分が成長できたこと。
- ・ 自分の目指すキャリア形成が構築できている。
- ・ 職場の環境も良く、仕事に関してもキャリアアップが成功し現在も継続中。
- ・ 精神的に楽になった。
- ・ 前の会社は自分に向いていなかった。

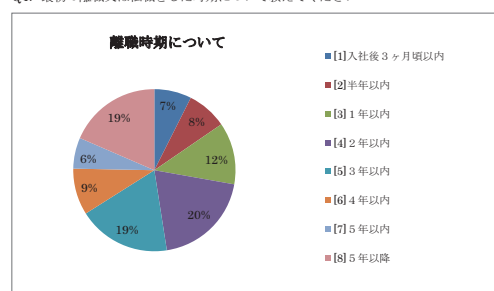
Q3. 転職離職をして良かったと感じていますか？『いいえ』の理由

- ・ あまり、変化がなかった。
- ・ ハローワークに行ってもなかなか希望する会社がなく給料も下がり生活水準が低くなってしまった。
- ・ もう少し離職せずに頑張れば良かったと後悔した。
- ・ 家庭の事情で退職したが、退職しなくてもよい方法を探せば良かったと後悔している。
- ・ 給料が少ない。
- ・ 再度転職が続き、安定がなかったため
- ・ 人脈が切れたから！
- ・ 正規非正規は金銭的に辛いうえに、人間関係等、以前の職場の方が良かったと後悔した。
- ・ 正社員でなかったのでモチベーションも下がった。
- ・ 労働組合が弱い

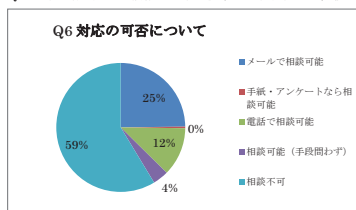
Q4. 大学卒業後、離職または転職をされましたか？『はい』の第2理由



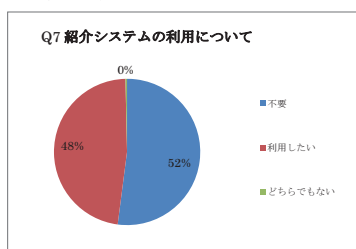
Q4. 最初の離職又は転職をした時期について教えてください



Q6. 今の勤め先に豊橋創造大学の先輩から就職相談の依頼があった場合に対応していただけますか？



Q7. 大学コミュニティとして、大学のキャリアセンターに再就職の斡旋、紹介システムがあれば利用しますか？



平成 23 年度活動実績

行事名	実施日	関連資料
「豊橋を知る」キックオフ講演会	4月12日	概要 P24
	4月19日	プロジェクト概要 P25
		スライド資料 P26
		アンケート結果 P33
携帯情報端末 アプリケーション導入説明会	4月23日	概要 P34
	4月24日	
職業研究	5月23日	概要 P35
	6月20日	
	6月27日	
社会人基礎講座	6月8日	概要 P36
キャリアプランニング I	6月30日	概要 P37
メンタルタフネスアセスメント講習	8月8日	概要 P38
	8月9日	テキスト P39
情報ビジネス学部 プロジェクト演習「中間発表会」	8月9日	概要 P43
		配布資料 P44
メンタルタフネス セルフモチベーション講座	9月6日	概要 P48
		テキスト P49
卒業生業界別交流会	9月24日	概要 P53
		実施報告書 P54
在学生&卒業生交流会	10月23日	概要 P55
		実施報告書 P56
		アンケート結果 P57
メンタルタフネスを活かす ビジネス研究講座(1)	10月25日	概要 P59
		テキスト P60
		スライド資料 P65
プロジェクト管理システム(version2) 導入説明会	10月25日	概要 P67
メンタルタフネスを活かす ビジネス研究講座(2)	12月17日	概要 P68
		テキスト P69
		スライド資料 P70
キャリアプランニング科 プロジェクト成果発表会	12月21日	概要 P74
		配布資料 P75
情報ビジネス学部 プロジェクト成果発表会	12月22日	概要 P82
		配布資料 P83

「豊橋について知る」プロジェクト演習キックオフ講演会は、プロジェクト演習が単なるゼミナール活動の延長ではなく、外部協力者との協働であることの意識づけを目的として、地域の実情についての理解を深めるために企画した。当日は豊橋市職員の方を講師としてお招きし、現在豊橋市が進めている第5次豊橋市総合計画を中心とした豊橋地域の行政・産業の講演とグループディスカッションが行われた。

参加した学生たちは熱心に耳を傾け、グループディスカッションにも積極的に取り組んでいた。

第1回「豊橋について知る」プロジェクト演習キックオフ講演会

開催日：平成23年4月12日（火）

会場：豊橋創造大学 B14 教室

参加人数：情報ビジネス学部3年生 43名

キャリアプランニング科2年生 59名

教職員 31名

講師：豊橋市企画部政策企画課 主査 増田 明 様

第2回「豊橋について知る」プロジェクト演習キックオフ講演会

開催日：平成23年4月19日（火）

会場：豊橋創造大学 B14 教室

参加人数：情報ビジネス学部3年生 40名

キャリアプランニング科2年生 40名

教職員 27名

講師：豊橋市産業部産業政策課 主査 田村 明浩 様



持続型職業人SOZOプロジェクト

学生全員参加の下、社会での活動を学生が主体的に取り組むことにより、学生の就業力を育み、継続した就業ができる力の養成に取り組む。

プロジェクト演習 キックオフ講演会
 テーマ:「豊橋について知る」

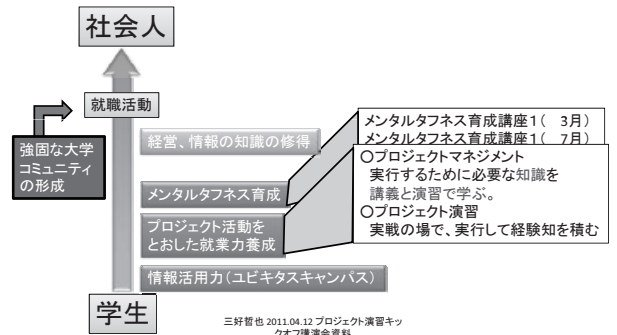
4月12日「豊橋の行政について」
 豊橋市 企画部政策企画課
 主査 増田 明 様

4月19日「豊橋の産業について」
 豊橋市 産業部産業政策課
 主査 田村 明浩 様

三好哲也 2011.04.12 プロジェクト演習キックオフ講演会資料

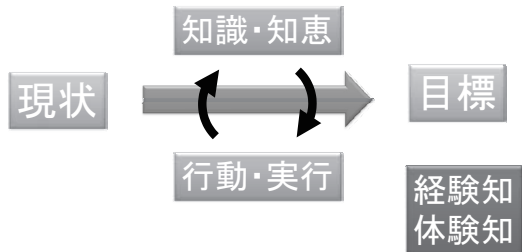
持続型職業人SOZOプロジェクト

目的: 就業力の養成(就業のために12の力)

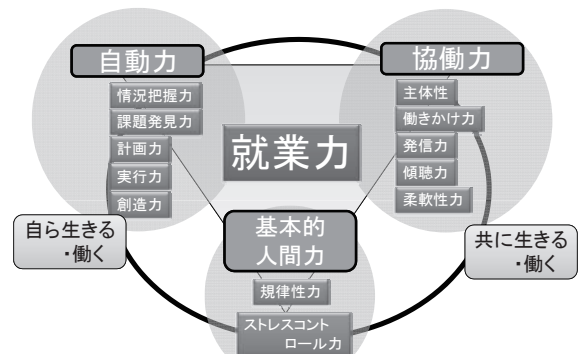


三好哲也 2011.04.12 プロジェクト演習キックオフ講演会資料

目標の達成に必要な力



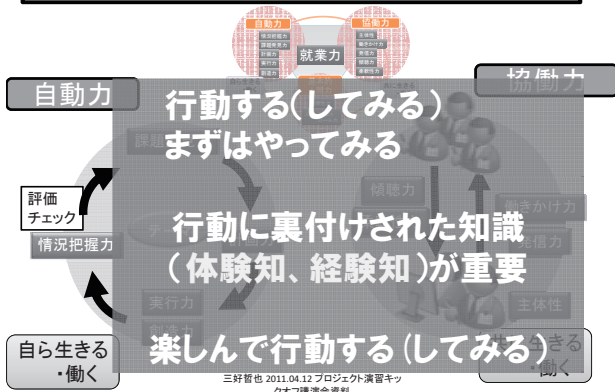
三好哲也 2011.04.12 プロジェクト演習キックオフ講演会資料



金沢大学で検討された就業力をさらに要約したもの。

三好哲也 2011.04.12 プロジェクト演習キックオフ講演会資料

就業力とは: 自ら働く・共に働く



三好哲也 2011.04.12 プロジェクト演習キックオフ講演会資料

「豊橋を知る」

課題
 身近な「豊橋」をテーマとした課題解決をグループで対応・検討することを通して、グループで最良の成果を出す方法を考える

積極的に発言する
 相手の意見を聞く、聞き出す
 まとめるのは誰？
 限られた時間を有効に使うためには？

まずは試してみる。やってみることが大切。

三好哲也 2011.04.12 プロジェクト演習キックオフ講演会資料

豊橋について知る

豊橋市役所企画部
政策企画課

PLAN 2020
of Toyohashi City

レジюме

- 豊橋市について
- 総合計画とは
- 私たちにできること
- 戦略計画
- まとめ

PLAN 2020
of Toyohashi City

豊橋市の概要

- 人口 382,228人 (H23.3.1現在)
- 面積 261.35km² (H22.4.1現在)

PLAN 2020
of Toyohashi City

豊橋市の概要



市制施行 (明治39年)	19.69km ²
町村合併 (昭和7年)	105.41km ²
町村合併 (昭和30年)	247.29km ²
埋立て (昭和48年以降)	261.35km ²

PLAN 2020
of Toyohashi City

豊橋市の概要



日本を代表する自動車
港湾 三河港

勇壮な
手筒花火

PLAN 2020
of Toyohashi City

豊橋市の概要



恵みの
豊川

湿地性植物の宝庫
葦毛湿原

PLAN 2020
of Toyohashi City

豊橋市の概要



アカウミガメの産卵地
表浜海岸

全国有数の産出額を誇る
農業

PLAN 2020
of Toyohashi City

豊橋市の概要



豊橋発祥の市民活動
530運動

まちのシンボル
市電

PLAN 2020
of Toyohashi City

第5次豊橋市総合計画

2011-2020

豊橋市役所企画部
政策企画課

PLAN 2020
of Toyohashi City

総合計画とは

夢、目指すまちの姿

PLAN 2020
of Toyohashi City

総合計画の位置づけ

市町村の最上位の計画



すべての業務は総合計画に
基づいている

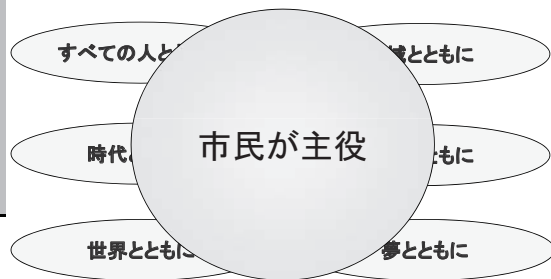
PLAN 2020
of Toyohashi City

基本理念

ともに生き、 ともにつくる

PLAN 2020
of Toyohashi City

「ともに生き、ともにつくる」とは



PLAN 2020
of Toyohashi City

目指すまちの姿

第5次
輝き支えあう
水と緑のまち・豊橋

- 第1次基本構想 「豊かで明るく住みよい風格ある豊橋」
- 第2次基本構想 「豊かで活力のある調和のとれた住みよい豊橋」
- 第3次基本構想 「豊かで住みよい緑と人のまち豊橋」
- 第4次基本構想 「笑顔がつなぐ緑と人のまち豊橋」

PLAN 2020
of Toyohashi City

『輝き支えあう水と緑のまち・豊橋』

水と緑に囲まれた豊かな自然の恵みの中で、私たちが輝き、互いに高めあい支えあいながら、安心して暮らせるまちの実現を願って設定

PLAN 2020
of Toyohashi City

目指すまちの姿

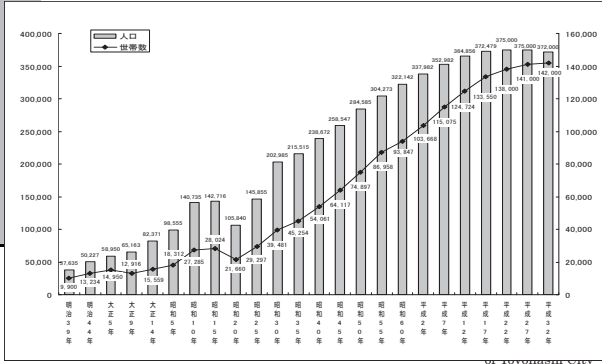
将来人口

372,000人

(平成32年度)

PLAN 2020
of Toyohashi City

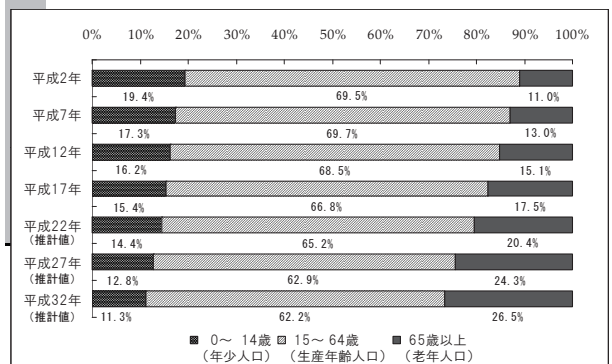
豊橋市の人口の推移



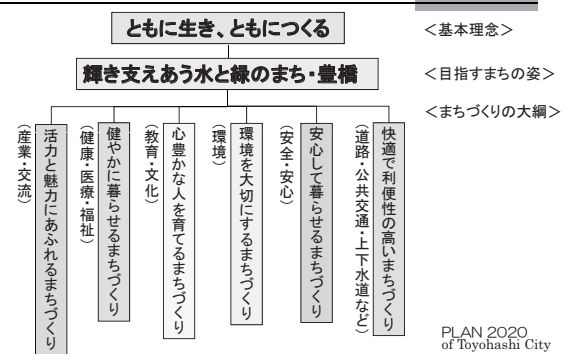
資料/国勢調査

※平成22年・27年・32年はコーホート要因法による推計値

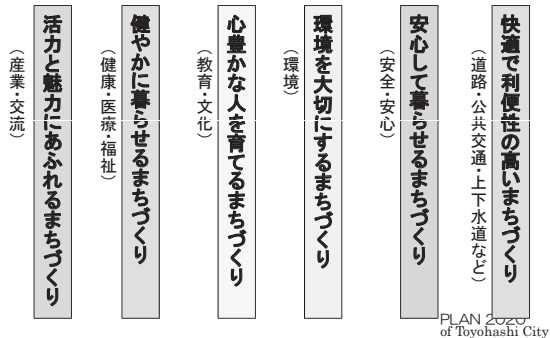
年齢階層別(3区分)人口構成比の推移と推計



基本構想の体系



まちづくりの大綱

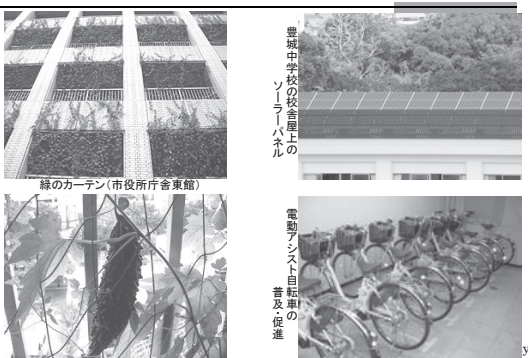


戦略計画

1. 環境実践都市プラン
2. 産業活力創造プラン
3. まちなかにぎわいプラン
4. シティプロモーション実践プラン
5. 生涯あんしん健康プラン
6. 地域力強化プラン
7. 次代を担う人づくりプラン

PLAN 2020 of Toyohashi City

1. 環境実践都市プラン



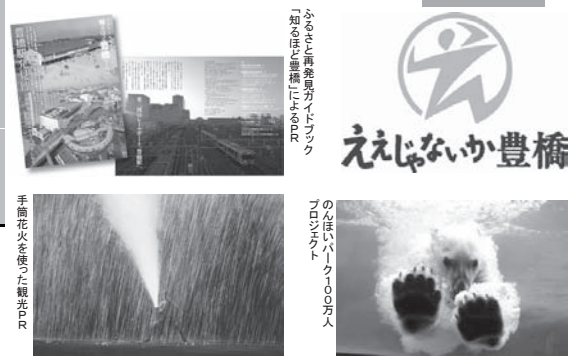
2. 産業活力創造プラン



3. まちなかにぎわいプラン



4. シティプロモーション実践プラン



5. 生涯あんしん健康プラン



6. 地域力強化プラン



7. 次代を担う人づくりプラン



最後に

<ポイント>

- ・戦後初めて長期人口減少時代が到来
- ・少子高齢化が急速に進む

PLAN 2020
of Toyohashi City

最後に

<目指すまちの姿を実現するためには・・・>

市民、事業者、行政それぞれが
自らの役割と責任を認識しながら
ともに考え、協力して
まちづくりに取り組むことが必要

地域が一体となって取り組む

PLAN 2020
of Toyohashi City

ありがとうございました

豊橋市役所企画部
政策企画課

PLAN 2020
of Toyohashi City

豊橋の産業について

産業部 産業政策課

(戦後)

- 朝鮮戦争での特需景気により、機械・金属工業が優異したほか、食料品、紡績・紡織業、木材工業や新産業として菓子業界も躍進。また大工場誘致の動きが始まり、昭和30年代には大工場の進出が一気に加速し、39年には東三河地区が工業整備特別地域に、三河港が重要港湾の指定を受ける。
- 24年と豊川用水事業と大規模開拓・圃場整備が始まり、30年代になると豊川放水路および豊川用水が整備され、農業用水・工業用水が確保される
- 豊橋駅周辺では駅を起点に広小路・駅前大通を中心として、魚町やときわ通りなどの面的な広がりをもった商業地域が形成。39年には東海道新幹線が開通し、東三河の玄関口として駅を中心に商業が発展

(昭和40年代～平成)

- 昭和42年農業産出額が全国一になって依頼、平成16年まで続きました。昭和43年は豊川用水全面開通し生産性の高い近代農業が始まる。
- 市街地では、40年代に入り大型店の出店が相次いだ。しかし、現在では郊外に大型スーパーが進出し、ロードサイド店舗など新しい形態の店舗展開にシフト
- 三河港では、50年代に入り自動車の輸出基地としての機能が高まってきた。平成入ると外資系自動車メーカーが進出し、平成15年には自動車の輸出で金額・台数ともに全国一となった

○豊橋市の産業発展の系譜

(～江戸末期)

- ・東海道・豊川を中心に物資の集積(宿場町、湊町)として発展してきた城下町
- ・魚市場が設置され、本陣・脇本陣・問屋場などの宿場の主要な機能や旅館屋の大部分が札木町に置かれ繁栄
- ・豊川や梅田川流域で新田開発が始まり稲作が盛んになる

(明治～大正)

- ・廃藩置県により人の流入が増え、様々な物資が流通し始め、本町や問屋町周辺に問屋、銀行、病院・薬局、旅館、製糸工場などが立地し商業機能が充実
- ・明治20年代に牟呂用水、神野新田が完成し、西部一体の稲作農業の基礎が築かれました。また明治30年代には全国に先駆けて温室栽培による近代農業が始まり、施設園芸産地として発展
- ・開国により綿花が輸入品におされ、綿花栽培から養蚕業へ移行し、戦前まで全国屈指の製糸都市となる

(昭和初期)

- ・昭和恐慌の影響で商店街は衰退していたが、横町(現在の新本町のあたり)や松葉町へ百貨店が進出
- ・昭和4年の世界恐慌により製糸業をはじめあらゆる業種が打撃を受け多数の失業者がでた。昭和12年を境に戦時体制が強化され軍需産業の繁栄をもたらした一方で製糸業・紡績業などの地場産業の衰退を促した
- ・生糸の価格暴落とともに養蚕業が衰退する一方で、技術・品種改良により養鶏が、温室や栽培技術の改良によりトマトなどの作物が全国一となった

豊橋の産業の現状

①農業

全市町村別農業産出額

		(単位:億円)						
		平成15年	平成16年	平成17年	平成18年			
1位	豊橋市	496	豊橋市	514	豊橋市	779	豊橋市	724
2位	北海道 釧路町	449	北海道 釧路町	447	新潟県 新潟市	695	富山県 富山市	698
3位	豊橋市	897	豊橋市	404	茨城県 鉾田市	898	新潟県 新潟市	855
4位	豊橋市	998	豊橋市	998	静岡県 浜松市	824	静岡県 浜松市	840
5位	富山県 富山市	829	富山県 富山市	880	茨城県 鉾田市	490	茨城県 鉾田市	859
6位	静岡県 静岡市		静岡県 静岡市	919	北海道 釧路町	409	茨城県 鉾田市	474
7位			北海道 帯広市	282	千葉県 旭市	412	鹿児島県 鹿屋市	449
8位			香川県 高松市	274	富山県 富山市	364	北海道 釧路町	427
9位			熊本県 熊本市	285	鹿児島県 豊後市	345	千葉県 旭市	418
10位			静岡県 浜松市	299	福岡県 久留米市	399	香川県 高松市	394

資料:生産農業所得統計

農業産出額内訳

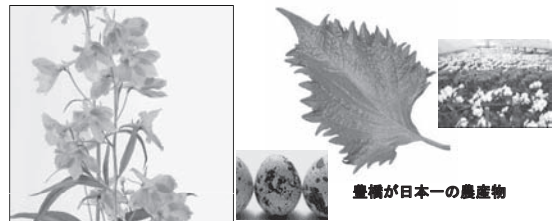
(単位:千万円)

	米	麦類	雑穀 豆類 しいたけ類	野菜	果実	花き	畜産	その他	統計
平成14年	235	2	23	2,792	248	408	1,560	116	5,384
15年	306	3	22	2,515	187	387	1,415	125	4,960
16年	244	2	17	2,743	198	365	1,447	119	5,195
17年	282	1	16	2,481	172	371	1,558	126	4,952
18年	288	1	17	2,262	201	458	1,476	90	4,788

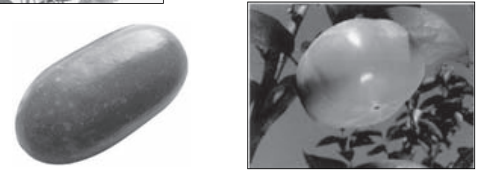
資料:生産農業所得統計

○本市の農業産出額は、市町村合併の影響で順位の変動はあったものの、常に全国10位以内に位置しています。

○全体での産出額は減少していますが、野菜(キャベツ)、果実(柿)、家畜(うずら)、花きなどの全国的な産地となっています。



豊橋が日本の農産物



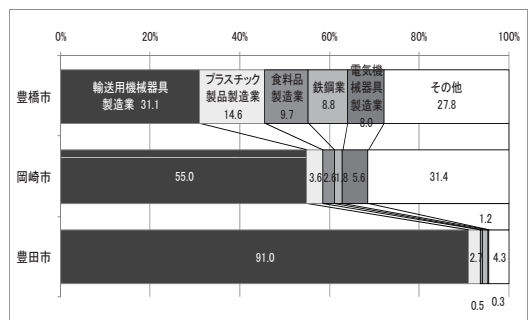
②工業

県内市町村別製造品出荷額等

		(単位:百万円)												
		平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年						
1位	豊橋市	9,406,711	豊橋市	9,786,146	豊橋市	11,077,871	豊橋市	12,949,008	豊橋市	13,242,768	豊橋市	13,803,094	豊橋市	9,172,287
2位	名古屋市	3,453,970	名古屋市	3,446,180	名古屋市	3,894,611	名古屋市	3,877,989	名古屋市	4,397,194	名古屋市	4,192,892	名古屋市	3,147,996
3位	田原市	1,674,827	田原市	1,995,291	田原市	2,002,946	田原市	2,684,181	田原市	2,717,042	田原市	2,885,946	浜州市	1,579,089
4位	刈谷市	1,894,859	安城市	1,866,394	刈谷市	1,819,216	刈谷市	1,717,687	安城市	1,822,162	岡崎市	1,822,269	田原市	1,276,853
5位	豊田町	1,393,808	豊田町	1,363,888	安城市	1,484,314	安城市	1,688,389	岡崎市	1,816,837	刈谷市	1,788,885	岡崎市	1,294,786
6位	安城市	1,282,810	刈谷市	1,346,818	豊田町	1,410,788	岡崎市	1,642,006	刈谷市	1,787,969	東海市	1,700,781	安城市	1,289,477
7位	岡崎市	1,221,833	岡崎市	1,229,269	岡崎市	1,381,383	豊田町	1,465,913	豊田町	1,595,559	安城市	1,892,899	豊田町	1,196,698
8位	新居町	1,079,938	豊橋市	1,143,957	東海市	1,269,940	東海市	1,367,136	東海市	1,491,229	豊橋市	1,476,088	小牧市	1,106,584
9位	小牧市	1,061,583	小牧市	1,094,772	豊橋市	1,173,899	豊橋市	1,228,811	豊橋市	1,421,158	豊田町	1,437,767	東海市	1,102,275
10位	豊橋市	1,049,222	豊橋市	1,085,686	小牧市	1,189,822	豊橋市	1,215,579	豊橋市	1,494,947	小牧市	1,386,230	豊橋市	1,090,293
平均	豊橋市	1,246,644	豊橋市	1,266,582	豊橋市	1,380,586	豊橋市	1,464,278	豊橋市	1,698,598	豊橋市	1,760,744	豊橋市	1,407,348

資料:工業統計調査

製造品出荷額等の産業分類構成比の類似都市との比較(平成21年度)



資料:工業統計調査

③商業・サービス業

県内市町村別年間商品販売額

		(単位:百万円)			
		平成11年度	平成14年度	平成19年度	平成20年度
1位	名古屋市	80,661,280	29,047,089	27,889,997	30,287,826
2位	豊橋市	1,589,908	1,490,802	1,040,000	1,045,809
3位	豊田市	1,428,92	1,147,551	1,198,207	1,242,374
4位	岡崎市	1,027,807	1,304,980	1,088,480	1,002,010
5位	一宮市	888,817	790,267	777,288	898,891

資料:商業統計調査

小売業(左)と卸売業(右)の各指標の推移

区分	事業年度	小売業		卸売業		年間商品販売額		年間商品販売額				
		前年対比(%)	(人)	前年対比(%)	(人)	(億円)	前年対比(%)	(億円)	前年対比(%)			
平成 6年	4,287	-	22,213	-	4,486	-	1,488	-	14,037	-	8,891	-
9年	3,996	▲ 7.0	21,648	▲ 2.3	4,022	2.8	1,492	▲ 5.8	12,845	▲ 0.3	11,440	28.7
11年	3,843	▲ 1.2	24,522	13.2	4,590	▲ 0.7	1,491	▲ 0.1	13,109	2.1	11,309	▲ 1.1
14年	3,605	▲ 8.7	23,425	▲ 4.5	4,086	▲ 11.0	1,336	▲ 4.6	12,387	▲ 5.5	7,390	▲ 24.7
16年	3,374	▲ 6.4	23,846	1.8	4,005	▲ 2.0	1,258	▲ 5.8	11,228	▲ 9.4	7,977	7.9
19年	3,159	▲ 6.4	23,425	▲ 1.8	4,181	4.4	1,124	▲ 10.1	10,837	▲ 3.5	8,243	3.3

資料:商業統計調査

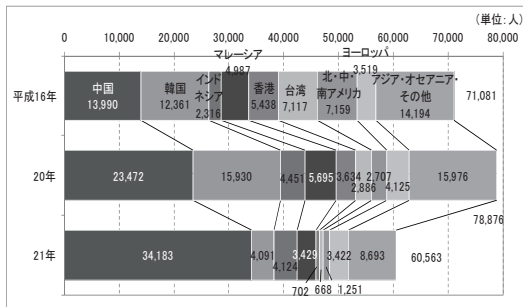
④観光・宿泊

観光レクリエーション利用者数の推移と資源・施設別利用者数(平成20年)

観光レクリエーション資源・施設名 (資源・施設名)	利用者数 (人)	構成比 (%)	観光レクリエーション資源・施設名 (行・祭事)	利用者数 (人)	構成比 (%)
正清寺	8,000	0.3	豊祭(安久美神戸神社)	80,000	2.9
曹門寺	23,000	0.8	うめまつり	40,000	1.5
高山蛇穴	20,000	0.7	さくらまつり	46,000	1.7
豊橋総合動植物公園	734,899	26.9	花しょうぶまつり(寛政しょうぶ園)	195,000	7.1
豊橋公園	200,000	7.3	豊橋祇園祭(吉田神社)	100,000	3.7
二川宿本陣資料館	39,882	1.5	豊橋みなとフェスティバル	30,000	1.1
美術博物館	205,183	7.5	炎の祭典	37,000	1.4
視覚教育センター	76,714	2.8	羽田祭(羽田八幡宮)	10,000	0.4
地下資源館	53,920	2.0	豊橋まつり	490,000	17.9
伊古部海岸	80,000	2.9	エコカーチャンピオンシップ	8,000	0.3
葦毛温泉	34,000	1.2	東観音寺	20,000	0.7
石巻山	40,000	1.5			
豊橋自然歩道	100,000	3.7			
多米峠無料休憩所	60,000	2.2			
合計				2,731,598	

資料:愛知県観光コンベンション課 観光レクリエーション利用者統計

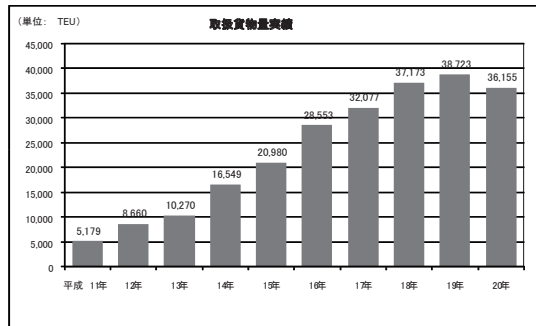
宿泊者数の推移と外国人宿泊者数



資料:愛知県観光コンベンション課 観光レクリエーション利用者統計

⑤港湾

取扱貨物量実績



資料:豊橋税関支署

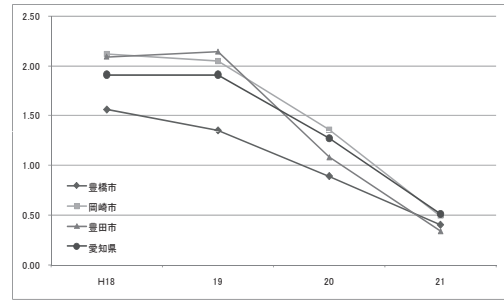
三河港における輸出入自動車台数の推移

年度	輸出				輸入			
	順位	金額	台数	(順位)	順位	金額	台数	(順位)
11	1	1,851,339	858,896	2	1	220,574	91,114	1
12	1	1,816,770	871,764	2	1	304,457	134,899	1
13	2	2,096,004	882,874	2	1	307,744	144,783	1
14	1	2,378,334	955,343	2	1	317,061	139,181	1
15	1	2,151,967	876,227	2	1	321,639	128,747	1
16	2	2,155,618	963,062	2	1	399,085	145,887	1
17	1	2,440,321	1,052,138	2	1	384,060	136,916	1
18	1	3,227,946	1,422,096	2	1	393,788	129,250	1
19	2	3,443,735	1,433,181	2	1	348,853	114,367	1
20	2	2,809,618	1,366,338	2	1	339,838	120,661	1
21	2	1,305,900	668,944	2	1	221,682	81,907	1
	全国計	6,693,277	4,385,357		全国計	454,948	158,603	

資料:豊橋税関支署

⑤雇用

有効求人倍率の推移



資料:愛知県労働局

現状

p 農業

- p 全国有数の産地ー 野菜、果実、畜産、花き
- p 産出額の減少(価格競争、輸入、地球温暖化による気候の変化の影響)

p 工業

- p 製造品出荷額を高い水準で維持、反面減り続ける事業所数、求人倍率の低下
- p 強みとしての、バランスのとれた業種(食料品製造の比率高い)

p 商業

- p 商品販売額の増加、店舗数、従業員数の減少ー中小店舗の減少、店舗の大型化

p 港湾

- p コンテナ取扱量の増加、完成自動車の輸出入港

I 豊橋市の産業の課題

- ・バランスのとれた産業構造を活かす
- ・情報発信の強化
- ・活力維持のための拠点強化
- ・中小規模の事業所・店舗等の支援
- ・安定した雇用

産業施策(個別)

①農業(農政課・農地整備課・農業委員会)

- **効率的・安定的な経営体と多様な担い手の育成**
家族農業経営の活性化と農業経営の法人化、女性や高齢農業者新規参入、定年帰農
- **農業生産基盤の充実**
優良農地(区画整理、かんがい排水、農業用水、農道)、ため池、土地利用区分の明確化
- **経営の規模拡大と合理化**
農地の集団化、合理化、IT
- **市民に親しまれる農業の推進**
地産地消、生消交流、食農教育、農業体験
- **環境保全型農業の推進**
自然に優しく持続性の高い生産方式⇒安全・安心、省エネ

②商業(商業観光課)

○商業振興のための支援

商業活性化事業(共通駐車券事業、空き店舗活用事業など)
まちなかフェスティバル、イルミネーションフェスティバルなど
大規模小売店舗の適切な立地

○中小事業者への金融支援

資金融資の支援
信用保証料の補助

○観光振興

観光イベントの開催(豊橋まつりなど)
観光施設の整備
観光PR活動

③工業(工業勤務課)

○工業振興のための支援

- ISOの規格認証取得、設備投資、創業に伴う事務所等の賃借、販路開拓、特許取得等の取組みに対して助成
- 人材の育成(とよはしの匠、高校生技術アイデア賞)
- 「サイエンス・クリエイト21計画」

○企業立地

- 企業誘致活動(事業所用地、東三河5市企業誘致推進連絡会議)
- 企業立地促進奨励金を交付

○勤労者福祉

- 職業訓練センター
- 勤労青少年ホーム
- ニートや正規の仕事につけない若者たちの就業支援

これからの産業施策(産業戦略プラン)

キーワード

- 農工商連携 クラスタ、新産業、6次産業化、産学官連携
(食農産業クラスター、植物工場、省エネ技術 など)
- 産業集積 三河港周辺、中心市街地
- 地域資源の創出 特産物、生産技術、観光資源
(産業プロモーション、ええじゃないか豊橋ブランド)
- 中小企業支援 新規参入者、中小企業、中小事業者
新たなビジネスモデル
- 雇用・人材育成 継続的かつ地域産業の発展に貢献できる
人材の育成・確保

アンケート・出席票

プロジェクト演習 キックオフ講演会「豊橋について知る」2011年4月12日

学部・学科 _____
 学籍番号 _____
 学年 _____
 氏名 _____

質問1 「豊橋の概要」について理解できましたか？

- A. とても理解できた
- B. まあまあ理解できた
- C. あまり理解できなかった

質問2 第5次豊橋市総合計画について理解できましたか？

- D. とても理解できた
- E. まあまあ理解できた
- F. あまり理解できなかった

質問3 本日の講演は、これからプロジェクト演習を進める上で、参考になりましたか？

- G. はい
- H. いいえ

質問4 本日の講演会を聞いて、学んだことを書いてください。

質問5 その他感想を書いてください。

「持続型職業人SOZOプロジェクト」プロジェクト演習
 第1回 キックオフ講演会 アンケート集計(1)

開催日:2011年4月12日(火) 第1限

出欠状況

	出席	欠席	計	出席率(%)
情報ビジネス学部	43	6	49	87.8
キャリアプランニング科	59	29	88	67.0
計	102	35	137	74.5

質問1:「豊橋の概要」について理解できましたか？

	情報		キャリアプラ		全体	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
A. とても理解できた	23	53.5	18	30.5	41	40.2
B. まあまあ理解できた	17	39.5	36	61.0	53	52.0
C. あまり理解できなかった	0	0.0	1	1.7	1	1.0
無回答	3	7.0	4	6.8	7	6.9

質問2:第5次豊橋市総合計画について理解できましたか？

	情報		キャリアプラ		全体	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
D. とても理解できた	10	23.3	15	25.4	25	24.5
E. まあまあ理解できた	28	65.1	39	66.1	67	65.7
F. あまり理解できなかった	1	2.3	1	1.7	2	2.0
無回答	4	9.3	4	6.8	8	7.8

質問3:本日の講演は、これからプロジェクト演習を進める上で、参考になりましたか？

	情報		キャリアプラ		全体	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
G. はい	36	83.7	52	88.1	88	86.3
H. いいえ	2	4.7	1	1.7	3	2.9
無回答	5	11.6	6	10.2	11	10.8

質問4:本日の講演を聞いて、学んだことを書いてください。 < 文章は原文のまま >

- ・地域づくりの政策について市は将来のことを考えて行動しているということや、コンパクトシティ等の知らない言葉を学んだ。
- ・計画・企画をする時はたまかな流れを示すことが必要であると感じた。
- ・いい素材を持っていても、知らせなければ意味がないということ。
- ・私達がイベントに参加したりお店を利用するという消費をするだけでもひとつのまちづくりになるということを学びました。
- ・街ももっと盛んにするには自分達が動く事が大切。
- ・豊橋市は全国的にも大きい市町村だと思ってたけど、中の下だと知ってザンネンだった。
- ・「錦き支えあう水と緑のまち・豊橋」

質問5:その他感想を書いてください。 < 文章は原文のまま >

- ・プロジェクトが豊橋のPRなので、自分達がやる事の助けになり、より深く考えることができたと思います。
- ・町づくりは行政の力だけではできない。地域住民の人達と一緒にやっていくことが分かった。
- ・豊橋に住んでいるのに、家外やれていることは少ないと思いました。ボランティアに参加するなどできることからやっていきたいです。
- ・豊橋って、地味？
- ・市がやってくれなければ私達はなにもできないと思っていたが、私達ができることもあると分かった。
- ・自分ができること、自分の役割をすることでまちづくりに貢献できたらいいなと思いました。
- ・ぜひ「三河48」をつくりましょう！

アンケート・出席票

プロジェクト演習 キックオフ講演会「豊橋について知る」2011年4月19日

学部・学科 _____
 学籍番号 _____
 学年 _____
 氏名 _____

質問1 「豊橋の産業の現状」について理解できましたか？

- A. とても理解できた
- B. まあまあ理解できた
- C. あまり理解できなかった

質問2 豊橋のどの産業に興味を持ちましたか？ ※複数回答可

- D. 農業
- E. 工業
- F. 商業
- G. 港湾
- H. 観光
- I. その他()

質問3 本日の講演は、これからプロジェクト演習を進める上で、参考になりましたか？

- J. はい
- K. いいえ

質問4 本日の講演会を聞いて、学んだことを書いてください。

質問5 その他感想を書いてください。

「持続型職業人SOZOプロジェクト」プロジェクト演習
 第2回 キックオフ講演会 アンケート集計

開催日:2011年4月19日(火) 第1限

出欠状況

	出席	欠席	計	出席率(%)
情報ビジネス学部	40	9	49	81.6
キャリアプランニング科	40	48	88	45.5
計	80	57	137	58.4

質問1:「豊橋の産業の現状」について理解できましたか？

	情報		キャリアプラ		全体	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
A. とても理解できた	6	15.0	9	22.5	15	18.8
B. まあまあ理解できた	28	70.0	29	72.5	57	71.3
C. あまり理解できなかった	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	6	15.0	2	5.0	8	10.0

質問2:豊橋のどの産業に興味を持ちましたか？ ※複数回答可

	情報		キャリアプラ		全体	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
D. 農業	20	50.0	23	57.5	43	53.8
E. 工業	9	22.5	5	12.5	14	17.5
F. 商業	10	25.0	8	20.0	18	22.5
G. 港湾	1	2.5	1	2.5	2	2.5
H. 観光	16	40.0	26	65.0	42	52.5
I. その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	1	2.5	1	2.5	2	2.5

質問3:本日の講演は、これからプロジェクト演習を進める上で、参考になりましたか？

	情報		キャリアプラ		全体	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
G. はい	36	90.0	29	72.5	65	81.3
H. いいえ	1	2.5	2	5.0	3	3.8
無回答	3	7.5	9	22.5	12	15.0

質問4:本日の講演会を聞いて、学んだことを書いてください。 < 文章は原文のまま >

- ・この講義を通じて、豊橋の産業の凄さなどを知れてとても良い機会でした。
- ・他地域に負けないものを作り成功させる事は難しいと思った。
- ・豊橋が全国有数の農業地帯であるということは知らなかった。工業についても自動車業が大部分を占めている要知所において、工業のバランスがとれているというのは意外だった。
- ・豊橋産の新メニュー、新商品を作ること、イオンなどを建てることができて、売ること、商店街の維持は大変だったことがわかったから、街を活性化させることは本当に難しいことだなって思った。
- ・キャベツやトマトの収穫祭とかあると面白いと思います。
- ・いろんな発祥のものを使って食べ物がいっぱい出来ると街おこしにつながるのかな？と思った。

質問5:その他感想を書いてください。 < 文章は原文のまま >

- ・豊橋らしいお土産、豊橋新グルメの発想がおもしろい。
- ・今までになくアイデアを出すのは難しいと思った。
- ・農業がもうからないから農業をする人が減って自給率が減っているから、みんながもつと国産のものを買って助けたいと思いたい。
- ・豊橋市の良いところがたくさん理解できた。だが自分自身でそのよいところを感じていないのは住んでいるからなのかなと思った。
- ・みんなの意見で新商品をつくるのも楽しいなあと思いました。

「ユビキタス・キャンパスの始動」では、携帯情報端末（iPad）の利用を通じて学生の基礎的な IT スキルの習得・向上を図っている。本事業においては、iPad を日常の情報検索用端末として使用させるとともに、プロジェクト活動（実践的スキルのブラッシュアップ）におけるプロジェクト管理端末として、さらに、就業力（社会人基礎力）を向上させるための e ラーニング用端末として、iPad 利用機会を増やすよう企画して実施した。

3 月に実施した iPad の基本的な利用方法説明会に引き続き、平成 23 年 4 月には、教職員および学生を対象とした「プロジェクト管理アプリ」のインストールおよび「プロジェクト管理システム」に関する説明会を実施した。さらに、e ラーニングシステム（Handbook）を利用するための iPad アプリインストールと同システムに関する説明も同時に行い、今後のプロジェクト活動や学習等で活用できるように体制を整えた。

アプリケーション導入説明会（教職員対象）

開催日：平成 23 年 4 月 20 日（水）

会場：豊橋創造大学 B23 教室

参加人数：情報ビジネス学部教員 18 名
キャリアプランニング科教員 9 名
職員 9 名

講師：キャラメルソース(株)代表取締役 初見 康行 様

第 1 回アプリケーション導入説明会（学生対象）

開催日：平成 23 年 4 月 21 日（木）

会場：豊橋創造大学 B23 教室

参加人数：情報ビジネス学部 3 年生 26 名
教職員 13 名

第 2 回アプリケーション導入説明会（学生対象）

開催日：平成 23 年 4 月 26 日（火）

会場：豊橋創造大学 B23 教室

参加人数：情報ビジネス学部 3 年生 25 名
教職員 9 名

第 3 回アプリケーション導入説明会（学生対象）

開催日：平成 23 年 4 月 27 日（水）

会場：豊橋創造大学 B23 教室

参加人数：キャリアプランニング科 2 年生 87 名
教職員 11 名

本学ではキャリア教育の一環として、「職業研究」という科目を開講し、社会で活躍する方々の話を伺う機会を提供している。今回は本学卒業生を講師としてお招きし、3回にわたる特別講義を行った。

記憶に新しい新入社員時代を語る先輩、自営業者として独立するまでに必要なことを考え続ける先輩、様々な経験を積み社会の第一線で活躍する先輩… それぞれが熱く語る姿に自分達の将来を重ね合わせ、真剣なまなざしを向ける学生達の姿が印象的であった。

第1回職業研究

開催日：平成23年5月23日（月）

会場：豊橋創造大学 A24 教室

参加人数：情報ビジネス学部1年生 57名

教職員 3名

講師：竹下 沙織 様（ヤマトシステム開発株式会社 勤務：9期生）

第2回職業研究

開催日：平成23年6月20日（月）

会場：豊橋創造大学 A24 教室

参加人数：情報ビジネス学部1年生 41名

教職員 4名

講師：中谷 健太郎 様（自営業：7期生）

第3回職業研究

開催日：平成23年6月27日（月）

会場：豊橋創造大学 A24 教室

参加人数：情報ビジネス学部1年生 53名

教職員 3名

講師：井澤 友行 様（株式会社センチュリーアンドカンパニー 勤務：2期生）



情報ビジネス学部2年生は豊橋商工会議所 専務理事 星野君夫様 を講師としてお招きした『社会人基礎講座』を受講しました。

商工会議所専務理事の立場から、実社会の中での人との関わり方、どのような人材が求められているのかを中心に、就職活動に備えるだけでなく、学生自身がよりよい将来を過ごすための「社会人としての心構え」についての講演に熱心に耳を傾けました。

社会人基礎講座 特別講義

開催日：平成23年6月8日（水）

会場：豊橋創造大学 A22 教室

参加人数：情報ビジネス学部2年生 33名

教職員 5名

講師：豊橋商工会議所 専務理事 星野君夫様



本学では、キャリアプランニングⅠの科目において、学生の健全な職業観を養い就職に対する意識を高める機会として、実社会で活躍する講師による特別講義を開催している。今年度は東愛知日産自動車(株)代表取締役社長 青木公貞様 を講師としてお招きし、大変有意義な特別講義を受講した。

「『若者はかわいそう』論のウソ」と題された講演は、円高により製造業が日本で立ち行かなくなり、就職先は販売業・サービス業が主体になっていくことや、社会からコミュニケーション能力が要求されるようになってきていることはそれと大いに関係があり、対人折衝能力をぜひ磨いてほしいなど、今後の就職活動にむけて大変参考となる内容であった。

また、「1年後に自分のやりたい仕事を見つけられる力を、この1年でつけなさい、センスを磨きなさい」「1年後の就活に向かって、これから1年間何をやるのか、どう過ごすのか、自分でよく考えなさい」という青木様の『人生の先輩として』のメッセージに、学生たちは真剣に耳を傾けていた。

短大の2年間でいかに有意義に過ごすか、今回の講演を聞いた学生たちの1年後の姿がとても楽しみとなる講演であった。

キャリアプランニングⅠ 特別講義

開催日：平成23年6月30日(木)

会場：豊橋創造大学 A32 教室

参加人数：キャリアプランニング科1年生 68名

教職員 3名

講師：東愛知日産自動車(株)代表取締役社長 青木公貞様



メンタルタフネスアセスメント講習を8月8日（月）・9日（火）の2日間にわたり、情報ビジネス学部およびキャリアプランニング科の教員を対象に実施しました。

メンタルタフネスアセスメント講習は、学生が持つ「就業力（卒業後、自らの素質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力）」が、就業後どのように発揮されるかを事前に発見・予測する手法を教員が身につけ、在学中の指導に活かす事を目的として開催された。

評価要件の定義や必要性、評定要件の行動例等の説明後、モデル学生によるグループ討議の様子を実際に見学しながら、観察ポイントチェック等のロールプレイングを行った。

これまでも、教員は授業だけでなく学生と接する様々な機会に、彼らの良いところを見出し足りない部分を少しでも伸ばすよう指導してきたが、さらにきめ細かい学生指導に役立てようと活発な質疑応答も繰り広げられた。

メンタルタフネスアセスメント講習

開催日：平成23年8月8日（月）・9日（火）

会場：豊橋創造大学 E22 教室・E24 教室

参加人数：情報ビジネス学部教員 18名

短期大学部キャリアプランニング科教員 9名

講師：キャラメルソース(株)代表取締役 初見 康行 様



メンタルタフネスアセスメント アセッサー養成コース

対象者：教職員
実施日：○月○日 9：00(開講)～○月○日 17：00(閉講)
2日コース

目的：就業力を向上するために、学生のメンタルタフネスを評定する手法として、メンタルタフネスアセスメントスキルを習得する。

- 内容：1)メンタルタフネスアセスメントとは
2)評定要件(評定項目と評定基準)
3)演習課題(将来、就業力を発揮する状況とタスク)
4)評定者(アセッサー＝教職員)
5)(メンタルタフネスアセスメントによる)アセスメント体験実習
・VTR事例による基本実習
・モデル学生によるメンタルタフネス演習体験実習(行動観察・記録・評定の実習体験)
7)メンタルタフネスアセスメントの活用ポイント
8)質疑応答

*「メンタルタフネスアセスメント・アセッサー養成コース」スケジュール参照

はじめに

就業力は、「学生が卒業後、自らの素質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力：大学段階基準による定義」です。

これまでも「就業力」の育成を目的とした講座はたくさんありましたが、これまでの講座というのは、どちらかと言えば就職をするためのハード(技術)面に注目したものが主でした。例えば、エントリーシートの書き方や面接のやり方、そしてSPIや筆記試験の勉強方法です。もちろん就業力の育成のためには、こうした講座も非常に大切ですが、

しかし、現実を目を向けると毎年8万人以上の学生が進学も就職もしていません。また、就職しても3年以内に30%以上の人が会社を辞めてしまっているのも事実です。

なぜ、このような状況になっているかを推測すると、日本企業を取り巻く環境の変化にあります。

- ・経済のグローバル化の一層の進展にともなう国際競争の激化、
- ・少子・高齢化の進行、
- ・雇用形態の多様化など……です。

このような変化の中で、各企業の採用や育成も大きく変わってきています。会社が社員の人生を丸ごと保証する時代は終わりました。

一般的に、ビジネス場面における個人個人の能力は、次の6つが考えられます。

- ①個人特性：働く場面でしばしば「個人的資質」と呼ばれるような、行動面に現れた個性(性格)や個人特性(意識)に関係する要素です。これらの要素は能力開発が最も難しいものです。
- ②意思疎通：他者に効果的に対応する要素で、建設的な人間関係の構築と維持に関係したコミュニケーションに関する要素です。
- ③対人支援：個人やチームのゴール達成を支援するという点に関係した能力要素です。社会的・職業的自立を図るためには、この行動を示す必要があります。
- ④問題解決：成果獲得に向け努力する要素で、業務を効果的に組立て実行して、成果を達成することに関係した能力要素です。
- ⑤技術/専門知識・スキル：ある職種や業務に必要な技術/専門知識・スキルを特定するための能力要素です。
- ⑥動機/意欲の適合：職種や業務で働いて、ある地域に勤務して、あるいは、ある組織の中で、「満足が得られるか、不満を感じるか」につながる動機・意欲(モチベーション)にマッチング(適合)するかどうかです。

就業力アセスメント・アセッサー養成コースでは、①～⑥を基本にヒューマンアセスメントという手法を活用します。就業力の向上の目的は、学生が「自分に合った仕事を見つけ、人生をより楽しく豊かにすることである」と考えています。

豊橋創造大学学生の就業力の向上のためには、本手法を効果的に活用いただけるよう支援します。学校教育は年間計画に基づいて一定の時数の中で教育を行なっています。教育効果を上げるためには、事前・事後の指導が重要です。本コースを通じて教育効果の向上に役立つことを期待します。

メンタルタフネスアセスメントとは

メンタルタフネスアセスメントとは、個人個人の能力(就業力等)を評価する手法の一つです。学生のメンタルタフネス(能力・資質)が、就業後どのように発揮されるかを事前に発見・予測する手法です。

メンタルタフネスアセスメントの定義

メンタルタフネスアセスメントとは、個人のメンタルタフネス(潜在能力・資質)が、外面に観察しやすい行動として現れる状況を、心理学的に設計された種類の演習課題を使ってつくり出し、複数の評定者が、一定の行動観察技法に基づいて、行動を観察・記録し、評定する手法です。

メンタルタフネスアセスメントを構成する要素

メンタルタフネスアセスメントを構成する要素は、次の3つです。

- (1) 評定要件(評定する項目：Dimension)
- (2) 演習課題(行動を観察する状況設定：Exercise)
- (3) 評定者(スキルを評定する人：Assessor)

メンタルタフネスアセスメントの活用目的

メンタルタフネスアセスメントを活用する目的は、「就業力の強化」です。具体的には、次の通りです。

- (1) 育成・能力開発：学生(参加者)相互の啓発と就業力開発。
- (2) 学生を就業先への推薦・就業支援の選抜を行なう際の基礎データ。
- (3) 適性・特性診断：能力の特性診断、適合性認知。

評定要件の定義と必要性

本コースにおける評定要件は、豊橋創造大学メンタルタフネス要素として次の通りとします。

1. イニシアティブ (Initiative)

率先して行動し、より高いレベルで活動する能力

(組織は、状況に適応するだけでなく、他に先んじて自発的・積極的に行動する気力・活力のある人を求める。)

2. バイタリティ (Energy)

独自の発想を展覧し、斬新なアイデアに結びつける能力

(組織は、常識や経験の枠にとらわれず、多様な視点から新しい考え方や解決策を考え、進んで提供する人を求める)

3. ストレス耐性 (Stress Tolerance)

種々の圧迫や反対の中でも、安定して課題をやり遂げる能力

(組織は、打たれ強い人を求める。多少頭が良くても、自分の思い通りにならない時に、すぐに心が折れたり、すねたり、駄々をこねるようでは、就業に耐えることができない。思い通りにならない時に、自分を欠かず、辛さに耐え、前向きに乗り越えて行くことが出来る人を求める)

4. 自主独立性 (Independence)

他に依存することなく、自己の信念に基づいて行動する能力

(組織は、上司の指示に従うだけでなく、進言し進んで補佐・代行するなどの主体性を発揮する人を求める)

5. 感受性 (Sensitivity)

人の気持ちや、状況の変化を鋭敏に察知する能力

(組織は、接する人たちの気持ちや期待、状況のニーズとその変化を敏感に感じ取り、配慮できる人を求める)

6. 影響力 (Influence)

個人または集団に対して、目指す方向や方針を示して働きかけ、課題達成に導き、影響を与えていく能力

(組織は、個人または集団を達成すべき目標の方向に動かし、自分の考え方や進め方を容認させ、成果に結びつけることのできる人を求める)

7. 説得力 (Persuasiveness Communication)

自分の論点を整理し、確信をもって説き相手の納得を求める能力
(組織は、自分の主張や論点を理解させ、相手の同意や納得を得るために熱意をもって訴えることのできる人を求める)

8. 適応力 (Adaptability)

状況や相手の変化に応じて、適宜に行動する能力
(組織は、状況の変転や、相手の動きに応じて、自らの考えや行動をタイムリーに修正し、融通性の高い行動をとる人を求める)

9. 情報把握力 (Comprehension Skill)

情報を正しく、早く、広く、とらえる能力
(組織は、各方面の発信する情報の種目を正確かつ速やかに理解し、広く全体情報を包括して認識する人を求める)

10. 分析策定力 (Analysis・Generating)

情報を吟味し、状況や課題を明確にする能力
(組織は、情報をよく吟味し、問題やさまざまな兆候を予測・発見・指摘し、問題の原因を究明して、課題を明確に示すことのできる人を求める)

11. 実行計画力 (Action Planning)

自分(やチーム)の活動を実践的に設計する能力
(組織は、目標を実現するために、自分自身やメンバーの諸活動を具体的にスケジュール化し、現実的な計画・立案を行う人を求める)

12. 成果管理力 (Control)

計画・基準に則して事が進むように効果的に修正・確認する能力
(組織は、目標達成の過程で、自分、メンバー、システムの活動をチェックし、成果を上げているか正しく評価し、必要に応じてフォローアップを実行する人を求める)

III 評価要件別の行動例

1. イニシアティブ (Initiative)	
<p>(強)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○何事でも最初に口火を切るなど、自発的に他に先んじて行動し、発言する。 ○自分の考え方を積極的に売り込もうとする。 ○角度を変えた新しい考え方や、やり方を進んで試みる。 ○問題や必要性に気づき、先手を打って行動する。 ○他者が尻込みすることでも進んで引き受ける。 	<p>(弱)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発言が少なく、最終受け身の立場に立つ。 ○他者から発言や行動を促されても遠慮したり、尻込みをする。 ○問題や状況の変化に対し、必要な手を打たず、後手に回る。 ○必要な時でも、変更や改善を試みようとならない。 ○必要以上のことにはチャレンジしない。
2. バイタリティ (Energy)	
<p>(強)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○気力・活気に溢れ、はつらつとしており行動的である。 ○目標達成を目指し粘り強く頑張り続ける。 ○何事にも他に抜きん出たいという強い欲望をもち、精力的に動く。 ○より高いレベルでの活動をやり抜こうとして全力を尽くす。 ○知的にも体力的にもエネルギー溢れる活動を継続する。 	<p>(弱)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○動作が鈍く真興味がない。 ○やらなければならない時に、傍観者の態度をとる。 ○自分の提案が受け入れられないと、消極的になる。 ○悲観的で、あきらめが先に立つ。楽観的で、手抜きが息苦しい。 ○途中で息切れし、気力・活力がムラがある。
3. ストレス耐性 (Stress Tolerance)	
<p>(強)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○時間の制約や課題の困難性の中でも安定した力を発揮する。 ○他者から受ける圧迫や反対の中でも落ち着きがあり、冷静に仕事を進める。 ○一貫してリラックスした態度を崩し、状況の変化に対して動揺しない。 ○失敗や不測の事態に直面しても、立ち直りが早い。 ○余裕・ゆとりがある。 	<p>(弱)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○圧迫により業務遂行に影響を受ける。 ○他者から反対されると攻撃的になるか、または退いてしまう。 ○緊迫した状況下では、いらいらと神経質になる。 ○プレッシャーを受けると、緊張しすぎたり、行動が乱れやすくなる。 ○打撃を受けると回復に時間がかかる。

4. 自主独立性 (Independence)	
<p>(強)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○他者に追従せず自己の見解を述べる。 ○自分の判断に基づき一貫した行動をとる。 ○意思決定の際、自分の納得できる根拠を追究する。 ○建設的な批評眼をもっている。 ○どんな時でも、イエス・ノーをハッキリ打ち出し、上司に対して自信をもって進言する。 	<p>(弱)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自ら進んでやるのではなく、他者から言われてやる。 ○他者の意見に振り回され、日和見的・迎合的・追従的態度をとる。 ○他者の提案は何でもそのまま受け入れる。 ○反対意見や圧迫があると、すぐに自分の意見や主張を引っ込めて責任を回避する。 ○基準を示さないと動けない。
5. 感受性 (Sensitivity)	
<p>(強)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○他者の立場や状況を尊重し、支援し、親切・丁寧に面倒を見る。 ○他者の気持ちや欲求を察知し、共感的・受容的に受け止める。 ○相手の反応に注意し、自分が与える影響を感じ取る(目が行き届く)。 ○場のニーズや雰囲気を感じ、配慮ある行動をとる(勘が良く、気が利く)。 	<p>(弱)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の都合のみを考え、人の立場や気持ちに配慮しない(無神経)。 ○自分の価値観や解釈・評価などを指示・命令調で押しつける(強断・独善)。 ○他者の行動や発言を違ったり、無視したりする。 ○自分のとる行動の及ぼす影響に、気づかない(鈍感)。
6. 影響力 (Influence)	
<p>(強)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個々の異なる見解を目標に向かって集束させるべく、グループに働きかけてゴールに向かう。 ○困難な事態や意見の対立に直面した時、合意に達するよう懸命に働きかける。 ○積極的に提案したり、説得したりして、目的に向かって相手や集団を動かす。 ○議論を展開したり、まとめたりする上で中心的な役割を果たす。 ○目的や計画を示し、相手の理解と納得を得る。 	<p>(弱)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○議論に水をさし、音にやる気をなくさせてしまう。 ○自分一人が発言するため、他人達があまり考えなくなる。独善的に進める。 ○場当たりの発言で、グループの課題(目標)達成に混乱を招く。 ○旗振りをするが、中身がなく、メンバーがついてこない。 ○錯綜した議論を整理できない。

7. 説得力 (Persuasiveness)	
<p>(強)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の主張や論点を、適切な理由・事例を述べて、わかりやすく説明する。 ○自分のアイデアを体系的に示し、自分の思う方向に引きつけ、同意や受容を得る。 ○課題の意図や方針を踏まえて、対立する意見に誠意をもって対応する。 ○語調や視線が自信を伝え、納得を得ようとする強い意志を示す。 ○論点の背景や論理の説明に筋道が通り、理解しやすい。 	<p>(弱)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○論点の絞り込みが甘く、相手に理解されにくい。論理性が乏しい。 ○反対に遭うと再度考えを売り込まず、単発的な発言で終わってしまう。 ○自分の考えやアイデアを未整理のまま発言し、訴求力を欠く。 ○説得しようとする気持ちは強いが内容が伴わない。 ○淡々と説明し、熱意が伝わらない。
8. 適応力 (Adaptability)	
<p>(強)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○状況の変化に自然に溶け込み、自在にふるまう。 ○相手の出方や状況に応じて臨機に多彩なアプローチをとる。 ○膠着状態になる前に、弾力的に軌道修正を図る。 ○本筋級の課題に対しても、物怖じせず、スムーズに行動する。 	<p>(弱)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新しい人間関係では構えてしまい、言動がごちなくなる。 ○状況の変化や新しいやり方を受け入れず、かたくなな態度をとり続ける。 ○事が思いどおりに進ばないと、投げやりな態度になる。 ○自分が納得するまで、行動を開始しない。

9. 情報把握力 (Comprehension Skill)	
(強) ○ 文章や会話の中から要点を的確に把握する。 ○ 文章や資料から、主旨・重要なデータを素早く読み取る。 ○ 見聞きした情報を正確に記憶する。 ○ 言葉の背後にある意味をよく理解する。	(弱) ○ 文章や会話の内容を誤解したり、漏らしたりする。 ○ 主旨や概要を理解するまでに時間がかかりすぎる。 ○ 部分情報に目を奪われて特定の情報しかつかめない。 ○ 自分の考えのみに気を取られて、他者のもっている情報への関心が薄い。
10. 分析策定力 (Analysis Generating)	
(強) ○ 事実や手元情報を整理して、問題点を明確にする。 ○ 状況を論理的に吟味して、取り組むべき課題を設定する。 ○ 現状のさまざまな兆候から、将来起こりうる問題を認知し、予測する。 ○ 事実・手元情報をベースに課題の根拠を明らかにする。 ○ 多面的・実践的な対策を講ずる。 ○ 対策の効果性・実現性を検討し、評価する。 ○ 事態を予測し、必要な予防方法を講ずる。 ○ 公平な立基に立ち、妥当案を客観的に選択する。	(弱) ○ 先入観や偏見で決めつける。 ○ 気合と経験則に頼り、取り組むべき課題が明確にならない。 ○ 根拠を探るよりも結論に飛躍する。 ○ 現状の対応にとらわれ、先々起こりうる問題やリスクへ関心を払わない。 ○ 改善の策や代替案を考えず、通り一遍の対応になる。 ○ 現実性を考えず、原則論・机上の空論になる。 ○ 将来起こりうる影響に気づかず、事後対策を考えない。 ○ 経験則だけで解決策を考える。

11. 実行計画力 (Action Planning)	
(強) ○ 手順・段取りが合理的で無理がない。 ○ リスクの回避策や対応策を常に考えた実施計画を立てる。 ○ 内外の状況を考慮し、優先順位をつけて計画を練る。 ○ 目標レベルは、自己と集団の能力を考慮しており実行可能である。	(弱) ○ 活動内容と時間配分がアンバランスで、無理や無駄がある。 ○ 日先の事柄にとらわれて、重要度や緊急度を考慮しない。 ○ 思いつきで指示を出し、実施を急ぐ。 ○ チームの実行能力を考慮しない机上のプランとなり、現実味が薄い。

12. 成果管理力 (Control)	
(強) ○ 進行状況を確認し、逸脱や未達の是正を図る。 ○ 達成した仕事やその成果を正しく見届ける。 ○ 自分の下した意思決定や行動に対して最後まで責任をもつ。 ○ 基準や規則からの逸脱を適宜指摘し、成果の確保に努める。	(弱) ○ 進行度合いを確認せず、是正・修正すべきことをそのまま見過ごす。 ○ 成果や結果のみを重視し、仕事のやり方やプロセスを評価しない。 ○ 期日管理や報告の意義が乏しく、言いっ放し、やりっ放しになる。 ○ 何もかも細かく統制しすぎる。

演習課題

- 演習課題は、行動を観察する状況設定です。
状況設定は、次の4つとします。
- ① 会議など集団で議論する場面の状況
 - ② 会議などで発表（プレゼンテーション）する場面の状況
 - ③ 個人で意思決定する場面の状況
 - ④ 1対1で面談する場面の状況

別添「メンタルタフネスアセスメント演習課題」参照。

演習の観察ポイント グループ討議参考例

GD①

チェックポイント	顕著に見られる事象	行動傾向からの評価例	
		+	-
入室の仕方	歩き方：力強い場合	活動性、執着性	
	着席する態度：落ち着かない		(ストレス耐性)
準備作業	ガイドを聞かずにシートを読む	活動性	問題形成力、(ストレス耐性)
	アンダーラインを引く	コントロール、情報把握力	
	カリカリとメモをとる		(感受性)
	周囲を気にする		(ストレス耐性) 活動性
討議開始	口火を切る	活動性	
	口火を切っただけで終わる		問題形成力、段取り力 パートナーシップ
	進め方や時間配分を提案	問題形成力、段取り力、コントロール	
	進め方だけで終わる場合		原因究明力、執着性
討議進行	議論の流れへの貢献	パートナーシップ、情報把握力	
	議論の内容面のフォロー	情報把握力、問題形成力、原因究明力、コントロール	
アプローチ	相づちばかり	パートナーシップ	執着性
	とっさの反応が得意	活動性、パートナーシップ、情報把握力、改善力	
	全体の流れに反応	情報把握力、問題形成力、パートナーシップ	
	流れを止めてまで自己主張する	執着性、段取り力、	パートナーシップ
収束	討議をまとめる (内容を伴う場合)	パートナーシップ、問題形成力、原因究明力、段取り力	
	内容面の伴わないまとめ	コントロール	情報把握力、問題形成力

対人交流	交流感を持ち、会話が円滑	説得力、パートナーシップ、情報把握力	
	対人慣れしている	パートナーシップ	
	真摯に傾聴し肯定的に接する	パートナーシップ、(ストレス耐性)、情報把握力	
	ひたすら情に訴える(熱心、忠実、誠実、不器用)	活動性、パートナーシップ	問題形成力
	攻めっ気が強い	執着性	パートナーシップ
	自分の思いどおりに進めたい	執着性、活動性	パートナーシップ
	頭ごなしに決めつける	執着性、	説得力、問題形成力、原因追求力、改善力
論理展開	明快に言い切る	活動性	
	自説を主張し話題に広がりがある	改善力	
	周辺状況を確認し明快さを欠く	情報把握力、問題形成力、コントロール	執着性
	問題点を把握していない		情報把握力、問題形成力
	問題点を理路整然と指摘する	情報把握力、問題形成力、	
	論理的に相手の逃げ道をふさぐ	問題形成力、原因追求力	説得力
	相手の意見を聞き出す	説得力	
	話し合いの方向性を見いだす	問題形成力、段取り力	
	原因究明より対策先行する	問題形成力	原因究明力
	基準、手続きを重視する	コントロール (組織基準に言及 ：原因究明力) (立場の説明に注力 ：問題形成力)	改善力 (自説の上振なし ：執着性)
評価的なアプローチ	段取り力、原因究明力	(パートナーシップ、改善力)	

演習の観察ポイント 面接演習参考例

チェックポイント	顕著に見られる事象	行動傾向からの評価例	
		+	-
入室の仕方	礼儀正しい態度	パートナーシップ (社交辞令の場合あり)	
着席の仕方	用心深く慎重に座る、または指示があるまで待つ	パートナーシップ	
	指示がなくても自分から座る(自負心が強い)	活動性、問題形成力	
	落ち着きたくて早く座る		(ストレス耐性)
	役割意識が強く組織の一員を自覚	問題形成力、パートナーシップ	
	浅く腰掛ける → 謙虚、控えめ	パートナーシップ	活動性、執着性
導入	深く腰掛ける → 自信家、主張性が高い	活動性、(ストレス耐性)、コントロール	
	緊張感からゆとりがない(すぐに相手を呼ぼうとする)		(ストレス耐性)
アプローチ	物おじせず堂々とする	活動性、(ストレス耐性)	
	世間話や趣味の話から入る(雰囲気づくり)	パートナーシップ	
	前置きなしに本題に入る	執着性	パートナーシップ、段取り力
	様子をうかがい、ズバリと言いきらない		執着性、問題形成力、
	問題を把握している様子も様子をうかがっている	原因究明力	活動性、執着性、問題形成力 (葛藤回避：ストレス耐性)
	一方的にまくし立ててしゃべる	活動性、執着性	説得力、(ストレス耐性)
態度・表情	寡黙に迫る、悠然としている	(ストレス耐性) 活動性	
	下向きの視線でぼそぼそ話す(自信がなく対人対応が苦手)		活動性、説得力、問題形成力

対人交流	交流感が高く、会話が円滑	説得力、情報把握力	
	対人慣れしている	(ストレス耐性) パートナーシップ	
	真摯に傾聴し肯定的に接する	パートナーシップ、情報把握力	
	ひたすら情に訴える(熱心、忠実、誠実、不器用)	説得力、パートナーシップ	改善力、問題形成力、原因究明力、段取り力
	攻めっ気が強い	執着性、	パートナーシップ
	自分の思いどおりに進めたい	執着性	パートナーシップ
	頭ごなしに決めつける		説得力、問題形成力、原因究明力、段取り力、改善力
論理展開	明快に言い切る	活動性、問題形成力	
	自説を主張し話題に広がりがある	説得力、改善力、執着性	
	部下の状況を確認し明快さを欠く	情報把握力、問題形成力	執着性、説得力、コントロール
	問題点を把握していない		情報把握力、問題形成力
	問題点を理路整然と指摘する	情報把握力、問題形成力	
	論理的に相手の逃げ道をふさぐ	問題形成力	説得力、
	相手の意見を聞き出す	説得力、パートナーシップ	
	話し合いの方向性を見いだす	説得力、段取り力	
	原因究明より対策を先行する	執着性	原因究明力
	基準、手続きを重視する	コントロール	改善力
評価的なアプローチ(統制的)	コントロール、問題形成力	パートナーシップ、改善力	

質問のしかた	状況を把握する	情報把握力、問題形成力	
	意図的に誘導する	コントロール、執着性	パートナーシップ、改善力
	単発で散発的、または場当たりの(切り返しに臨機応変がない)		パートナーシップ、説得力、問題形成力、段取り力、改善力
	体系的に質問をする	情報把握力、段取り力、問題形成力	
反論に対する対応	ひるまず立ち向かう	(ストレス耐性) 執着性	
	心情配慮が不足する		説得力
	かたくなに主張する	執着性	パートナーシップ
	逃げ腰で対立を避ける		(ストレス耐性) 活動性
	自己責任を回避する		活動性
	批判をかわし、話をすり替える	説得力	活動性
	立ち回りがうまい	パートナーシップ	執着性
	対応に行き詰まる		説得力、改善力
収束の仕方	早めに話を切り上げようとする		(ストレス耐性)
	相手の言いなりになる		活動性
	時間内に決着を図る	コントロール、説得力	
	合意形成を目指す	説得力、執着性、段取り力	
	最後まで集中力をとぎれさせない	活動性、(ストレス耐性)	
	相手が堪負けする(うんざりする)	執着性	パートナーシップ
対人交流	相手に意見を求める	説得力、パートナーシップ	
	自分から提案する	活動性、段取り力	
	話をとりまとめて確認する	説得力、情報把握力、コントロール、執着性	

平成22年度に文部科学省より「大学生の就業力育成支援事業」の採択を受けた本事業のうち、地域とのつながりを学生自らが考える足掛かりとして取り組むプロジェクト演習が4月12日の「豊橋を知る」キックオフ講演会を皮切りに本格的にスタートしている。

プロジェクト演習とは、ゼミナールごとに具体的な目標を設定したテーマを掲げ（本年度の計画総数：22プラン）、学生自ら企画・運営・進捗管理・報告の作成といった4段階のプロセスを通して事業運営についての理解を深めるために、豊橋地域の企業様をはじめ多くの皆様のご協力を賜りながら進めているものである。

この4か月、学生たちはプロジェクト内容を企画立案し、実際に豊橋地域の企業様や地域の皆様の元を訪問しながら、計画を『成果』という形あるものにまとめていく作業に取り組んできた。今回は、これまでの活動状況や苦労したこと、今後の目標や予定などをプロジェクトチームごとに作成したスライドを用いて発表した。決められた発表時間内にいかに効率よく、分かりやすく説明するか——プロジェクトチームの中には中間発表会を『プレゼンテーション』の模擬体験として位置づけ、スーツ着用で臨む姿も見られた。また、会場の一角にはプロジェクトの要点をまとめたポスターも掲示され、休憩時間に学生同士がプロジェクト内容について情報交換をする姿もあった。

12月の成果発表会に向けて佳境を迎えるプロジェクト内容だけでなく、今後の学生たちの成長にも目が離せない中間発表会となった。

プロジェクト演習「中間発表会」

開催日：平成23年8月9日（火）

会場：豊橋創造大学 B14 教室

参加人数：情報ビジネス学部3年生 51名

〃 4年生 4名

教職員 32名



— 情報ビジネス学部 —

持続型職業人 SOZO プロジェクト プロジェクト演習 中間発表会

持続型職業人 SOZO プロジェクト

プロジェクト演習 中間発表会

平成 23 年 8 月 9 日

豊橋創造大学 情報ビジネス学部

1. 順番

<第1セッション>

順番	発表時間	ゼミ名	プロジェクトテーマ
1	14:55 ~ 15:00	石田ゼミ	外食産業におけるロジスティクス・システムの研究
2	15:02 ~ 15:07	今井久ゼミ	福祉施設で紙芝居
3	15:09 ~ 15:14	今井正ゼミ	ビジネス系学生のための情報処理資格に向けた電子コンテンツの改善活動
4	15:16 ~ 15:21	五味ゼミ	認定試験に受かるための学習環境と運営
5	15:23 ~ 15:28	中野一ゼミ	会計事務所の業務内容と組織に仕組みを知る
6	15:30 ~ 15:35	中野聡ゼミ	社会的企業の実証研究
7	15:37 ~ 15:47	見目ゼミ	豊橋市内小中学校の太陽光発電システムの稼働状況調査

<第2セッション>

順番	発表時間	ゼミ名	プロジェクトテーマ
8	16:10 ~ 16:15	花岡ゼミ	豊橋駅プロジェクト
9	16:17 ~ 16:22	三好ゼミ	豊橋白機企業のトップインタビュープロジェクト
10	16:24 ~ 16:29	森田ゼミ	東三河における繊維産業
11	16:31 ~ 16:36	山口ゼミ	炎の祭典支援プロジェクト
12	16:38 ~ 16:43	吉川・片岡ゼミ	東三河 Bible
13	16:45 ~ 16:55	三輪ゼミ	学食広報プロジェクト by 学食おうえん団

2. 時間配分

- ◆ 発表時間は1プロジェクトあたり5分間とする。ただし、延長を希望したプロジェクトは10分間。
- ◆ 発表時間終了1分前で1鈴、終了で2鈴を鳴らす。
- ◆ 質疑応答はセッションずつまとめて10分間とする。

「外食産業におけるロジスティクス・システムの研究」

石田ゼミナール

1. プロジェクトの組織

石田研究室 山田十五 野間洋祐
井垣翔太 洞口貴紀
指導者 石田宏之

協力企業

- ・物語コーポレーション(株)
- 人材開発部部長
- 購買部マネージャー
- ・ワルツ(株)
- 外食営業部統括マネージャー
- ・KRS(キューソー流通システム)

2. (株) 物語コーポレーションの企業概要

- ・創業 1949年12月
- ・設立 1969年9月
- ・代表者 小林佳雄
- ・資本金 7億1254万円
- ・売上高 12,781百万円
- ＊グループ店舗売上高 約225億円(2010年6月現在)
- ・従業員数 社員379名 時間制従業員2,786名
- ・出店状況 直営91店舗/PC106店舗

主な事業内容：外食産業(焼肉、ラーメンおよびお好み焼レストランチェーン、専門店)の直営による経営とフランチャイズチェーン展開

3. プロジェクトの背景と目的

<背景>

学生の主体的な活動(プロジェクト活動)を通して、コミュニケーション力や協調性を養成するとともに、各期はじめに実施するメンタルタフネス講座での背景や理論に

ついて理解を深化させる。また ICT(Information Communication Technology)能力の向上や卒業生ネットワークの構築を進める。それらを通して学生の就業力を向上し、就職状況の改善を目標とする。

この補助事業を請け、学内に「持続型職業人プロジェクト」を立ち上げて事業を推進する。

<目的>

物語コーポレーションの各店舗への商品供給(物流)の実態を調査することによりロジスティクス・システムの役割と課題を学び、プロジェクトを通して、要約の仕方、メモの取り方、テーマの進め方、問題発見能力、分析力、理解力などを習得するとともに、相手先との交渉、ヒアリング、施設見学などを通してコミュニケーション能力、あいさつ、態度などの接客能力等の社会人基礎能力を養う。

4. プロジェクトの内容

- ・ロジスティクス・システムの研修
- ・相手企業への依頼内容検討
- ・相手企業へのヒアリング実施(相手先の現状と問題点の洗い出し)
- ・物流拠点の機能に関する研修と施設見学
- ・物語コーポレーションのロジスティクス・システムの整理と不足事項の検討
- ・プロジェクトの成果の検証とまとめ

5. プロジェクトとの現状報告

- ・物語コーポレーションおよびワルツの企業概要の調査
- ・物語コーポレーション物流概要の調査
- ・物語コーポレーションが委託されている
- ・ワルツへの施設見学
- ・要約およびメモの取り方の練習
- ・ロジスティクスについて学習

「福祉施設で紙芝居」

今井久ゼミナール

1. 概要

私たちのゼミでは、福祉施設に訪問し、ボランティア活動を行うことになった。その背景として求人雇用とのミスマッチがある。

介護福祉の仕事を理解することと福祉施設が今必要としている事を理解する上で、施設に訪問する。

2. プロジェクトの内容

福祉施設を訪問し、紙芝居のボランティア活動を行うために、毎週木曜日の5限に図書館3階の特別講義室にて練習を行った。福祉施設に訪問し、ボランティア活動をするためにアポイントメントを取り事前訪問を行った上で活動日などを決定した。

紙芝居の項目

- ①かさ地蔵・・・天野
- ②けちべえさん・・・竹下
- ③かちかち山・・・芝崎
- ④ほたもちを食った伝説・・・古川
- ⑤シンデレラ・・・全員
- ⑥おらしべ長者・・・今井久先生



3. 終わりに

福祉施設に初めて訪問しどのような施設なのか分かった。お年寄りとのコミュニケーションの難しさを実感した。福祉や介護士の仕事を少し知ることができた。

1. プロジェクトの組織
プロジェクトの組織は次のようになる。特定非営利活動法人インターネットアカデミー事務局 佐藤一、広島国際大学 工学部 情報通信学科 助教 越智徹、豊橋創造大学情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科 教授 今井正文、3年 西山拓磨、木村拓太、4年 小倉均夢、松野悠石、井本博崇、11井雅也、高須健太

2. プロジェクトの背景と目的
2.1 プロジェクトの背景
CompTIA Strata 認定シリーズは以下の社会人もしくは学生などを対象に作られた IT に関する基本となる知識、スキルを認定するプログラムである。
・ IT に関係する営業職の方
・ 新たに IT 関連の職務に就かれる方
・ IT 関連の就職を希望される学生
CompTIA Strata は自身が使用する PC の管理やメンテナンスなどを中心に問題が構成されている。IT スキル有成のファーストステップとして活用できる。

2.2 プロジェクトの目的
このプロジェクトはビジネス系学生のための情報処理資格である CompTIA Strata IT Fundamentals に向けた電子コンテンツの改善活動を行う。このような活動を通じて情報系の学習方法を学ぶとともにそれを支える事業や技術を体験する。

3. プロジェクト内容
プロジェクトの内容は、ILA (internet learning academy) から配布予定である電子コンテンツのテストおよび開発活動に参加する。電子コンテンツは ipad に展開が予定されており、今回貸与された ipad を用いてコンテンツ(ppt)のテスト、報告、改善のほか、可能な限り小テストシステムの開発活動に携わっていく。このような活動を通じてコンテンツ事業に關しての勉強方法を学んでいく。

4. プロジェクトの現状報告
プロジェクト開始当初は広島国際大学側から CompTIA の電子コンテンツデータを取り取り PDF 化し、ipad で閲覧できるようにした。さらに広島国際

大学側の作業要望を確認し、PDF 教材の修正を行った。PDF 教材を使用している機材授業を行う等しながら、電子コンテンツの改善を行いつつ、このような作業を通じての情報系の勉強方法を学んでいる。電子教材の一部を図 4.1、修正コメントを図 4.2 に示す。

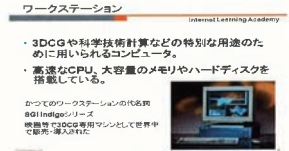


図 4.1 電子教材の一部

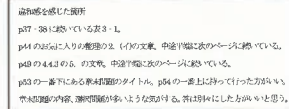


図 4.2 修正コメントデータの一部

5. 今後のスケジュール
今後はもう一つ電子コンテンツの ppt 教材のテスト、報告、改善を行っていく予定である。実際に開発していく予定である。また、moodle を利用し小テストやクイズ等を作成していく予定である。Moodle の例を図 5.1 に示す。



図 5.1 moodle の例

認定試験に受かるための学習環境と運営

診療情報管理士とは？

診療情報管理士とは、診療記録および診療情報を適切に管理し、そこに含まれる情報を活用することにより、医療の安全管理、質の向上および病院の経営管理に寄与する専門的な職業です(図 1)。¹⁾



図 1: 診療情報管理士関連テキスト

目的

- ・ 診療情報管理士認定試験の合格率を上げる。
- ・ 学習効果を高めるため、CBT を構築し、パソコンで模擬試験を受けられるようにする。
- ・ 近隣医療機関や OB/OG との良好な関係を構築する。

内容

学外も含め、自主勉強会と対策講座の企画運営を行ない、常にパソコン上で模擬試験を受けられる環境も構築する。また、OB/OG 訪問を行ない、就職活動に役立つ知識の修得や就職先などの開拓も行なう。

現状報告

- ・ 問題集のデジタル化を頼む会社を選定するため、スキャンサービスを行っている企業の具体的なサービスを Excel にまとめました。
- ・ 問題集のデジタル化を、スナックブックという会社にお任せしました。
- ・ 認定試験対策講座の企画運営は、日程と案内作成、教室確保までできました。
- ・ 自主勉強会の企画運営は、ML(メールリスト)といい、参加しているメンバー全員にメールが配信されるシステム)で試験を受ける人数を調査中です。実施日程決めと案内作成、教室確保はできていません。
- ・ OB/OG 訪問は、6月7日(火)に元町病院へ訪問しました。あと2件ほど訪問する予定です。訪問先は、刈谷豊田総合病院と可成病院を予定しています。
- ・ OB 訪問の報告書を作成できました。
- ・ セミナーの中間報告を作成しました。
- ・ 中間発表会の資料作りを完成させました。

今後のスケジュール

日程	内容(予定)
7月	・ 自主勉強会の日程を決定する。 ・ CBT を整備をさせる。
2月	・ 認定試験対策講座のポスター作り。 ・ 学外と学内にポスターを貼る。 ・ 自主勉強会、認定試験対策講座を実施する。

参考文献

1) 日本診療情報管理士会 Web サイト [http://www.kanrishikai.jp/first.htm\(11/07/29\)](http://www.kanrishikai.jp/first.htm(11/07/29))

プロジェクト演習紹介 豊橋創造大学情報ビジネス学部キャリアデザイン学科

中野一豊ゼミナール 3年
会計事務所の業務内容と組織に仕組みを知る

1. 目的

金融機関や会計事務所さらに会社の事務職への就業を考えると会計の理解は基本である。そのために簿記検定問題を解き、亦作会計でデータ入力実際の会計業務に近い体験をする。その上で、会計事務所を訪問し、その実態を知る。

2. プロジェクトの進め方

- (1) 会計事務を知る上で、欠かせないのが簿記の基礎知識である。そこで、日商簿記検定試験 3 級の問題を解いてみる。
- (2) 会計業務に近い体験をするために、C33 教室で、教育用ソフト亦生会計を使い取引例のデータを入力していく。
- (3) データをプリントアウトし、決算書をはじめ仕訳日計表、総勘定元帳、現金出納帳など補助元帳をゼミ生同士でチェックする。
- (4) 入力したデータのミスを見出し、修正し再度 (3) の資料をプリントアウトする。
- (5) 以上の体験をもとに、会計事務所を訪問し、公認会計士、税理士の仕事はどんなものか質問を通じ理解する。小畑公認会計士事務所を 7月18日(月)に訪問した。

3. 知り得たこと

- 3-1 会計事務所を訪問して
 - ① 会計事務所を経営している所長さんの強い信念が事務所発展の基盤となっている。
 - 特に、地方で展開する場合、都市にはない魅力ある事務所環境は当然の事、関与先との強い信頼と信用で長くお付き合いが継続する事を知った。
 - 関与先との事業承継問題まで考慮して、業務内

容も主要な監査、税務にとどまらずソフトウェアの販売と初期指導、生命保険の指導業務まで拡大しているとの事。広く浅くでも良いから常に関与先への配慮を怠らない姿勢を感じた。

- ③ 会計に關した就業先を考えるとき、最低限日商簿記検定試験 3 級、2 級に合格しおくべきだとの示唆を得た。

3-2 今後のプロジェクト演習について

- ① 取引の仕訳ができるよう修繕する。
- ② 基本的な試算表、精算表の作成を完全にする。
- ③ 貸借対照表、損益計算書という財務諸表の作成に精通する。
- ④ 広業会計になれる。
- ⑤ 亦生会計の備料に慣れ、取引例を自らの理解のもと、データ入力し決算に必要な資料を手手できるようにする。

4. 結論

プロジェクト演習も、まだ始まったばかりで、ゼミ生 中村力不足を感じている。ただ、会計事務所への訪問といった日常経験を積んだ事は、3-2 の実力を 尚向上するよう努力したい。

社会的企業の実証研究

1. プロジェクト概要

- (1) プロジェクト名 社会的企業(および社会的経済)の実証研究
- (2) 社会的企業の実証研究 社会的企業(social enterprise)——広義の概念としては(協同・共済組合などを含む)社会的経済(social economy)——は、利潤獲得を第一義的的とせず、環境問題や貧困問題などの社会的問題の解決と社会貢献を主要目的とする企業活動を指す。その一部は長い伝統をもつが、欧米社会における動向をも背景に、多様な社会的企業が東三河および三遠南信地域に設立されてきた。このプロジェクトでは、内外の動向に関する理解を踏まえ、特定企業の経営組織と活動を検証、その可能性と課題を探る。
→ このテーマは、ゼミ共通テーマ「欧米における社会的(市場)経済」と連動している。
- (3) プロジェクトメンバー 実地調査は、希望により男女別(3名&2名)グループを中心に行うことにした。

2. 実施計画と終了部分

【終了および一部終了部分】

- (1)(タスク No. 0) 作業時間会計 … 作業過多にならないよう、中野(ゼミ)では各メンバーの作業時間会計を計算、労働力の振り振りを行っている。
- (2)(T1) テキスト輪読①/ 社会的企業とは何か? … テキストの輪読(2-3回)。テキストは、谷本寛治『ソーシャル・エンタープライズ—社会的企業の台頭』中央経済社 2006年; 斎藤 慎『社会起業家—社会責任ビジネスの新しい潮流』岩波新書 2004年など。社会的企業の概念と類型の学習。
- (3)(T2) SENA 第一回起業報告会参加 … 5月22日(日)、本学教員が審査委員を務める SENA(三遠南信地域連携ビジョン推進会議)の起業報告会に参加。状況理解と実証研究対象企業の検討を目的とした。
- (4)(T3) 社会的企業のリストアップ(三遠南信地域) … 社会的企業の形態および地域企業のリストアップ。HPを用いて行い、①SENA 登録および協力企業と団休(東三河、遠州、南信州の地域および形態別)、および、②それ以外の企業と団体のリストを作

成。これらのリストは、包括的ではない。
(5)(T4) 実証研究対象企業の特定と調査 … 学生の希望により、豊橋市内の NPO 法人 WAC(東三河湾がわいしごとセンター)およびサラーコーポレーションの社会貢献事業を研究対象(第一希望)とすることに決定。前者は片岡先生の紹介、後者は、キャリアセンターの支援を受け、人事戦略部長岸柳氏に総務部長小林氏を紹介していただいた。
(6)(TS) 第 1 回事例研究 … 8月4日にサラーコーポレーション総務部にてインタビューを予定。

【秋学期の作業計画】

- (7) 実施計画予定 … これからの作業計画。
 - ・ 第 2 回事例研究 … 収集資料とインタビューの分析、(必要に応じて)第 3 回事例研究。
 - ・ テキスト輪読②/ 社会的企業と CSR … 海外と国内の社会的企業および CSR(企業の社会的責任)の考察。事例研究を、一般的枠組みに位置づける。
 - ・ 論文の作成 … テキストと事例研究から論文を分担作成。
 - ・ 研究成果の還元 … プロジェクトセミナー研究発表会での報告。完成論文は、調査にご協力いただいた企業と団体に提出。



中野 憲之
小野田 好輝・河村 浩矢・神島 健作
田邊 有希奈・山崎 智香子

炎の祭典 支援プロジェクト 大場正義・村田政英

東三河 Bible
吉川・片岡ゼミ

プロジェクトの目的

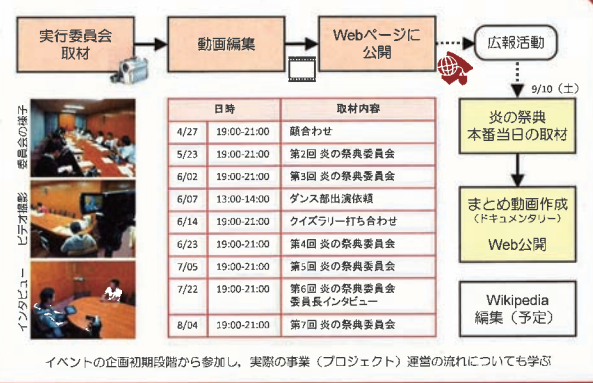
炎の祭典・屋の部を盛り上げるため
 ◇ 実行委員会の取材 (ビデオ撮影)
 ◇ 広報用動画の作成 (取材ビデオの編集)
 ◇ Webページ上での公開
 を行い、炎の祭典の企画・運営の様子の
 広報を通じて支援 (地域振興に協力) する
 連携先: 豊橋商工会議所青年部 (YEG)

炎の祭典とは (豊橋の祭り)

手筒花火を核とした豊橋の観光イベント
 ◇ 今年で16回目 (2011年9月10日土曜日)
 ◇ 屋の部: 地域振興企画・探検店
 → 商工会議所青年部が運営
 ◇ 夜の部: 「炎の舞」手筒花火の打ち上げ等



活動概要



イベントの企画初期段階から参加し、実際の事業 (プロジェクト) 運営の流れについても学ぶ

今後の予定

	8月	9月	10月	11月	12月
会議等の取材					
動画編集					
Webページ作成					
Wikipedia編集					

- ◇ 取材 (継続)
- ◇ 動画編集 → 完成
- ◇ Webページ作成 → 公開
- ◇ 外部サイトからのリンク作成依頼
- ◇ イベント当日の計画

2011年度 山口ゼミプロジェクト 中間報告 (2011.8)

0. プロジェクトメンバー

宇藤大輔、入江純平、原田和哉、佐野涼平、早川明史

1. はじめに

プロジェクトは複数人で共同作業を行うのが一般的である。
 プロジェクトを行っていると必ず、どこかで遅延が起きたり、何かしらのトラブルがおきる事は当然の事であり、一度は経験した事のある話である。では、予め起きるであろうと分かっている事を未然に防ぐにはどうすればいいのか。

我々は完成度の高いプロジェクトに於いて、必要不可欠なものは、チームワークの重要性と考える。その一つとしてプロジェクトメンバーとのコミュニケーションが挙げられる。では、これを高めるには何をどうすればいいのかを模索し、HP作成というプロジェクトを通して実際に体験する事にした。

2. プロジェクト内容

- ・ 東三河の観光名所や魅力を HP にまとめる。
 実際に前面越しの情報だけを頼りにせず、チーム内で数人がいくつかのお店や、場所へ行き、自分達で体験をしていく。
- ・ どのようにすれば完成度の高い HP が作成できるのかを考えながら互いに作業確認しながら行う。
- ・ HP 作成を請け負っている企業に企業見学し、実際に話を聞く。

3. 考察

プロジェクトを実施していくにあたり、実際に HP 作成を請け負っている企業を見学し、話を聞いてきた。HP 作成はこちら側で行うものでなく、依頼者の注文に従って、完成したものを任せ、注文を受けの繰り返しでよりよい HP を作成していく。仕事を請け負った企業だけで作業を行っているものでなく、依頼者と話し合い、連携をとりながら、完成させていく。

我々は当初 HP 作成にあたり、これらを実施しておらず、各自の作業は任せきりで進んでいた。結果、まとめの作業に入る際に様々なトラブルが発生し、そこで作業がとまってしまった。企業見学後、一度各自の作業を全員でレイアウトなどを確認しあい、修正や訂正を行った。

4. まとめ

一人一人の作業がたとえ違っても、最後に辿りつく目的は一緒である以上、作業を行う段階から連携をとっていかなくては、完成するにあたりばらばらなものができてしまう。これではよいプロジェクトを完成させる事はできない。コミュニケーションとはただ単に、作業の確認を行うだけでなく、プロジェクトメンバー同士の小さな会話から連携が生まれてくるものだと感じた。

学食広報プロジェクト by 学食おうえん団

上田奈々子、大野安佐未、加藤裕加里、仁崎聖美、田引俊祐、斎藤賢太、田中豪、中神駿介

プロジェクトの目的

- × 若者の食や健康に対する意識の低下 → 長期的に見て健康に悪影響
 - 安価でバランスの良い食事を提供してくれる学食を盛り上げる
 - 学生や教職員の食や健康に対する意識を向上させる
- 学食 (企業) との連携
 各種広報活動への理解

プロジェクトの概要

◆ 企業連携

- ① メニュー表、営業日、フェア開催の情報提供
 → Web サイトで情報発信することで、利用者の利便性を向上し、利用の促進を図る
- ② インタビューへの協力依頼
 → 提示物 (学食便り) にインタビュー記事を掲載することで、学食への親近感を高め、利用率の向上を目指す

◆ キャラクター作成

- イラストには「視線を惹きつける」「親しみを感じる」等の効果があるとされている
 → 学食 (カフェテリア、キッチン SOZO) のイメージキャラクターを作成し、広報活動に利用



◆ Web による広報活動

- ① PC 用サイトの作成
 → ビジュアル性を重視し、各種の情報を統合的に掲載する



② 携帯用サイトの作成

- テキスト中心の「軽い」サイトとし、1週間分のメニューのみを掲載する

◆ 印刷物による広報活動

- 学食便り (ポスター) の作成、掲示
 → Vol.1 活動の告知、Web サイトの紹介
 Vol.2 インタビュー、夏の野菜特集



今後の活動計画 (新規の取組)

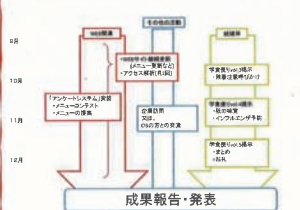
◆ OBとの連携

- 広告系の企業に就職したOBとの交流
 → 実際の現場でのお話を聞かせて頂いたり、制作物についてのアドバイス等頂くなど、交流を図りたい

◆ その他

- ① Web アンケートの実施
 → Web サイトにアンケートシステムを実装し、人気メニューの調査、学食への要望など、広く情報を集めたい
- ② メニューコンテストの実施
 → 新規メニューの提案等、多くの学生を巻き込んで学食を盛り上げていきたい

今後のスケジュール



情報システム部 三河ゼミプロジェクト (中間報告) 2011

本学では就職後数年での安易な離職や早期退職を防ぐために、資格取得支援や専門基礎教育等のスキル面と、自分自身を鼓舞する手法やストレス対処法、自主性、リーダーとして求められるスタンス等のメンタル面の両方の強さを兼ね備えた『職業人』の育成を目指している。

そこで今回は各学生が『私の履歴書』と題した自分史を持ち寄り、モチベーションについて学習をした。

『どんな時にモチベーションが上下し、その「素」は何だったか…』

『どうやって自分のモチベーションをコントロールするの?』

自分自身のことを他者に伝える経験を積みながら、モチベーションの考え方や自己調整について活発なグループワークも行われた。

受講後の調査では、多くの学生はモチベーションへの興味・理解、主食活動や日常生活に役立ちそうだとおおむね良好な評価をしていた。

メンタルタフネス セルフモチベーション講座

開催日：平成23年9月6日（火）

会場：豊橋創造大学 A24 教室（情報ビジネス学部）

〃 A32 教室（キャリアプランニング）

参加人数：情報ビジネス学部3年生 33名

キャリアプランニング科2年生 25名

教職員 17名

講師：キャラメルソース(株)代表取締役 初見 康行 様



第2回

セルフモチベーション講座 1

この講座では、次のことを学びます。

- モチベーションとは何か?
- モチベーションに関する基本的な知識
- モチベーションの代表的な理論(有名な考え方)
- 自分自身のモチベーション「持論」の探究

このセッションを学び、それを将来で実践することによってあなたは

- 自分自身のモチベーションを探究することで、より自分に合った「環境」や「仕事」が選択出来るようになる
- モチベーションに対する「持論」を持つことによって、自分自身のモチベーションを「自己調整」出来るようになる

モチベーションとは?

モチベーションとは何か?

モチベーションの定義

『モチベーションとは、目標に対して、行動を立ち上げ、方向づけ、支える力である』

私達の行動はモチベーションの上下によって影響を受け、結果や成果の大きさにつながっています。

モチベーションをコントロールすることの重要性

モチベーションの重要性

モチベーションは私達のあらゆる行動の「源泉」であり、毎日の生活を生き生きと過ごすためにも非常に重要なものです。しかしながら、多くの人が自分のモチベーションを管理することに難しさを感じています。その原因の多くは、

- (1) 自分がどんな時にモチベーションが上下するのかわからない
- (2) どうやって自分のモチベーションをコントロールするのかわからない
- (3) そもそも、モチベーションについて考える機会がない

といったものです。

しかしながら、モチベーションを自分自身で管理することは非常に重要なスキルです。社会に出てからも、「仕事」や「人間関係」など、様々な要因によって私達のモチベーションは上下します。モチベーションが下がった時、モチベーションが上がりそうなる時、何が自分のモチベーションの源泉であるのか、どうすれば自分のモチベーションを保つことが出来るのか、このようなことを知ることは、社会生活はもとより、自分自身の人生をより豊かにしていくために非常に重要なスキルであると言えます。

自分のモチベーションを「自己調整」する

本講座では、モチベーションを「自己調整」するための方法を以下の3つのステップに分けて学んでいきます。

モチベーションを「自己調整」するための3つのステップ

1) 自分のモチベーションの「素」を知る

自分にとってのモチベーションの「素」はいったい何でしょうか? どんな時にモチベーションが上がり、どんな時にモチベーションが下がるのか? 最初のステップでは、自分のモチベーションの「素」を探っていきます。「自伝」など、これまでの過去を振り返ることによって、自分にとってのモチベーションの「素」がどのようなものであるのかを探求してみましょう。

2) モチベーションの有名な「考え方(理論)」を知る

モチベーションに対する自分の意見をより強固なものにするために、モチベーションの有名な理論を学んでみましょう。有名な考え方(理論)を知ることによって、モチベーションに対する自分の考えをまとめたり、補強したりすることを目指します。

3) モチベーションに対する自分なりの「持論」を持つ

最後のステップは、モチベーションに対する自分なりの「持論」を見つけることです。モチベーションの調整の仕方は人によって様々です。自分オリジナルの「持論」を持つことによって、自分自身でモチベーションを「自己調整」するスキルを身に付けましょう。また、「持論」を今後の「仕事選択」や「人間関係」など様々な場面で活用し、モチベーションを高く保つ環境作りや選択に役立てましょう。

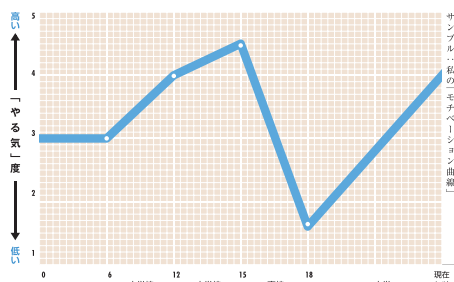
ステップ①: 自分のモチベーションの「素」を知る

『モチベーション曲線』

自分のモチベーションの「素」を知るために、まずはモチベーション曲線を描いてみましょう。このグループワークの目的は、モチベーション曲線を描くことによってこれまでのモチベーションの変遷(動き)を知り、何があった時に自分のモチベーションが上がり、何があった時にモチベーションが下がるのかを自分自身で再度認識することです。以下はモチベーション曲線サンプルです。

まずは自分の感じるままに、モチベーション曲線を描いてみてください。そして、なぜその時にモチベーションが上下したのかを考えてみましょう。

サンプル: 私の「モチベーション曲線」



ステップ②: モチベーションの有名な「考え方(理論)」を知る (1)

『外発的動機付け』と『内発的動機付け』

外発的動機付け・内発的動機付けとは?

モチベーションを捉える概念(枠組み)として、「外発的動機付け」と「内発的動機付け」という考え方があります。「外発的動機付け」とは、金銭や賞罰など「外側」からの要因によって人を動機付ける(モチベーションを高める)という考え方です。一方、「内発的動機付け」とは、好奇心や達成感など「内側」からの要因によって人を動機付ける、という考え方です。詳しく見ていきましょう。

外発的動機付け

外発的動機付けとは、義務、賞罰、強制などによってもたらされる動機付けです。お給料やボーナスなどの金銭的な報酬だけでなく、尊敬する人に褒められる、親友に励まされる、仲間に入れられる、お客さんに喜んでもらう、なども外発的動機付けに含まれます。外発的動機付けは、「行動・課題そのもの」にはほとんど関心がなく、結果として得られる「報酬(金銭・地位・名誉・称賛など)」に意識が向いているところがポイントです。

例: チャンと宿題をやったら、お小遣いをあげるノールールが欲しいから、研究を頑張る、など

内発的動機付け

内発的動機付けとは、好奇心や関心によってもたらされる動機付けであり、外側からの賞罰に依存しない行動です。うまくいったことや自分で決めたことに動くこと自体が「内側から生じる報酬」となります。自分の潜在力を活かしていると感じる喜び、一生懸命にやっていることが自分の成長に関わっているという感覚などが内発的動機付けに含まれます。内発的動機付けは、行動や活動から得られる結果よりも、行動そのものや課題そのものに意識が向いていることがポイントです。

例: テニスが好きだから毎日テニスをする外国の文化にとっても興味があるので、外国語を勉強する、など

内発的 ←→ 外発的



『外発的動機付け』のポイント

外発的動機付けは非常に分かりやすい考え方である一方、いくつかの注意点があります。その一つは、外発的動機付けは過度に使用すると、本来持っている好奇心や興味を失わせてしまう可能性がある、ということです。これを専門用語で「アンダーマニング効果」と言います。

例えば、自主的に毎日宿題をやっている子供に対して、宿題をやることに毎回お小遣いをあげたとします。これを継続すると、宿題をやることとお小遣いを貰うことが強く結び付き、お小遣いをあげることを止めた途端に宿題に対する興味が失われてしまう可能性があります。これは、外発的動機付けによって、本人が宿題に対して本来的に持っていた興味・関心が外発的な報酬（この場合はお小遣い）に向くようになり、この報酬が中止されることによって、外発的な動機付けと共に本人が持っていた本来的な興味・関心も損なわれてしまった、ということです。その他にも、外発的動機付けを過度に使用することの注意点がいくつか指摘されています。以下はその代表的なものです。

- (1) 報酬は使い出したら簡単には止められない
- (2) 報酬はそれを得るための手抜き（最短ルート）を選ばせる
- (3) 報酬は冒険的な活動（リスクを伴うような大胆な活動）を避けさせる
- (4) 報酬はその活動の背後にある「理由」を無視させる
- (5) 報酬は人間関係を壊す可能性

『内発的動機付け』のポイント

外側からの賞罰に依らない、内発的動機付けを高めるためにはどうすれば良いでしょうか？内発的動機付けを高めるためのポイントは以下の2つとされています。

- 1) 有能感（例：誰よりも上手に出来ていること、自己効力感）
- 2) 自己決定（例：自分でそれをやりたいと決めてやっていること、自己決定感）

内発的動機付けを高めるためには、以上の2つの要素が重要だとされています。また、両者とも重要な要素ではありませんが、この理論を提唱した心理学者のエドワード・デシは「自己決定」をより重要な要素として置いています。そのため、内発的動機付けを高めるためには、まず自分自身が決めているという「自己決定感」と、それが上手に出来ているという「有能感」の2つを醸成することが非常に重要になります。

両者をバランス良く活用する

「外発的動機付け」と「内発的動機付け」は、どちらがより優れている、というような話ではありません。場所や課題の内容、その他様々な条件によって、どちらを使用していくべきかは変わっていきます。例えば、内発的動機付けは創造性や想像力を必要とするような仕事に向いている動機付けだと言えます。一方、外発的動機付けは、たとえ面白みの少ない仕事であっても、短期的に人を動機付ける効果を期待することが出来ます。つまり、私達がしていかなければならないことは、両者の優劣を決めることではなく、2つの動機付けの性質を良く理解し、自分の生活の中でバランス良く2つの動機付けを活用していくことなのです。

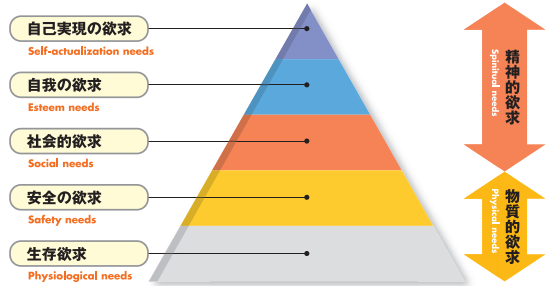
ステップ②：モチベーションの有名な「考え方(理論)」を知る (2)

『欲求5段階説』

「欲求5段階説」とは、アメリカの心理学者アブラハム・マズローによって提唱された理論です。この理論では、モチベーションの源泉となる人間の「欲求」は5段階のピラミッドのように分類することが可能であり、人間は低階層の欲求から順番に、より高次の欲求を満たそうとする、という考え方です。マズローは、人間の基本的欲求を低次から以下の5段階に設定しています。

- 1. 生存欲求＝食欲、睡眠欲、などの欲求
- 2. 安全の欲求＝安全に暮らしたい、安心したい、などの欲求
- 3. 社会的欲求＝仲間が欲しい、集団に属したい、などの欲求
- 4. 自我の欲求＝他者から認められたい、称賛されたい、などの欲求
- 5. 自己実現の欲求＝自分らしくありたい、自分らしく生きたい、などの欲求

●マズローの欲求5段階説

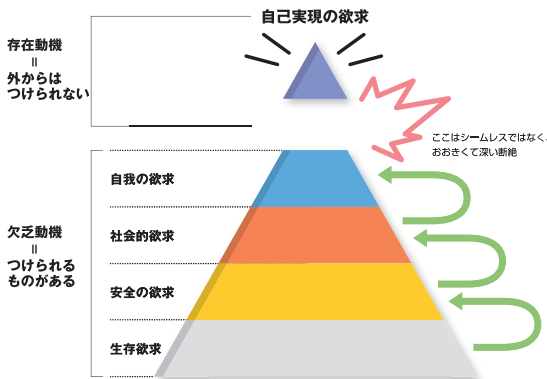


『欲求5段階説』のポイント

欲求5段階説は非常に示唆に富む考え方ですが、いくつかの特徴や反論も存在しています。詳しく見ていきましょう。

(1) 4段階目と5段階目には深い溝が存在。自己実現欲求は外からの動機付けが困難

欲求5段階説で大切なポイントの1つは、4段階目と5段階目の間には、大きな溝が存在するという事です。自己実現欲求は、自分らしくありたい、自分らしく生きたい、というようなその人の存在そのものに関わる欲求であるため、外から付けることは出来ないと言われています。つまり、他人が「あなたの自己実現はこれですな」というように指摘したり、提供したりすることは出来ないということです。それゆえ、自己実現欲求は、その人が長い時間をかけて探求していく、究極的な欲求であるとも言えます。



(2) 欲求5段階説に対する反論

欲求5段階説にはいくつかの反論が指摘されています。例えば、欲求5段階説では、人間は低次の欲求から高次の欲求へ順番に移ると言われています。しかし、画家のコッホなどは、晩年非常に苦しい生活をしながらも絵を通じた自己実現をやめようとはしませんでした。また、第4段階の他人からの称賞や認知を欲しがっている人であっても、それによって第3段階の所属や愛の欲求が無くなるわけではありません。このように、現在ではいくつかの反論が指摘されているものの、マズローの欲求5段階説は、モチベーションの源泉となる「欲求」というものに光をあてた、画期的な考え方であったと言えます。

ステップ②：モチベーションの有名な「考え方(理論)」を知る (3)

『目標設定理論』

モチベーションの有名な考え方の3つ目は、「目標設定理論」です。目標設定理論とは、モチベーションの違いは目標設定の違いによってもたらされる、という考え方であり、アメリカの心理学者エドウィン・A・ロックにより、その有効性が提唱されています。具体的には、曖昧な目標よりは明確な目標、難易度の低い目標よりは難易度の高い目標の方が、より高い業績や結果が出ることが多くの研究により確認されています。1つ例を考えてみましょう。就職活動をした2人の学生が以下のような目標を立てたとします。

- A君：「絶対に就職活動を成功させる」
- B君：「5月までに三菱UFJ銀行に必ず内定を取る」

2人とも就職活動の成功を目指し、目標を立てていることは同じですが、その中身は異なります。A君は漠然と就職活動の成功を目指しており、どのような状態になれば就職活動が成功したのかが分かりません。また、それをいつまでにやり遂げたいのかも不明確です。

一方、B君は就職活動の成功を〇〇銀行に内定を取ることと決め、その期限も設定しています。どちらの方がより良い結果が出るのでしょうか？目標設定理論では、B君のように明確で難易度の高い目標を立てた方が良い結果が出ることを示唆しています。

しかし、なぜ具体的に困難な目標を設定した方が、より良い結果が出るのでしょうか？その背景には「パーキンソンの法則」というものがあります。パーキンソンの法則とは、ある課題を達成するにあたって、必要以上の余剰な時間が与えられると、人間は与えられた全部の時間を無駄なく使うために、無意識にペースが調整され、結果として生産性の低いものになってしまう、というものです。難易度の高い、具体的に困難な目標を設定することは、このパーキンソンの法則を避け、誰もが目標をクリアするために生産性を高めようとすることに繋がります。それゆえ、目標設定理論では、より具体的に困難な目標を設定することが必要とされます。



『目標設定理論』のポイント

他の理論と同様、「目標設定理論」にもこの考え方を有効に活用するために覚えておかなければならないことがあります。ポイントは以下の2点です。

- (1) 本人が「具体的に困難な目標」を受け入れていなければ効果は出ない
- (2) 目標設定理論は「フィードバック」と組み合わせることによって、より大きな効果を発揮する

目標設定理論で最も重要なポイントは、本人が「具体的に困難な目標」を受け入れていなければ効果は出ない、ということです。つまり、他人から指示された目標であったり、自分で設定したとしても納得していないような目標では効果は出ません。

また、目標設定理論をより上手に活用するために必要なのが「フィードバック」です。フィードバックとは、目標の達成に関して周りの人間から評価やアドバイスをもらう行為ですが、目標設定にフィードバックが組み合わさることによって、効果が高まると言われています。また、フィードバックはその回数よりも、早い時期に与えられる方が最終的な結果が向上することが指摘されています。

以上のような点を踏まえて、目標を設定する際は、自分が納得出来る、具体的に困難な目標を設定するようにしましょう。また、その目標に対して公正にフィードバックをくれる友人や知り合いを作ってあげれば、更にその効果を高めることが出来るでしょう。

ステップ③：モチベーションに対する自分なりの「持論」を持つ

モチベーションの「持論」考える

最後にモチベーションの「持論」を考えてみましょう。これまで行ってきたグループワークや講義によって、みなさんは自分にとってのモチベーションの「素」や、代表的なモチベーション理論を学ぶことが出来ました。しかしながら、それだけでは足りません。なぜなら、万人に共通する絶対のモチベーション理論は存在しませんし、みなさんが見つけたモチベーションの「素」が他の人にも絶対当てはまるということないからです。モチベーションを上手に「自己調整」するためには、自分のこれまでの経験や理論をミックスさせ、自分なりのモチベーション「持論」を構築することが重要となります。その「持論」は、他の人には効果的ではないかもしれませんが、しかし、みなさん自身には効果があるはずです。これまでの経験や今回の講義で学んだことを振り返りながら、自分オリジナルのモチベーション「持論」を言葉や文章で表現してみましょう。

★私の履歴書★ ～私ってこんな人～

テーマ:お互いを良く知る事、時系列で、転機に合ったことなどを中心に書いて下さい。自分の人となりや価値観を知ってもらえるものなのでなるべく詳しく書いて下さい。ただし、共有したくないことについては無理に書く必要はありません。

サンプル

家族構成

三重県鈴鹿市に誕生。家族構成は父、母、妹(3歳下)、弟(13歳下)の5人家族。父は市役所職員、母は中学校理科教師の家庭に生まれる。両親共働きのため、両方の祖父の影響も大きく受けている。

1～3歳

3歳から母方の祖父自宅のそばにある保育園に通園。見た目に執着しない両親だったため、髪型は和田アキコのようなヘルメット。よく男の子に間違われた。

4～5歳

「あーまじで男の子に生まれたかった」と思っていた。本当は将来の夢はケーキ屋さんだったのに、女の子たちがみんなケーキ屋になりたいと言っていたので、「私パン屋さんにしたい」と言っていた。よ(男の子とケンカしていた記憶がある。年長組の時の担任の先生が熱心な方で小学校1、2年生レベルの勉強、長い作文、演劇...と超スパルタ教育を受けた。私はなかなか逆上がりが出来なくて、夕方遅くまで居残りで練習した記憶がある。粘り強く努力するとはこの時乎んだ気がする。

6～12歳(小学校時代)

超マジメな小学生。これは中学高校でもですが、教師からの評価の高い生徒でした。保育園の頃から「しっかりしてるね」と周囲から言われ、「そうあらねばならない」と思っていました。その半面おませな性格で、小学校1年生のバレンタインにはチョコを20個近く買って気になる男の子に配り歩いていました。祖母が洋装をしていたので、洋服のデザイン画を描きオリジナルの洋服を作ってもらっていた。人と同じじゃ嫌だった。

13～15歳(中学校時代)

中学も変わらずマジメな生徒だったが、ちょっと歪みが出てきた。なぜか仲良くなる友達はやんちゃな子が多く、親や祖母からは「僕(私)がくれた」と言われ、友達からは「僕ちゃんはマジメよね」と言われ一体私は何なんだろうと虚無感におそれ1ヵ月位学校を休む。その間は遊び歩いたりしてもやもやを発散。家族と大喧嘩になった際、祖父に「人生一回やり。覆水盆に返らずやで」父に「選択肢の広がる生き方をせなあかん」と言われわねに返る。相変わらずおませで、中学3年間で9人の男の子とお付き合い。部活はソフトボール部に所属。誰とでも仲良く出来るキャプテンに。

16～18歳(高校時代)

県で1位の高校に行っても必死になるよりも、2位の高校でのんびりやりたいと進学。国語の授業が大好きというから「本読み」が大好きで率先して読んでいた。小説を読むのが好きで、向田邦子、山田詠美、江國香織、芥川龍之介、太宰治を読みあさる。着物に興味を持ち、着付けに通う。日本文化に興味。一生モノと呼べる親友に出会う。やっと自分の居場所を見つけた気がする。①東京に行きたい②衣服を学びたいの2軸で大学選び。猛勉強。

19～20歳(大学時代)

東京へ上陸。大学では昔のフランス&日本の衣服を中心に生活文化を学ぶ。勉強が楽しくて仕方なかった。ファッションショーを企画するインカレサークルに入り、ショーのモデル管理と広報を担当。営業する楽しさと仲間一つ一つの物を作り上げる面白さを知る。アルバイトは、アオザイが着たくてベトナム料理屋、デニムが好きで洋服屋、社会勉強がしたく雀荘でバイト。

★私の履歴書★ ～私ってこんな人～

テーマ:お互いを良く知る事、時系列で、転機に合ったことなどを中心に書いて下さい。自分の人となりや価値観を知ってもらえるものなのでなるべく詳しく書いて下さい。ただし、共有したくないことについては無理に書く必要はありません。

サンプル

0歳

千葉県の●●市に生まれました。家族構成は父、母、兄(6歳違い)、祖母、祖父です。

1～3歳

この頃は、子供をなるべく日光に当てるのがその後の発育に良いと信じられていたらしく、やたらと上半身裸で遊んでいる写真が残っています。

4～5歳

両親が共働き(父親は電話会社で働き、母親は中学校の国語の先生だった)ので保育園に預けられ、もっぱら祖父が保育園の送り迎えをしてくれていました。祖父の自転車の後ろに乗っけてもらって、帰りに100円のがちやがちやをやらしてもらのがすごく楽しみでした。

6～12歳(小学校時代)

特に特徴の無い平凡な小学生だったと思うのですが、このころはむちゃむちゃ太ってました。将来は相撲取りになるのかと親戚に冗談を言われた記憶アリです。この頃太っていたせいで現在に至るまでダイエットは常に意識しなければならぬ問題になりました。祖父がこの頃市議会議員をやっていたせいでの選挙の時期になると「●●をよろしく願います」という選挙カーが学校まで聞こえてきて非常に恥ずかしかったです。

13～15歳(中学校時代)

この頃はまだ太っていたので体の大きさを生かして柔道部に入る。1年の時に市内大会で3位に入るが、その後すぐに引退。幽霊部員になった。中学2,3年は尾崎豊にはまり、けっこう熱心なファンになった。尾崎豊の影響もあって青山学院(尾崎豊の出身校)の高等部を目指す、合格できなかった。

16～18歳(高校時代)

高校に進むが、第一志望でなかったせいもあり、最初からモチベーションが非常に低かった。音楽を聞く事が非常に好きになり、洋楽を中心に聞きまくった。この頃のヒーローはジミヘンドリックスやビートルズ辺り。音楽が好きだったことと付属の大学に進みたいという気持ちから音楽の専門学校へ進学する。親は非常に反対した。

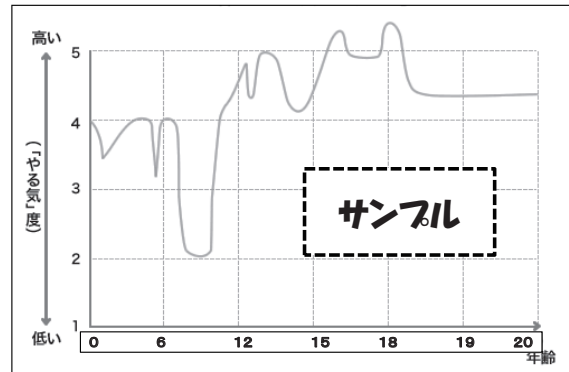
19～20歳(専門学校時代)

好きな音楽に関わっていたのでそれなりに楽しかったが、1年半くらいは好きなこと食べていくことは全く別の問題だったのでつきり認識する。要は才能がなかったただけだが、人生で初めて大きな挫折感を味わう。今思えばこれが転機になった。

20～22歳(大学時代前半)

初志貫徹出来なかった自分を鍛え直したいと思い、全く英語が出来ないにも関わらずアメリカに留学。非常に苦労した。朝から晩まで勉強をして何か乗り切ったが、常に孤独感やプレッシャー(自分のためにたくさんお金を使ってくれた両親のために)日本に帰るわけにはいかなかったの中で過ごした2年間だった。何とかやりきり、自分に自信を取り戻せたのが収穫だった。

私の“やる気”曲線



どのような時、自分はやる気(モチベーション)が出たのか?

例:成果が出た時、褒められた時、目標がきちんとある時、など

人から期待された時、自分の頑張りで成果が出た時、みんな力で合わせた時、好きなもの(洋服)に関わる時

どのような時、自分はやる気(モチベーション)が下がったのか?

例:やらされ感がある時、結果が出ない時、など

周囲の評価が正当じゃないと感じた時



例:やる気(モチベーション)に関する「キーワード」でも良いです(達成感、成長感、競争、友人、目標、将来に役立つ、など)

★私の履歴書★ ～私ってこんな人～

テーマ:お互いを良く知る事、時系列で、転機になったことなどを中心に書いて下さい。
自分の人となりや価値観を知ってもらえるものになるべく詳しく書いて下さい。
ただし、共有したくないことについては無理に書く必要はありません。

家族構成

1～3歳

4～5歳

6～12歳(小学校時代)

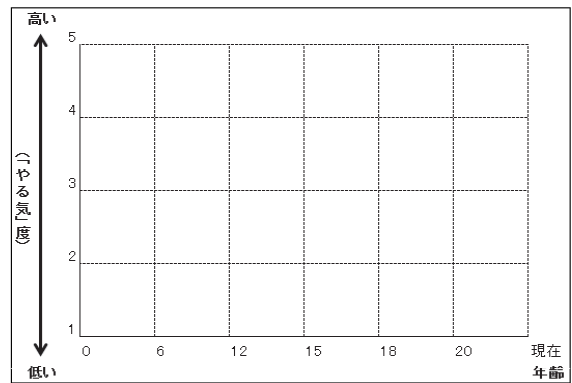
13～15歳(中学校時代)

16～18歳(高校時代)

19～20歳(大学時代)

※カテゴリーは勝手に作ってくれてOKです(例:進人時代、習学時代など)
サンプルを参考に同程度の量を書くように努めて下さい

私の“やる気”曲線



どのような時、自分はやる気(モチベーション)が出たのか?

例:成果が出た時、褒められた時、目標がきちんとある時、など

どのような時、自分はやる気(モチベーション)が下がったのか?

例:やらされ感がある時、結果が出ない時、など



例:やる気(モチベーション)に関する「キーワード」でも良いです
(達成感、成長感、競争、友人、目標、将来に役立つ、など)

グループワーク

下記の「TOYOHASHI 保育園の悩み」を読み、
3つの問題についてグループで話し合ってみよう。

TOYOHASHI 保育園の悩み

アメリカの TOYOHASHI 保育園は現在ある問題で悩んでいます。
保育園は午前7時半から午後4時まで開いていますが、
最近は閉園時間までに保護者が子供を迎えに来てくれないことが増えてきました。
保護者が子供を迎えに来てくれないと、保育士は残業をしなければなりません。
TOYOHASHI 保育園は悩んだ末、次のような告知を貼りました。

～お知らせ～

閉園時間までにお子様を引き取れない場合の罰金制度について

ご存じのように、正式な閉園時間は毎日16時となっています、
閉園時刻に遅れて来られる保護者の方がいらっしゃるので、
当保育園では、所定の時刻よりも遅れてお子さまを迎えにいらした保護者の方に、
罰金を科すことになりました。(アメリカの私立保育園の担当局の許可を得ています)

次の日曜日から、16時10分以降にお子さまを引き取られる場合は、
その都度5ドル(日本円で420円くらい)が罰金として科せられます。
罰金は、毎月の保育料金と一緒に支払ってください。

保育園長

いったいこの告知の結果はどうなったでしょうか?
下記の3つの問題をグループで話し合ってみましょう。

- (1) 罰金制度の結果はどうなったか?
- (2) なぜそのような結果になったか? (①のような結果になるメカニズムを考えてみよう)
- (3) 保護者に時間を守らせるための“やる気”を高めるにはどうしたらよいか?

大学コミュニティグループでは、9月24日（土）に開催された第6回学部同窓会総会の際、初の試みとして、卒業生業界別交流会を開催した。

卒業生業界別交流会とは『卒業生とのパイプを活かした人的ネットワークを再構築し、その社会活動豊富な卒業生と在学生との交流を推進し、学生の社会人力の養成を行う事業を展開する』という、本グループの活動目的の足掛かりとするための企画である。

当日は卒業生と恩師が業界別にテーブルを囲み、近況報告や各業界の特性、仕事のやりがい等について情報交換を行った。

卒業生業界別交流会

開催日時：平成23年9月24日（土） 18：50 ～20：00（同窓会総会后）

会 場：ホテルアークリッシュ豊橋

参加者数：卒業生 60名

教職員 26名



卒業生との大学コミュニティを活用した社会人基礎教育の展開
卒業生業界別交流会実施（学部）

1. グループ事業の取組

平成 23 年度同窓会総会の会場を利用させていただき、教職員と卒業生の業界別交流会を行った。卒業生の就労状況に対するアンケート、ヒアリング等情報収集を行った。

【実施日時】2011 年 9 月 24 日（土） ホテルアークリッシュ豊橋

同窓会総会後 18:50 ~20:00 業界別交流会実施

【参加者】 卒業生 60 名 教職員 21 名 JSSP スタッフ 5 名

【業界別交流グループ】 参加教職員（*とりまとめ者）

・金融保険グループ 中野一 *中島
・建設業 伊藤、藤本、前川 *花岡
・製造業 佐藤 *遠山
・サービス 三好、村松 *和田
・卸小売 1 石田 *平松
・卸小売 2 森田 *見目
・情報通信 1 今井正 *武良
・情報通信 2 三輪、黒木 *増田
・医療理学 八木、小西 *中村
・その他 稲田 *富安
各グループにて交流を行った。 カメラ撮影 桐木



2. 活動成果

①交流会に参加した卒業生より勤務先の満足度について業界別に以下の内容が分かりました。

<業界別勤務先の満足度> この業界の良い点

金融 ・いろいろなお客様・企業の方と会える（信金）
建設設備 ・新しいものが多く飽きない・夢がある・現場等を見ることができる
製造業 ・残業は比較的少ない
サービス ・売上げに直結し自分の評価にもつながるのでやりがいがある。
・多くの人と接することができる。
卸小売①② ・仕事の変化に面白さを感じる事ができる。
情報通信①② ・入社後にスキルアップのチャンスがあり、新しい知識を習得していく楽しみがある。実際にお客さんが使って喜ばれているのを見ることが出来る。苦労が報われる。
理学医療 ・医療は景気に左右されないところがよい。
その他 9

回答数 48 名

満足指数	大変満足	満足	普通	多少不満	不満	満足指数
配点	3	2	1	-1	-2	
金融		4			1	7
建設設備			1			1
製造業		1	3	1		4
サービス	2	2		1		9
卸小売①②		2	5	1		8
情報通信①②	2	1	3	3	1	7.8
理学医療		8	1	1		16
その他	1	3				9
合計	5	21	13	8	1	48

OBOG からのヒアリングで業界別の特徴、現状がわかりました。

この業界の良いところ・悪いところ・満足度・労働条件・残業・求人状況・今の勤務先を後輩に勧めるかどうか・大学から授業や就職ガイダンスへの協力依頼があった場合、可能かどうか・転職した場合はその理由等

この内容は就職ガイダンスを通じて現役学生の就職指導に活かしていくこととする。

②今後は在学生と卒業生との交流を実施するにあたり、在学生の指導を行う有望な OB 人材の発掘を行うことができた。以下の場面で指導協力をしていただく予定である。

- ・キャリア形成の授業講演
- ・就職ガイダンスでの業界研究指導
- ・就職合宿、就職激励会での OB との交流会実施

3. 今後の課題点

【卒業生業界別交流会開催にあたっての問題点】

・昨年度より就業力育成支援事業にあたっては、OB・OG アンケート離職率調査を 2 回も実施してきたが、回答数が少なく（8.3%）、大学単独の交流会開催は難しい状況で

あった。

- ・卒業生同士が久しぶりに会う同窓会懇親会で、大学目的の交流会を強制実施するには、同窓会役員から不安の声があり、時間を短縮せざるを得なかった。一部他大学では既に行われている業界別交流会も、本学同窓会では初めてであり、その先入観が企画の妨げとなった。本来同窓会は協力的ではあるが独立自治のものであるので仕方ない。実施説得に相当の時間を要した。
- ・同窓会総会の目的と本学の就業力育成支援事業の目的はそれぞれ違っており、それを如何に相手の立場を理解して、調整、融合、協力し、相乗効果を上げていくかが大きな課題である。
- ・総会同窓会開催日が 3 連休の中であり、動員にかなり苦戦した。
- ・予定 30 分、延長で 45 分間であったが、もう少し時間がほしいと各グループから当然の意見が出た。
- ・同窓会の中で行うには、時間的にも制約されており、限界が多々あった。
- ・教員の出席数、協力者がもう少し欲しかった。
- ・同じ業界で集まるよりも、異業種のグループで交流した方が、業界の良い面、悪い面が分かるという意見があった。同じ業界では、利害関係のある業種もあり話しづらい面もあるようだ。
- ・若い卒業生も多かったため、次回 30 歳以上の交流を行うことも検討したい。
- ・当初卒業生からこの実施にあたっては不満がでるのではないかと心配されていたが、下記同窓会参加者アンケートより、一部の不満は聞いたが、全体的には卒業生も満足していただけたため、これを励みに次年度へ繋げてゆきたい。
- ・同窓会会長からも今回開催は初めてではあったが、大変良かったと評価をいただいた。
- ・リハビリテーション学部卒業生は今回初めての総会であり、本来この事業とは関係ないが、グループでまとめて協力していただいた。

4. その他

【参考】同窓会総会全体のアンケートは以下のようであった。

創造同窓会総会参加者アンケート集計（回答 22 名/60 名）

①本日の総会、交流会はいかがでしたか？

大変良かった 5 良かった 10 普通 6 あまり良くない 0 良くない 1

・テーブル内の話し合い、情報交換が盛り上がりました。（大変良かった）

・時間配分が難しいですね。（普通）

②今回は教職員と卒業生との業界別交流会を実施しましたが、いかがでしたか？

今後も行って欲しい 1 5 あまり必要ない 1 その他 3 未記入 4

・業種がランダムの方が良いのでは？（その他）

・理学としては参加しやすいと思う。（その他） ・きまずい。（その他）

③その他、ご感想、ご要望、ご意見がございましたらご記入下さい。

・業界別交流会があり食事の時間が少ない、自己紹介をしている時間が無駄だと思えます。

・良かったです。ありがとうございました。 ・2 年後も期待します。

大学コミュニティグループでは、創造祭2日目の10月23日（日）に開催された豊橋創造大学短期大学部同窓会第27回総会 終了後、キャリアプランニング科在學生と短期大学部卒業生を対象にした『在學生&卒業生交流会』を開催した。

交流会に先立ち、短期大学部キャリアプランニング科2年生が取り組むプロジェクト活動のうち、2つのプロジェクトが中間報告発表を行った。多少練習不足の感はあったが、先輩方からプロジェクトの内容や活動についてお褒めの言葉や励ましの言葉をいただき、學生達もずいぶん励みとなった様子であった。

その後の交流会では参加者全員が1つのテーブルを囲んで歓談し、和やかな雰囲気の中でとても会話が弾んだ。學生からの職場の様子についての質問には、仕事の内容や苦勞話、就職活動に対するアドバイスなどが卒業生から披露された。参加した學生からは「卒業生の方と情報交換をする機会が今までなかったので、大変貴重な経験をした」との声が寄せられている。

卒業生から在學生へ寄せられたメッセージやアドバイスは、在學生にとって大きな刺激となったばかりではない。特に就職活動で苦勞した体験談は教職員にとっても今後の指導に活かせるものが多く大変有意義であった。

在學生&卒業生交流会

開催日：平成23年10月23日（日）

会場：豊橋創造大学 A23 教室

参加人数：卒業生 12名

在學生 11名

教職員 7名



卒業生交流会実施報告について(短大部)

1. 開催概要

日時：平成23年10月23日（日）13時～

会場：A32教室

参加人数：在学生 11名 卒業生12名

内容：①在学生による JSSP プロジェクトの中間発表

細谷ゼミ・千賀&中島ゼミ

朝倉ゼミ・村松ゼミ：抄録・ポスター発表のみ

②卒業生から在学生へのメッセージ

次第：

司会進行 細谷

13：00～13：10 挨拶 今泉学科長

13：10～13：30 プロジェクト中間発表

13：30～ 卒業生との交流

- ・プロジェクトについて意見交換
- ・就職活動体験報告
- ・卒業生の近況報告など
- ・全体写真の撮影

14：30 終了

※大学ホームページに様子を掲載 <http://www.sozo.ac.jp/campus-news/2011/111023.php>

2. 実施成果

(1) キャリアプランニング科プロジェクト中間発表について

- ・発表そのものは予想以上にしっかりできていたのではないかと。
「予想以上」であのレベルなものも悲しいが・・・
- ・明らかに練習不足
- ・自分たちがやったことを発表するわけだから、自信を持って、もじもじすることのないようにできるとよい
- ・発表原稿の漢字が読めないようでは話にならない。
希薄（きうす→きはく）
率直（そっちよく、「りつ」に思いがいて、「そつ」がでてこない）
- ・質問を受けた時に、そつのない答えがすぐに出てこない。
前もって聞かれそうなことを予想できていない。
予想していなかった質問に対して、その場をうまく取り繕うことができない。

(2) 在学生 & 卒業生交流会について

- ・卒業生は、就職活動では苦労しているのでとてもよかった
- ・卒業生は、話題を振れば、それなりに応えられるような社会経験を積んでいる
- ・卒業生の就職活動に関する体験談は、キャリア1年在学生全員に聞かせるとよいと思う。
- ・今回参加してくれた卒業生が、12月の就職ガイダンス「先輩の言葉」にも協力してくれる

ことになった

- ・卒業生と在学生の活発な意見交換ができ、よかった。
- ・プロジェクトに関する意見交換では、卒業生等からの質問で、プロジェクトを運営する在学生の“気づき”があったのではないか。
- ・交流会は卒業生の話を聞くことができ、在学生にとって大変有効なものであったと思う。
- ・卒業生が大変いい話をしてくれたものの、在学生にどこまで響いたかは疑問が残る
- ・在学生にとっては、他のゼミのプロジェクトではどのような活動をしているか知るのに良い機会であった

(3)来年度へ向けての課題

- ・短大部の同窓会総会に絡めるのが基本であるが、以下の問題が生じる
 - ※タレントの出演時間を外すことは、前もって考えたが、生バンドの騒音は「想定」していなかった。あるいは、予想以上に大きな雑音だった。
 - ※キャリアプラの学生・教員全員が、創造祭（2日間にわたって）に来ているわけではないこと。
 - ※創造祭、同窓会総会は楽しみにきているわけで、就職・将来といった、ある意味深刻な話題が雰囲気的に馴染まない面はある。
 - ※参加者も子連れが多く、総会終了後にしても、まじめなことはやりづらい環境ではある。
 - ※創造祭に、ゼミ、プロジェクト、サークル、学生会、屋台のお手伝いなどで参加している学生は、当日はそれだけで結構いそがしく動き回っている。なかなか、交流会へ引っ張りこめない。こういった学生は、比較的世渡りがうまく、就職も決まっていく学生たちである。
- ・在学生の出席が少ない
- ・キャリアプランニング科教員の参加が少ない（交流会の位置付けを科で検討する必要がある）
- ・今後、卒業生の参加者をどのように募るか
- ・卒業生との交流を図るため、多くの卒業生を発表会場へ誘導する
- ・先輩方の苦労話等を聞くことで、少しでも在学生が現実に触れるというのは非常に大切な事。

【総括】

皆様のご意見を伺うと、実施したこと自体は有意義であったと言える。交流会についても、今後の課題としては人数が少ないという事が言えるが、個人的には今回のようにこぢんまりとしている方が活発な意見交換ができるのかもしれないとも考える。（各ゼミの発表はトータルで30分くらいでないと聴いている方が飽きてしまわないか）

そうは言っても人数が少ない事は事実であるので、来年度も目標は倍の参加人数としたいと思っている。

在校生への意識付けは元より、卒業生が大学に来ることによって、卒後研修などに結びつけられたら、よりよい関係が気付けるのでは無いだろうか。

豊橋創造大学短期大学部キャリアプランニング科
在学生 & 卒業生交流会 アンケート集計結果【平成23年10月23日実施】

【アンケート対象】

卒業生 配布数:12 回答数:10 未回答:2 回答率:83.3%
 在学生 配布数:11 回答数:7 未回答:4 回答率:63.6%

【学生のプロジェクト発表について】

	とても満足	満足	どちらでもない	少し不満	不満
卒業生	1	7	2		
在学生	5	2			

***** 感想 *****

卒業生

- ・とても分かりやすく良かったです。
- ・少し練習不足が目につかなくと思いました。
- ・プロジェクト自体はどれもすばらしく感じています。
- ・面接の練習にもつながると思いますので、ぜひプレゼンの練習もされて下さい。応援しています。
- ・まだまだ発展途上で、これからが楽しみです。
- ・資料がもう少し詳しいといいなと思いました。
- ・それぞれ興味深い内容で、聞いていて面白かったです。
- ・在学生がどんなプロジェクトをしているのか分かって良かったです。
- ・どのような活動をしているのかが、写真付きの説明をして頂き、分かりやすかったです。

在学生

- ・発表の時、めちゃ緊張しました。でもスムーズにできて良かったです。
- ・緊張しました。
- ・緊張した。
- ・皆、様々な活動をしていてすごくよかった。
- ・他のゼミの状況を知れてよかった。

【学生のプロジェクト発表について】

	とても満足	満足	どちらでもない	少し不満	不満	無回答
卒業生		7	1			2
在学生	5	1				1

***** 感想 *****

卒業生

- ・在学生のがんばりをナマで聞けたことがとてもうれしかったです。
- ・プロジェクトをそれぞれがんばって下さい。応援してます！
- ・いろいろ聞いておもしろかったです。
- ・かなり緊張しました。後輩の方と交流する機会はないので貴重でした。
- ・在学生や卒業生と情報交換ができて良かったと思います。

在学生

- ・話にあんま入ってないけど、みんなたくさんしゃべってました。
- ・先輩方の貴重な意見がきけて良かったです。
- ・就活の話や、プロジェクトへの意見が聞けてよかった。
- ・とてもいい経験になった。
- ・貴重な意見をもらえてよかった。
- ・常に笑顔と元気であることが大事ということが分かりました。
- ・就職についても卒業生の方がアドバイスになることをたくさん言っていたので参考にしたいと思いました。

【卒業生から社会に出て感じる事・後輩たちへのメッセージ】

- ・就職したばかりだと苦しい事ばかりだけど、1年過ぎるとだんだん分ってくる事が楽しくなります。1年は我慢しましょう。
- ・私は社会人になるのがとてもイヤでした。でも、今は仕事をするのが楽しく、プライベートも学生時代よりも充実しています。不安はあると思いますが、頑張ってください！！
- ・経験ってとても大事だと思いました。
- ・ビジネスの講義で学んだ事が生かせているので、学生時代に少しでもビジネスマナーなど学ぶと良いと思います。
- ・社会人と言えども大人になりきれていない学生っぽい社会人も現実にはいます。沢山の人と出会い、良いところを吸収できるような社会人になれるよう努力しています。
- ・全ての人と良好な関係を築くのはとても難しいです。私にも言えることですが、どうかそういった失敗を恐れず進んでいってほしいと思います。
- ・マナーや上下関係がとても大事。気づかいはできることが大切。
- ・就職活動に全力で取り組んでください。全力で取り組んで後悔しないよう頑張ってください。
- ・学生時代と違って社会はすごく厳しいですが、前向きに笑顔で頑張ってください。

今回は就職活動の本格的なスタートを前に、企業との相性や業界・企業研究の必要性和重要性を学ぶことを目的とし、メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座(1)を開催した。

学生にとってあまり馴染みのない『業界研究』を身近なものに感じられるよう、今回はボードゲームを利用して、アパレル業界についての研究を行った。

『確かに大企業はあこがれの職場だが、社風が自分に合わないと長く勤めることはできない』

『就活開始直後に「〇〇業界は自分に向いていない」という人ほど、業界や企業について研究していない』

来るべき就職活動に備え、講師の言葉を熱心にメモする学生の姿も見られた。

受講後の学生からは、「講師の先生の『将来転職を考えた時、新卒として入った業界がその後の転職先の選択に大きな影響を与える。最初の就職先が自分の将来を決定すると考え、しっかりと調査・研究し大切に選択してほしい』という言葉が強く印象に残っており、企業の大小にこだわらず、自分と相性の良い業界、企業を探したい」という感想が聞かれた。

メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座(1)

開催日：平成23年10月25日(火)

会場：豊橋創造大学 A23 教室

参加人数：情報ビジネス学部3年生 27名

教職員 19名

講師：キャラメルソース(株)代表取締役 初見 康行 様



ビジネスケース (あるアパレル副店長の悩み)

あなたは、アパレル業界で売り上げ第3位、フォーマルからカジュアルまで幅広い年齢層に人気のあるブランド、「セカンドリテイリング社」の社員です。元々ファッションへの興味関心は高かったあなたですが、就職活動の自己分析で、バイトの接客経験、部活動での仲間との触れ合いなどから、人と接することがやはり好きだと改めて認識。アパレル業界を志望しました。いくつかの会社を受験する中、この会社の社員の和気あいあいとした空気や、頑張れば頑張った分だけ早く任せてもらえる風土に惹かれ、入社することに決めました。

今年に入社3年目。春から副店長という役職につき、やる気充分の毎日です。郊外のショッピングセンターにある比較的大きい店舗で、店長と自分、最近入社した新入社員鈴木くん、そしてアルバイトが3名。合計6名でシフトを組み、お客様に喜ばれる店づくりに奮闘中です。

休みなんか取れないんじゃないかと入社前は覚悟していましたが、意外に週休2日は確実です。大学の同級生たちが慣れないスーツで入社する中、自分は好きな格好でいいし、「お客様のためにいいと思ったことは、遠慮せずどんどん提案していいんだぞ!」とってくれる店長のお陰で、店のディスプレイなどかなり任せてもらえ、大いにやりがいを感じています。何より、好きなファッションに日々関わられるのは本当に楽しいものです。

新人の頃は、右も左もわからず、おつりを間違えて店長からこっぴどく怒られたこともありましたが、今ではすっかり仕事は板につき、同期では一番乗りで副店長に昇進しました。今の目標は店長! 店長として充分経験を積んだら、本部へ行って販売促進の企画部で活躍するのが夢です。

そんな順風満帆のあなたに、少し困ったことが起きました……。

この4月に入社してきた新人の鈴木くん。同期と共に1ヶ月の新人研修を終えて、店舗へ配属されて3ヶ月。はじめの頃はやる気まんまんで燃えていた鈴木くんですが、このところその元気に陰りが……。少し気になったあなたは、鈴木くんを仕事終わりにご飯に誘いました。すると鈴木くんはこんなことを言い出しました。

1

タイプ3 = 世の中を明るく捉え直す前向き指向「楽観型」

「おまえ、ちょっと真面目過ぎるんだよ。どっだけ仕事どっぷりなんだよ。だいたいさ、この不況下でせっかく入った会社辞めるなんてどうかしてるぜ? 会社がお前を採用したんだから、お前も堂々と働いてもらいたいんだよ。ミスなんて誰だってするぜ。1年目ならなおさらだし。しんどい時は飲んで忘れるのが一番!」

タイプ4 = 冷静沈着・情には流されず頭で解決「コンサルタント型」

「正直、君の人生だから辞めるか辞めないかの最終判断は君がするしかない。でも、君が悩んでいることはすごく原因が曖昧だし、感情に走り過ぎているんじゃないかな? そんな状態で本当に辞めるなんてジャッジしていいのかな? そもそも辛いと思いはじめたのはいつなの? 何に対して辛いと思うの? 一時の感情で重要なジャッジをするなんてナンセンスだと思うよ。」

鈴木君の立場や自分の場合だったらどのようにアドバイスして欲しいだろうか?
以下のワークを考えてみよう。

ワーク①:

自分で4つの励ましトークを、いいと思える順番に並べ替え、その理由を考えてみよう!

ワーク②:

グループ内で自分がどのような順番にしたかを共有し、グループとしての順番を決めてみよう。また、このケースから得られる学びとは何だろうか?
グループで考えてみよう!

3

「ぼく、実はこの仕事向いてないんじゃないかと思って……。」

発注ミスは一度や二度じゃなくて周りに迷惑かけ通しだし、お客様とお話するのもだいが慣れたけど、それでもまだ何度も嘔吐し。人と話すのは好きで、洋服も好きで、第一志望のこの会社に入ったけど、思っていた以上に自分が出来ない人間なんだと痛感して正直ショックです。同期たちを見ると、ぼくより仕事を覚えるのも早いし、いつもまわりに気を配っていて、入社して同じ時間しかたっていないのに、もうこんなに差がついていることに悲しくなります。最近辞めた方が店のためにもなるんじゃないかと、正直思っているんです……。」

店長を目指すあなたは、可愛い後輩の鈴木くんを先輩として励まし、お店で立派に活躍できる社員に育て上げなくてはなりません。

何と言って励ましてあげたらよいでしょうか??

次の4つの励ましトークを、いいと思える順に並べ替えてください。並べ替える基準は、「もし自分が鈴木くんだったら、何と言って貰えたら嬉しいor頑張れる気になるか」です。

タイプ1 = 力強い言葉で気持ちに熱く訴える「熱血教師型」

「馬鹿野郎! 辞めるなんて100年早いんだよ! だいたい、3ヶ月やそこらで向いてないなんて、わかるはずないんだ。同期の方ができる気がする? 俺にいせりやみんなまだまだだ。けどな、俺は一生懸命でさえあれば1年目は合格だと思う。だからミスなんて気にせず一生懸命やれよ!」

タイプ2 = 母のような愛で優しく包みこむ「保母さん型」

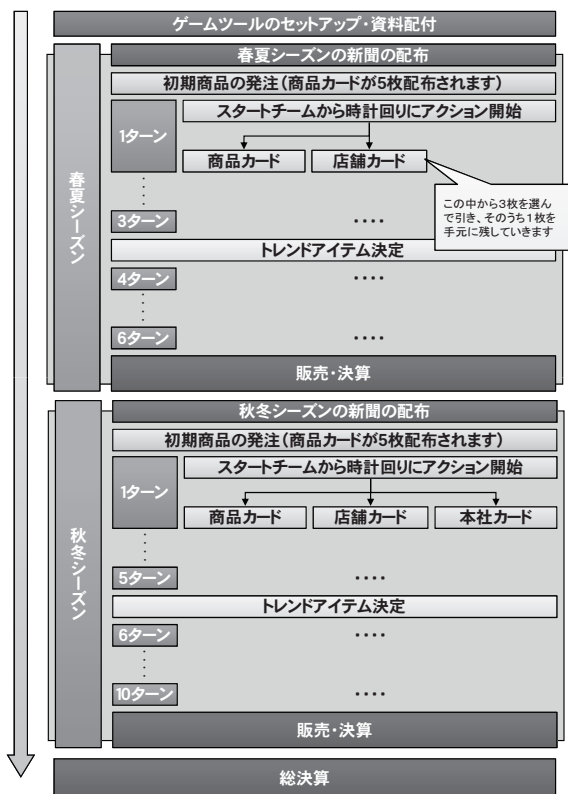
「うんうん、わかる。わかるわー。そういう気持ちに1年目は必ずなるよ。何を隠そう、僕もそうだったなあ。君を見ると3年前の自分を見ているようだよ。でもね、辛かったのは1年目までで、1年頑張ったとふと振りかえったら、いつのまにかできるが増えるんだよね。君にもきっとそんな日がくるよ。だからがんばって!」

2

Business Simulation Game

Caramel Source

ゲーム全体の流れ



ゲームを始める前に

ゲームの前に

- これから皆さんには、アパレル業界を題材とした「ビジネス体感ゲーム」をプレーしていただきます。
- このゲームの中で皆さんには商品の仕入や店舗施策・本社施策といったビジネスの基本的な流れを体感して頂きます。
- ゲームは4チームでの売上勝負。
他のチームに負けないように、ルールを素早く理解し、戦略を立て、運を味方に付けて勝利を目指してください。
- 時間は90分です。

なにをするゲーム？

- これから皆さんには、「アパレル企業」を経営していただき、**売れる商品の仕入や売れる店作り**を行っていただきます。
- まず行わなければならないのが、「**商品の仕入**」です。顧客のニーズにマッチした商品をしっかりと並べましょう。
- 次に「店舗施策」や「本社施策」によって**店舗の付加価値・ブランドの付加価値を**高めていきます。

全体の流れ



- ゲームは春夏シーズンと秋冬シーズンの合計2期行われます。
- 春夏シーズンは6ターン、秋冬シーズンは10ターンずつ行われます。全ターン終了後に、アイテムの販売と決算を行います。
- 春夏・秋冬期終了後の利益合計により勝敗が決定します。
- それでは皆さんの検討を祈ります！

スタート前の準備

初期設定



- 最初に、ゲームの進行ヒントと春夏シーズンのトレンドに関する情報が書かれている**新聞**が配布されます。
- チームのメンバーで良く読み込んで、ゲームを進める参考にしてください。



- 次に、最初の発注商品として、**5枚**の商品カードを受け取ります。



これでワークを進める準備が整いました。

これから前半戦、春夏シーズン6ターンを進めていきます。





各期の流れ

各ターンで行えること

各ターンに行うのは、

- ・商品カード
- ・店舗カード
- ・本社カード(秋冬シーズンのみ)

の3種類(春夏シーズンは商品カード・店舗カードのみ)のカードの中から好きな組み合わせで3枚を選んで、その中で最も良いと思うカードを1枚手元に残すというアクションです。



3枚引くカードの組み合わせは、

- ・商品カード×3枚
- ・全部1枚ずつ
- ・店舗2枚、本社1枚

といったように、合計で3枚になれば組み合わせは自由です。

ただし、手元に残すことが出来るカードは1枚のみです。

3枚引いて
1枚残す



このようなアクションを春夏シーズンは6回、秋冬シーズンは10回繰り返していくことで、魅力的な商品を店に並べ、客を惹きつける店舗施策、本社施策を実施していきます。



カードの説明

商品カードその1 ～商品カードの基本～

商品カードは、店舗に並べる商品です。

基本的にはこの商品の善し悪しが売上に直接関わってきます。商品には「シーズン」があり、最低限シーズンにマッチした商品をそろえる事が必要になってきます。

カードは必ずしも思った通りにそろえる事が出来るわけではないので、どの種類のカードを何枚ずつ引くかには注意してください。



獲得した商品は、自分たちのチームボードの商品ラインナップのエリアに並べてください。

このエリアには、最大6個の商品を並べることが出来ます。6個以上になったばあいは、引いてきたカード及び並べているカードの中からいらぬカードを廃棄する必要があります。



獲得した商品カードはこのエリアに並べていきます。



カードの説明

商品カードその2 ～商品のシーズン～

商品カードをそろえる際にポイントとなるのが、シーズンにマッチした商品をそろえる事です。



カードの表を見たときに上記の場所に書いてあるのが、そのアイテムが売れるシーズンです。シーズンがマッチしていない商品を並べても、決算の時に売れ残ってしまいます。

商品選定には注意してください。

商品カードその3 ～大量陳列～

売り場にあるジャンルの商品を大量に陳列することで、売上を伸ばす効果を期待できます。

下のようにTシャツを3組み並べることが出来たら、その分大量陳列ボーナスを獲得できます。

これもトレンドと同じく商品も多く売る秘訣ですので、うまく駆使してください。



カードの説明

商品カードその4 ～トレンド～

商品カードをそろえる際にもう一つポイントとなるのが、トレンドです。トレンドにマッチした商品をそろえると、売上を高めることが出来ます。トレンドには、

新聞から予測するトレンド
運によって決定されるトレンド(中間ターン終了時に決定)
の2つのトレンドがあります。

前者は新聞を読むことで予測してください。後者はサイコロを2個振って決定するので運が重要ですが、商品によって確率には差があります。(下記参照)

それぞれのアイテムの出る確率は決算シートにも記載されていますので、戦略の参考にしてください。

サイコロの目	確立	春夏シーズン
2	3%	グッズ
3	6%	カジュアルパンツ
4	8%	ポロシャツ
5	11%	カッドソー
6	14%	ショートパンツ
7	17%	シャツ
8・9	22%	Tシャツ
10	8%	トレーナー
11	6%	ジャケット
12	3%	ルーム・インナー

サイコロの目	確立	秋冬シーズン
2	3%	グッズ
3	6%	カジュアルパンツ
4	8%	コート
5	11%	ブルゾン
6	14%	ダウン
7	17%	マフラー
8・9	22%	フリース
10	8%	セーター
11	6%	ジャケット
12	3%	ルーム・インナー

カードの説明

店舗カード

店舗カードは、店舗毎に行える施策です。

こちらのカードは、**集客力**や**客単価**と言った、店のパフォーマンスを左右する要素です。

まずは売れる商品をラインナップする事が重要ですが、それと同時に**売れる店作り**を忘れずに進めていきましょう。

店舗カードの中には枚で効果を発揮するものや、2枚(2種類)そろわないと効果を発揮しないものなど様々です。

自分たちのターン状況と相談しつつ、効果の高いカードを効率よく集めてください。

なお、店舗・本社カード双方、保持できる枚数に制限はありません。ただし、**同一のカードを複数枚持つことは出来ません。**



【店舗カードの持ち越しについて】

商品カードは春夏シーズンが終わったら一度リセットされますが、店舗カードは秋冬シーズンに持ち越すことができます。

長期的な戦略も視野に入れ、カードをそろえていきましょう。

カードの説明

本社カード

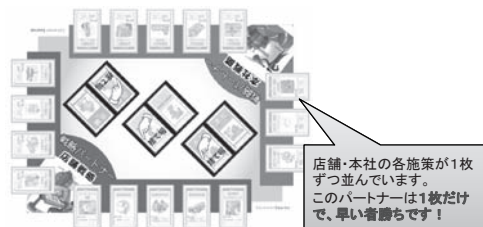
本社カードは、秋冬シーズンから追加されます。店舗カードよりスケールが大きく、効果も大きいカードです。

特に**原価率の削減**といった大きな機能を持ったカードもあるので、積極的に集めて有利に展開してください。



カード集めの秘策“戦略パートナー”

限られた機会の中で効率よく戦略を集めていくために活用できるのがセンターボードにある**“戦略パートナー”**です。カードを3枚引く代わりにサイコロを振って1~4の目が出れば周囲に置いてあるカードを取得することが出来ます。でなければ獲得する事が出来ません。



決算について

決算の計算方法

このゲームでは、以下のような形で利益を計算します。

$$\text{顧客数} \times \text{平均客単価} = \text{売上}$$

$$\text{売上} \times (100\% - \text{原価率}) = \text{利益}$$

顧客数は、店舗・本部施策で高めることが出来ます。

平均客単価は、商品ラインナップや店舗・本部施策で高めることが出来ます。

効率よく顧客数と平均客単価を高め、その上で原価率を下げることによって、利益を高めていくことが出来ます。

最終的には、春夏・秋冬シーズンの利益を合計した**数値**が最も高かったチームの勝利となります!

戦略的に 運を味方につけて 勝利を目指せ!

春夏号

ポイントは先を見る目!

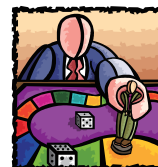
今回のゲームは、何がでるか判らないカードに左右されてしまうので、運の要素が強いと感じるかもしれません。

しかし、

- ・自分のチームの状況はどうなっているのか?
- ・売上を高めるには何を優先的にあげるべきか?
- ・他チームの動向は?

といった勝利につながる要素を戦略的に見ていくことで、確実に勝利をたくり寄せることが出来ます。

チームのメンバーで役割を分担しつつ、勝利を目指して下さい!



今期のトピックス

昨年に引き続き今年の夏は暑い!
という予報がでています。

このため、出来るだけ涼しく過ごすことが出来るような衣類に注目が集まりそうです。

今期から 新たに登場する 本社カードを使いこなせ！

秋冬号

インパクト絶大、本社カードの威力!?

皆さん、春夏シーズンを終えたことで、ゲームのコツやルールがしっかりと把握できてきたと思います。

今期から、本社カードが追加されます。

本社カードは集めるのが難しいカードですが、効果は大きく、勝敗を左右します。

自チームの状況、カードの引き方、戦略パートナーなどをフルに活用して、是非本社機能の完成を目指して下さい！

取った取られた、横取りカード登場!

今期から横取りカードが各チーム1枚渡されます。

ここぞと言うときに使って、活路を見いだしましょう!

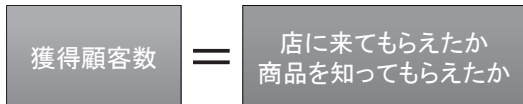


今期のトピックス

今期の秋冬シーズンは、昨年に引き続きフリースに注目が集まりそうです。

ただし、ユーザーの目もかなり肥えてきているので、独自性を出すことが出来なければ競争に勝つことは難しいかもしれません。

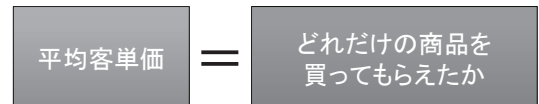
今回のワークを振り返ってみよう！



Caramel Source

Copyright

今回のワークを振り返ってみよう！



- 1 シーズンに合った商品を提供
- 2 トレンドに合った商品を提供
- 3 陳列や接客の工夫

Caramel Source

Copyright

今回のワークを振り返ってみよう！

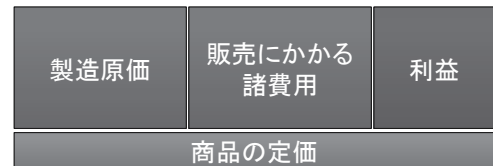
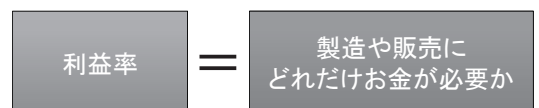


コーディネート提案

Caramel Source

Copyright

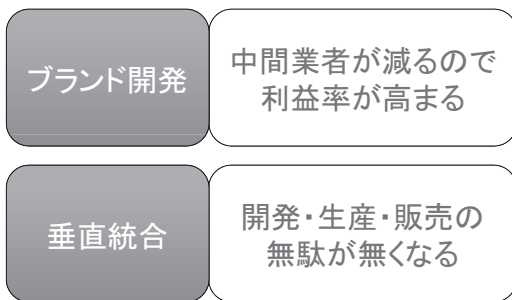
今回のワークを振り返ってみよう！



Caramel Source

Copyright

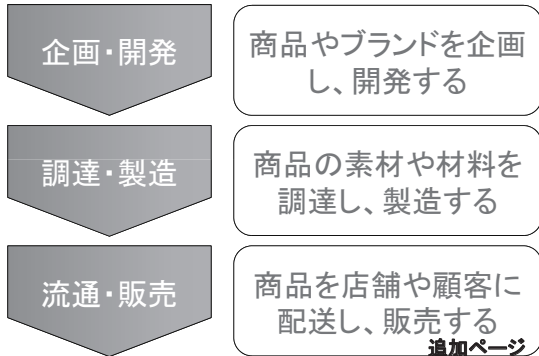
今回のワークを振り返ってみよう！



Caramel Source

Copyright

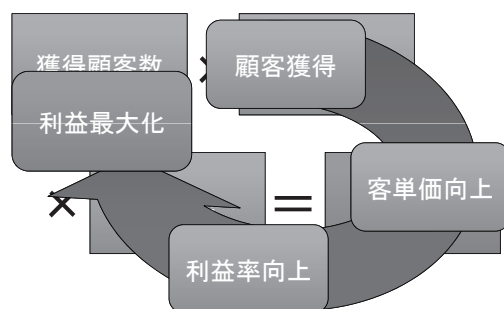
今回のワークを振り返ってみよう！



Caramel Source

Copyright

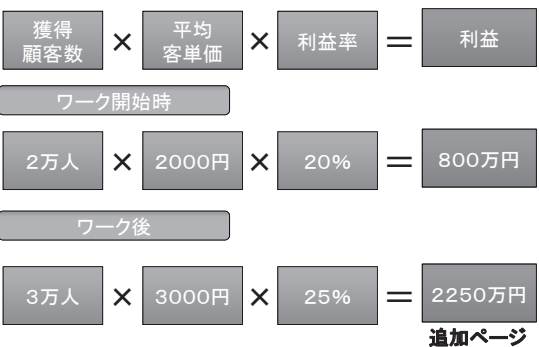
今回のワークを振り返ってみよう！



Caramel Source

Copyright

今回のワークを振り返ってみよう！



Caramel Source

Copyright

仕事のステージ=キャリア



追加ページ

©Caramel Source®

Copyright

決算シート 春夏シーズン

	獲得顧客数	平均客単価	利益率	利益
●初期予測データ	20万人	2500円	20%	10000万円
商品関連	<ul style="list-style-type: none"> ●シーズンにマッチした商品: 500円 × (株) = + ●トレンド商品: 500円 × (株) = + ●大量発注: 200円 × (個) = + 	<ul style="list-style-type: none"> ●トレンドが出る確率 サイコロの目: 2 (3%), 3 (6%), 4 (8%), 5 (11%), 6 (14%), 7 (17%), 8-9 (22%), 10 (8%), 11 (6%), 12 (3%) 春夏シーズン: グッズ, カジュアルパンツ, ホロシャツ, ショートパンツ, Tシャツ, トレーナー, ジャケット, ルーム・インナー 		
店舗関連	<ul style="list-style-type: none"> ●スタッフ教育: 1000円 ●チラシ配布: 3万人 ●商品陳列コンサルティング: 400円 ●返品無条件受付: 1万人, 300円 ●営業時間延長: 1万人 ●駐車場整備: 1万人, 200円 ●コーディネート提案: 300円 			
本社関連	<ul style="list-style-type: none"> ●ブランド開発: 3万人 ●販路統合: 4万人 			
●合計	万人	円	20%	万円

決算シート 秋冬シーズン

	獲得顧客数	平均客単価	利益率	利益
●初期予測データ	20万人	2500円	20%	10000万円
商品関連	<ul style="list-style-type: none"> ●シーズンにマッチした商品: 500円 × (株) = + ●トレンド商品: 500円 × (株) = + ●大量発注: 200円 × (個) = + 	<ul style="list-style-type: none"> ●トレンドが出る確率 サイコロの目: 2 (3%), 3 (6%), 4 (8%), 5 (11%), 6 (14%), 7 (17%), 8-9 (22%), 10 (8%), 11 (6%), 12 (3%) 秋冬シーズン: グッズ, カジュアルパンツ, コート, ブルゾン, ダウン, マフラー, フリース, セーター, ジャケット, ルーム・インナー 		
店舗関連	<ul style="list-style-type: none"> ●スタッフ教育: 1000円 ●チラシ配布: 3万人 ●商品陳列コンサルティング: 400円 ●返品無条件受付: 1万人, 300円 ●営業時間延長: 1万人 ●駐車場整備: 1万人, 200円 ●コーディネート提案: 300円 			
本社関連	<ul style="list-style-type: none"> ●ブランド開発: 3万人 ●販路統合: 4万人 			
●合計	万人	円	%	万円

「ユビキタス・キャンパスの始動」グループ事業では、プロジェクト活動で使用する「プロジェクト管理システム」の開発支援を行っている。平成 23 年 4 月に教職員・学生にアプリを配布してプロジェクト活動で利用させた結果、多くの改善や機能追加要望が挙げられたことから、要望を反映させた「プロジェクト管理アプリ・バージョン 2」を開発した。

この新バージョンのプロジェクト管理アプリについて、完成後の 10 月に学生を対象とした新機能の説明および導入のための説明会を実施した。これにより、残りのプロジェクト活動期間においてより円滑な活動ができるよう支援した。

プロジェクト管理システム（version2）導入説明会

開催日：平成 23 年 10 月 25 日（火）

会場：豊橋創造大学 A24 教室

参加人数：情報ビジネス学部 3 年生 27 名

教職員 19 名

メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座(2)は、10月に開催したメンタルタフネスを活かすビジネス研究講座(1)と同様、ボードゲームと事例を通して、企業との相性や業界・企業研究の必要性和重要性を学んだ。

今回は携帯電話業界を例にしたボードゲームを使用し、ビジネスを拡大するために必要なものは何か？を常に考えながらの業界研究を行った。当初は慣れない言葉や作業に戸惑う学生も見られたが、しだいに仲間とコミュニケーションを取りながらイキイキと作業に取り組む姿に変わっていったのは印象的であった。

受講後の学生からは「より良い方法を考えるには、チーム内でのコミュニケーションが大切であることを実感した」「過去の経験や固定観念にとらわれず、ひらめきを大切にすることが必要」などの声が聞かれた。

今回の講座をもって、今年度予定していた全4回のメンタルタフネス育成に関する講座が終了し、いよいよ受講成果が試される就職活動が本格化する。スキル面だけでなく、精神面の強さも兼ね備えた本学学生たちの活躍の場が広がるよう期待している。

メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座(2)

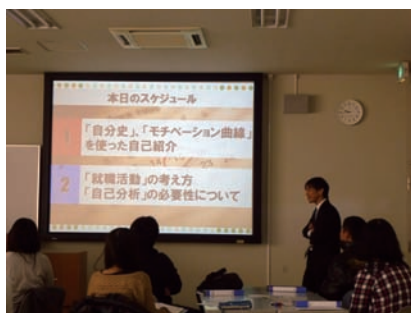
開催日：平成23年12月17日(土)

会場：豊橋創造大学 A23教室

参加人数：情報ビジネス学部3年生 21名

教職員 11名

講師：キャラメルソース(株)代表取締役 初見 康行 様





～CASE STUDY～ 携帯サービスでよりよいT市へ！？

●Instruction

あなたはT市市役所に勤務しています。
このT市を、皆が安心して笑顔で暮らせる街にするべく、
入庁から10年、毎日奔走しています。
そのひたむきにT市を愛する姿勢と、
どの職員にも負けない行動力で、
市長から目をかけられ、現在市長付き秘書官として働いています。



そんなある日、あなたは市長から執務室に呼ばれました。

「実は、ひとつずつと実現したいと思っていた施策があるんだ。
近年、ひとり1台になってきている携帯電話。
この携帯電話を生かした市民の皆様へのサービスを、何か考えられないだろうか。
私はよくわからないが、最近では携帯でインターネットをするのが当たり前なんだろう？
ブログくらいなら知っているが、この間娘にTwitterもFacebookも知らないなんてと笑われたよ。
スマートフォンが普及して、アプリなんていうものもでてきた。
この辺りのものをうまく活用して、市民の皆様が喜ぶことを、是非できないかと思っている。
君、ひとつアイデアを絞ってくれないだろうか。
全員が全員携帯を持っているわけではないとか、
全員がスマートフォンではないからネットには限りがあるとか、
そんな細かい制約条件は気にしなくて良い。
アイデア自体が良ければ、市が補助して機器を貸与することも考える。
さあ、街想いの君らしい、かつ新しいアイデアをどうか考えてくれたまえ」



あなたは早速、その携帯を通した新しいサービスをチームで考えることにしました。

●ワークの進め方

1、課題設定（5分）

まず現在、T市にはどんな課題（解決すべき問題点）があるか考えてみましょう。
もしくは、携帯電話でどんなことが出来れば、T市はもっと住みやすい街になるでしょうか？
グループ内で挙げたものの中から、テーマを一つ選んでみましょう！
例：高齢化、介護、地域の繋がりの希薄化など。〇〇を流行らせたい！など、テーマは自由です

2、プランニング（10分）

サービスの内容を具体的に考えてみましょう。
形式をまず決めます。アプリやSNSや一般的情報サイトなど、携帯サービスには様々なものがあります。
具体的な使用イメージや効果、そのサービスの導入によって実現できる未来の姿を考えましょう。

形式： アプリ ・ 一般サイト ・ SNS ・ iPad ・ その他

どんなサービス？

携帯電話企業を経営せよ！

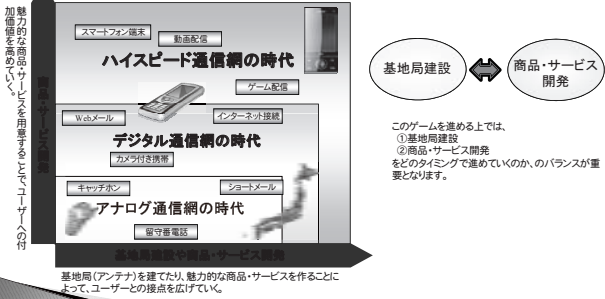


携帯電話企業を経営せよ！

Caramel Source

このゲームでやることは？

このゲームでは、大きく分けて①基地局建設、②商品・サービス開発という2つのアクションを選択・実行することができます。それらのアクションを最大限に活用し、高い利益を上げることが目標となります。



Caramel Source

Copyright

ルール説明②

Caramel Source

商品・サービス開発カード

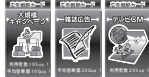
「商品・サービス開発カード」を獲得することで、
・利用者数
・利益率
を高めることができます。

カードによっては条件がついているものがあります。
例えばデジタル通信をそろえようと思った場合、①・②・③の3枚をそろえて初めて効果が出ます。
詳しくはカードの詳細に書いてあるので、カード一覧をも確認してください。



広告戦略カード

「広告戦略カード」は2期・3期で使用します。
◆各期のアクションがすべて終了した後（決算に入る前）に、各チームで任意の広告カードを枚数制限して「1期-01」で競り合います。4チームの中で獲得したチームが「チーム対決」の勝者となり、その広告戦略カードの効果を得ることが出来ます。



決算

◆決算に入ったら、まず各エリアのエリア活性化ゲージを確認します。
◆次に、各市場での基地局の稼働を確認します。基地局を稼働させた数が最も多かったチームは、そのエリアの利用者数を倍増させます。
◆各期の利益は、「商品・サービス開発カード」、「広告戦略カード」の効果も取り入れ、利用者数、利益率を算出した後、以下の計算式により計算されます。
(利用者数) × (利益率) × (広告戦略カードの効果) = 「各期の利益」

となります。そして、算出された利益は次の期に持ち越されます。決算は、ディーラーの指示に従って行います。

Caramel Source

Copyright

補足資料(第3期商品・サービス開発カード)

Caramel Source



Caramel Source

Copyright

携帯電話企業を経営せよ！

Caramel Source

インストラクション

時は、199×年、携帯電話がまだ世に出たばかりで、ペットボトルよりも大きかった頃。みなさんは、そんな携帯電話の黎明期に携帯電話事業を立ち上げた企業です。基地局を建て、利用者数を増やし、サービスを拡張し……。まだまだやらなければならないことはたくさんあります。



これから与えられた機会の中で、競合他社の動きを窺いつつ、

- ・基地局を建て、利用者を獲得する
 - ・商品・サービスを開発し、利用者数の準備を高める
- という2つの戦略を行っていきましょう。

目標は、4チームの熾烈な競争の中で勝ち残り、No1の売上を上げる携帯電話を目指すことです！

MISSION

これからみなさんにはゲームを通して、携帯電話普及前後の創業期から、近年の携帯電話市場の成長に至るまでの過程を体験して頂きます。
具体的には、8期間に渡って、「基地局建設」、「商品・サービス開発」の2つのアクションを臨機応変に選択してまいります。
それにより携帯電話の「利用者数」を伸ばし、最終的に「利益を最大化させる」ことを目指してまいります。
日本の携帯電話業界の未来を決めるのはあなたです！

Caramel Source

Copyright

ルール説明①

Caramel Source

ゲームの流れ

- ◆ゲームは全部で3期に別れており、各期の流れとしては以下のようになります。
- ① 1期-01の抽選を行い、そのなかから1枚欲しいカードを選びます
- ② 選択したカードのアクションを実行します
- ③ 規定の回数アクションを行ったら、決算を行います。

◆上の流れを各市場の抽選も含めて、**最終的な利益が最も多いチームの勝利となります。**

期の流れ

◆各期で選択できるカードは以下のようになっています。

- ◆第1期(01期)・・・「基地局建設カード」のみ
第2期(02期)・・・「基地局建設カード」
- ◆第3期(03期)・・・「商品・サービス開発カード」
第4期(04期)・・・「商品・サービス開発カード」
- ◆第5期(05期)・・・「商品・サービス開発カード」
第6期(06期)・・・「商品・サービス開発カード」

◆カードを合計3枚になるように山からめくって、その中から最も欲しいと思う1枚を手元に残し、そのカードのアクションを実行することができます。このアクションを繰り返していくことで、基地局を建て、利用者数を増やし、利用準備を高めるのが目的となります。

Caramel Source

Copyright

補足資料(第2期商品・サービス開発カード)

Caramel Source



Caramel Source

Copyright

補足資料(第3期商品・サービス開発カード)

Caramel Source



Caramel Source

Copyright

最終期決算シート

エリア	1期		2期		3期		合計
	利用者数	利益	利用者数	利益	利用者数	利益	
北海道	15	2	30	60	2	8000	10000
東北	10	3	60	25	3	10000	3000
関東	25	1	25	0	1	15000	1500
中部	15	0	0	0	0	10000	0
関西	20	0	0	0	0	10000	0
中国	10	2	20	30	2	10000	2000
四国	5	3	30	25	3	9000	1500
九州	25	1	25	0	1	10000	1000
全国合計	150	12	150	80	8	11400	1400

※各エリアに1期以上の基地局を建てたチームは、そのエリアの利用者数を倍増させます。
※各期に獲得した利益は、次の期に持ち越されます。
※各期に獲得した利益は、次の期に持ち越されます。

■第1期決算シート

チーム名: _____

所属エリア	個人持ち設備						合計
	PC	プリンター	カメラ	外部ストレージ	無線LAN	その他	
北海道							
東北							
関東							
中部							
関西							
中国							
四国							
九州							

※PC: 1台につき2万円、プリンター: 1台につき1万円、カメラ: 1台につき5千円、外部ストレージ: 1台につき1万円、無線LAN: 1台につき5千円、その他: 1台につき1万円

※合計: 1.2倍 × 7人 × 800 = _____

※金額単位: _____

■第3期決算シート

株式会社

所属エリア	個人持ち設備						合計
	PC	プリンター	カメラ	外部ストレージ	無線LAN	その他	
北海道							
東北							
関東							
中部							
関西							
中国							
四国							
九州							

※PC: 1台につき2万円、プリンター: 1台につき1万円、カメラ: 1台につき5千円、外部ストレージ: 1台につき1万円、無線LAN: 1台につき5千円、その他: 1台につき1万円

※合計: 1.2倍 × 7人 × 800 = _____

※金額単位: _____

■第2期決算シート

株式会社

所属エリア	個人持ち設備						合計
	PC	プリンター	カメラ	外部ストレージ	無線LAN	その他	
北海道							
東北							
関東							
中部							
関西							
中国							
四国							
九州							

※PC: 1台につき2万円、プリンター: 1台につき1万円、カメラ: 1台につき5千円、外部ストレージ: 1台につき1万円、無線LAN: 1台につき5千円、その他: 1台につき1万円

※合計: 1.2倍 × 7人 × 800 = _____

※金額単位: _____

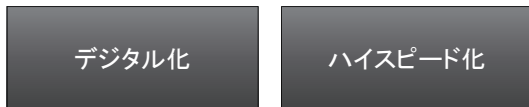
解説

■ 今回のワークを振り返ってみよう！



全国に基地局を建設！

■ 今回のワークを振り返ってみよう！



アナログ



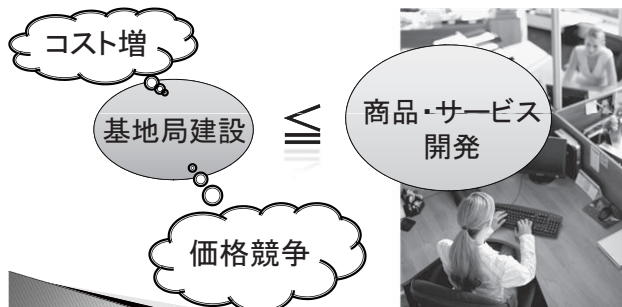
デジタル



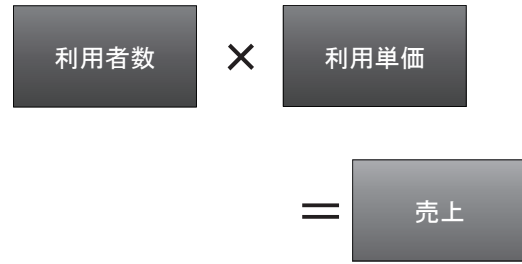
ハイスピード

■ 携帯電話業界を見る！

成長してきた市場



■ 今回のワークを振り返ってみよう！



■ 今回のワークを振り返ってみよう！



■ 携帯電話業界を見る！

初期の市場



基地局建設



商品・サービス
開発

■ 携帯電話業界を見る！

さらなる成長へ



インフラ増強

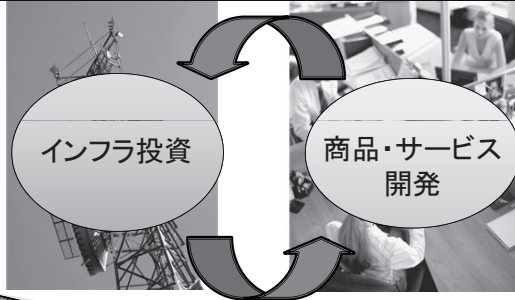


商品・サービス
開発

トラフィック
増

■ 携帯電話業界を見る！

携帯電話業界のビジネスサイクルとは...

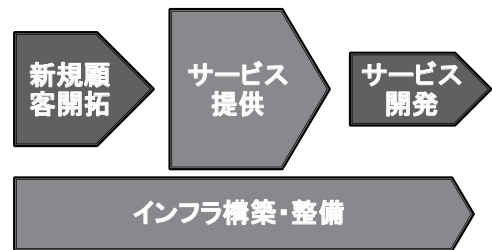


Caramal Source

Copyright

■ 携帯電話業界のビジネスの本質

実際の仕事の比重は？



Caramal Source

Copyright

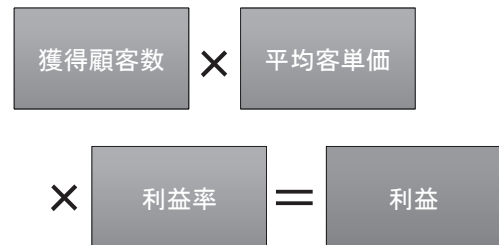
■ 携帯電話業界のビジネスの本質

つねに顧客視点で考える



Caramal Source

今回のワークを振り返ってみよう！



Review of the Work

Caramal Source

Copyright

12月21日(水)1限 本学キャリアプランニング科2年生は、4月から取り組んでいるプロジェクト活動の集大成として、ご協力いただいた企業・団体の方々をお招きして「プロジェクト活動 成果発表会」を開催した。

学生達はこれまでの活動をプロジェクトチームごとにスライドにまとめ、緊張の面持ちながらも堂々と発表していた。また、プロジェクト内容をポスターにして会場の壁面に掲示したプロジェクトチームもあり、個性豊かで大変華やかな発表会であった。

地域とのつながり・関わりを学生自らが考える足掛かりとして取り組んだプロジェクト活動は、今回の成果発表会をもって今年度の活動を終了したが、この1年、学生達は机上の理論だけでは身につけることができない様々な知識を皆様から頂戴し、随分と成長することができた。

プロジェクト活動をとおして、ご支援・ご指導をいただいた皆様に、この場を借りてお礼を申し上げたい。

キャリアプランニング科 プロジェクト活動成果発表会

開催日：平成23年12月21日(水)

会場：豊橋創造大学 B14教室

参加人数：キャリアプランニング科2年生 87名

来賓 7名

教職員 28名

来賓：愛知県豊橋警察署 生活安全課 課長 大崎 逸朗 様
生活安全課 巡査部長 太田 裕之 様
NPO法人 東三河自然観察会 会長 梶野 保光 様
(株)エフエム豊橋 取締役統括部長 竹内 宏和 様
ワタナベローズナーセリ 代表 渡辺 真臣 様
ガーデンガーデン (株) 坂井 奈津子様
豊橋市産業部産業政策課 主査 田村 明浩 様



持続型職業人 SOZO プロジェクト
キャリアプランニング科 プロジェクト活動 成果発表会

日時:平成23年12月21日(水) 1限 9:00~10:30
場所:豊橋創造大学短期大学部 B14教室

持続型職業人SOZOプロジェクト
プロジェクト活動 成果発表会

次第:
9:00 ~ 開会
9:00 ~ 9:05 学長挨拶
9:05 ~ 10:10 プロジェクト発表

	プロジェクト	プロジェクトテーマ
1	朝倉プロジェクト	「大学生ロックスさんのクッキング教室」&「豊橋の野菜と米粉を使った焼き菓子開発」
2	今泉プロジェクト	豊橋の祇園祭を考えるプロジェクト
3	ホトプロジェクト	ライスアラワープロジェクト
4	千賀・中島プロジェクト	防犯プロジェクト
5	寺本プロジェクト	身近な自然環境発見・発信プロジェクト
6	長谷川プロジェクト	全員で合格を目指す医療秘書検定、韓国医療視察
7	維谷プロジェクト	医療機関の振り紙適正化プロジェクト
8	村松プロジェクト	I♥ROSEプロジェクト

10:10 ~ 10:15 質疑応答
10:15 ~ 10:20 科長総括
10:20 ~ 閉会
事務連絡・写真撮影

以上

平成23年12月21日
豊橋創造大学短期大学部
キャリアプランニング科

豊橋創造大学短期大学部キャリアプランニング科 プロジェクト成果発表会 参加者名簿
【来賓】

会社名	役職名	氏名
愛知県豊橋警察署	生活安全課課長	大崎 逸朗
〃	生活安全課 巡査部長	太田 裕之
(株) イシグロウイング	食農部長	宮地 めぐみ
医療秘書教育全国協議会		
NPO法人 東三河自然観察会	会長	梶野 保光
ガーデンガーデン (株)		坂井 奈津子
こども未来館 ここにこ		
豊橋市産業部産業政策課	主査	田村 明浩
ワタナベローズナーセリ	代表	渡辺 真臣

敬称略順不同

【本学教員】

所属	役職	氏名
豊橋創造大学短期大学部	学長	伊藤 晴康
豊橋創造大学短期大学部	副学長	木村 和夫
短期大学部キャリアプランニング科	科長	今泉 仁志
短期大学部キャリアプランニング科	教授	千賀 博巳
短期大学部キャリアプランニング科	教授	寺本 和子
短期大学部キャリアプランニング科	教授	長谷川 正志
短期大学部キャリアプランニング科	教授	中島 剛
短期大学部キャリアプランニング科	准教授	朝倉 由美子
短期大学部キャリアプランニング科	准教授	木下 賀佳子
短期大学部キャリアプランニング科	准教授	村松 史子
短期大学部キャリアプランニング科	講師	細谷 邦夫

【持続型職業人 SOZO 7'0'2'エト委員会メンバーほか】

所属	役職	氏名
情報ビジネス学部	学部長	佐藤 勝尚
情報ビジネス学部	学科長	三好 哲也
情報ビジネス学部	教授	今井 正文
情報ビジネス学部	講師	山口 満
事務局	局長	前川 文男
渉外部	部長	中村 隆三
渉外部	次長	村松 史子
渉外部	キャリアセンター室長	伊藤 成也
渉外部	キャリアセンター主任	富安 奈々
教育学部	教務課長	佐々木 令
教育学部	教務課係長	遠山 直人
教育学部	教務課主任	増田 勝文
教育学部	教務課	桐木 道彦
嘱託講師		村松 東
嘱託職員		和田 利子

豊橋創造大学短期大学部キャリアプランニング科
プロジェクト連携企業・団体一覧

愛知県豊橋警察署
アビタ 向山店
(株)イシグロウイング
医療秘書教育全国協議会
エイティエイト(株)
エイティエイト(株)春日井工場
NPO 法人 東三河自然観察会
ガーデンガーデン(株)
こども未来館 ここにこ
豊橋市医師会
豊橋祇園祭奉賛会
豊橋市企画部政策企画課
豊橋市産業部産業政策課
豊橋市民病院
西田メディカルクリニック
福井脳神経外科
LACLE FLORISTS
リトルバード
ワタナベローズナーセリ
(敬称略順不同)

活動報告書

目次

- P. 1 朝倉プロジェクト 「大学生コックさんのクッキング(子どもクッキング)教室」
- P. 5 朝倉プロジェクト 「豊橋産の野菜と米粉を使った焼菓子の開発」
- P. 8 今泉プロジェクト 「豊橋の祇園祭を考える」
- P. 11 木下プロジェクト 「ライスフラワープロジェクト」
- P. 13 千賀・中島プロジェクト 「自ら働く意識の向上を目指す取組み」
—地域安全安心を目指して—
- P. 15 寺本プロジェクト 「身近な自然環境発見 発信プロジェクト」
- P. 16 細谷プロジェクト 「医療機関の張り紙適正化プロジェクト」
- P. 17 村松プロジェクト 「I♥ ROZE プロジェクト」

『大学生コックさんの子どもクッキング教室(子どもクッキング)』プロジェクト

I. プロジェクトメンバー

教員:朝倉 由美子
学生:青山 歩 岡田 由香梨
後藤 江梨奈 杉野 里紗
中井 夏未 早川 佳寿美
松井 美樹 渡会 綾子

II. プロジェクト概要

平成 18 年年度から平成 20 年度まで 3 年間、短期大学部では現代 GP の取組み「食をテーマとした地域貢献(食農教育)」において、地域の「食情報や食文化の発信地」としての役割を果たすことを目的とし、多面的に「食」を研究し、地域の食文化向上に貢献しようと様々な企画を実施した。

野菜の栽培から調理までの一連の企画では、幼児教育・保育科の学生が園児と野菜の種まきから収穫、クッキングの補助を行い、一方、キャリアプランニング科調理師ユニットではメニュー考案と料理指導を担当した。

平成 21 年度からは当セミナー単体の活動として継承して、会場を豊橋市子ども未来館『ここ』に移し、小学生対象のクッキング教室として活動を続けており、現在に至る。

本年度から文部科学省に、本学の「持続型職業人 SOZO プロジェクト」(以下 JSSP)が採択され、朝倉セミナーは調理師ユニットで学んだ学生が「実施的スキルのブラッシュアップ」において、おいしいものを作る楽しさや調理に参加する必要性を子どもたちに伝え指導するという環境において、クッキング教室の開催に伴うさまざまな過程を経験するプロジェクトを立ち上げ取り組みを実施することとなった。

III. 連携先企業

豊橋市子ども未来館ココロ

IV. 活動内容

- 年間実施回数 4 回とし、実施時期に合わせた献立を考えた。
- メンバー 8 人を 2 班に分け、レシピ・発注票・タイムテーブル作成と当日の進行等において、2 回ずつ担当することで進めた。
- 『ここ』に事前挨拶とキッチン工房の下見(5 月上旬)
- 実施日より 1 か月前までに手順や注意点等、全体の問題点の検討をしながら、試作を 2~3 回程実施した。
- 前日:仕込み。材料の計量、下処理等。持参品、手順等の最終確認
- 当日:進行役はタイムテーブルに沿って、子どもたちの進み具合を見ながら手順の誘導を行った。メンバーは 2 人ずつ各調理台に配属し、参加者と触れ合いながら、けがの無いように気を配りつつ、料理の楽しさを感じてもらえるようにリードに努めた。
- 毎回試食後にアンケートを取った。
- メンバーも感想や反省点をまとめた。
- アンケート 内容と結果(資料 1~3)

V. 所見

学生総括

- コンロや調理台の高さは、小柄な子どもには高く、フライパンの角での火傷などの怪我が多かった。
- しっかりと子が多く、洗い物もきちんとできて、会話も弾みながら楽しく料理することが出来た。
- 初回の頃は子どもたちとのコミュニケーションが取れなくて苦労した。しかし、料理に慣れている子どもたちが多くて失敗することもなく出来てよかった。
- うまく説明が出来ない部分があったが、それでも自分で動く、動こうとする小学生の行動力には驚いたと同時にとても尊敬できた。

- 最初はすごく緊張していて、子どもたちには挨拶しかできなかった。しかし、だんだん子どもたちとの会話も増えて、とても楽しく出来た。
- この子どもクッキングに参加して主に 3 つ学んだ。まず、子どもの目線で物事を見ること。次に、子どものペースに任せすぎず、リードしていかないと全体の歩調が合わないこと。最後にみんなで協力して作った料理は美味しいということ!

資料 1: アンケート結果(7月2日実施)

質問	参加者 18名		観覧者 12名	
	2年生	3年生	4年生	5年生
① 楽しかったですか?	はい	いいえ	はい	いいえ
② 子どもの説明はわかりましたか?	はい	いいえ	はい	いいえ
③ インストラクターの指導がわかりましたか?	はい	いいえ	はい	いいえ
④ 質問事項の回答がわかりましたか?	はい	いいえ	はい	いいえ
⑤ 当日の楽しさは覚えておられますか?	はい	いいえ	はい	いいえ

質問	2年生		3年生		4年生		5年生	
	男	女	男	女	男	女	男	女
① 楽しかったですか?	4	0	3	1	5	2	0	1
② 子どもの説明はわかりましたか?	0	0	0	0	0	0	0	0
③ インストラクターの指導がわかりましたか?	2	1	1	0	0	1	0	0
④ 質問事項の回答がわかりましたか?	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤ 当日の楽しさは覚えておられますか?	0	0	0	0	0	0	0	0

資料2:アンケート結果(9月10日実施)

参加者数 18名 回答者数 18名
性別別アンケート結果表

①楽しかったですか。
②学びの経験はいかがでしたか。
③「八咫鏡」の味ははいかがでしたか。

④「八咫鏡」のような具が大きいものは、食べたことがありますか。
⑤「あま」はどのくらい好きですか。
⑥「おほろも家」は好きですか。

⑦「おほろも」の味はいかがでしたか。

⑧「おほろも」の味は好きです。

⑨「おほろも」の味は好きです。

⑩「おほろも」の味は好きです。

⑪「おほろも」の味は好きです。

⑫「おほろも」の味は好きです。

⑬「おほろも」の味は好きです。

⑭「おほろも」の味は好きです。

⑮「おほろも」の味は好きです。

⑯「おほろも」の味は好きです。

⑰「おほろも」の味は好きです。

⑱「おほろも」の味は好きです。

⑲「おほろも」の味は好きです。

⑳「おほろも」の味は好きです。

資料3:アンケート結果(12月3日実施)

参加者数 26名 回答者数 26名
性別別アンケート結果表

①楽しかったですか。

②学びの経験はいかがでしたか。

③「おほろも」の味は好きです。

④「おほろも」の味は好きです。

⑤「おほろも」の味は好きです。

⑥「おほろも」の味は好きです。

⑦「おほろも」の味は好きです。

⑧「おほろも」の味は好きです。

⑨「おほろも」の味は好きです。

⑩「おほろも」の味は好きです。

⑪「おほろも」の味は好きです。

⑫「おほろも」の味は好きです。

⑬「おほろも」の味は好きです。

⑭「おほろも」の味は好きです。

⑮「おほろも」の味は好きです。

⑯「おほろも」の味は好きです。

「豊橋産の野菜と米粉を使った焼き菓子の開発」プロジェクト

I. プロジェクトメンバー

青山 歩 ・ 後藤江梨奈
岡田由香里 ・ 杉野 理紗
中井 夏未 ・ 早川佳寿美
松井 美樹 ・ 渡会 綾子

II. プロジェクト概要

朝倉ゼミでは、活動テーマの一つに野菜の摂取量を増やす取り組みを掲げて活動を続けている。
一方、調理師ユニットは米や米粉をテーマとして研究を続けている。
そこで、この両者を合わせて米粉と豊橋の農産物(主に野菜)を使った新たな製品、先ずは日持ちのする焼き菓子を考案することとした。

国産や地産地消の観点から、地元豊橋の農産物への関心を高め、また豊橋の農産物の6次産業化への提案の一つにしたいと、その過程を経験するプロジェクトを立ち上げ、取り組みを始めた。
試作と試食提供のアンケート結果から今後の問題点の検討を行い、完成への経過体験を重ね、創造力と実行力の向上を図ることを目的とする。

III. 連携先企業

株式会社:イングロウイング
くむガーデン

IV. 活動内容

1) 試作と検討
① 野菜入り焼き菓子の候補を上げる。
日持ちのするイタリアンスカナー地方の菓子(ビスコッティ)を参考にして、野菜を混入させたり、小麦粉を米粉に変えたりした。
小麦粉と米粉の割合や、混ぜる野菜の種類、組み合わせ等を変えて焼き、試食をした。
味は良くても、おからの水分が多かったり、油分が入らないので硬すぎたりした。おからの煎り具合を変えたり、配合を変えたりした。また形も不揃いだったりしたため、均一にする方法に付いての検討をした。
2) 試作品アンケート調査
試作検討により現時点での試食品が完成し、夏休み中にくむガーデンの店内カフェにて試食とアンケートを2回行い、同時に接客の経験もした。(資料1)
7月17日(日)10時30分~15時30分
大袋入り 約90枚持参
8月13日(土)10時~12時40分
人参とチョコチップ入り 約90枚持参

3) アンケート結果(資料2)

全体的には良い評価を得たが、硬さと製品への可能性に付いてマイナスの評価があった。
硬さでは大袋では約25%、人参チョコチップでは約30%が「硬い」があった。また、製品への可能性に付いて「販売されたら買いたいか」ではどちらか3分の1は「いいえ」であった。

V. 所見

学生総括
・企業と連携することで、実際に交渉・試作を持って行き、その緊張感がよい体験になった。
・お客様と触れ合うことで、「野菜」や「米粉」についての説明したりなど貴重な経験が出来た。
・接客は楽しかった。
・工夫しながら作る楽しさを改めて感じる事ができてよかった。
・硬さと製品への可能性とは関係している

と思う。アンケートで「硬い」という声があったが、本来硬い焼き菓子であり、そこを活かして製作したものであることの説明やPRが足りなかったのではないかな。

- ・ 形についても検討が必要であろう。
・ ビスコッティにこだわらずに、他の菓子を検討しても良いと思う。

資料1 アンケート用紙

「ベジタリアン娘」アンケート用紙
豊橋創造大学短期大学部 キャリアプランニング科(調理師コース) 朝倉ゼミ
私は米粉をテーマに研究しています。米は自給率の高い穀物で、小麦粉に代わるものとして活用が期待されています。
また、東三河は農業が盛んなので、野菜と米粉(粉の70%)を使ったお菓子を考えることにしました。
今回は油分をほとんど使わないイタリアの焼き菓子「ビスコッティ」をもとに考えました。
本来の材料のアーモンドブードル(粉)の代わりにおからを用いることで食物繊維がアップし、カロリー控えめなお菓子となりました。
『野菜(ベジタリアン)を食ベりん』というメッセージを込めた名前にしました。
まだ開発途中ですので、製品向上のためにアンケートにご協力おねがいをいたします!

資料2 アンケート結果

シソ(大葉)入り		7月17日(日)10:30~15:30頃 実施(人)	
野菜の味は生きてますか?	はい 47	いいえ 7	
野菜の量はどうですか?	ちょうどいい 45	多い 2	
おからは気になりますか?	気にならない 51	気になる 1	
硬さはどうですか?	ちょうどいい 41	硬い 13	
形は食べやすいですか?	食べやすい 47	食べにくい 1	
甘さはいかがですか?	ちょうどいい 43	甘すぎる 5	
販売されたら買いたいですか?	はい 36	いいえ 16	
お飲み物と合いますか?	合う 38	合わない 6	

人参とチョコチップ入り		8月13日(土)10:00~12:40頃 実施	
野菜の味は生きてますか?	はい 19	いいえ 39	
野菜の量はどうですか?	ちょうどいい 36	多い 1	
おからは気になりますか?	気にならない 57	気になる 3	
硬さはどうですか?	ちょうどいい 43	硬い 19	
形は食べやすいですか?	食べやすい 53	食べにくい 3	
甘さはいかがですか?	ちょうどいい 58	甘すぎる 2	
販売されたら買いたいですか?	はい 37	いいえ 18	
お飲み物と合いますか?	合う 46	合わない 2	

ベジタリィン娘 アンケートの自由記述（その他②全体についての意見）

良い感想

- コーヒーとすごく合うお菓子に出会えてよかったです。
- パリッと噛みごたえがいいですね。
- 身体によさそうなので、子供に食べさせたいお菓子。
- 野菜の味（しそ）が活かして「豊橋」というイメージがいい。
- 硬いところが、歯によさそうで販売されたら是非買いたいです。
- 学生ならではのアイデアで良い。応援しています。
- 野菜が苦手ですが、これなら食べられたのでうれしかった。
- 人参嫌いの娘がチョコチップの甘さで食べれたので开心しました。

悪い感想

- ドリンクなしでは食べれないお菓子だと思いました。
- しそが苦手なこともあります。しその味を何とかしてほしいです。
- 硬すぎて大人は食べれますが、子どもはどうなのかな。つと...
- おからのせいなのか...パサパサ感が苦手。
- 商品になったとしても、買わない。買ったら安い値段か量がたくさんか。
- お菓子は甘いイメージだから、あんまりおいしいとは思えない。
- 食べたときにボロボロして食べにくい。

豊橋の祇園祭を考えるプロジェクト

I. プロジェクトメンバー

以下の4名と教員である。

- 朝倉 みなみ
- 中丸 ななみ
- 芳賀 未来
- 森 祐佳

今泉 仁志(教員)

II. プロジェクト概要

2011年3月11日の東日本大震災の後、全国に何かにつけ自粛ムードが広まる一方で、祭りなどによって活性化をはかろうという動きがあった。今年、全国の夏祭りはどうなるのだろうか。祭りは、街の活性化とどう関わりがあるのだろうか。そんな問題意識から、地元豊橋の代表的な祭りである豊橋祇園祭をとりあげ、街の活性化について研究してみることにした。

III. 連携先企業

特定の企業との連携はないが、豊橋市上伝馬町の町内会の人達にいろいろと教えていただいた。

IV. 活動内容

プロジェクト活動が始まるにあたり、タスクの考え方を学んだ。活動内容として考えられるタスクを以下のように皆で書き出し、実行していった。

(1) ネットで調べられること

- 各地の夏祭りの実施予定、例年との変化
- 京都の祇園祭を調べる
- 各地の祇園祭を調べる
- 豊橋の吉田神社祇園祭を詳しく調べる。

手筒花火、打ち上げ花火、頼朝行列

(2) 研究課題

- 今年の吉田神社祇園祭はどうなるのか。
- 祇園祭と町内会との関係
- どういう形で、祭りが維持されているのか。
- 町内会の人、どれぐらい熱心なっているのか。
- サラリーマンの人は、どうかかわっているのか。
- 今後も受け継いでいけるのか。
- 何か、課題はあるのか。

(3) フィールドワーク

- 家族の祭りに対する印象を聞く。
- 町内会の人との話を聞きに行く。
- 実際に手筒花火の様子を見学に行く。
- タスクは分担して調べた。
- iPadの「プロジェクト管理システム」を活用した。
- 必要なタスクをアップし、議事録を記入したり、資料ファイルを保存していった。チャット機能も活用し、メンバー間の意思疎通をはかった。

V. 所見

学生の感想は以下の通りである。

朝倉 みなみ

小さい頃、花火は爆発音が苦手だったので見るときは家のベランダから眺めているだけでした。当然、地元の花火大会に行くのは嫌がり、大きくなってからも誰かを誘ってお祭りに行くという習慣が無くなってきていたので、今回祇園祭に行けてとても新鮮な気持ちになりました。神社には思っていたより人が沢山居ました。人込みは苦手でしたが花火が上がると周囲の人が一様に「おおー」といった感動の声をあげたり、大きな爆発音が鳴るとびっくりして耳を塞いだりしていて、知らない人ともその場の感動を共有することができて楽しかったです。

残念ながら、見ていた場所の関係で手筒花火はあまり見えませんでした。けれど手筒の火が空高く上がっていくところは綺麗だなと思いました。同じく姿は見えませんが、手筒を上げる人はあんなに火の出るものを抱えているなんて凄いなと思いました。

今まで遠くから見ていた花火を近くで見ると、手筒花火はこれからもずっと後世に伝えていくべき伝統行事だと思います。

中丸 ななみ

人が多くて暑いし蚊にさされるし、行っていることはなかったけれど、花火はいつもでも綺麗だと思った。

最後のぼんっ！ってなったのには毎回びっくりしていました。

屋台の数が少なかったから、1つの屋台に結構人が並んでおり、から揚げ、チョコバナナとかフライドポテトとかがあった。

普段やっている花火とは違ってシンプルで、あげる花火は全部同じだけど、手筒をもつ人が様々だから、なんかその人によって同じ花火でも違って見えた。

手筒がすごい重そうなのに平然と持ち上げてるのはすごいと思った。

あと、花火が降ってきたのに、熱くないのかなって思った。

あげている人の花火が終わってぼんっ！ってなったとき、絶対かや顔してると思う。もしあげている人が、イケメンだったら絶対惚れてしまう。

あの日の後日、知り合いの先輩が違う場所でも手筒花火をやっているって聞いて、見に行きたけれど、やはり凄かったしカッコよかった。

芳賀 未来

ゼミを通して初めて真剣に手筒花火を見ました。

前はお祭りのついでに少し見るくらいだったのであまり知らなかったけれど、手筒

花火にもいろんな種類がありびっくりしました。

花火と言ったら打ち上げ花火と思っていたので、手筒花火にはそんなに人が来ていないだろうと思っていたら結構人がいたのでびっくりしました。

最後の大きな音にはびっくりしますが、綺麗でした。

次の日の打ち上げ花火の日しか出店が出ていないかと思っていたら、手筒花火の日も出ていました。

豊橋に住んでいない知り合いに手筒花火の話をしたら知らなかったの、豊橋だけの花火だと知りました。

手筒花火の感想は、小学生、中学生の時に隣の町に住んでいる友達のお父さんが、その町のお祭りで手筒花火をやっていたり、その子の家に遊びに行った時に玄關の間に置いてあって、話を聞かせてくれたり、お祭りに見に行ったりしていたけど、その時はそんなに特別なものだと思っていませんでした。

今年の豊橋の手筒花火には、今は辞めてしまったけれどバイトの先輩が参加して、手筒花火が終わってからの感想の日記を読んだのですが、準備の時からお祭りが終わるまでがすごく内容の濃いもので、こんなに若い自分を参加させてもらえて嬉しいし、ただ手筒花火をあげるだけではなく、人と協力する大切さなど素敵な経験が出来て、この経験は一生忘れなれないと思いました。

友達のお父さんが手筒花火をやっていた頃は私も小学生や中学生なので、綺麗だなとか思いませんでしたが、今年は震災があり、自粛するとの声があがっていたこともあり、いろいろなことを考えさせられました。

震災があって大変な時にお祭りなんてするもんじゃないと考えた人もいましたが、私はお祭りをしてよかった、やることに意

味があるんだと思いました。

手筒花火を見て、火花が飛んでいた手筒を持つ強い姿や、終わりにする大きな音、終わった後の見ているお客さんの大きな拍手、花火をあげた側にもいろいろな思いがあったと思います。

そういうものを震災を受けた地域の方に見てもらえたらきっと勇気もらえるだろうし、自分達も負けずに頑張ろうと思ってもらえて、少しでも力になればと思います。

これからももっと手筒花火をいろんな人に知ってもらえたらと思います。

森 祐佳

初めて見に行っただけ子供でもできるんだと思った。

手筒はでかいのし知らなかったから、いろいろ知ることができてよかったと思った。

でもでかい方が迫力があるから自分は、でかい方が好きです。

手筒花火は、でかい音で「ドンッ」って言うからそれがなるたびにびっくりした。だから、「ドンッ」っていうのやめてほしいって何度も思った。

耳までふさいでもびっくりしたからすごいでかい音なんだと思った。

それに、たくさん人がいて気持ち悪くなったりもしたけど、出店がうまかったので楽しめました。

若い人もいて、人気なのかな？と少し思った。

ライスフラワープロジェクト

1. プロジェクトメンバー

以下の8名と教員である。

- ・青山 歩 ・岡田 由香梨 ・後藤 江梨奈 ・杉野 里紗
- ・中井 夏未 ・早川 佳寿美 ・松井 美樹 ・渡会 綾子
- ・木下 賀律子（教員）

2. プロジェクト概要

食生活の変化に伴い、我が国の米の消費量は減少している。そこで、米&米粉についてのレシピ等を研究し、調理法を公開することにより米&米粉の普及に努める。調理技術の発表の場として、創造祭にて「米&米粉フェア」を開催。（調理作品・パネル・各種の米粉・ライスブレッドクッカーなど展示）グループワークの貴重な機会として、活用する。

3. 連携先企業

- ・エイティエイト株式会社
- ・リトルバード（お米のケーキ屋さん）

4. 活動内容

(1) 学外研修

東三河外食産業展示会を見学
エイティエイト株式会社にて米粉の製造過程など研修
リトルバードにて米粉を使用した洋菓子について研修
米粉の販売状況の現地調査（豊橋市内のスーパー5店舗）

(2) 創造祭

下記の日程で活動を進めた。
8月1日、10日、9月7日 補講（展示作品の練習）
9月22日 展示について話し合い（展示方法など）
9月26日 調理実習の時間に展示作品の練習
9月29日 ポスターについて話し合い・配置、展示の仕方を決定
10月5日 料理教室班…6日までにレシピ完成、参加者のエプロンの用意
作品展示班…材料の手配の仕方、作品について説明できるよう内容把握
10月6日 料理教室の内容をそれぞれ担当者が実際にデモンストレーションして流れを確認
パネルの完成
10月13日 料理教室の総リハーサルと展示作品の配置を決定
10月17日 作品展示料理のポイントを記載

11

防犯プロジェクト

1. プロジェクトメンバー

以下の10名と教員である。

- ・内山 珠江 ・小林 若菜 ・近藤 綾見 ・中川 彰子 ・金子 愛
- ・中村友香里 ・井上 佳奈 ・山崎 沙織 ・小野 由貴 ・小野 慎子
- ・千賀 博巳（教員） ・中島 剛（教員）

2. プロジェクト概要

生育層を振り返る中で、人と人のかかわりの中で働く意識が希薄であることが分かり、人のために働く意識と意欲の向上を図ることが必要であると考えた。そうした中で、地域の安全安心のためにどのような取り組みができるか検討し、防犯ボランティア活動を一つの目標として決めた。防犯ボランティアチームを発足し、その活動を通じて地域の安全安心に貢献するとともに、自ら働く意識と意欲を高めることを目標とした。

3. 連携先企業

- ・豊橋警察署 生活安全課 太田博之 氏

4. 活動内容

下記の日程で活動を進めた。
(1) 4月～6月 ゼミで自分自身の生育層を振り返り、人と人の絆の大切さを再認識した。
(2) 5月11日 ゼミで防犯ボランティアについて話し合い、ボランティアチームに参加し活動することを決める。
(3) 5月18日 豊橋警察署生活安全課太田裕之氏より、防犯ボランティア活動について説明を受ける。
(4) 5月25日 豊橋警察署生活安全課太田裕之氏より、豊橋市の犯罪について説明を受ける。
(以下、各行事に参加する際に事前説明を受ける。)
(5) 6月7日 大学周辺の状況把握のため、挨拶運動と清掃活動をしながら巡回した。
(6) 6月30日 2回目の巡回を行う。
(7) 8月4日 防犯ボランティアチーム「Clean Team SOZO」の発足式を、豊橋駅前ペDESTリアンデッキにおいて行う。その後、駅前にて防犯のチラシを配布した。
(8) 10月1日 少年の立ち直り支援事業「KONOHA FARM UETA」の開園式に参加する。
(9) 10月12日 大学周辺を巡回する。今回は防犯上の危険な箇所の確認をかねて行った。
(10) 10月15日 豊橋祭りに参加予定。（雨天中止）
(11) 10月27日 豊橋駅前にて防犯防止キャンペーンを行った。
(12) 11月30日 駐輪場にて自転車のロックの確認をする。その後、護身術の講習会を行った。
(13) 12月15日 豊橋駅前で行われた「県内集中年末警戒」に参加した。
(14) 12月17日 「KONOHA FARM UETA」農作物収穫祭及び料理教室に参加した。

13

10月18日 展示のレイアウト・看板の作成・プロジェクトターの設置の方法・料理教室の会場設営
10月21日 翌日の創造祭に向け作品完成・会場の飾り付け（写真など）

5. 所見

所見は以下の5つに要約した。

- ・知識
各自の作品を単独で作るという体験を通して今まで知らなかったことについて、より深く知識を得ることができた。失敗したことで初めて気づいたこともあった。
- ・調理技術
作品を作り始めたときは分からないことがあったり失敗したりして苦労したけど、何度も練習していくうちに上達していった。作り方や飾り方を試行錯誤する中で完成度の高い作品にすることができた。
- ・協調性
自分たちの作品をお互いに批評し合い、良い所・悪い所の意見を出し合うことで、工夫や改善ができた。他の人が困っていたら励ましあったり手伝ったりして、クラス全員で協力し合って創造祭成功に向けて努力した。
- ・集合力
創造祭当日まで展示する作品の試作や料理教室のデモンストレーションを何度も実施した。上手くいかなかったり進まなくて嫌になることもあったけど創造祭までの時間はあっという間だった。
- ・企画力
どういった料理展示をしたいか、どんなパネルにしておくかなど自分たちで調べて話し合い、決めていった。創造祭当日はスムーズに動けるように一人一人の役割を決めてスケジュールを立てた。自分たちで企画した創造祭が失敗もなく無事に終わってうれしかった。

12

5. 所見（学生の感想）

小林 若菜

私たちは、豊橋警察署の皆さん等と共に活動を通し、地域の安全・安心に関与できるような活動をしてきました。Clean Teams SOZO（CTS）が結成されてすぐの頃は、「どのような活動が安全につながり防犯になるのか」、「どうしていけばいいのか」など分からないことばかりでした。しかし、さまざまな活動を経験するなかで、私は防犯対策のチラシ配りや呼びかけの大切さなど、小さなことの積み重ねが地域の安全・安心という大きなものに繋がると気がきました。私たちが率先して活動をする事によって、少しでも多くの方を知ってもらえればCTSを結成してよかったと思いました。そして、地域の人たちと連携をとりながら、人と人の繋がりをより深め、大切に、犯罪のない明るい街づくりが出来るよう私たちは活動していきたいです。また、より多くの人たちにこの活動に参加してもらえるように、CTSの輪を広めていけたらと思います。

14

身近な自然発見・発信プロジェクト

I. プロジェクトメンバー

キャリアプランニング科2年
中畑 沙耶
清水 雅
キャリアプランニング科教員
寺本 和子

II. プロジェクト概要

愛知県の東三河地方は、多様性に富んだ地形を有し、その結果、東三河の自然もまた多様である。

しかし、これら多様な生物の現状は決して楽観できない。生息地の破壊、生物種の持ち出し、また逆に生物の持込または侵入、地球温暖化の影響等々、東三河の自然にも変化の兆しが見られる。

私たちプロジェクト参加者は、まず、東三河の自然の現状を知ること努める。その後、地域の人たちを中心に、自分たちの知れた情報を伝え、少しでも東三河の自然を守ることにつながればという期待を持って行動する。

III. 連携先企業

NPO法人 東三河自然観察会

IV. 活動内容

NPO法人東三河自然観察会の会長をはじめとする会員の人たちと共に自然を観察し、会員のアドバイスを受けながら観察記録をまとめた。

具体的な観察地は、葦毛温泉、豊橋公園および田原市権現の森である。

各観察地の情報は、ホームページを立ち上げ発信した。

V. 所見

葦毛温泉では、早朝から鳥のコーラスを聴くこ

とができ、また周辺で見れないようなスズメバチも観察することができました。私たちが歩いた道は、緑で生い茂っていましたが、約40年前は今のよう

に木がたくさんあったわけではないようです。豊橋公園では、羽化したてのクマゼミとその抜け殻を発見し、今まで見たことのないシンチエーションに感動しました。後半には、3班に分かれ

私たちは虫探検隊に加わり、虫探しに専念しました。田原市権現の森では、山登りをしながら楽しく観察することができました。数個の切り株を見つけ、自分たちで年輪を数え、木の年齢を知ることができました。

自然観察会に初めて参加しましたが、早朝から活動することで有意義な1日を過ごすことができました。今まであまり積極的に感じることもなかった自然を改めて肌で感じることができ、知識も少し増えました。また機会があればぜひ参加したいと思います。

15

I ♥ ROSE プロジェクト

1. プロジェクトメンバー

以下の14名と教員である。

・安藤 美保 ・伊藤 美咲 ・伊藤 由実 ・笹野 綾子 ・杉山 未央 ・浜田 佑希
・早川 りほ ・新美 友佳里 ・前田 裕果 ・高城 やよい ・村松 めぐみ ・大谷 梨紗
・新村 春花 ・三浦 菜々子
村松 史子 (教員)

2. プロジェクト概要

バラの販売促進の学生コンサルタントを目指し、販売の工夫・利益を得る事の大変さを体感し考えさせる。

その実施内容として

- ①新鮮な薔薇の販売ルートを知り地産地消のシステムを考えさせる。
- ②SOZOブランド商品のマネジメント。(新商品の開発)
- ③バラについての研究を学園祭に発表し、販売をする。

3. 連携先企業

・「Watanabe Rose Nursery」渡辺農園 渡辺 真臣 氏
〒441-3602 田原市八王子町道上18 ☎ 0531-37-0117
・ガーデンガーデン株式会社 坂井 奈津子 氏
〒441-3147 豊橋市大岩町字境目35-8
・LACLE FLORISTS 代表 市川 香織 氏
〒440-0896 豊橋市萱町14 八千代ビル1F

4. 活動内容

(1) 学外見学

・渡辺農園を訪問し、実際の育成現場の見学
美しい薔薇を育てる工夫や苦労を体感した。

(2) 日程

4月 6日 アイディアの集約、取り組み内容の精査、計画
・年間スケジュールの計画、確認
5月 18日 渡辺氏来校し農園の状況説明と学生との顔合わせ
・花を作る思いと流通について語った
・学生よりの発案で、ブログでの情報交換を行うこととなった。

5月下旬 ブログ立ち上げ「想像の薔薇 ~blue rose~」

創造短大のバラ園とのコラボレーション！ sozoブランドを立ち上げる((o(*o*)o))

17

医療機関の貼り紙適正化プロジェクト

I. プロジェクトメンバー

大久保 友美
鈴木 亜沙美
小林 由希名
浜元 千恵美

II. プロジェクト概要

細谷セミナーではITを活用した医療事務をテーマとしているので、「実践的スキルのブラッシュアップ」について、実際の医療機関にお邪魔して、医療機関にも患者さんにも役に立つことが無いかと考え、本プロジェクトを立ち上げるに至った。

プロジェクト発足のきっかけは、医療事務実習で伺った医療機関内には多くの貼り紙があり、見た目にも汚いだけでなく、患者さんに対する情報伝達としての役割が果たせていないという印象があったことである。

学内にはA1サイズが印刷できる大判プリンタがあるので、これを利用して もっと患者さんに見易いような貼り紙にできるのではないかと考え、以下の医療機関の協力を得て、どのようにすればいいかを考えることにした。

III. 連携先企業

福井脳神経外科
西田メディカルクリニック
豊橋市民病院

IV. 活動内容

医療機関は様々な法律により規制を受けているが、院内の掲示物についても、医療法や感染症担当規則などにより、貼るべきものが決められていることを学んだ。

学んだことを踏まえて上記3件の協力医療機関を訪問し、貼り紙の実態やスタッフの要望を聞き取り調査した。

訪問調査の結果、貼り紙は同じカテゴリのもの、例えば治療費にかかるもの、診療の案内にかかるもの、院内での注意事項、その他の情報提供などに分類し、それらを1枚にまとめて、院内の壁をスッキリさせる事ができると考えた。

他にも患者さんとのトラブル(携帯電話や順番待ちなど)に対する啓蒙をする掲示物が欲しいとの要望もあるため、それらについても作成することとした。

12月現在、原案を医療機関に確認して頂き、最終版を作成中である。

次年度以降は患者さんの意見も反映し、更なる充実を目指すように後輩に託す予定である。

V. 所見

目的を達するため、個々の作業・役割を明確にした上で、学んだ事や収集した情報を整理し、形にしていけることを体験することができた。また、お互いに意見交換することや、現場の方のご意見により、成果物がブラッシュアップされる事の面白さが理解できた。

もっと新しい発想やアイデアが出せれば、よりよい物が出来たと思うが、自分の意見や主張もうまく伝えきれない状況であった。

<http://ameblo.jp/sozo-rqse/>

7月27日 渡辺氏を迎え、学園祭に向けて目的・手段・問題点を話し合った。

・薔薇園の見学を8月2日に決定した。

8月2日 台風の接近により薔薇園訪問を中止。

9月28日 渡辺氏、坂井氏、市川市を迎え、学園祭に向けての最終の打ち合わせを行った。
・薔薇の販売本数、単価設定、ラッピング方法、販売利益はチャリティとし、東日本大震災に寄付。

10月2日 渡辺農園訪問(ゼミ生7名+教員)(8月2日の予定を変更)

10月12日 学園祭に向け、看板・ポスター作成

10月22日~23日 学園祭

・学園祭にて薔薇を販売 【完売】

12月21日 プロジェクト成果発表会

5. 所見

学生の声 (一部連携者含む)

村松 : 若い人は興味を持つがなかなか買ってくれなかった。若い薔薇は人気で早く売れた。「お進めは？」と聞いて買われる人がいて楽しかった。

三浦 : 2日目から協力ができなかったが、準備で頑張った。学生らしいことが無かったのが最後の良い経験をした。

杉山 : 友だちが無かったが、ゼミで深まった。薔薇を積極的に勧められるようになった。

大谷 : 2日目の追加の薔薇を運ぶことが出来た。

新村 : 準備のみで、当日は来ることが出来なかった。

BOSS(連携者) : 予想以上の売れ。みんなの頑張りのおかげ。甲子園の優勝監督のようだ。最初は声が出なかったが、徐々に声が出るようになった。素晴らしい。

坂井(連携者) : 今回で3回目。短時間でいろいろなことを克服し頑張ってくれた。「若い薔薇売れます」「どうしよう」「もうこれだけ売れた」とか薔薇を取りに走ったり、笑顔で並んでお客様に接する若いパワーは凄いなあと思った。

これがきっかけで、新しいものが作れたら良いと思いつながら楽しい時間を過ごさせてもらった。

前田 : 目的が果たせた。まとめるのが大変だった。先生とも喧嘩した。つぶれればいいのにとおもう。ゼミの時間の水曜日しか開けなかったがもっと早くから取り掛かれば皆と一緒と仲良くなれたと思う。

高城 : 特にやることなく、裕果(前田)に全部やらせていた。学園祭は指示されるまま遅くまで準備したことが学生らしいと思った。農園の訪問はいい思い出となっている。

伊藤 : 文化祭は平気な売れなかったが、ダンス部を優先して良いといわれて嬉しかった。

伊藤 : もっとたくさん薔薇があったほうが良かった。若い薔薇はすぐ売れてしまった。忙しか

18

ったけどゼミの人との交流が出来た。リボンの縛り方は最初は難しかったが簡単に出来るようになり嬉しかった。

笹野 : リボンの結び方を教えてもらった。初日は BOSS や坂井さんがいたが、2 日目はいないのでお客様に聞かれて答えられなかったので知らなければと思った。青い薔薇は直ぐに売れてしまった。翌日も問合せがあり、翌日もあればよかったと思った。

安藤 : サークルの仲間も興味をもってくれたので、売れる事が出来た。青い薔薇ではなく他の薔薇を売った。長く持ったと言われたのは、新鮮だからだと思った。

新美 : ゼミの皆と仲良くなれたのが良かった。

浜田 : 自分だけ何もしないのでは・・・と思った。足手まといなのは・・・とも思った。接客が向いてないと今回初めてやってみて思った。とても難しいと思った。薔薇を売る体験を通して、仕事とはどういうものかを知ることが出来たし協調性もついた。

《教員所見》

田原市の薔薇農園とプロジェクトを組む当初の大きな問題、距離の問題を学生たちは簡単に解消してくれた。それは、ブログでの情報交換を取り入れることであった。ブログを通して渡辺氏から薔薇の生育状態や咲いている薔薇の写真が送られ、学生たちがそれを見ることによって身近に薔薇を感じることが出来たと思われる。

また、薔薇園の見学をしたことにより、学生たちが何に取り組むかが明確になったと感じることが出来た。8月2日に計画した訪問が台風により延期となり10月2日となったが、「災い転じて福となす」のいわれがあるが、遅れたことが幸いしたのか、文化祭が近いことから具体的な発想に繋がってくれたようだ。

このプロジェクトは、学生が自ら発想し、実行してきた。その結果を学生たち全員が一丸となって成果発表表に向かっていくことが教員にとっては何よりのものとなっている。

情報ビジネス学部3・4年生は、4月から取り組んでいるプロジェクト活動の集大成として、ご協力いただいた企業・団体の方々をお招きして「プロジェクト活動 成果発表会」を開催した。

学生達はこれまでの活動をプロジェクトチームごとにスライドにまとめ、堂々と発表することができた。また、プロジェクト活動を通して社会人としての心構えを身につけた学生達の多くはスーツ姿で発表会に臨んでいた。本格的な就職活動が開始したこともあり、その表情は普段学内でみせる姿と違い、随分と引き締まった大変印象深いものであった。

発表会終了後には、お世話になった企業・団体様を囲んでの懇親会も開催され、その席上では、教員と参加学生による投票で選出された3つのプロジェクトチームが学長賞として表彰された。会場には活動成果を認められた受賞メンバーだけでなく、プロジェクト活動をやり遂げた達成感とお互いの活動内容を称えあう学生同士の誇らしげな笑顔であふれていた。

地域とのつながり・関わりを学生自らが考える足掛かりとして取り組んだプロジェクト活動は、今回の成果発表会をもって今年度の活動を終了したが、この1年、学生達は机上の理論だけでは身につけることができない様々な知識を皆様から頂戴し、随分と成長することができた。

プロジェクト活動をとおして、ご支援・ご指導をいただいた皆様に、この場を借りてお礼を申し上げたい。

情報ビジネス学部 プロジェクト活動成果発表会

開催日：平成23年12月22日（木）

会場：豊橋創造大学 B14 教室

参加人数：情報ビジネス学部3年生 47名

〃 4年生 4名

来賓 9名

教職員 28名

来賓：(株) サーラコーポレーション 総務部 鈴木 三博 様

(株) サイエンスクリエイト

インキュベーション事業部次長 齋藤 敏 様

ヤマサちくわ(株) 総務部 総務課長 早川 尚宏 様

豊橋商工会議所 青年部

炎の祭典委員会 委員長 佐野 大輔 様

副委員長 白井 成明 様

〃 西崎 宏軌 様

〃 藤田 修一郎 様

(株) ブレインシティ 代表取締役 市原 清志 様

豊橋市企画部政策企画課 主査 増田 明 様



持続型職業人 SOZO プロジェクト

情報ビジネス学部 プロジェクト活動 成果発表会

持続型職業人SOZOプロジェクト
プロジェクト活動 成果発表会

日時:平成23年12月22日(木) 4限~5限
場所:豊橋創造大学 B14教室

次第:
14:50 ~ 開会
14:50 ~ 学部長挨拶
プロジェクト主旨説明
15:00 ~ プロジェクト発表

<第1セッション>

順番	発表時間	プロジェクト	プロジェクトテーマ
1	14:55 ~ 15:03	石田プロジェクト	外食産業におけるロジスティクス・システムの研究
2	15:07 ~ 15:15	今井久プロジェクト	福祉施設で紙芝居
3	15:19 ~ 15:24	今井正プロジェクト	ビジネス系学生のための情報処理資格に向けた電子コンテンツの改善活動
4	15:28 ~ 15:36	見目プロジェクト	豊橋市内小中学校の太陽光発電システムの稼働状況調査
5	15:40 ~ 15:45	中野一プロジェクト	会計事務所の業務内容と組織の仕組みを知る
6	15:49 ~ 15:57	中野聡プロジェクト	社会的企業の実証研究
7	16:01 ~ 16:06	花園プロジェクト	豊橋産プロジェクト

<第2セッション>

順番	発表時間	プロジェクト	プロジェクトテーマ
8	16:20 ~ 16:28	三好プロジェクト	豊橋自営企業のトップインタビュープロジェクト
9	16:32 ~ 16:40	三輪プロジェクト	学食広報プロジェクト by 学食おうえん団
10	16:44 ~ 16:49	森田プロジェクト	東三河における繊維産業
11	16:53 ~ 16:58	山口プロジェクト	炎の祭典支援プロジェクト
12	17:02 ~ 17:07	吉川・片岡プロジェクト	東三河 Bible
13	17:11 ~ 17:19	五味プロジェクト	認定試験に受かるための学習環境と運営

17:25 ~ 学長挨拶
17:30 ~ 閉会
17:30 ~ 事務連絡
17:50 ~ 懇親会及び表彰式
18:30 ~ 終了

以上

平成23年12月22日
豊橋創造大学
情報ビジネス学部

豊橋創造大学 情報ビジネス学部 プロジェクト成果発表会

参加者名簿

【来賓】 敬称略順不同

会社名	役職名	氏名
㈱サーラコーポレーション	総務部	鈴木 三博
㈱サイエンスクリエイト	インキュベーション事業部次長	齋藤 敏
豊橋商工会議所	青年部 炎の祭典委員会 委員長	佐野 大輔
豊橋商工会議所	青年部 炎の祭典委員会 副委員長	白井 成明
豊橋商工会議所	青年部 炎の祭典委員会 副委員長	西崎 宏帆
豊橋商工会議所	青年部 炎の祭典委員会 副委員長	藤田 修一郎
豊橋市企画部政策企画課	主任	増田 明
日本ゼネラルフード㈱		
㈱ブレインシティ	代表取締役	市原 清志
本多電了㈱	代表取締役	本多 洋介
ヤマサちくお㈱	総務部 総務課長	早川 尚宏
㈱ワルツ	本社 外食営業部 統括マネジャー	河川 峰夫
㈱ワルツ	本社 広域グループチームリーダー	石原 浩司

【本学教員】

所属	役職	氏名
豊橋創造大学	学長	伊藤 晴康
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	学部長	佐藤 勝尚
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	学科長	三好 哲也
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	教授	石田 宏之
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	教授	今井 正文
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	教授	片岡 眞吾
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	教授	見目 真重
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	教授	島田 大助
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	教授	中野 聡
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	教授	中野 聡
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	教授	森田 和正
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	教授	吉川 優
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	准教授	今井 久登
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	准教授	加藤 尚子
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	准教授	五味 悠一郎
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	准教授	花園 幹明
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	准教授	三輪 多恵子
情報ビジネス学部キャリアデザイン学科	講師	山口 満

【持続型職業人 SOZO プロジェクト委員会メンバーほか】

所属	役職	氏名
キャリアデザイン科	科長	今泉 仁志
キャリアデザイン科	教授	千賀 博巳
キャリアデザイン科	講師	細谷 邦夫
事務局	局長	前川 文男
渉外部	部長	中村 隆三
渉外部	次長	村松 史子
渉外部	キャリアセンター室長	伊藤 欣也
渉外部	キャリアセンター主任	富安 奈々
教学部	教務課長	佐々木 令
教学部	教務課係長	遠山 直人
教学部	教務課主任	増田 勝彦
	教務課	桐木 道彦
嘱託講師		村松 東
嘱託職員		和出 利子

豊橋創造大学情報ビジネス学部
プロジェクト連携企業・団体一覧

愛知県三河緑地技術センター	東三河障がい者しごとセンター
NPO 法人 インターネットラーニングアカデミー	広島国際大学
(株)エフエム豊橋	ヒロ夕(株)
小畑耕一公認会計士事務所	(株)平松食品
(株)キューソー流通システム 春日井営業所	(福)福寿園 昭和の里
(株)サイエンスクリエイト	(有)孝匠 榊原
(株)サーコーポレーション	(株)ブレインシティ
(医)豊岡会	本多電子(株)
豊橋市教育委員会	ヤマサちくわ(株)
豊橋市企画部政策企画課	老人保健施設 明穂苑
豊橋市産業部産業政策課	(株)ワルツ
(福)豊橋市社会福祉協議会	(敬称略順不同)
豊橋市総合福祉センター あいトピア	
豊橋市立豊南中学校	
豊橋市立青陵中学校	
豊橋市立東部中学校	
豊橋市立東陵中学校	
豊橋市立南陵中学校	
豊橋市立羽田中学校	
豊橋市立豊城中学校	
豊橋市立北部中学校	
豊橋市立吉田方中学校	
豊橋市立植田小学校	
豊橋市立老津小学校	
豊橋市立大崎小学校	
豊橋市立新川小学校	
豊橋市立杉山小学校	
豊橋市立夏丘小学校	
豊橋市立津田小学校	
豊橋市立つつじヶ丘小学校	
豊橋市立福岡小学校	
豊橋商工会議所 三遠南信地域社会雇用創造事業	
豊橋商工会議所 社会起業インキュベーション事業	
豊橋商工会議所 青年部 炎の祭典委員会	
南部デザイナーズセンター	
日本ゼネラルフード(株)	

活動報告書

持続型職業人 SOZO プロジェクト プロジェクト活動報告書 (学生) 情報ビジネス学部

「外食産業におけるロジスティクス・システムの研究」

—— 物語語コーポレーションを事例に ——

目次

P. 1	石田プロジェクト	「外食産業におけるロジスティクス・システムの研究」
P. 5	今井(久)プロジェクト	「福祉事業支援」
P. 8	今井(正)プロジェクト	「ビジネス系学生のための情報処理資格に向けた電子コンテンツの改善方法」
P. 12	見目プロジェクト	「豊橋市内小中学校の太陽光発電システムの稼働状況調査」
P. 16	中野(一)プロジェクト	「会計事務所の業務内容と組織」
P. 18	中野(聡)プロジェクト	「社会的企業の実証研究」
P. 21	花岡プロジェクト	「豊橋筆プロジェクト」
P. 24	三好プロジェクト	「豊橋自慢企業のトップインタビュープロジェクト」
P. 28	三輪プロジェクト	「学食広報プロジェクト by 学食おうえん団」
P. 34	森田プロジェクト	「東三河における繊維産業」
P. 37	山ロプロジェクト	「炎の祭典支援プロジェクト」
P. 41	吉岡・片岡プロジェクト	「東三河 Bible」
P. 43	五味プロジェクト	「認定試験に受かるための学習環境構築と運営」

I. プロジェクトメンバー

リーダー: 山田十五
メンバー: 井垣翔太、洞口貴紀、野間洋佑
指導者: 石田宏之

II. プロジェクト概要(目的)

本プロジェクトの目的は、一つ目が、株式会社物語語コーポレーション(以下『物語』と略す)を事例として、食材の仕入れから各店舗へ食材が供給(納品)されるまでの『情報の流れ』と『ものの流れ』の実態を調査することにより、ロジスティクス・システムが『物語(企業)』に対して果たしている役割と機能を分析することである。

二つ目が、プロジェクト活動を通し、①メモの取り方・要約の仕方、②テーマの進め方、③分析力・理解力、④問題発見能力(本プロジェクトでは、これらを就業力基礎能力とする)を習得するとともに、協力企業との交渉、ヒアリング調査、施設見学を通して、①挨拶・応答態度②コミュニケーション能力、③リーダーシップ、④報告・連絡・相談(本プロジェクトでは、これらを社会人基礎能力とする)を養うことである。

III. 連携先企業(調査対象企業)

調査対象企業は、『物語』(本社購買部、店舗、麺工場)、ロジスティックの機能を委託しているワルツ株式会社(以下ワルツと略す)および株式会社キューソー流通システムの春日井流通センター(以下 KRS と略す)である。

『物語』(本社:愛知県豊橋市神野新田町二ノ割 1)は、焼肉、ラーメン及びお好み焼レストランチェーン、専門店の直営による経営とフランチャイズチェーンを全国展開している外食産業であり、従業員数 社員 427 名 時間制従業員 3,569 名(2011 年 6 月 30 日現在)である。

『ワルツ』(愛知県豊橋市神野新田町二ノ割 1)は、カフェ、喫茶店、ホテル、レストラン、洋菓子店等へのコーヒーをはじめ、紅茶、製菓・製パンの材料、食材、器材、直輸入品の卸および小売販売並びに提案営業を行っている会社であり、プライベートビジネスとして「焼肉一番カルビ」、「焼肉きんぐ」、「丸源ラーメン」などを経営し、『物語』のロジスティクス機能が全て委託されている会社である。

『KRS』の春日井流通センター(愛知県春日井市神野町字地福 1218-11)は、『物語』の食材等の保管・在庫および各店舗への配送が『ワルツ』から委託されている企業である。

IV. 活動内容

1. ロジスティクス・システムの役割
企業におけるロジスティクスの役割は、製造業・卸売業では買手、小売業では店舗が求める物流ニーズに応えるための顧客サービスを提供し、競争優位のひとつとしての「ロジスティクス力」を構築することである。

ロジスティクスでいう「顧客サービス」とは、注文充足率(品切れを起こさない確率)、リードタイム(発注してから納品されるまでの時間)、ロットサイズ(注文の単位)、配送頻度などを指す。これらサービスのそれぞれの水準を定め、それを前提に「必要なとき、必要なものを、必要な量」だけ届けるための仕組みが、ロジスティクスシステム(仕組み)である。それを実現するための物流の 6 つの機能(輸送、荷役、包装、保管・在庫、流通加工、物流情報)を実施する地点が、物流拠点(流通センター)である。

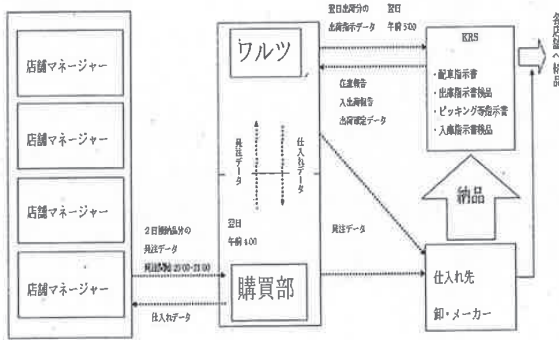
2. 物語語コーポレーションのロジスティクス・システム

① 発注から納品までの情報の流れ

持続型職業人 SOZO プロジェクト プロジェクト活!

各店舗からの発注をワルツで集約しメーカー・卸等に一括仕入れし、KRS から店舗まで食材が納品されるまでの「情報の流れ」は図-1 に示すとおりである。

図-1 店舗発注から納品までの情報の流れ



② 仕入れ先から店舗までの食材物流の流れ

仕入れられた食材が、KRS 他から各店舗まで納品される「ものの流れ」は図-2 に示すとおりである。

図-2 KRS から各店舗納品までの物の流れ

いました。ロジスティクスという一つの知識として得たことはもちろんですが、それ以外にこれから社会に出て、恥ずかしくない大人に必要なものも私は得られたと感じています。そして、ゼミの思い出としても残るものになったと思います。今後も引き続き調査する中で、さらにこれらの能力と知識を深めていきたいと思っています。

井垣翔太

今プロジェクト活動をしているが、まず思ったことは大学を卒業し就職する前に会社の中身や社会を知れて良かったと思う。そして僕は大学を卒業する前に、様々な事を学ばなければならなかったと感じた。あいさつ、礼儀などは当たり前ながらも、議事録の作成やメモの取り方一つに、満足できていない自分に気がつくことができた。

僕たちのゼミでは物語コーポレーションの物流の「情報の流れ」と「ものの流れ」の実態を調査すると共に、石田ゼミで設定をした就業力を養うという目標を掲げた。

その中でも挨拶に関しては、しっかりできたと思う。社会のマナーでもある挨拶は学生うちに完璧にしたい。その他のコミュニケーション能力などは経験不足のため、意識を持ち向上を目指したいと思う。

瀬口貴紀

石田ゼミで学んでいるロジスティクスシステムについて調べるために物語コーポレーションさん(以下、物語)に協力を依頼し、まず物語での物流について話を聞いたところ、物語では物流をワルツとキューソー流通センター(KRS)に任せていることが分かった。

その中で、自分は荷役・包装を担当しており、KRS について興味を持った。KRS の作業員の方は上着を着ただけの防寒対策でその中でも作業をしていた。KRS でマイナス 22 度の冷凍庫の中で話を聞きながら写真も撮ったことは

でも印象に残っている。

ゼミでロジスティクスの仕組みや役割について調べていくことで、今まで身近にありながらも気にもかけなかったことについて新たに学ぶことができた。話を聞き、いろいろな物を見てとても楽しかった。初めて積極的にひとつのことに対して一生懸命調べることができたのでとても満足している。

野間洋佑

正直プロジェクト活動が始まるまではロジスティクスについて全く興味がなかった。だが、その機能についてみんなで話し合ったり、実際に協力していただいた企業へ調査や質問へ行き、少しずつだが理解できるように真剣に取り組むことができた。

私が調査に行った中で 1 番関心を持ったのが物流センターである(株)キューソーである。まず、広さにびっくりしたり、その中を普通にフォークリフトが走っているのにも驚いた。フォークリフトに始め、ソーターやハンディターミナル、情報の管理の仕方にも驚いた。冷凍庫の中に入った時は本当に寒すぎてやばかった。

こういったことを 1 年間通して行い、自分たちなりに理解し、まとめることができた。途中ではあるが確実に始めたころより知識を増やすことができたし、今後社会に出たときに必ず何かに役立つ内容だったと終わってから実感した。

① 店舗が求める顧客サービスの役割と機能
・ 仕組みの前提となる顧客サービスの水準は、注文充足率ほぼ 100%、リードタイム 2 日、ロットサイズはピース単位、配送頻度は週 6 日と設定した。

・ 店舗マネジャーの采配で、品切れ品目を起こさないように売れるだけの食材等を仕入れるようにしており、食材の安定供給と機会損失を最小限に抑えている。

・ リードタイムを 2 日に設定し、在庫に余裕を持たせ、品切れ率 0% を目標に売上増大に貢献している。また、KRS の作業に余裕を持たせている(出荷指示は翌日使用する食材の配送であり、センター内作業に余裕ができる)。

・ 店舗から送られてくる発注データを集約し、一括発注による仕入コストの削減を図っている。

・ 保管、荷役、配送の温度帯管理や賞味期限管理、出庫期限管理などにより、品質の保持が図られている(コールドチェーン・システムの確立)。

・ 週 3 日納品から 6 日納品に変更したことにより店舗在庫スペースの削減を図り、そのスペースを客席スペースの増大に結びつけた。

② 各機能のコスト削減努力

1) 配送

・ 複数店舗をルート配送により巡回配送することでトラック台数の削減と積載率の向上を図り、配送コストの削減に努めている。

・ 『物語』の配送だけでは積載率が低いルートの場合には、他の荷主との共同配送により、コスト削減を図っている。

2) 保管・在庫

・ 週 3 日配送から 6 日配送に変更して、店舗在庫および KRS 在庫の削減を図った。

・ 一括受注一括発注により在庫削減を図っている。

3) 荷役・包装

・ 流通センター内作業の IT 化により、作業人員の削減を図っている。

・ センター内の移動作業にはパソコンの機能を備えたフォークリフトにより、出入庫作業および入出荷検品の正確性の確保と省力化を図っている。

4) 物流情報

・ 受発注システムの構築により、リードタイムの確立を図るとともに、流通センター内作業のペーパーレス化による作業の迅速化・効率化を図るとともに省力化を支援している。

4. 就業力達成度(自己評価)

目的の二つ目の就業力の達成度を自己評価(メンバー全員の平均値)すると以下の通りである。

① 就業力基礎能力

- ・メモの取り方・要約のしかた:90%
- ・テーマの進め方:80%
- ・分析力・理解力:60%
- ・問題発見能力:50%

② 社会人基礎能力

- ・挨拶・応答態度:100%
- ・コミュニケーション力:70%
- ・リーダーシップ:60%
- ・報告・連絡・相談:60%

V. 所見(感想)

山田十五

ほぼ一年間を通して取り組んできたこのプロジェクト活動を振り返ると、自分の成長した点、自分にある能力などが明確ではありませんが、少しずつわかるようになってきたと思います。それらは、先生に言われてきたことが無意味なものではなく、ゼミ生一人ひとりに必要な能力や大人になっていく上で重要なことだったということに気づきました。任されたゼミ長という名だけではありますが、まともな役をすることができてよかったと思います。なぜか、というのを言葉で上手に表すことはできませんが、成長できていると思

福祉支援事業 今井久登ゼミナール

I. プロジェクトメンバー

- 今井久登 先生
- 古川 万莉
- 天野 新太郎
- 芝崎 智祐
- 竹下 聡起

II. プロジェクト概要

私たちのゼミでは、ボランティア活動を通して福祉施設の現状を理解すること、介護福祉士の仕事を理解すること、入所者の方と触れ合うことを目的として、福祉施設に訪問してボランティア活動を行う。

III. 連携先企業

- 豊橋市社会福祉協議会 あいトピア
- 社会福祉法人福寿園 昭和の里
- 社会福祉法人明陽会 明陽苑
- 豊橋市大清水地域福祉センター

IV. 活動内容

前期の活動では、社会福祉法人福寿園と医療法人明陽会明陽苑に訪問し、紙芝居のボランティアを行った。後期の活動では、豊橋南グレイケアセンターに訪問し、紙芝居のボランティア活動を行うとともに施設見学を兼ねて入所者の方と交流したり、施設の方と話をし、福祉施設の現状を理解した。また、インターネットを使用し介護福祉士の仕事について調べ学習並びに施設に訪問し、実際に介護福祉士の仕事を

学した。

後期の活動では、前期活動でできなかった施設職員とのコミュニケーションの実施と入所者の方との触れ合いを行った。職員の方や入所者の方と話をしてみると、インターネットなどの調べた情報とは違い、実際の仕事の大変さや、施設の現状など生の声を聞くことができた。

施設職員だけでは大変な仕事があるため、常時ボランティアの方がいて、施設職員の方の仕事を手伝っている現場を見ることもでき、就業者と介護職のスマッチが実際にあることを見ることができた。



ボランティア活動では紙芝居の上演の他、入所者の方と折り紙工作を行ったり、五目並べで対戦しながら、コミュニケーションを取った。紙芝居では、笠地蔵やカチカチ山の狸等を上演を行いお年寄りの方に変身された。

V. 所見

古川 万莉

前期は、すべてがグダグダでした。福祉施設に行くとボランティアの一環として紙芝居をやったけど、ボランティアをしてきたんだという実感とか達成感というかよ

ったなという気持ちで正直無かった。2施設紹介していただいて実際に行くと紙芝居をしてきたけど、職員の方や入居の方が喜んでくれてるなって感じがしなかったので実感が無かったんだと思います。反省点を話しているときに、ゼミの他の人や先生も同じ考えを持っていたという事が分かったので改善策を考えました。

ボランティアは一般的にはその施設のお手伝いをするってことって事を考えたときに今の紙芝居だけだとさみしいじゃないかという事になり、紙芝居はちょっと置いて見学という形でボランティアに行くという結果になりました。実際後期で南ティケアセンターに見学メインで紙芝居はできればという形で行って、入所者の方と一緒に何か作ったり遊んだりしました。前期の時とはまったく違って施設の方も喜んでくださって、入所者の方からも「かみしばいよかったよ」と言ってもらいました。みなさんが喜んでくれてそれを表情と言葉で感じることができたので自分もボランティアしてきたんだと実感できました。ここでボランティアができてよかったなと思いました。



天野 新太郎

医療福祉施設、ボランティア施設を就職活動の視野を広げること、医療福祉施設の現状を理解することを目的に見学、訪問し、医療福祉施設やボランティア施設の一端にふれました。

まず、こちらから医療福祉施設、ボランティア施設にボランティア活動を目的に伺ってもよいかを電話で質疑応答し、施設に伺う日時などを打ち合わせすることによって、電話応対のマナーや、重要事項のメモ取り、模擬的な交渉によるメンタル面の強化に繋がりました。

医療福祉施設、ボランティア施設で行った主なボランティア活動としては、福祉施設利用者を対象とした紙芝居でした。

この紙芝居というボランティア活動は、集団の中で用意していた資料(紙芝居)を正確にわかりやすく発言することによって擬似的なプレゼンテーションを体験することに繋がりました。

医療福祉施設は比較的介護度が低い人が話し相手を求めて集まる憩いの場でもあり、初めて利用する人もおり、若後のコミュニケーションの大切さを知る場所でもありました。



6

ビジネス系学生のための情報処理資格に向けた電子コンテンツの改善活動

1. プロジェクトメンバー

- プロジェクトメンバーは、以下の7名である。
- 豊橋創造大学 情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科
- 20923219 西山 拓磨
- 20823230 木村 翔太
- 20823102 井本 博崇
- 20823105 小倉 巧夢
- 20823112 白井 雅也
- 20823124 松野 啓右
- 20823223 高須 健太
- 担当教員 今井正文

II. プロジェクト概要

CompTIA Strata 認定シリーズは以下の社会人もしくは学生などを対象に作られた IT に関する基本となる知識、スキルを認定するプログラムである。

- ・ITに關係する營業職種の方
- ・新たにIT関連の職務に就かれる方
- ・IT関連の就職を希望される学生

CompTIA Strata は自身が使用するPCの管理やメンテナンスなどを中心に問題が構成されている。ITスキル育成のファーストステップとして活用できる。

このプロジェクトの目的はビジネス系学生のための情報処理資格である CompTIA Strata IT Fundamentals に向けた電子コンテンツの改善活動を行う。このような活動を通じて情報系の学習方法を学ぶとともにそれを支える事業や技術を体験する。

III. 連携先企業

連携先団体は、以下の2団体である。

- ・非特定営利活動法人 インターネットラーニングアカデミー (ILA)
- 事務局 佐藤雅一 様
- ・アカデミー教材プロジェクト 広島国際大学 工学部 情報通信学科 越智徹 様他

IV. 活動内容

プロジェクトの内容は、ILA (internet learning academy) から配布予定である電子コンテンツのテストおよび開発活動に参加した。ILA の電子コンテンツは iPad に展開が予定されており、今回大学より貸与された iPad を用いてコンテンツ(pdf, ppt)のテスト、修正報告等の改善活動に加わった。他にも、小テストシステムの開発活動に携わった。このような活動を通じてコンテンツ事業の開発過程を学んだ。

iPadの多くは、各部署がタッチパネルになっていて、専用のペンでしか行いません。しかし、勉強力や記憶力等を向上させるために、あくまでよくとしたファイルやメモ、スケジュールを入れておき、外出先でもそれを確認、修正するといった用途に活用します。必要に応じて PC と接続し、ファイルも入れ替えます。なお、このように PC はあくまで PC の補助的な役割としての考えですが、電話機、送受信機、空席等の機能も必要です。1台で済ませることは多量に開発が難しくなりました。これらスマートフォン、世界的に有名なスマートフォンは iPhone や Blackberry などがありますが、日本でも 2005 年という比較早い時期にシャープと WILLCOM の共同製品として W2020 が発表されています。(図 1.2)



図 1.2 日本製スマートフォン(売場 W2020)

一方、通常のノート PC に PC のタッチパネルを組み合わせたものがタブレット PC です。液晶ディスプレイに、タッチセンサーが埋め込まれていて、キーボードやマウスを使わずに入力可能。同じようなタッチパネルやキーボードが組み込まれていない。ただし、機種によっては入力方法が異なります。

図 4.1 電子教材の一部 (pdf)

8

芝崎 智浩

今井久登ゼミでは、今回のプロジェクトの活動で介護や福祉の分野の仕事を知ろうと言うことになりました。なぜ介護施設なのか他のメンバーより聞かれたので私はこのメンバーの中で最初に老人ホームにお世話になるからだよと言って、私の考えに賛同して頂きました。

メンバーで協力して介護福祉施設を調査したところ、ボランティアの要望が多いことが分かりました。私たちに出来るボランティアはないかと検討した結果、紙芝居のボランティアができるのではないかと話し合い紙芝居をすることに決めました。紙芝居は何処にあるか調べていたら創造大学の図書館にお年寄りの好きな日本語話が多数あることが分かりました。その中で笠地蔵、カチカチ山の狸、浦島太郎、かぐや姫等を借りて図書館の特別講義室を予約し毎週練習を行いました。

紙芝居がなんとか上演できるまでにメンバーが上達してきたので、いよいよ紙芝居を見たいと言う介護者ホームを訪問して紙芝居慰問ボランティアを実施しました。若いメンバーに協力して頂き大成功でした。若いメンバーに協力して頂き大成功でした。若いメンバーに協力して頂き大成功でした。



竹下 聡起

私はこのプロジェクト演習を通して、改めて福祉の仕事の大変さとお年寄りの方との交流の楽しさを学ぶことができました。このプロジェクトでは3か所の福祉施設に訪問し紙芝居やボランティア活動を行い、お年寄りの方に喜んでいただけたことはとても嬉しかったです。このプロジェクトでは介護福祉士の仕事を理解することも活動の一つであり、ボランティア活動を行う中で仕事を見ていたが、介護福祉士の仕事は体力的にも大変だけれど、精神的にも大変な仕事だと思いました。

福祉の仕事は大変だということはニュースや新聞でよく報道されているが、実際に仕事をしている所を見て、報道されていたよりも大変な仕事なんだと思いました。今の日本で介護の仕事に就く人が少ない状況が福祉施設を訪問して目の当たりにして、介護福祉士は本当に大変な仕事なんだと思いました。今回のプロジェクト活動を通して介護福祉士の仕事を理解することができいい機会になった。

※所見は、プロジェクトメンバー1人ずつの所見※図表、画像データ等は、任意の場所へ挿入※全体のページ数は4枚以内

e-learning system の構築を行った。moodle の小テストの例を図 4.4、図 4.5 に示す。

違和感を感じた箇所 p37 - 38 に続いている表 3 - 1. p44 のお気に入りの整理の 2. (イ) の文章。中途半端に次のページに続いている。 p49 の 4.4.3 の 5. の文章。中途半端に次のページに続いている。 p53 の一番下にある章末問題のタイトル。p54 の一番上に持って行った方がいい。

図 4.2 修正コメントデータの一部

プロジェクト開始当初は、広島国際大学側から CompTIA の電子コンテンツデータを受け取り pdf 化して iPad で閲覧できるようにした。さらに広島国際大学側のチェック作業要望を確認し、pdf 教材の修正報告を行った。電子教材の pdf の一部を図 4.1、修正コメントデータの一部を図 4.2 に示す。

次に、iPad の電子教材の修正確認を兼ねて、図 4.3 に示すような、もう一つ電子コンテンツの ppt 教材を使用した、模擬授業を行った。電子コンテンツの改善を行いつつ、このような作業を通じての情報系の勉強方法をも学んだ。

タブレットPC

- ・ノート型でも特殊な PC
- ・液晶画面がタッチパネルになっている
- ・製品によってはキーボードがないタイプも



図 4.3 電子教材の一部 (ppt)

また、moodle を利用した小テストを作成した。まず、linux サーバや moodle のメンテナンス及び管理等の作業を学び、moodle を用いた



図 4.4 moodle の起動画面

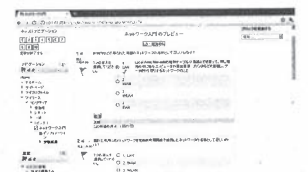


図 4.5 moodle 小テスト例

今回のプロジェクトでは、コンテンツ(pdf,ppt)のテスト、修正報告等の改善活動に加わせて買い、また、linux サーバや moodle のメンテナンス及び管理等の作業を学びながら構築を行う等の活動を通じて、電子コンテンツ事業の開発過程の一部を学ぶことが出来たと考える。

また、今回の作業全体を通じて、知識以外にも学んだ所がある。それは、チームで1つの事に取り組む事の難しさである。最初は、役割分担はどの方針も決まらず、作業の効率的な進め方も決まらなかった。しかし、全員で話し合い、それぞれの役割を明確にすることにより、徐々に作業が進み始めた。提案がいつもギリギリになるなど様々な問題もあったが、今回の経験を今後、

9

チームで活動する事があれば生かす事が出来たら良いと考える。

V. 所見

20923219 西山 拓磨
このような活動を通じて、最初は、情報系には無知だった私が少しずつ理解できるようになってきた。実際に iPad で電子教材を使った模擬授業をした時は、このような形で授業が進んで行くのかと楽しみながら受けていた。また、moodle を使って小テストやクイズを作成した時は、iPad から問題等を作るため、問題文を打ち込むのに苦労した。しかし、その問題文とともに各選択肢の意味なども一緒に調べて打ち込んだので勉強になった。ただ書き込んでいるだけでは意味がないので、書き込んだ後に実際に、moodle を使って小テストを行ったりしながら知識を少しずつ深めていくことが出来た。また、linux サーバや moodle を用いた e-learning system の構築を行った。linux サーバや moodle のメンテナンス作業及び管理等の仕方学び、私にとってはとても為になるプロジェクトだった。さらにこのような活動を通じて当初はさほど興味なかった情報系だったが、少しずつ興味を持ち始めることが出来た。さらに知識を深めるために今回学んだ勉強方法を駆使しながら積極的に学んでいこうと考えている。

20823230 木村 翔太
私は情報系には全くと言っていいほど興味がなかった。しかし、このようなプロジェクト活動を通じて少しずつ興味が出てきた。プロジェクト開始当初、広島国際大学から渡された CompTIA の電子コンテンツ改善作業と文章の添削を行った。しかし、ただ単に行っているだけでは意味がないので、何回も読んで勉強している感覚でやっていた。ゼミの空き時間あれば電子教材を使って模擬授業を行ったりと、充実した時間が過ごすことができた。このような活動を通じて、情報系の勉強の仕方が少しは分かる

った気がした。さらに情報系について詳しくなるために今回学んだ勉強方法を用いながら、知識を深めていかなければいけないと感じた。

20823212 白井 雅也
今回行う職業力プロジェクト活動では、我々今非正文ゼミはビジネス系学生のための情報処理に向けた電子コンテンツの改善活動というテーマで、インターネットラーニングアカデミー、広島国際大学工学部情報通信学科助教越智徹ら学外の人間と協力し活動が続けてきた。我々4年生のメンバーも3年生に協力する形でプロジェクトに参加し、電子教材に漢字誤字はないかなどのチェックからはじめて、改善案などを提案してきました。また、moodle を使用した小テストの作成など、moodle の機能について作業しながら理解していった。moodle の小テストには様々な問題のタイプがあり用途に応じて使い分けることができる。また、テスト以外にも課題や wiki、チャットなど様々な機能を活用することができ柔軟性が非常に機能性が高く便利なシステムであることが分かった。

20823102 井本 博崇
私も実際に moodle を使ってみて、筆記の小テストではなく、iPad の Web ブラウザ機能を使った小テストやクイズで、興味を持てた。iPad を持ち歩いて好きな時にテストができ、簡単な操作ですぐに問題の答えが出るので、結果をすぐ知りたいと言う人でも安心できる。また、クイズ形式にする事によって、勉強関係だけではなく自分の好きなジャンルで問題を作る事ができるので、勉強以外でも役に立つ所に魅力を感じた。また受験勉強や期末試験と言った授業のテスト対策として moodle を用いて自分専用のテストも作ることができるので、忙しい学生にも対応しているのが非常に便利なツールであると私は感じた。

豊橋市内小中学校の太陽光発電システム稼働状況調査

I. プロジェクトメンバー

教員： 見目 喜重
学生： 杉浦 克希
杉原 秀俊
田代 和之

II. プロジェクト概要

化石燃料は残り数十年で枯渇してしまふ恐れがあり、今後は風力・太陽光発電のようにクリーンで無尽蔵な再生可能なエネルギーの利用を増やす必要がある。

太陽光発電は、太陽光エネルギーを太陽電池で電気に変換する発電方法である。その特徴として、①発電の際に燃料を必要としない、②太陽光エネルギーは無制限である、③家庭にも設置しやすく生活に身近であるなどがある。

一方で、設置方法により発電量が大きく異なる、システムの故障など長期信頼性に関する問題点も指摘されている。そのために、発電に関するデータの長期収集・分析が必要である。

平成 21 年度末に豊橋市内小中学校 74 校に太陽光発電システムの設置が完了したことから、本プロジェクトでは太陽光発電システムの大量導入時代に問題となる長期信頼性に関する基礎的なデータの収集・分析を市内小中学校のデータを用いて行う。また、次世代を担う生徒/児童のエネルギー環境問題への意識を高める環境教育コンテンツの開発を行う。

III. 連携先企業

豊橋市教育委員会教育政策課

IV. 活動内容

(1) 太陽光発電システムの基礎知識のまとめ

(1-1) 太陽光発電システムの仕組み
太陽光発電システムでは、太陽電池モジュールにて太陽光エネルギーを直流電力に変換

する。その電力はパワーコンディショナーにて交流電力に変換される。接続箱では太陽電池から出た複数の配線が一つにまとめられ、各電気器具へと送られる。

(1-2) 太陽光発電のメリット・デメリット

太陽光発電は次のようなメリット・デメリットを持つ。

- メリット
 - ・可動部分がほとんどなく、メンテナンス不要
 - ・日中に発電をするので電力削減に効果的
 - ・発電に燃料を使わない
 - ・屋根や壁等の未利用スペースを利用可能
 - ・送電設備のない遠隔地の電源として利用可能
- デメリット
 - ・導入時のコストが高い
 - ・発電が天候と自然条件に左右される(夜間不可)
 - ・施設の屋根に設置した場合、屋根に負荷がかかる
 - ・現状では発電コストが高い(一般家庭で初期コスト分の電力を発電するには、平均で 20 年かかると言われている)
 - ・設置方法によって発電量が大きく異なる(方位・角度、日陰の影響(障害物・ビル)、メーカーの差異など)
 - ・長期信頼性の問題が指摘されている(パワーコンディショナーは 10 年で交換が必要となり、またその故障率が 1 年以内で 10%以上との報告もある)

(2) 豊橋市内の小中学校の太陽光発電システム導入状況調査(前半)

本学期は豊橋市教育委員会から頂いた資料を中心に、これまでの市内小中学校への導入状況を調査した。その結果を以下に記す。

20823223 高須 健太

このプロジェクトで、ビジネス系学生のための情報処理資格に向けた電子コンテンツの改善活動に参加した。主に自分は広島国際大学側から受け取った CompTIA の電子コンテンツ修正と文章の添削や小テストシステムの開発補助を担当した。自分自身、情報系にはあまり詳しくはなかったが、この作業をしながら IT に関する基礎を学ぶことができた。実際に商品化されると聞いているが、学習に使いやすく、問題も選択式なので取り組み易いように感じた。moodle についてもこの活動で初めて知り、場所を問わず学習や採点ができるなど、オンラインで学習することの有用性を知った。少しではあるが自分が携わったコンテンツが商品化され様々な人に役立つと思うと、やりがいのある有意義なプロジェクトだったと思う。

20823105 小倉 巧夢

今回の活動で、私は、CompTIA Strata 問題集の誤植や改善点を見つける作業を行った。まず、章ごとに範囲を分けし、各章 2 名程度でチェックを行なった。最終的に、各章ごとに出てきた誤植や改善点を一まとめして提出するまでの取りまとめ作業を担当した。問題集には私の知らない情報がたくさん載っており、作業というより勉強をしている感覚でもあった。

また、今回の作業を通じて、IT に関する知識以外にも学んだ所がある。それは、チームで 1 つの事に取り組む事の難しさである。どのようにしたら作業が効率的に進むのか、役割分担はどのようにするかなど、最初は上手く方針が決まらず、作業がなかなか進まなかった。しかし、全員で話し合い、それぞれの役割を明確にすることにより、徐々に作業がうまく進み始めた。提出がギリギリになるなど様々な問題があったが、今回の活動で学んだ事を、次回チームで作業することがあれば、生かしたら良いと考えている。

20823124 絵野 啓右

ビジネス系学生のための情報処理資格に向けた電子コンテンツの改善活動において、私は moodle を用いた e-learning system の構築を担当し、CentOS サーバや moodle サイトの構築を行いました。今までサーバ構築や PHP の設定には触れたことがなかったので、最初は何を勉強すればいいのかわからず大変でした。しかし、試行錯誤を繰り返しながらサーバを構築し、他のパソコンから moodle サイトを初めて閲覧できたときはとても嬉しかったことが記憶に残った。今回、電子コンテンツの為に e-learning system を学び、その有用性を知りました。インターネットを通じてパソコンやモバイルで最新の教材配布や試験を行うことが出来ること、さらには学生側からも進捗情報を送ったり質問が出来る等、双方向性がある e-learning system は、情報化が進む現代において、これからはさらにニーズが増えるシステムであると感じた。

謝辞

本プロジェクトの実施にあたり、ご協力いただいた非営利活動法人 インターネットラーニングアカデミー (IILA) 事務局 佐藤 雅一 様、また、教材修正作業の指示等をしていただいた広島国際大学 工学部情報通信学科 越智 徹 様には大変お世話になりました。ここに謝辞を表します。

平成 11 年度 新川小	30 kW
平成 19 年度 吉田方中	10 kW
平成 20 年度 豊城中	10 kW
平成 21 年度 吉田方小	10 kW
小学校	10 kW × 43 校, 5 kW × 7 校
中学校	10 kW × 17 校, 5 kW × 3 校

これまでに以下の 15 校を訪問した。
青陵中、東部中、東陵中、北部中、南陵中、翠南中、豊城中、吉田方中、津田小、つづじが丘小、福岡小、鷹丘小、大崎小、横田小、新川小

平成 21 年度末には市内全小中学校 74 校に太陽光発電設備の設置が完了している。図 1 には現地調査を行った豊城中学校、羽田中学校、吉田方中学校の太陽光パネルの写真を示す。このように、方位・傾斜角度、設置方法、障害物の有無等が中学校毎に異なる。なお、豊城中と吉田方中ではパソコンにより発電量と日射量・気温の計測が行われている。



豊城中



吉田方中

図 1 小中学校へのシステムの導入例

(3) 市内小中学校の太陽光発電の稼働状況訪問調査(後半)

訪問調査では、訪問調査を本格的に行なった。そのために、電話対応マニュアルを作成し、メンバー各自が担当の小中学校の校務主任の先生に連絡を取った。このようにして日程を調整した後、各自訪問して写真撮影および聞き取り調査を行った。

- ・設置状況
 - パネル枚数、方位、角度、障害物の有無
- ・障害物の有無
 - いくつかの小中学校で、パネル側面に建築が隣接しているケースが見られた
 - パネルの西側面に屋上への出入口が隣接しており、午後影を生じる可能性あり
 - パネルの東側面に屋上への出入口が隣接しており、午前影を生じる可能性あり
 - 3 階の校舎の上に設置しているため、4 階の校舎の影が生じる可能性あり
 - パネルの西側にある屋上への出入口、市役所建物による影が生じる可能性あり
 - パネル南面の木が冬季に影を生じる可能性あり
- ・稼働状況
 - 訪問調査では、時間発電量、トラブルの有無を確認した。その結果、訪問時には特にトラブルは見られなかった。
 - 一方、教育委員会によるアンケート結果では、いくつかの小中学校でトラブルの報告があった。この点について、今後、アンケート結果を取りまとめながら詳細に調査する必要がある。
- ・各学校の特徴
 - パネルの設置方法も学校により異なる。
 - 屋上左右の隅にて設置(北部中)
 - 前面と後面のパネルで設置角度異なる(青陵中、東陵中)
 - 建物屋根に直付け(吉田方中、新川小)
 - 屋上パールの目よけとして設置(つづじが丘小)
 - 屋上にははしごで登る(屋上に柵なし)(福

社会的企業の実証研究

サーラコーポレーションと東三河障がい者仕事センターが展開する
社会ビジネスの豊橋モデル

[中野 聡ゼミナール]

I. プロジェクトメンバー

- 河村 浩矢
- 田邊 有希奈
- 神島 健作
- 小野田 好輝
- 山崎 智香子

II. プロジェクト概要

東三河地域における社会的企業から、サーラコーポレーションの社会貢献事業と東三河障がい者支援センターの活動を実証研究の対象に選定。その活動を追い、社会性、事業性、革新性を評価した。学生は、この過程を通して社会科学の実証研究の方法を学ぶ。

III. 連携先企業

株式会社サーラコーポレーション
東三河障がい者支援センター(特定非営利法人福祉環境地域センター)

IV. 活動内容

(1) 社会的企業

社会的企業は、例えば、「公共の利益の達成を目的とし、企業家的戦略をもって組織される目的活動であるが、利益の最大化ではなくある種の経済的・社会的目標の達成を主目的とし、社会的排除や失業の問題にイノベティブな解決をもたらす能力をもつ」と定義される(谷本, 2006年)。

谷本によれば、その基本要件は、①社会性(合解決が求められている社会的課題に取り組むこと)、②事業性(社会的ミッションをビジネスの形に表し、継続的に事業活動を進めること)、③革新性(新しい社会的商品・サービスやその提供の仕組みの開発を通して社会的価値を實現し、社会経済システムを革新する可能性を示すこと)に求められる。なお、活動詳細は、同名の報告書を参照(サーラコーポレーションの提供資料と共に図書館に所蔵予定)。

(2) サーラコーポレーションの社会貢献事業

サーラコーポレーションおよびガステックサービスの社会貢献事業から、廃油のバイオディーゼ燃料(Bio Diesel Fuel, BDF)への再生リサイクルの取り組みを取り上げ、その社会性と事業性、革新性を考察した。



SENA(三遠南信地域連携ビジョン推進会議)起業報告会(商工会議所)にて(2011年5月22日)

18

V. 所見

河村浩矢・・・今回、社会的企業について調査し、たくさんの事がわかった。まず、社会的企業の基本として社会性(合解決が求められている社会的課題に取り組むこと)、事業性(社会的ミッションをわかりやすいビジネスの形に表し、継続的に事業活動を進めていくこと)、革新性(一般的な事業を活用して社会的価値を實現し、これまでの社会経済システムを革新していく可能性を示すこと)と3つの点が指摘されている事がわかった。今回参考にしたサーラコーポレーションも、環境事業(サーラの森)や継続的な事業活動(バイオディーゼ燃料への再生リサイクルや食品循環の社会への取り組み)によって、経済システムの変革を行っており、社会的企業といえるだろう。

神島健作・・・サーラコーポレーションの社会貢献事業を詳しく調べてみて、企業が会社を置く地域に起きている問題に取り組む、解決しようとする考えがあることを実感した。多くの企業はステークホルダーを大切にしている。その中で地域住民・社会における地元企業の在り方を重要視しているサーラコーポレーションは、しっかりとソーシャル・エンタープライズの考えをもち、様々なアイデアを実行している。それも一過性のものにならないように、長期的に地域社会の問題の解決に取り組んでいる。いろいろな調査のなかで社会的企業の必要性を感じ、自身の考えも少し社会的になったと思う。

山崎智香子・・・東三河障がい者支援センターでは、障がい者たちが社会に出て働くために、さまざまな訓練を受けていた。そんな障がい者の人たちを支えている WACNET は社会的に必要なのだと思った。訓練内容も農園をしたり、その農園で採れたもので料理を作って販売したりなど、普通に働いているのと変わらないようなことをしていることを知って驚いた。

田邊有希奈・・・豊橋市内の、しかも自宅からそれほど遠くない場所にこのような組織があると知らなかった。WACNET のような障がい者が社会へ進出していく訓練ができる施設はもっと必要なのでは、と感じた。

20

①社会性・・・ある調査(2007・11年)によれば、愛知県内 61 自治体のうち廃油の資源回収は 16 市町村にとどまる。地域の中核企業であるサーラコーポレーションが、豊橋市の行政に先行する形で、社会貢献事業の中核に位置づけている点は評価されるべきだろう。

②事業性・・・担当者によれば、東三河と静岡地域で BDF100 の販売を開始。また、蒲郡市の車輻(観光バス)等にも利用されている。2011 年度 12 月からの事業年度での黒字化をめざしている。

③革新性・・・BDF リサイクルは、循環型社会への取り組みのひとつであり、余剰パンの飼料化、食品残さの堆肥化という 2 つの並行サイクルと共に機能している(複合性)。また、グループ各社と協力企業が、地域的なソーシャル・インベション・クラスター(SI クラスター)を構成している。SI クラスターは、社会的企業や中間支援組織、大学・研究機関などが協力的かつ競争的な関係を構築することにより、多様な社会的課題への解決方法や社会的価値を生みだし、新たな社会的事業を形成するよう組織の集積状態(谷本, 2006年)を指す。

経済と環境の 2 者択一ではなく、その両立が民間ベースでも十分に可能であることを示している。今後の展開に期待したい。

(3) 東三河障がい者仕事センター(WACNET)の活動

東三河障がい者仕事センターは、アメリカ、ニューヨークの「NY ファウンテンハウス」に由来するクラブハウスモデルを取り入れた、発達・精神障害者の自立・就業支援を行っている。

障がい者支援として、進路・就労相談、就労に向けての訓練指導、準備支援、職場定着支援、就労場の開発、モデルビジネスの開発訓練、企業面談の助言、就労困難となった場合の再訓練、進路相談、ジョブコーチの派遣、愛知県就労支援者の派遣等の多彩なメニューを有する。

また、日常生活・地域生活支援として、働く障がい者の生活相談、生活習慣の形成、健康管理、

金銭管理、住居の確保、余暇活動、生活設計等を行う。その他にも、関係機関との協議事業や研修人材育成事業等の啓発活動、企業実習中の指導や連絡調整、継続的訪問による適応状況の把握、雇用管理に関する助言等の企業支援活動が仕事センターの機能を支えている。

①社会性・・・発達・精神障害者に苦しむ人々は、社会から排除された形で引き籠もりがちになる。そうした人々の自立と就職支援、多様なビジネスモデルによって支えてきた点に、この NPO 法人の社会性を認めることができる。

②事業性・・・事業性に関する詳細な情報は入手していないが、豊橋市に地域活動支援センターに認定された。また、発達・精神障害者の自立を支援するための多様な採算型事業を展開している。

③革新性・・・コミュニケーションによる問題解決のために、クラブハウスモデルを軸にした発達・精神障害者支援を展開している。そこでは、

- ・誰でも来ることができる。
- ・いつでも帰ることができる。
- ・誰からも必要とされる人間関係を築くことができる。
- ・誰からも必要とされる役割がある。

をモットーに、自らが困難な障がい者の働く意志を尊重し、加藤理事長が「豊橋モデル」と呼ぶ、多様な自立支援プログラムを開発、提供してきたところに、この NPO 法人の革新性がみられるのではない。

経済は、全ての人間が社会で幸福に生活するために存在する。社会的排除(social exclusion)を社会的統合(social inclusion)に転換することが必要であるにもかかわらず、それはまだ、わが国の社会・福祉政策の基本目的とみなされていない。福祉国家と家族、民間団体のネットワークが有効に機能すれば、モットーが示す原則は、社会一般に共有されるだろう。

19

豊橋筆プロジェクト

I. プロジェクトメンバー

- 20823706 大堀聖吾
- 20923118 原田敏孝
- 20923204 大坪孝嘉
- 20923212 杉浦史彦
- 20923223 古田和也

II. プロジェクト概要

豊橋筆は書道用高級筆の分野で日本一のシェアを誇る豊橋の地場産業である。しかし、豊橋市民ですら、この江戸時代から続く伝統工芸を認知している人は少ない。本プロジェクトは、この豊橋の伝統工芸である豊橋筆の幅広い普及と地域の活性化に向けた展開として、大学生によるアイデアの創出、商品企画及びPR活動を通じて地域の活性化を図ることを目的とする。

III. 連携先企業

株式会社 匠匠 榎原
代表取締役 北村 泰雄 様
豊橋筆振興協同組合
豊橋観光コンベンション協会
豊橋商工会議所 地域振興部 地域振興課
豊橋市役所 広報広聴課
豊橋市役所 企画部 シティ・プロモーション推進室
S.I.plant 山本啓介 様

IV. 活動内容

①豊橋筆(お土産用ミニストラップ)の商品企画(有)筆匠榎原様より、既存商品(ミニストラップ)の製造工程を学び、市場調査、商品開発(試作品製作、販路開拓、プロモーション)を実施する。

製造工程の学習と市場調査、商品企画(プラン作成)は前期、夏休みに試作品製作とパッケージに使用する画像提供の相談・交渉を完

成した。後期は9~10月に画像使用許可手続きと商品製造、学園祭・チャレンジショップにおける販売を行った。



商品パッケージ (裏表紙)

豊橋筆の由来

豊橋筆の由来は、(1)1868年(明治元年)に、豊橋の筆匠大塚清次(1838-1918)が、江戸時代から続く筆匠の伝統を継承し、明治時代に入り、豊橋筆の製造に専念することになった。大塚清次は、江戸時代から続く筆匠の伝統を継承し、明治時代に入り、豊橋筆の製造に専念することになった。大塚清次は、江戸時代から続く筆匠の伝統を継承し、明治時代に入り、豊橋筆の製造に専念することになった。

豊橋筆プロジェクト

本プロジェクトは、豊橋筆の製造工程を学び、市場調査、商品開発(試作品製作、販路開拓、プロモーション)を実施する。

商品企画

商品企画は、市場調査、商品企画(プラン作成)は前期、夏休みに試作品製作とパッケージに使用する画像提供の相談・交渉を完



商品パッケージ (説明書き)

21

② 豊橋筆の普及・PR活動

豊橋筆の普及・PR 活動として豊橋市の商学連携事業である豊橋三大学サマーカレッジチャレンジショップの企画・運営にメンバーが参加し、販売ブースやイベント企画として豊橋筆の販売・PRを行った。本年度のテーマはアートで、これは企画当初から豊橋筆の扱ひことが決まっていたことに鑑みることが大きい。開催期間は8月6日(土)から28日(日)で、場所は広小路3丁目の空き店舗であった。豊橋筆に関する具体的な実施イベントは以下の通りである。

【イベント】

- ・豊橋筆を使った書道と太鼓の競演 (8/14:豊橋駅前サカールプラザ)
- ・豊橋筆を使った絵手紙教室



(8/20:サマカレ店舗内)

【店舗販売ブース】

- ・豊橋筆の販売
 - ・手作りミニストラップの販売
- 豊橋筆を使った絵手紙教室

V. 所見

20823706 大塚章吾

今回のプロジェクトで、私は(有)筆匠榊原の北村さんのご指導の下、豊橋筆ミニストラップ製作を担当しました。具体的には、北村さんに連絡をとり、プロジェクト内容を説明とご指導頂ける日程を決めるためのアポイントメントをとることから始まりました。実際に工房を訪ねると、墨汁の匂いと、焦げた香りが漂っていました。この焦げた香りというのは、筆づくりの際、高温の鉄で筆の根元を焼くために発生するもので、その

香りがとても匠の技という雰囲気を感じていました。ミニストラップ製作の際は、榊原さんと奥様が丁寧に指導して下さいました。とても和やかな雰囲気のもと作り方を教わることが出来ました。ミニストラップを作る際に注意すべき点もわかりやすくご指導していただいたので、ゼミ内で結果報告する際も細かい留意点も説明することができました。

今回のプロジェクトで物づくりの楽しさや奥深さを知ることが出来ました。特に伝統工芸の職人であり、匠である北村さんのご指導からは、良い物を作るには、細かな点も妥協せず、使用する人の事を考える事が大切であるということ学ぶことが出来ました。

20923118 原田敏幸

私がプロジェクトで担当したのは、豊橋ミニストラップの作り方を学び、豊橋筆の歴史についての資料収集と整理でした。また、商品の製造に関して、(有)筆匠榊原の北村さんより、材料を調達し、メンバーを指導しながらその製造にあたりました。商品作りは、細かい作業が多いのですが、懇切丁寧に教えてくださった北村さんの指示を思い出しながら、作業を行いました。

また、商品パッケージに使用許可を得るために豊橋市役所の広報広聴課を訪ねました。企画趣旨をご理解頂き、企画部シティブロモーション推進室を紹介して頂きました。推進室でも非常に協力的に対応して頂いたことには大変驚きました。

今回のプロジェクトを通じて、豊橋筆に携わる人々の想いや多くの協力を得ることで、改めて豊橋の名産物である「豊橋筆」をもっと多くの人々に知ってもらいたいと思うようになりました。また、このような繋がりを上手く作り出すことは、成果を挙げるために非常に重要だと思いました。そのため企画趣旨や目的を明確に説明することや人脈作りの重要性も学べたと思います。

20923204 大坪孝嘉

私はプロジェクト・リーダーとして全般的に業務を担当しましたが、主に外周の方との打合せや相談・交渉などを行ってきました。

商品企画における相談で豊橋商工会議所や豊橋観光コンベンション協会に伺った際には、まだ企画自体が固まっていない状態であるにもかかわらず、趣旨に御賛同頂き、貴重なご意見やアドバイスを頂くことができました。また、こちらの作業の進捗が遅く、成果報告などが遅れたことを反省しております。

また、外部協力者との相談や打合せにおいては、非常に速いテンポで話が進むことが多く、新たな企画展開や協力者の紹介など、こちらの構想を大きく変えることも度々ありました。

今回のプロジェクトを通じて、様々な人々と協力することの重要性を学びました。また、短い時間ではありましたが、お忙しい中、真剣にこちらの話を聞いて頂き、適切なアドバイスを下さったことには大変感謝しております。このような方々の期待に応えねばならないという責任感の中でプロジェクトを行なった事は貴重な経験だったと思います。

20923212 杉浦史彦

私はHPやブログ作成による情報発信を担当しておりました。前期は豊橋筆に関する情報収集を行い、商品パッケージに説明文などを作成いたしました。夏休み以降、インターシップ、学園祭実行委員、ビジネスプランコンテスト参加などの別行事への準備・参加が重なり、プロジェクトの業務を行うことが出来ませんでした。折角、情報を提供して頂いた(有)筆匠榊原さんやソーシャルメディアによる集客方法など講義して頂いた S.i.plant 山本さんには、大変申し訳なく思っております。今後、可能な限りにおいて、HP作成業務を遂行していききたいと思います。

20923223 古田和也

私はプロジェクトの普及・PR 活動の担当として

サマーカレッジチャレンジショップの企画運営に参加しました。5月より、豊橋の三大学のメンバーとともに実行委員として活動し、ここでは豊橋筆の企画に関するイベントと販売ブースの業務を担当しました。特に、企画段階では豊橋筆振興協同組合にイベント開催等の許可を得たり、(有)筆匠榊原の北村さんから、絵手紙教室の講師を紹介して頂き、企画を進めてきました。また、開店後は豊橋筆の販売管理や小学生に筆ストラップの作り方を教えるなどを担当しました。

そこで、私が活動を通じて感じたことは連絡の大切さでした。特に、プロジェクトメンバー以外と協働することが多く、お互いに会う機会も限られていました。そのような中で、連絡したにもかかわらず、問題が起きることが多々ありました。意思の疎通は困難でも、しっかりと情報を伝えることは出来たのにと反省しております。また、情報が伝わっているにも関わらず、問題に対処できなかったこともありました。今から考えれば、ただ淡々と情報を伝え、判断を委ねるのではなく、相手の状況や場合によっては、対処策や実行プランの提案まですべきだったかと思えます。この経験を今後に生かしていきたいと思いました。

豊橋自慢企業のトップインタビュープロジェクト

三好プロジェクト

I. プロジェクトメンバー

- 堀江光 (20923224)、宮崎康平 (20923727)、大江浩南 (20923203)

II. プロジェクト概要

豊橋市には特色のある企業が数多く存在している。その経営には企業の独自性や理念が込められている。そこで企業トップと直接話を伺うことで企業の本質に迫り、企業の特色や魅力を調べる。その結果から豊橋地域の産業面での強みを明らかにすることを、本プロジェクトでは目的とする。本プロジェクトでは特色ある企業を訪ねることで豊橋地域の強みを再確認し、それらをまとめて Web サイトに公表することによって、豊橋地域のシティープロモーションの一助とする。

まず特色ある企業を種々の視点から調査して調査対象候補を決定する。そして、これらの企業にプロジェクトの趣旨を説明し協力頂ける企業を選出し、インタビュー活動とそのまとめを繰り返す。また、就職活動を控える学生にも有意義な報告になるように、企業トップが求める人材像についても併せて調査を行う。

III. 連携先企業

本プロジェクト活動を進めるにあたり、インタビューにご協力いただいた企業を表1に示す。なお、春学期に訪問した榊原食品と㈱エフエム豊橋は学内の人的ネットワークを通して紹介をいただいた。また、秋学期に訪問した㈱サイエンス・クリエイト、ヤマサちくわ餅、本多電子は学生自身で直接企業に協力依頼を行った。

IV. 活動内容

IV-1 作業スケジュール
作業スケジュールを表2にまとめる。2011年4月に話し合いを行い、プロジェクトテーマを「企業トップインタビュー」とした。その後、新聞、商工会議所ニュースの調査を通して、訪問企業を決定した。訪問日程の決定、インタビュー内容の検討など事前準備を行った。これまで、全5企業の訪問を行ったが、後半の企業に対する活動では、訪問日程の確定やインタビューを学生のみで実施した。

IV-2 事前準備作業

訪問企業の選定後、以下の準備作業を計画し、企業訪問を行った。詳細内容を示す。
(1) 企業訪問のアポイントメント
訪問希望企業に対して学内の人的ネットワークを通

IV-3 インタビューの実施

まず各自で直接企業に交渉し、企画説明とアポイントメントを確定する。
(2) 企業調査
企業の Web ページや関連記事などインターネットから情報収集し、それをもとに意見交換を行う。訪問企業について理解を深める。
(3) 質問リスト作成
5項目に分けインタビューの大まかな流れを考え、詳細の原案を作成する。
(a) 経営者の人物像について (b) 企業について (c) 豊橋のシティープロモーションについて (d) 就職活動について (e) 座右の銘について
質問リストを最終チェックし、インタビュー当日の1週間前までに挨拶状と質問リストを送付する。またインタビューの練習を兼ねて、当日の行動のシミュレーションを行う。
(4) 訪問日の段取り
当日の服装、交通手段、持ち物の確認をする。各自の役割分担の打ち合わせを行う。また訪問前日までに電話にて挨拶と訪問確認を行う。

各自で直接企業に交渉し、企画説明とアポイントメントを確定する。

(2) 企業調査
企業の Web ページや関連記事などインターネットから情報収集し、それをもとに意見交換を行う。訪問企業について理解を深める。
(3) 質問リスト作成
5項目に分けインタビューの大まかな流れを考え、詳細の原案を作成する。
(a) 経営者の人物像について (b) 企業について (c) 豊橋のシティープロモーションについて (d) 就職活動について (e) 座右の銘について
質問リストを最終チェックし、インタビュー当日の1週間前までに挨拶状と質問リストを送付する。またインタビューの練習を兼ねて、当日の行動のシミュレーションを行う。
(4) 訪問日の段取り
当日の服装、交通手段、持ち物の確認をする。各自の役割分担の打ち合わせを行う。また訪問前日までに電話にて挨拶と訪問確認を行う。

各自で直接企業に交渉し、企画説明とアポイントメントを確定する。
(2) 企業調査
企業の Web ページや関連記事などインターネットから情報収集し、それをもとに意見交換を行う。訪問企業について理解を深める。
(3) 質問リスト作成
5項目に分けインタビューの大まかな流れを考え、詳細の原案を作成する。
(a) 経営者の人物像について (b) 企業について (c) 豊橋のシティープロモーションについて (d) 就職活動について (e) 座右の銘について
質問リストを最終チェックし、インタビュー当日の1週間前までに挨拶状と質問リストを送付する。またインタビューの練習を兼ねて、当日の行動のシミュレーションを行う。
(4) 訪問日の段取り
当日の服装、交通手段、持ち物の確認をする。各自の役割分担の打ち合わせを行う。また訪問前日までに電話にて挨拶と訪問確認を行う。

IV-4 まとめ作業

インタビュー後、インタビューの概要(メモ)を作成し内容により不足を補う。またインタビューを通して学んだことを所見として各自まとめる。そして、Wordにて企業概要やインタビュー内容をまとめ、報告書を作成する。作成した報告書の内容を Web ページ(図1)に写し、写真を挿入し、Web ページを作成する。Web ページの作成が終了後、インタビューを行った方に挨拶状を送付する。挨拶状が終わり次第、まとめ作業を完了する。

IV-5 インタビュー活動報告

春学期は榊原食品、㈱エフエム豊橋、秋学期は㈱サイエンス・クリエイト、ヤマサちくわ餅、本多電子に訪問し、インタビューを行った。インタビューを行った5企業でのインタビューを以て1区画とする。

表2 作業スケジュール (点線の矢印は現在進行中)

	4月	5月	6月	7月
企業訪問前準備	ミーティング、情報収集 26日:プロジェクト実行委員、榊原食品さんと打ち合わせ	榊原食品訪問準備	●1日:榊原食品訪問 エフエム豊橋訪問準備	●6日:エフエム豊橋訪問
報告書作成			榊原食品	エフエム豊橋
		9月	10月	11月
企業訪問前準備	サイエンス・クリエイトへ依頼、訪問準備	●7日:サイエンス・クリエイト訪問 ヤマサちくわへ依頼、訪問準備 本多電子訪問準備	●11日:ヤマサちくわ訪問 本多電子訪問準備	●9日:本多電子訪問
報告書作成	榊原食品 エフエム豊橋	サイエンス・クリエイト	ヤマサちくわ	本多電子
Webサイト制作		制作開始	榊原食品完成	残り4社制作中

表3 インタビューの役割分担

	インタビュー係	記録係 (PM)	記録係 (カメラ)
平松食品	梅田	宮崎	大江
エフエム豊橋	宮崎	大江	堀江
サイエンス・クリエイト	大江	宮崎	堀江
ヤマサちくわ	堀江	大江	宮崎
本多電子	宮崎	堀江	大江

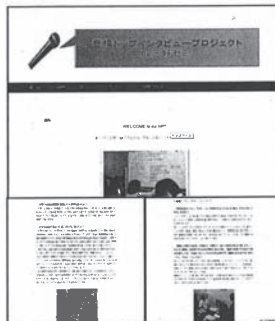


図1 Webサイトのイメージ画像

平松食品では、平松賢介代表取締役がインタビューを行った。平松食品では、伝統の上に新しい食文化を形成することを目指しているとのこと。そのために品質、安全、環境を守るマネジメントを実践するとともに新たな挑戦を繰り返すことを伺い、その推進力に力強いものを感じた。その具体例として、従来の佃煮の食べ方とは異なる佃煮の食べ方の提案など、佃煮の可能性を教えていただいた。新しいものを創り出すという姿勢から、平松賢介社長の佃煮に対する熱い思いが感じられるインタビューであった。

隣エフエム豊橋では、竹内宏和部長がインタビューを行った。エフエム豊橋は地域密着型のコミュニティ



図2 サイエンス・クリエイトのインタビュー風景

放送局であり、地域活性化のための放送を目指しているとのこと。特に、地域のイベントに数多く出演して、放送により地域活動の活性化を目指しているとのことであった。エフエム豊橋は地域コミュニティ局としての役割を果たし、豊橋活性化を支援する存在であるとの認識を深めた。

隣サイエンス・クリエイトでは、中野和久専務がインタビューを行った。サイエンス・クリエイトは、産学官共同研究や地域産業支援の東三河地区の拠点である。中野和久専務は起業者の支援や新規事業展開のための共同研究の推進に従事されていることを伺い、様々な産業振興支援が行われていることを知った。また、シティープロモーションに関する質問では、「豊橋を外に売り込みに行くのではなく、豊橋に呼び込んで豊橋の強みを見せる」との話を伺った。豊橋の強みをさらに活性化させるネットワーク形成にサイエンス・クリエイトの支援が重要であると認識した。

ヤマサちくわでは、佐藤元英代表取締役がインタビューを行った。ヤマサちくわは昔と変わらぬ精神でちくわの味を追求し、お客様の幸せを増進することを企業理念とする企業である。「調味料を多くして味をまかしたくない」という佐藤社長の思いが企業理念に現れ、それが豊橋名物としてちくわを維持していると感じた。美味しいものを食べた時の笑顔を作るために、ヤマサちくわは本物を追求する企業風土の所以であると強く感じた。

本多電子では、本多洋介代表取締役がインタビューを行った。本多電子は、超音波を要素技術として、魚群探知機をはじめとして産業機器、医療機器など幅広く開発する企業であるとのこと。海外市場から日本市場を対象として市場創造型の企業を目標として新し

い技術開発を進めているとのことであった。今後は医療市場への製品開発を目指していると話されており、新商品開発に対する本多洋介社長の情熱を強く感じるインタビューであった。

V. 所見

本プロジェクトを通して各メンバーが実感したことを、以下にまとめる。

・堀江光

本プロジェクトでは3人と限られた人数で行わなければならなかった。運営をスムーズにするためにグループ連携を図り、スケジュール管理に留意して活動した。日々の活動では週2回の話し合いの場を設け、プロジェクトの進行状況を報告、今後の活動予定とその担当者を決定した。

活動では迅速にプロジェクトの要件を伝えるため、googleでマージングリスト作成を行い、情報共有のためにプロジェクト管理アプリを活用したファイルの共有を図った。進行状況の報告を何度も繰り返したことでスケジュール管理が確実に進められ、作業遅れが生じている場合には、すぐにフォローしあえた。ファイルの共有システムを活用することで他のメンバーが持っている情報をすぐに得ることができたため、仕事の効率を改善でき、報告者のため作業においても多めに活用することができた。

グループ連携とスケジュール管理の重要性を実感することができ、この経験が今後の就職活動などに活かしていきたいと思う。

・宮崎康平

本プロジェクトでは、色々な企業の上層部の方々とお話ができとても良い経験になった。インタビューの中で、企業の経営陣は、その企業の経営理念などを基本におきつつ、将来性を見越してその企業種々の企画や方針を検討し、刻々と変化する社会に対応した経営を取り組まれていると認識を深めた。外部から見るだけでは分からない経営陣が考える今後の事業展開や、シティープロモーションの考えなどが実際

業に訪問させていただくことでより詳しく知ることができた。

また本プロジェクトを通して、インタビューを行う際や、プロジェクトメンバーとの意見交換の場で改めてコミュニケーション能力が重要であると認識した。自分の考えを相手に分かりやすく説明できれば、誤解が生じ、問題が発生する恐れもある。これからは自分の考えを上手くまとめて発言できるように意識していきたい。就職活動での自己PRでも活かしていきたいと思う。

・大江浩南

本プロジェクトは、経営者の方に企業の特色や強みを聞き、豊橋の強みを再確認するプロジェクトである。今回、隣平松食品、隣エフエム豊橋、隣サイエンス・クリエイト、ヤマサちくわ、本多電子がインタビューを行った結果、各企業の特色や強みが分かり、自分の知らなかった企業の特色や経営者の方の企業マインドを知る機会になった。今回インタビューを行ったのは3社だが、まだ豊橋には興味深い企業が数多くある。プロジェクトで得た情報収集力を、今後就職活動で企業研究をする際に活かしていきたい。

また、今まで経営者の方と話す機会がなかった分実際にインタビューを行った際に、相手に分かりやすく話をする事の難しさを実感した。経営者の方が話される内容を理解するためには、その周辺の情報や知識を蓄えておく必要がある。また、敬語の使い方や話しの内容、声の大きさ、相槌や笑顔など、「話を聞く」ということは色々なことに心配りや気遣いも必要である。相手に分かりやすく伝えられるよう、心がけていきたい。

【謝辞】

株式会社平松食品、株式会社エフエム豊橋、株式会社サイエンス・クリエイト、ヤマサちくわ株式会社、本多電子株式会社の皆様には、本プロジェクトを通して多くの御指導や御協力をいただき、お忙しい中大変お世話になりました。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

持続型職業人 SOZO プロジェクト プロジェクト活動報告書 (学生)

学食広報プロジェクト by 学食おうえん団

I. プロジェクトメンバー

情報ビジネス学部キャリアデザイン学科3年

- ・20923103 上田 菜々子
 - ・20923106 大野 安佐未
 - ・20923206 加藤 裕加里
 - ・20923218 仁崎 愛美
 - ・20923115 田引 俊佑
 - ・20923209 斎藤 賢太
 - ・21123301 田中 豪
 - ・21123303 中神 駿介
- 担当教員 三輪 多恵子

II. プロジェクト概要

本プロジェクトでは、学食(キッチン SOZO、カフェテリア)の広報活動を行った。Web や印刷物を通じて学食の情報を積極的に発信することで、学生や教職員の方々に学食をより身近に感じてもらい、利用率の向上を図ることが狙いである。プロジェクト活動を通して、マーケティング、広報活動について理解を深め、様々なコンテンツを企画・制作するための知識と技術を習得することを目的としている。

主な広報活動として、Webによる情報発信(PC用学食サイト、モバイル用学食サイトの運営)、印刷物の作成(ポスター、卓上チラシ)を行った。Web サイトやポスターに掲載する情報は、学食スタッフの方々へインタビューや資料提供をお願いし、様々な面でご協力を頂いた。また、Web サイトでは学食に関していくつかのアンケートを実施中であり、活動終了後に学食の方々へ報告する予定である。

さらに、広報活動への理解を深め、自分たちの活動を客観的に評価するため、広告業界に就職した本学 OB と交流を行った。制作物や活動内容についてのコメントや様々なアドバイスを頂き、また、近年の広告業界の動向などについても興味深いお話を伺うことができた。

III. 連携先企業

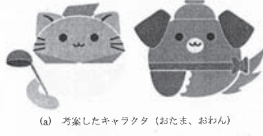
- 日本ゼネラルフード株式会社
コントラクト事業本部 杉原 茂雄 様
- 本学「キッチン SOZO」および「カフェテリア」
従業員の皆様

IV. 活動内容

IV-1 キャラクタの考案

キャラクターイラストには、見る人に親しみを感じさせる、和ませるという効果がある。この効果を利用して、利用者に親しみを感じてもらうために、キッチン SOZO とカフェテリアそれぞれにイメージキャラクターを制作した。

制作においては、学食で使われる食器のお箸と調理器具のお玉をポイントとして利用することとし、丸い姿で親近感を抱かせ、誰でも掛けようなデザインにした。可愛いらしさを出すためにパステルカラーを使用し、優しく柔らかい色合いにした。カフェテリアとキッチン SOZO で違いを出すため、2匹を対照的な色にした。また、線を使わないことでより優しいデザインにした。



(a) 考案したキャラクター (おたま、おわん)



(b) 衣装や小物で好感度を出したキャラクター

図1 キャラクターの考案

持続型職業人 SOZO プロジェクト プロジェクト活動報告書 (学生)

魔法のお術からやってきたモンスターの「おわん」、お玉を寝床にしている妖精の「おたま」というように、それぞれ設定や性格 (キャラクター性) を考え、見た人により親近感を抱かせるように工夫した。また、季節ごとに様々な物を持たせたり、衣装を替えたりして、時候にあったデザインを制作し、月ごとに発行した掲示物 (学食だより) に使用した。また、他プロジェクトのサイトへ手筒花火を持ったデザインを提供した。

IV-2 Web サイトの構築

インターネット上から手軽に学食の情報を得られる環境を作ることと利便性を向上させ、学食利用率の増加を目的とし、FC2 無料ホームページを利用して、学食の Web サイト「SOZO 学食.com」を開発した。

PC を対象として作成したサイトには、後述の(1)~(5)のページを設け、さらに(6)に示すアクセス解析機能を持たせた。なお、同時に作成したモバイル用サイトについては、表示速度を優先するため、メニューを中心とした最小限の情報をテキストで提供することとした。

(1) トップページ

作成したサイトのトップページには、「お知らせ」として、フェアの情報や土曜営業日のお知らせを見やすい場所に配置した。また、下部ページへのアクセス向上を図るため、「更新情報」でサイト内の更新履歴を表示した。また、モバイルサイトへのアクセスを誘導する目的で、QR コードの設置を行っている。

(2) キッチン SOZO / カフェテリア

メニューページを設けることで、日替わりメニューの献立を PC や携帯電話から確認できるようにした。

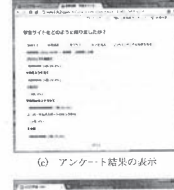
PC 用サイトには、キッチン SOZO・カフェテリアそれぞれの一週間の全メニュー名と値段、小鉢等のセット内容、定番メニューの料理写真に掲載した。モバイル用サイトには、日替わりメニューの内容のみをテキストで一週間分掲載した。



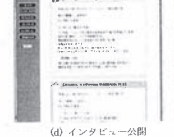
(a) top ページ



(b) アンケートページ



(c) アンケート結果の表示



(d) インタビュー公開

図2 Web サイト

繊維産業を事例とした就業研究

担当 森田ゼミ

1、プロジェクトメンバー

- ・石黒 諒
- ・桜井 宏樹
- ・友田 凌
- ・吉田 敦哉

2、プロジェクト概要

繊維産業の製造工程と流通

繊維製品の製造工程見学（繊維製品の川下から川上まで）

1) テキシスタイル製造の現場リサーチ

（愛知産業技術研究所）

2) アパレル製品の企画と製品戦略

（ヒロタ株式会社の本社見学）

3、視察先

愛知県産業技術研究所, ヒロタ株式会社

4、本プロジェクトを通じた全体の内容と価値

- ・最近の新規学生者雇用状況の把握
- ・採用企業が望む学生像
- ・就職試験に臨む学生の心構えと態度
- ・産業界とは
- ・繊維産業から見た、産業の実態（川上から川下まで）
 - 1) 愛知県産業技術研究所（川下）から見たテキスタイルの実態
 - 2) ヒロタ株式会社（川中・川上）から見たアパレルの実態

5、学生の感想

桜井 宏樹

春学期には東三河繊維センターへ行き、繊維がどういった工程で作られているのかということを知りました。工場の中では、繊維がどれだけの振力にまで耐えられるかというテストを行っていたり、さまざまな検査が行われていました。

秋学期には総合アパレルメーカーの「ヒロタ」という会社に訪問しました。ヒロタという会社は、服のデザイン、製作までを行っており、デパートやスーパー、専門店等の小売

34

業者に服を提供することを主に行っています。

1階にはショーケースが置いてあり、その時間は他の企業のお客さんがいなかったために見学することもできました。ヒロタさんの新商品が置かれており、とても綺麗なショーケースで見ているだけで楽しい気分になるようなスペースでした。ゼミ顧問の森田先生をも、「うわあ〜すごいなあ、かっこいいなあ」と唸らせるくらい、素晴らしいかったです。

東三河繊維センターへいき、秋にはヒロタさんへ訪問し、物づくりの一連の流れを学ぶことができ、全く知らない部分だったので、学ぶことができよかったです。

石黒 諒

三河繊維技術センターを訪問して

三河技術センターとは、蒲郡、知多地域を中心に生産されている綿や合繊織物をはじめとする繊維業界に対する技術支援機関として、産地特有の技術に加え、海洋、農業、土木など各種用途に応じた新しい産業用繊維資材の開発に力を注いでいる機関であり、実際に見学したもものでは、衣類の繊維の原料の調査、一定の室温と湿度で管理された実験室での繊維の強度実験、大型実験機器で行われていた漁網の強度実験や、織物を織る作業がありました。

繊維技術センターの人が言っていた言葉が非常に印象に残っていて、なおかつ恐ろしかったのは、現在、繊維業界では低価格の中国を中心とした各国の輸入物が多く流通しているという点で、僕はこの不景気で繊維業界も非常に苦しい状況だと予想しました。しかし実際は、三河繊維技術センター周辺は漁業が盛んであり、漁師さんの命ともいえる漁網が多く注文を受けるそうです。中国製などの輸入品の漁網もあるそうですが、一番の違いは、漁師さんの細かい注文にこたえることにより、漁師さんがより使いやすい漁網を作ることができるからだそうです。僕はこの話を聞き、このような海外からの低価格の輸入品が出回っている繊維業界なども、周辺地域の栄えている業種などに目を絞って、消費者個人個人の意見を取り入れ、その人のニーズに合わせたものを作ることにより、輸入品に負けない商品を作ることができることを知りました。

友田 凌

現在の就職状況について

就職氷河期とも呼ばれている現在では就職活動しても就職できない、また、就職できても自分のやりたい仕事に就けないような学生がたくさんいる。

今の日本は嵐に言う不景気で各企業の業績悪化、そのために採用数の絞り込みなどが原因だと思うがそれに対し学生側と企業側の思考の食い違いが就職率を下げている原因の一つだとも思う。

ネット調べたところ今現在学生の5人に1人は大学を卒業しても進学や進路が定まらな

いまま卒業している事が分かった。もちろんこういった学生は就職や進学など進路が定ま

35

持続型職業人 SOZO プロジェクト プロジェクト活動報告書（学生）情報ビジネス学部

炎の祭典支援プロジェクト

I、プロジェクトメンバー

情報ビジネス学部キャリアデザイン学科

3年 村田政英（リーダー）

3年 大場正義

（2名）

II、プロジェクト概要

- 炎の祭典・昼の部イベントについて、動画素材を用いて広報することによって同イベントを盛り上げ、地域振興に貢献することを目的とする。具体的には、炎の祭典委員会の取材（イベント制作過程の取材）、広報用動画の作成（委員会動画、本番当日の動画）、および、その Web ページ上での公開を通じて広報する。
- 上記の実践を通じて、様々な知識と経験を獲得する。

III、連携先企業

豊橋商工会議所青年部（YEG）

炎の祭典委員会

IV、活動内容

炎の祭典支援プロジェクトでは、大きく分けて以下の四つの活動を行った。

- (1) 炎の祭典委員会とアポイントメントと取材
 - (2) 広報用動画の作成（取材ビデオの編集）
 - (3) Web ページの作成と運用
 - (4) 炎の祭典当日の撮影と動画編集・公開
- なお、活動の進捗状況管理、メンバー間の意見交換およびファイル共有等には、貸与された iPad を用いてプロジェクト管理アプリを通じて行った。

(1) 炎の祭典委員会とアポイントメントと取材
プロジェクトテーマを決定するに当たって、豊橋の地域振興につながる活動が大きな目標と



図1 委員会の様子（豊橋商工会議所）



図2 取材中の様子（ビデオ撮影）

して掲げられた。検討を進めるうち、豊橋市の祭りが議題に上がり、地元の有名人祭である「炎の祭典」をアピールすることで地域貢献を目指すことを計画した。

調査した結果、豊橋商工会議所青年部において同イベントを運営していることを知り、アポイントメントを取りプロジェクト活動趣旨を説明したところ、取材許可を頂くことができた。その後、豊橋商工会議所の会議室にて炎の祭典委員会のメンバーと顔合わせをし、会議の様子をビデオカメラ・デジタルカメラ・ICレコーダーを用いて記録した。図1・図2に実際の会議の様子および取材中の様子を、表1・表2に取材活動履歴および結果を示す。

36

37

表 1 取材活動履歴

日時	取材内容
4月27日 19:00-21:00	顔合わせ
5月23日 19:00-21:00	第2回 炎の祭典委員会
6月02日 19:00-21:00	第3回 炎の祭典委員会
6月07日 13:00-14:00	ダンス部出演依頼
6月14日 19:00-21:00	クイズラリー打ち合わせ
6月23日 19:00-21:00	第4回 炎の祭典委員会
7月05日 19:00-21:00	第5回 炎の祭典委員会
7月22日 19:00-21:00	第6回 炎の祭典委員会 委員インタビュー
8月04日 19:00-21:00	第7回 炎の祭典委員会
8月31日 19:00-20:30	炎の祭典全体説明会
9月10日 09:30-15:00	炎の祭典



図 3 取材ビデオの編集

表 2 取材結果

ファイル数	ファイルサイズ
画像 610	2.9 GB
動画 75	132.2 GB

総取材時間: 約 19 時間

会議は炎の祭典当日の半年前から4月1日で始まり、本番に近づくにつれて回数を増やしていくことになる。

炎の祭典委員会のメンバーは皆一企業の経営者もしくは社員を取りまとめる役職の方が多く、錚々たるメンバーが行う会議の進行方法は非常に参考になった。他にも、独創的な意見や面白い意見は会議の場では生まれにくいとの体験から、会議後にプライベートで雑談する時間を積極的に取り入れるようにする話や、前年度の炎の祭典計画時にあった数々の痛快なエピソード等を伺うことができた。

(2) 広報用動画の作成 (取材ビデオの編集)

(1) の取材で得た動画を広報用動画として加工するため、本学サポートセンターの PC にて動画編集ソフト「Corel Video Studio Pro X4」を用いて編集作業を行った。なお、作業は学内の編集環境が整った 7 月から開始した。動画編集作業の様子を図 3 に示す。

作業の途半段階で、取材データ量が膨大であることから、炎の祭典本番の日までに完成さ

せるためには時間が不足していることが明らかとなった。このため、委員会の取材動画の編集作業を一時中断し、炎の祭典当日の取材および動画編集を止めた後で再開することに計画を変更した。

(3) Web ページの作成と運用

動画編集作業と並行して、広報用 Web ページ作成に着手した。当初は作成した動画の指示先として YouTube などの動画投稿サイトを利用することを検討したが、より広く認知され、かつ炎の祭典を調べようと興味を持った方達に知ってもらうため、専用の Web サイトを構築することとした。

しかし、この頃から Web サイト担当のプロジェクトメンバーが活動できなくなる事態となった。本プロジェクトとしては広報用動画作成を重視していたため、Web サイト構築に関しては担当教員に協力いただき、結果として図 4 のように広報用サイトを作成し公開した。

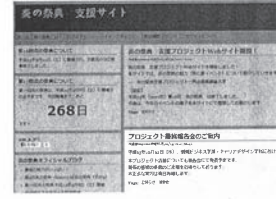


図 4 作成した「炎の祭典 支援サイト」
<http://projectweb.sozo.ac.jp/myamspro/>

(4) 炎の祭典当日の撮影と動画編集・公開

炎の祭典実行委員長の佐野大輔氏に撮影許可を頂き、炎の祭典・昼の部のイベント撮影を行った。撮影は、2 台のビデオカメラを用いてメインステージ撮影担当と周辺イベント撮影担当に分かれて行った。撮影に当たっては、当日会場に来ることが出来なかった人にも会場の様子が伝わるように、さらに、炎の祭典・昼の部を知らない人にもイベント内容や熱気が伝わるようにすることを念頭に置いて行った。当日の様子を図 5・図 6 に示す。

なお、撮影禁止のイベントや一般客の顔のアップ等が映らないように注意しながら撮影を行い、後日の編集段階で動画中に該当する場面があった場合は加工して修正した。動画内容の詳細をチェックしながら編集するのは非常に時間を必要とするため、授業時間内だけでは到底足りず、休日や空き時間を利用して作業を行った。

編集した「炎の祭典・昼の部」の動画は、前述の「炎の祭典 支援サイト」において公開中である。

V. 所見

(村田政英)
本プロジェクトを行って良かったと思える点は、人手と作業時間が足りないながらも Web サイト



図 5 炎の祭典 模擬店風景



図 6 炎の祭典 ビデオ撮影の様子

の構築と編集した動画の指示が出来たことである。プロジェクト目的として広報をする以上、明確な形を残さないことには意味がないので、必死になって行った。結果として、撮影機器の操作技術と動画編集技術の向上、目上の方と接する際の会話の仕方と幾つかの度胸を身に付けることができた。

本プロジェクトを通じて反省すべき点は、委員会の様子を撮影した動画の編集作業を完了できなかったこと、Web ページ作成と炎の祭典当日の撮影において担当教員にかなりの協力をお願いしてしまったこと、さらに、プロジェクト活動の進捗に応じて次回に行う内容を定める方針だったために、スケジュールがかなり厳しいものになってしまったことである。

1 点目は、動画の編集環境を整えることが避

れてしまったこと、および、活動前期は時間があつたにも関わらずに動画のプロットを練れなかったことが原因である。2 点目と 3 点目は、プロジェクトメンバーが中盤から一人となり、単純に人手と作業時間が減ってしまって、Web ページ作成等の知識を勉強する事が出来なかったことが主な原因である。

これらの反省点から、簡易的でもよいので活動予定の計画をたてて全タスクの期限を設定し、プロジェクトリーダーとしてメンバーのメンタルや作業の進捗状況を常に気に掛けるなど、メンバーマネジメントを怠らないようにすることが重要であることを学んだ。

謝辞

本プロジェクト活動を行うにあたり、炎の祭典実行委員会の皆様、豊橋商工会議所の皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

東三河 Bible

I. プロジェクトメンバー

情報ビジネス学部キャリアデザイン学科 3 年
・20923101 入江純平
・20923104 宇藤大輔
・20923210 佐野涼平
・20923221 早川明史
・20923222 原田利哉
担当教員 吉川優

II. プロジェクト概要

東三河のグルメ、温泉、観光、祭りについて個々に調べ、4 つの資料を合わせてひとつのホームページを作成する。ホームページビルダーを用いて作成し、その上で新たに情報を収集しつつまとめた。

常にお互いを意識して行動することを大切にし、作業に必要なコミュニケーション力の向上を行った。

諸事情により全体の作業が遅れが出たことで、蒲郡クラフトフェアへの出展に間に合わず前回発表した今後の活動予定が大幅に変更となったが、現在はひとつの形として落ち着き、一丸となって作業を進めている。

III. 連携先企業

株式会社ブレインシティ

IV. 活動内容

どのようにすれば完成度の高い HP が作成できるのかを個々に考え、意見を交わすことで、お互いを向上し合う。スケジュール確認を怠らず、足りないところは積極的にフォローすることを重点に作業を進めた。プロジェクトを進行していくにあたり、「HP 作成はこちら側で行うものでなく、(依頼者の注文に従って作成し、完成したものを送る、注文を受ける) の繰り返しでよりよい HP を作成していく。仕事を請け負った企業だけで作業を行っていくもので

なく、依頼者と話し合い、連携をとりながら、完成させていく」という、前期にお世話になった株式会社ブレインシティでの話を思い出し、意欲的に HP 作成に取り組んだ。

私達は当初 HP 作成にあたり、これらを実施しておらず、各自の作業は任せきりで進んでいた。結果、まとめの作業に入る際に様々なトラブルが発生し、そこで作業がまとまらなかった。今期ではリーダーが変わり、作業計画の改善を行ったため、前期よりスムーズに作業が進んだ。しかし、計画の改善に時間を割きすぎたため HP 作成が間に合わず、予定していた蒲郡クラフトフェアへの出展ができなかった。

HP を作成する際に東三河について調べるだけでなく、どうしたら分かりやすく、見やすい HP が作れるのかを調べ、よりよい HP 作りを目指した。

V. 所見

20923101 入江純平

私は、主に本プロジェクトの中で重点に置かれているコミュニケーションの強化に力を注いだ。

プロジェクトリーダーの変更や全体的な作業のリセット等、大きな問題がいくつかの作業で多発していたが、お互いを意識し、助け合うことでどうにかそれ以上の大きな問題を起こさずに取り戻すことができた。その中で、私はコミュニケーション力の必要性を今まで以上に痛感した。作業のスケジュール確認を怠らないことを心がけてプロジェクトを行ってきたが、その際に互いの意見を交わすことで自分の発想しえなかった意見をメンバーからいくつも受け取った。それに自分の意見をぶつけ、討論し、お互いを尊重しあうとても貴重な経験だっ

たと思う。
まだ、私としては十分な成長・十分なコミュニケーションはできないと自覚している。できなかった事の反省点を挙げれば数え切れないほど出てくるだろう。その反省点をバネにし、この一年間を通して得た情報、知識を今後社会に出た際に発揮できるように残りの大学生活を過ごしていきたい。

20923210 佐野 涼平
吉川ゼミでは、ホームページを作りあげるためにそれぞれで調べたことを分担した。

私は祭りのことについて調べたのだが、祭りの開催時期が合わず、祭りを足を運べなかったり、インターネットで調べることができず、祭りを開催していたにもかかわらず祭りに参加できなかったりなどで、祭りのことについてはインターネットからの情報をまとめる程度で終わってしまうことが多かった。情報を集めることの難しさがわかった。

祭りの情報をまとめ、他の項目を担当した人も情報をまとめる作業を終え、情報を一つのホームページにまとめることになった。

ホームページのデザインなどを担当していたのはゼミのチームリーダーなのだが、チームリーダーは途中からゼミにこなくなり、ホームページを作り上げる担当の人は変わった。ホームページの完成が遅くなり、ゼミの資料の提出も遅れてしまった。

突然一人欠けてしまうと、来なくなった人が担当していた箇所が滞るだけではなく、全体の作業も遅れてしまうことがわかった。

20923221 早川 明史
今期のプロジェクトは出だしでプロジェクトリーダーが変更し、ホームページをからやり直すことになった作業を進めていくにつれて締め切りまでに間に合わなくなったので、東三河のホームページから豊橋市と豊川市をおもに紹介したホームページへの変更をした私は特に力になるこ

とができずホームページの背景や画像探しなどホームページのレイアウトを考えていました。ホームページの作成のほとんどはプロジェクトリーダーがやってくれた私たちはホームページの資料集めくらいしか手伝えなかったのもうしわけない気持ちでした。ある程度できてからは演出に力をいれた、画像にアイコンを持っていくと画像が変わるなどいろいろな演出を取り入れた前期とくらべて、個人の作業が少なかったせいもあるが今期は調べ終わっていない人のフォローにはいる事以外の作業はまかせっきりだったので迷惑をかけてしまったと反省している。

2923222 原田 和哉
今期のプロジェクト演習では、リーダー変更により、私がリーダーになることになった。そこで、前リーダーが決めていた計画を改善し、前期に収集した情報を基にホームページの作成を行った。

リーダーの変更や計画の改善に時間をとられ、ホームページの作成が間に合わずサブグループフェアへの出展ができなかったで反省している。今後は、作業に遅れがでないように気を付けたい。ホームページを作成する際に足りない情報はすぐに調べ、時間があれば現地に行くように心がけた。東三河のすべてを調べるには時間が足りないで、一部しかホームページに乗せられないことが悔やまれた。
急な話とはいえ、リーダーを任せられたのだからリーダーとしての自覚を持ち、常に状況把握を心がけなければならぬことが分かった。リーダーだからといって他のメンバーにすべてを任せるのではなく、リーダーを中心にメンバー同士が支えあって進めなければプロジェクトは完遂できないと感じた。

この一年を通して得た経験を得た社会で活かしたいと思う。

認定試験を受けるための学習環境構築と運営

- I. プロジェクトメンバー
・中村恵美
・平井千珠
・五味悠一郎先生 (指導教員)

II. プロジェクト概要
学内外を対象として、診療情報管理士認定試験の自主勉強会と対策講座の企画運営を行なった。また、OB/OG 訪問を行ない、就職活動に役立つ知識の修得や就職先などの開拓も行なった。

- III. 連携先法人
・医療法人 元町病院
・医療法人 田中会 西尾病院
・医療法人 宝美会 総合青山病院
・湘都市民病院
・飯田市立病院
・小野田内科
・医療法人 栗山会 飯田病院
・総合病院 三原赤十字病院
・医療法人 風起会 可知病院
・東京医科大学 八王子医療センター
・鳥取赤十字病院

- IV. 活動内容
本プロジェクトで行なった活動内容は以下の通りである。
1) 自主勉強会の企画運営
2) 認定試験対策講座の企画運営
3) 認定試験対策講座の宣伝
4) OB/OG 訪問
本プロジェクトのスケジュールを表1に示す。

1. 自主勉強会の企画運営

1.1 方法
自主勉強会の企画運営を行なうため、平成24年度認定試験の受験者全員に、実施方法の調査を行なった。

1.2 結果
各自で自主的に勉強の方が効率良いということだったので、自主勉強会は止めた。

Table 1: Project Schedule. Columns: Date, Content (planned/actual).

2. 認定試験対策講座の企画運営

認定試験の合格者をめざして、平成24年度認定試験の受験者を対象に、認定試験対策講座を実施している。

2.1 方法

行なった作業は、以下の通りである。
● 対策講座の日程を決定した(表2)。
● 認定試験対策講座を実施している。
● 対策講座を受講した人にアンケート(どこで情報を得たのかなど)を実施する。

2.2 結果
認定試験の合格者が多かったため、平成24年度認定試験の受験者全員に、実施方法の調査を行なった。

表2 認定試験対策講座の日程(抜粋)

Table with 4 columns: Session No., Date, Subject, Duration/Content.

2.2 結果
当初の予定通りに、対策講座の運営を滞りなく進められている。

3. 認定試験対策講座の宣伝

3.1 方法

- 以下の方で宣伝した。
1) 各医療機関への宣伝
● 案内文の発送先及び件数をキャリアセンターと相談した。
● キャリアセンターが学内向けに公開している医療施設リストから、発送する医療機関を決定した(図1)。

Table: Medical Facility List (Excerpt) with columns for Hospital Name, Address, etc.

図1 医療施設リスト

認定試験対策講座の案内文(抜粋)
皆様、計画中の講座にお越しください。ご参加のこととお願い申し上げます。
私達情報ビジネス学部では、平成23年度認定試験対策講座を開催いたしました。その通り認定試験対策講座を開催することをいたしました。
参加費は無料です。ご参加ください。

図2 認定試験対策講座の案内文(抜粋)

- 2) WEB 上での宣伝
● 新・診療情報管理士を目指し勉強中の方のBBS、アメーバブログに対策講座の紹介を載せた(図3)。
● 豊橋創造大学のTOPページのTopicsに対策講座のお知らせを載せた(図4)。

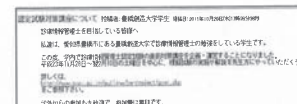


図3 診療情報管理士を目指し勉強中の方のBBS

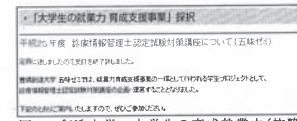


図4 創造大学 大学生の育成就業力(抜粋)

- 3.2 結果
以下の効果があった。
● 定員20名のところ、22名の応募があった。
● 実際に参加した人の人数は、11月26日~12月10日までの間で最高14人だった(図5)。
● 様々な方から応募があり、東京都や広島県、鳥取県と遠方からの応募者もいた。
● 去年は外部からの参加者が2名だったので、今年は多くの参加者を集められた。



図5 対策講座の風景

- 3.3 検証
外部からの参加者が増えた理由を検証した。
1) 去年
● 近隣医療機関に送付する求人票に同封した。案内文を送付した。
● 求人票の送付先が各医療機関の人事課だった。

- 2) 今年
● キャリアセンターが学内向けに公開している医療施設リストから、案内文を送る医療機関を選んだ(リストに無かった医療機関も付け加えた)。
● 各医療機関の医事課宛に送った。
● 診療情報管理士を目指している人向けのインターネット掲示板に載せた。

3) まとめ
昨年は潜在的な受講希望者に情報が伝わらなかった。今年は各種媒体を適切に利用したことで、情報が伝わったと考えられる。

4. OB/OG 訪問

OB/OG 訪問を行ない、就職活動に役立つ知識の修得や就職先などの開拓も行なった。

- 4.1 方法
以下の作業を行なった。
● キャリアセンターから頂いたOB/OGのいる医療機関のリストから、OB/OG訪問先を選定した。

- OB/OG訪問先にアポイントをとるために、電話対応のマニュアルを考えた(図6)。
● 元町病院にアポイントを取り、訪問する日程を決定した。
● 元町病院へOB/OG訪問した。
● OB/OG訪問の報告書を作成した。

OB訪問 皆様が出た場合、私達情報ビジネス学部3年の○○○○と申します。お忙しいところ大変恐れ入りますが、OB・OG訪問の件で人事課の○○様 お願い致します。(個人が違った場合)大変申し訳ないです。今日OB・OG訪問という形にいつか質問させて頂きたいのですが都合の良い日はありますか？ ○○様は○○様 場所○○でございますね。ありがとうございました。今日はよろしくお願ひ致します。失礼致します。

図6 電話対応マニュアル(抜粋)

- 4.2 結果
認定試験対策講座の準備に時間がなかったため、OB/OG訪問は一つの医療機関だけしか訪問出来なかった。OB/OG訪問の様子を図7に示す。



図7 元町病院にOB/OG訪問

V. 所見

A. 中村恵美
秋学期の作業は、一つ一つの仕事がとても大変でした。中でも、封入作業が一番辛かったです。まず、エクセルで西三河・東三河の医療機関のデータをまとめ、宛名ラベルを作りました。次に対策講座の案内文と申込用紙を各205枚ずつ印刷し、送付状も作成して205枚印刷し、封筒に入れました。封筒に宛名ラベルとクロネコメール便のシールを貼る、教務課の和田さんに提出したので全部やり直すことになってしまいました。これを知ったときは気が遠くなりましたし、決められた期間に終わらないんじゃないかと不安でした。やり直したとしても大変で時間もかかってしまいましたので、対策講座には沢山の人が参加してくれたのが良かったです。

B. 平井千瑛

診療情報管理士認定試験を受ける人に講座を知ってもらうためにはどうすれば良いか考え、病院内の診療情報管理士関連の課(医事課)にお知らせをして、試験を受けようと思っ
ている人達が見ている掲示板に案内を載せました。結果、定員より多くの応募があったので、認定試験対策講座の宣伝は成功しました。

各医療機関への送付物作りの中で、郵便メールの封筒作り(宛名シールや郵便シールの張る場所など)を一度失敗し、そのおかげで一般常識を覚える事に繋がりました。普通の学生生活を送っているだけでは体験出来ないことをしたので、自分たちのためにもなりました。

対策講座は11月末から始まっており、参加者がスムーズに対策講座を受けられるように誘導の仕方を考え、当日の動きを先生やキャリアセンターの方と相談し、失敗しないように努めました。来年2月の試験に向けて、参加者の中から一人でも多くの方が合格できるように、対策講座を運営していこうと思います。

参考文献

- 1) 新・診療情報管理士を11指し勉強中の方のBBS
<<http://8412.teacup.com/himmezasu2/bbs>> (11/12/15)
- 2) 「診療情報管理 実習生のためのガイドブック」大友達也 編者
- 3) 「大学生の就活編」株式会社 ディスコ

事業グループ成果報告書

グループ名	担当者	関連資料
メンタルタフネスグループ	今井 正文 千賀 博巳 村松 史子	報告書 P98 アンケート結果 P104
プロジェクト実践グループ (情報ビジネス学部)	三好 哲也	報告書 P110 アンケート集計 P113
プロジェクト実践グループ (キャリアプランニング科)	今泉 仁志	報告書 P116 アンケート集計 P118
ユビキタスキャンパスグループ	山口 満 細谷 邦夫	報告書 P121 アンケート集計 P125
大学コミュニティーグループ	中村 隆三	報告書 P127 送付文書 P129 アンケート集計 P130

メンタルタフネスの育成

担当 今井正文

1. グループ事業の取組

メンタルタフネスグループでは、ストレス耐性や我慢の欠如などメンタルタフネスの不足に対応するため、セルフモチベーション、リーダーシップ、目標設定・目標達成などの理論的背景と実践的演習を組み合わせて学生自身の経験知を高める教育プログラムであるメンタルタフネス育成講座を開発・展開した。情報ビジネス学部では、2年生3月に「第1回メンタルタフネス育成 ベーシック講座」、3年生の9月に「第2回メンタルタフネス育成 セルフモチベーション講座」、10月「第3回メンタルタフネス育成 メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座(1)」、12月「第4回メンタルタフネス育成 メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座(2)」の計4回の講座を実施した。各回の講座の概要を以下に示す。

「第1回メンタルタフネス育成 ベーシック講座」

日時:平成23年3月23日(水)9:00-17:00、24日(木)9:30-12:00

場所:豊橋創造大学 A23 教室

内容:自己のメンタルタフネス

- ・メンタルタフネスの基礎知識
- ・ストレスとは、自己のストレス状況の把握(ストレス度チェック、ストレスサー、)
- ・ストレス対応のための資源、リラックス法等

「第2回メンタルタフネス育成 セルフモチベーション講座」

日時:平成23年9月6日(火) 9:30-16:40

場所:豊橋創造大学 B24 教室

内容:セルフモチベーション

- ・モチベーションに関する基本的な知識
- ・モチベーションの代表的な理論(良く知られている考え方)
- ・自分自身のモチベーション「持論」の研究

「第3回メンタルタフネス育成 メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座(1)」

日時:平成23年10月25日(火) 9:30-16:30

場所:豊橋創造大学 A32 教室

内容:仕事理解と企業研究

- ・企業研究の必要性と考え方
- ・ボードゲームを用いた企業研究(アパレル業界)
- ・ケーススタディを用いた仕事理解(タイプ別アドバイス法)

「第4回メンタルタフネス育成 メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座(2)」

日時:平成23年12月17日(土) 9:30-16:15

場所:豊橋創造大学 A32 教室

内容:自己分析と就職活動

- ・就職活動と自己分析の関係を考えてみる
- ・ボードゲームを用いたビジネス研究(携帯電話業界)
- ・ケーススタディを用いた仕事理解(課題解決)

2. 活動成果

メンタルタフネス育成講座では、自己のメンタルタフネス、セルフモチベーションから初めて、仕事理解と企業研究、自己分析と就職活動というような内容で実施したが、各回の講座の学生アンケートの結果をまとめると以下の様になる。アンケートは5段階評価(評価 5. 非常に満足 4. 満足 3. 普通 2. 不満足 1. 非常に不満足)で実施した。

アンケート評価(概略)

	質問内容	第1回	第2回	第3回	第4回
Q1	講座の満足度は?	3.6	4.0	3.9	3.9
Q2	講座の内容は、今後の日常生活や就職活動、働いていく上で役立つと思いますか?	3.9	4.2	4.0	3.9
Q3	講師の話は分かりやすかった	3.7	4.8	4.2	4.3
Q4	パワーポイントは理解しやすかった	3.7	4.5	4.2	4.1
Q5～	各種ワークの平均値	3.5	3.9	3.7	4.0

アンケート評価の概略からは、初回が若干低いもののおおむね 4 前後であり、多くの学生が講座の内容を理解し、メンタルタフネスへの意識付けも出来ていると考えられる。第 2 回目以降のメンタルタフネス講座の評価が第 1 回に比して高いのは、第 1 回実施後アンケート評価を受けて実施内容等の検討を行いワーク等を変更した事による。また、講座全体の満足度に対して、各種のワークの値が低い傾向がみられるので、各回のワーク別のアンケート評価を次に示す。第 1 回の自己ストレスの共有や第 2 回以降の自分史の自己紹介等の自己開示関連のワークとケーススタディの評価が低く、第 1 回おもしろ村のような相互作用関連やボードゲーム関連は評価が高い様子である。出席率については、全日程 5 日間の平均で 84%程度であった。第 2 回のセルフモチベーション講座だけが 65% 特に出席率が低くなってしまったが、これは夏季休業中の開催の周知徹底や調整不足が原因と考えられる。

ワーク別アンケート評価 (第 1 回)

	質問内容	評価
Q5	自分のストレス状況を共有するグループワークはいかがでしたか?	3.4
Q6	「K ゲーム」のグループワークはいかがでしたか?	3.5
Q7	「思考記録票(考え方の柔軟性を養う)」のグループワークはいかがでしたか?	3.4
Q8	「おもしろ村」のグループワークはいかがでしたか?	3.8
Q9	自律訓練法やリラックス体操はいかがでしたか?	3.3

ワーク別アンケート評価（第2回）

Q5	「自分史」や「モチベーション曲線」による自己紹介はいかがでしたか？	3.4
Q6	「モチベーションの有名な考え方」は参考になりましたか？	4.0
Q7	モチベーションの「持論」を通して、自分への理解は以前より深まりましたか？	4.0
Q8	セミナーを通して、以前よりモチベーション（メンタルタフネス）への興味・理解は深まりましたか？	4.2

ワーク別アンケート評価（第3回）

Q5	「自分史」や「モチベーション曲線」による自己紹介はいかがでしたか？	3.0
Q6	ノードストローム社の物語はいかがでしたか？	3.8
Q7	ボードゲームを使ったビジネス研究はいかがでしたか？	4.3
Q8	ケーススタディを通じた仕事理解はいかがでしたか？	3.5

ワーク別アンケート評価（第4回）

Q5	「就職活動」「自己分析」については参考になりましたか？	4.2
Q6	ボードゲームを使ったビジネス研究はいかがでしたか？	4.3
Q7	他の業界について、ボードゲームを使ったビジネス研究をやってみたいと思いますか？	4.1
Q8	ケーススタディを通じたグループワークはいかがでしたか？	3.4

3. 今後の課題点

アンケート評価は各回 4.8～3.3 と分かれており、評価の低いワークについては、内容及び時間配分等について改善する必要がある。また、全体スケジュールの問題点として、キャリアセンターが就職活動に対応するため行っている就職ガイダンスやインターンシップとの日程調整も必要であることが明らかになった。

以上の事から、メンタルタフネス育成講座については、評価の低い講座について改善を行うとともに、スケジュールについては、インターンシップおよび就職ガイダンスと連携する形で、2年3月から3年9月までの間に全4回の講座を実施することとする。就職ガイダンスと連携する事により、メンタルタフネス育成講座から始まり、インターンシップ、就職ガイダンス、就職活動への学生の関心と行動をスムーズにつなげる事が出来ると期待している。次回のメンタルタフネス講座では、講座の意味付けとともに開催スケジュール等の周知について徹底するよう留意したい。

4. その他

特になし

グループ事業名称
メンタルタフネスの育成

担当 千賀博巳 村松史子

1. グループ事業の取組

2年次の始まる前に「メンタルタフネス育成講座」を実施し、秋学期の始まる前に「セルフモチベーション講座」の2つの講座を実施した。

「メンタルタフネス育成講座」

日時:2011年3月23日(水)～24日(木)

23日は9時～17時 24日は9時30分～12時

場所:豊橋創造大学 A24教室

内容:自分のメンタルタフネスを活かせる「場」を見つける

- ・ストレスとは?
- ・なぜ、メンタルタフネスが必要か?
- ・メンタルタフネスを自分のものにするにはどうしたら良いか?

講座内容

項目	内容
グループワーク1	学習スタイルのインベントリーを使用した自己紹介
メンタルタフネスベーシック講座1	メンタルタフネスの基本的知識の習得。自分自身のストレス状況の把握
グループワーク2	Kーゲーム
グループワーク3	ストレス度チェック ストレッサーの把握と共有
メンタルタフネスベーシック講座2	ストレス要因の代表例の理解。人間関係のストレス増加とコミュニケーション不全
メンタルタフネスベーシック講座3	ストレスに対応するための4つの資源の理解
グループワーク4	思考的記録票
グループワーク5	おもしろ村
メンタルタフネスベーシック講座4	体の緊張を和らげるリラックス法の実践と習得
グループワーク6	自分自身のリラックス法の共有

「セルフモチベーション講座」

日時:2011年9月6日(水) 9時30分～16時40分

場所:豊橋創造大学 B32教室

内容:・モチベーションとは何か?

- ・モチベーションに関する基本的な知識
- ・モチベーションの代表的な理論(良く知られている考え方)
- ・自分自身のモチベーション「持論」の研究

講座内容

項 目	内 容
グループワーク1	「自分史」を使った自己紹介
セルフモチベーション講座1	モチベーションに関する基本的知識の習得
グループワーク2	モチベーション曲線の記入
セルフモチベーション講座2	モチベーションの「良く知られている考え方」を知る①
グループワーク3	TOYOHASHI 幼稚園の悩み
セルフモチベーション講座3	モチベーションの「良く知られている考え方」を知る②
グループワーク4	「欲求5段階説」の予想
セルフモチベーション講座4	モチベーションの「良く知られている考え方」を知る③
個人ワーク5	私のモチベーション曲線

2. 活動成果

「メンタルタフネス育成講座」の目標

- ・自分の学び方を理解することができる。
- ・ストレスに興味を持ち、自信を持ってこれからの環境変化に対応することができる。
- ・あなた自身が日常生活において気軽に実行できるストレス対応法を身につける。

以上のことを目標にして実施され、5段階評価でアンケート(評価方法は 5. 非常に満足 4. 満足 3. 普通 2. 不満足 1. 非常に不満足)を実施した。

アンケート結果は次の通り

	質 問 内 容	ポイント
1	講座の満足度は？	4.0
2	講座の内容は、今後の日常生活や就職活動、働いていく上で役立つと思いますか？	4.1

今回が初めての試みで過去の実績はないが、多くの学生が講座の内容を理解し、メンタルタフネスの意識が高まったことと思われる。

「セルフモチベーション講座」の目標

- ・自分自身のモチベーションを探求することによって、より自分に適した「環境」や「仕事」が選択できるようにする。
- ・モチベーションに対する「持論」を持つことによって、自分自身のモチベーションを「自己調整」できるようにする。

以上のことを目標にして実施され、5段階評価でアンケート(評価方法は 5. 深まった 4. 少し深まった 3. どちらでもない 2. あまり深まらない 1. 深まらなかった)を実施した。

アンケートの結果は次の通り

	質 問 内 容	ポイント
1	講座を通して、以前よりモチベーション(メンタルタフネス)への興味は深まりましたか？	3.6

2	講座の内容は、今後の日常生活や就職活動、働いていく上で役立つと思いますか？	4.0
3	モチベーションの「良く知られている考え方」は参考になりましたか	4.0
4	モチベーションの「持論」を通して、自分への理解は以前より深まりましたか	3.8
5	前回と同じ質問、「講座全体の満足度は？」	3.7

学生の主なコメント

自分を見直せた。

自分のモチベーションの上げ方が分かった。

やる気はどんな時に起きるかが理解できた。

就職した後も役に立ちそうだと思った。

目標達成の勉強になった。

目標を高く持つということは大変参考になった。

色々なエピソードがあって新たな発見があった。

モチベーションに対する考え方が変わった。

目標を設定すること、自分を理解することの大切さが分かった。

モチベーションの重要性が分かった。

以上の結果から、多くの学生が、モチベーションへの興味・理解、就職活動や日常生活に役立ちそうだと概ね良好な評価をしている。学生のコメントに関しては全体的に好意的なものが多く、メンタルタフネス講座に対する興味や学びへの関心度が伺える内容になった。

3. 今後の課題点

「メンタルタフネス育成講座」はほとんどの学生が参加したが、「セルフモチベーション講座」は、夏休み中の実施と、各セミナー間での認識の相違により参加者が減少した。参加者が前回より減少したことにより、アンケート結果の一人当たりの影響力が上昇し、少数の意見が平均的に影響した可能性が見られた。開催時期に関しては、学生のコメントにおいて「色々学べたけど、夏休みにやってほしくなかった」などの意見がいくつか見られ、メンタルタフネス講座全体の意味づけをする教科が必要と思われる。総合的には「学生満足度の上昇」、「開催時期」、「出席の確保」が次回の課題である。

「学生満足度の上昇」については、毎回4.5ポイント以上になるように、講座の内容を検討する。

「開催時期」については、来年度より、新たな気持ちでいる時の1年次入学時点と、1年次の秋学期当初に実施する。

「出席の確保」については、事前に内容について十分周知徹底し、講座の重要性をキャリアプランニング科の授業の中で、理解を図っていく。

4. その他

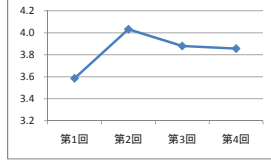
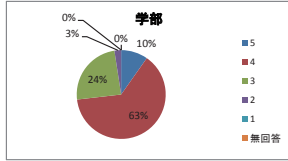
特になし

第1回-第4回メンタルタフネス講座アンケート集計

Q1 セミナー全体の満足度は？

	5	4	3	2	1	無回答	平均	学部	合計
学部	12	78	30	3	0	0	3.8		
合計	5	4	3	2	1	0	3.6	123	123

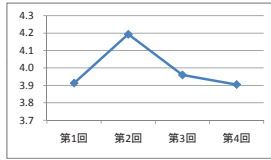
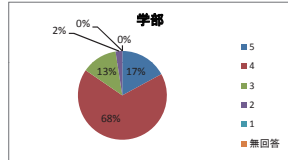
5.非常に満足 4.満足 3.普通 2.不満足 1.非常に不満足



Q2 講座の内容は、今後の就職活動を進めていく上で参考になりましたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均	学部	合計
学部	21	83	16	3	0	0	4.0		
合計	5	4	3	2	1	0	3.9	123	123

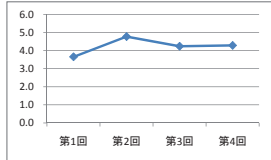
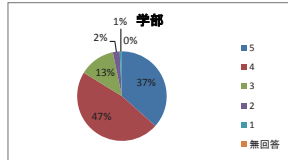
5.とてもそう思う 4.そう思う 3.どちらでもない 2.そう思わない 1.全くそう思わない



Q3 講師の話は分かりやすかったですか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均	学部	合計
学部	45	58	16	3	1	0	4.2		
合計	9	4	3	2	1	0	4.2	123	123

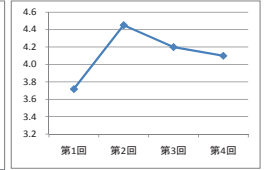
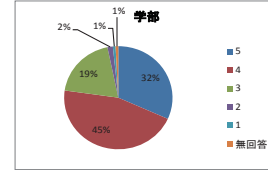
5.とてもそう思う 4.そう思う 3.どちらでもない 2.そう思わない 1.全くそう思わない



Q4 パワーポイント(スライド)は理解しやすかったですか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均	学部	合計
学部	39	56	24	2	1	1	4.0		
合計	5	4	3	2	1	0	3.7	123	123

5.とてもそう思う 4.そう思う 3.どちらでもない 2.そう思わない 1.全くそう思わない



各種ワークの評価

第1回

Q5 自分のストレス状況を共有するグループワークはいかがでしたか	3.4
Q6 「Kゲーム」のグループワークはいかがでしたか	3.5
Q7 「思考記録(考え方の柔軟性を養う)」のグループワークはいかがでしたか	3.4
Q8 「おもしろ村」のグループワークはいかがでしたか	3.8
Q9 自律訓練法やリラクセス体操はいかがでしたか	3.3
平均	3.5

第2回

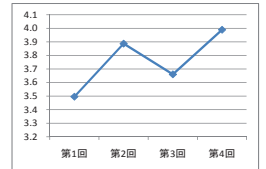
Q5 「自分史」や「モチベーション曲線」による自己紹介はいかがでしたか	3.4
Q6 「モチベーションの有名な考え方」は参考になりましたか	4.0
Q7 モチベーションの「持論」を通して、自分への理解は以前より深まりましたか	4.0
Q8 セミナーを通して、以前よりモチベーション(メンタルタフネス)への理解は深まりましたか	4.2
平均	3.9

第3回

Q5 「自分史」や「モチベーション曲線」による自己紹介はいかがでしたか	3.0
Q6 マードストローム社の物語はいかがでしたか	3.8
Q7 ボードゲームを使ったビジネス研究はいかがでしたか	4.3
Q8 ケーススタディを通じた仕事理解はいかがでしたか	3.5
平均	3.7

第4回

Q5 「就職活動」「自己分析」については参考になりましたか	4.2
Q6 ボードゲームを使ったビジネス研究はいかがでしたか	4.3
Q7 他の業界について、ボードゲームを使ったビジネス研究をやってみましたか	4.1
Q8 ケーススタディを通じたグループワークはいかがでしたか	3.4
Q9 その他やってみてみたい業界	4.0
出版	3.5
テレビゲーム	3.9
農業	3.7
バイク	3.7
医療	4.0
サイバーエージェント	4.0



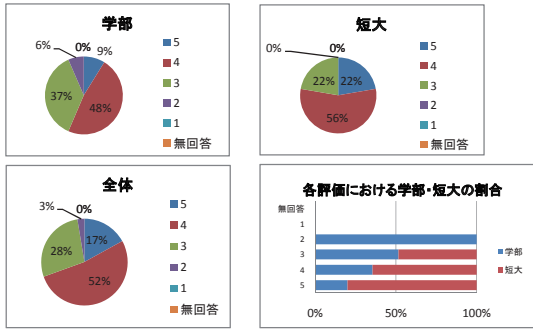
第1回メンタルタフネスベーシック講座アンケート集計

学部	46
短大	72
合計	118

Q1 セミナー全体の満足度は？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	4	22	17	3	0	0	3.6
短大	16	40	16	0	0	0	4.0
全体	20	62	33	3	0	0	3.8

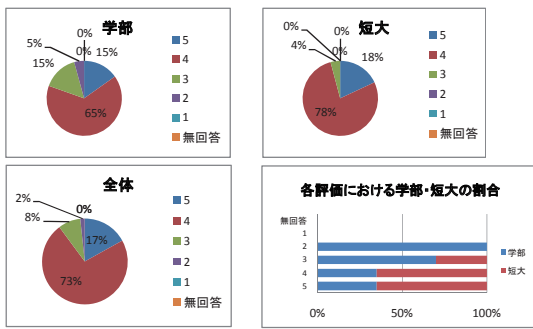
5.非常に満足 4.満足 3.普通 2.不満足 1.非常に不満足



Q2 講座の内容は、今後の日常生活や就職活動、働いていく上で役立つと思いますか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	7	30	7	2	0	0	3.9
短大	13	56	3	0	0	0	4.1
全体	20	86	10	2	0	0	4.1

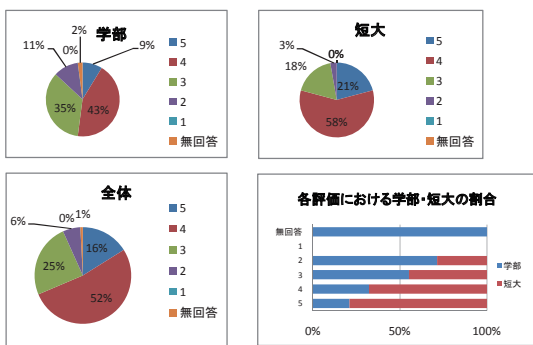
5.とてもそう思う 4.そう思う 3.どちらでもない 2.そう思わない 1.全く思わない



Q5 自分のストレス状況を共有するグループワークはいかがでしたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	4	20	16	5	0	1	3.4
短大	15	42	13	2	0	0	4.0
全体	19	62	29	7	0	1	3.8

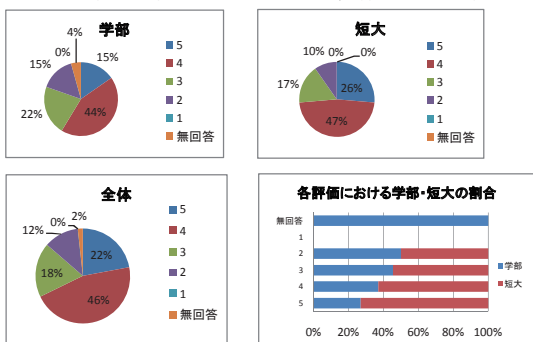
5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



Q6 「Kゲーム」のグループワークはいかがでしたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	7	20	10	7	0	2	3.5
短大	19	34	12	7	0	0	3.9
全体	26	54	22	14	0	2	3.7

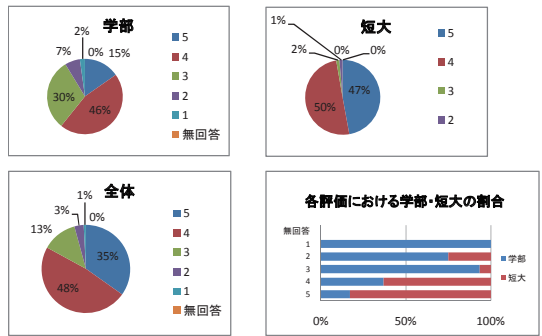
5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



Q3 講師の話は分かりやすかったですか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	7	21	14	3	1	0	3.7
短大	34	36	1	1	0	0	4.4
全体	41	57	15	4	1	0	4.1

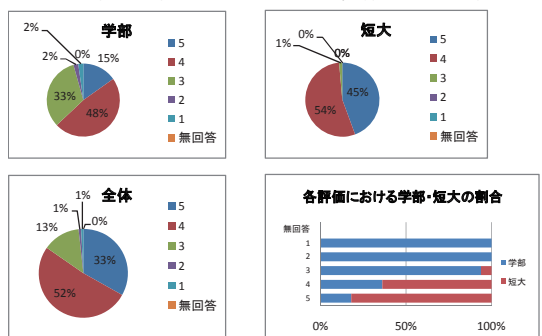
5.とてもそう思う 4.そう思う 3.どちらでもない 2.そう思わない 1.全く思わない



Q4 パワーポイント(スライド)は理解しやすかったですか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	7	22	15	1	1	0	3.7
短大	32	39	1	0	0	0	4.4
全体	39	61	16	1	1	0	4.2

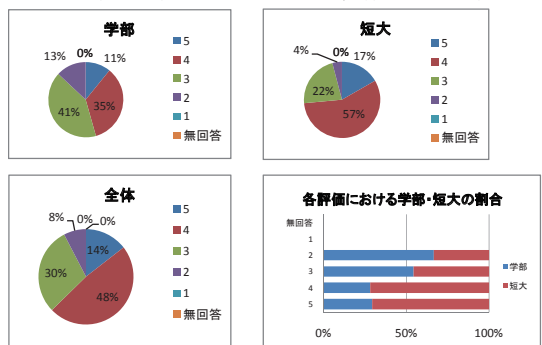
5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



Q7 「思考記録票(考え方の柔軟性を養う)」のグループワークはいかがでしたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	5	16	19	6	0	0	3.4
短大	12	41	16	3	0	0	3.9
全体	17	57	35	9	0	0	3.7

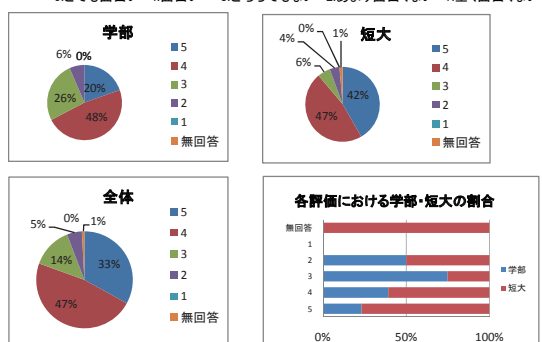
5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



Q8 「おもしろ村」のグループワークはいかがでしたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	9	22	12	3	0	0	3.8
短大	30	34	4	3	0	1	4.2
全体	39	56	16	6	0	1	4.1

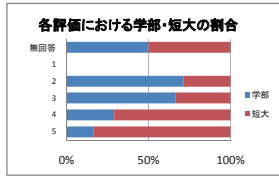
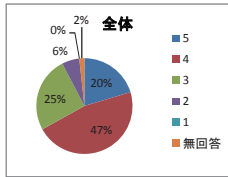
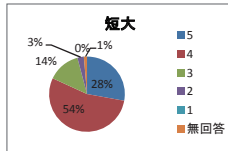
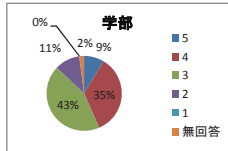
5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



Q9 自律訓練法やリラックス体操はいかがでしたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	4	16	20	5	0	1	3.3
短大	20	39	10	2	0	1	4.0
全体	24	55	30	7	0	2	3.8

5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



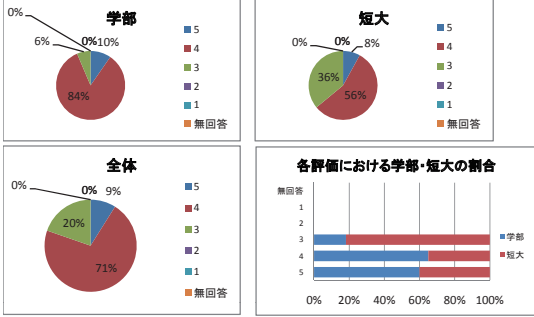
第2回セルフモチベーション講座アンケート集計

学部	31
短大	25
合計	56

Q1. セミナー全体の満足度は？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	3	26	2	0	0	0	4.0
短大	2	14	9	0	0	0	3.7
全体	5	40	11	0	0	0	3.9

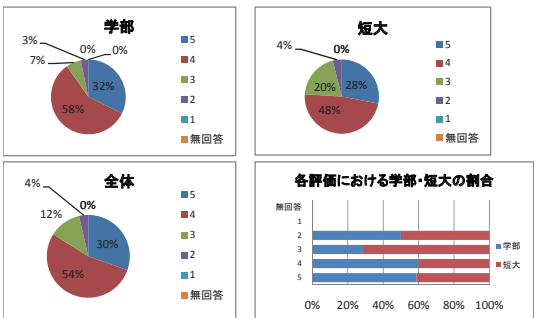
5.とても満足 4.満足 3.どちらでもない 2.不満足 1.非常に不満足



Q2. 講座の内容は、今後の日常生活や就職活動、働いていく上で役立つと思いますか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	10	18	2	1	0	0	4.2
短大	7	12	5	1	0	0	4.0
全体	17	30	7	2	0	0	4.1

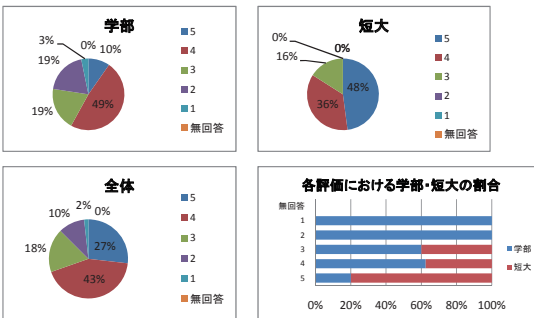
5.そう思う 4.少しだけそう思う 3.どちらでもない 2.あまり思わない 1.そう思わない



Q5. 「自分史」や「モチベーション曲線」による自己紹介はいかがでしたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	3	15	6	6	1	0	3.4
短大	12	9	4	0	0	0	4.3
全体	15	24	10	6	1	0	3.8

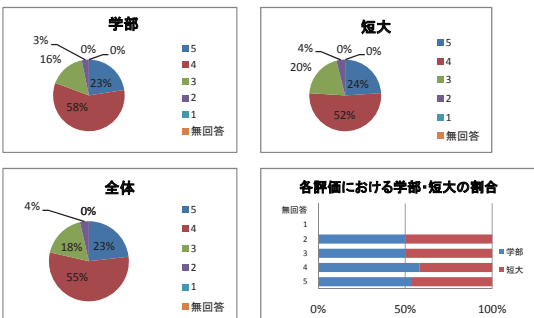
5.面白い 4.少し面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.面白くない



Q6. 「モチベーションの有名な考え方」は参考になりましたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	7	18	5	1	0	0	4.0
短大	6	13	5	1	0	0	4.0
全体	13	31	10	2	0	0	4.0

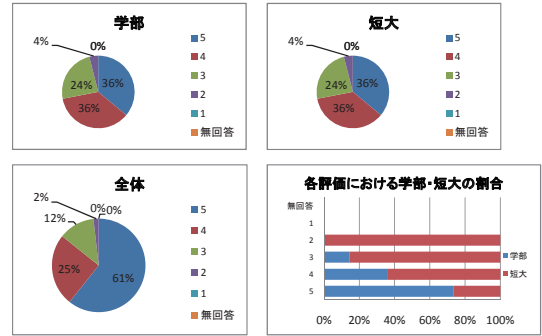
5.参考になった 4.少し参考になった 3.どちらでもない 2.あまり参考にならなかった 1.参考にならなかった



Q3. 講師の話は分かりやすかったですか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	25	5	1	0	0	0	4.8
短大	9	9	6	1	0	0	4.0
全体	34	14	7	1	0	0	4.4

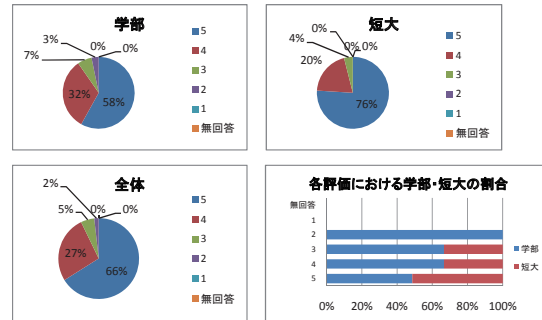
5.そう思う 4.少しだけそう思う 3.どちらでもない 2.あまり思わない 1.そう思わない



Q4. パワーポイント(スライド)は理解しやすかったですか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	18	10	2	1	0	0	4.5
短大	19	5	1	0	0	0	4.7
全体	37	15	3	1	0	0	4.6

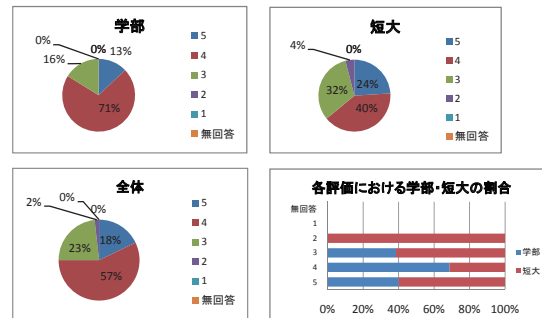
5.そう思う 4.少しだけそう思う 3.どちらでもない 2.あまり思わない 1.そう思わない



Q7. モチベーションの「持論」を通して、自分への理解は以前より深まりましたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	4	22	5	0	0	0	4.0
短大	6	10	8	1	0	0	3.8
全体	10	32	13	1	0	0	3.9

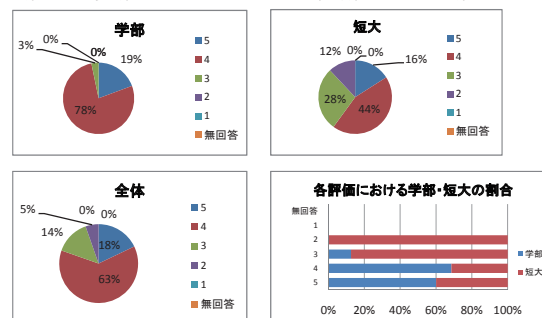
5.深まった 4.少し深まった 3.どちらでもない 2.あまり深まらなかった 1.深まらなかった



Q8. セミナーを通して、以前よりモチベーション(メンタルタフネス)への興味・理解は深まりましたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	6	24	1	0	0	0	4.2
短大	4	11	7	3	0	0	3.6
全体	10	35	8	3	0	0	3.9

5.深まった 4.少し深まった 3.どちらでもない 2.あまり深まらなかった 1.深まらなかった



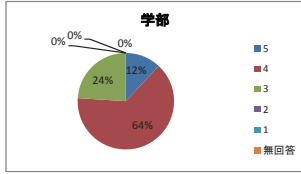
第3回メンタルフネスを活かすビジネス研究講座(1)アンケート集計

学部	25
合計	25

Q1. セミナー全体の満足度は？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	3	16	6	0	0	0	3.9

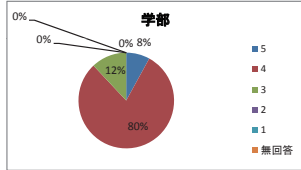
5.非常に満足 4.満足 3.普通 2.不満足 1.非常に不満足



Q2. 講座の内容は、今後の就職活動を進めていく上で参考になりましたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	2	20	3	0	0	0	4.0

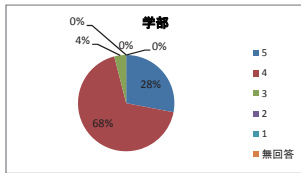
5.とてもそう思う 4.そう思う 3.どちらでもない 2.そう思わない 1.全くそう思わない



Q3. 講師の話は分かりやすかったですか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	7	17	1	0	0	0	4.2

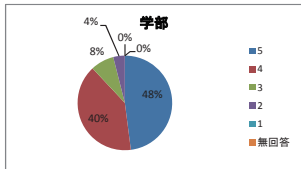
5.とてもそう思う 4.そう思う 3.どちらでもない 2.そう思わない 1.全くそう思わない



Q7. ボードゲームを使ったビジネス研究はいかがでしたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	12	10	2	1	0	0	4.3

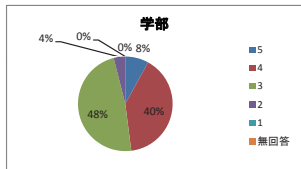
5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



Q8. ケーススタディを通した仕事理解はいかがでしたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	2	10	12	1	0	0	3.5

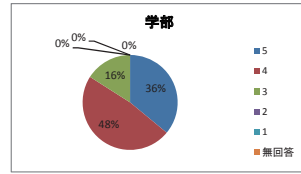
5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



Q4. パワーポイント(スライド)は理解しやすかったですか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	9	12	4	0	0	0	4.2

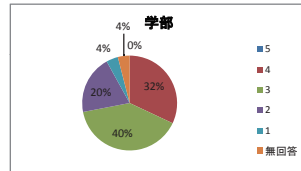
5.とてもそう思う 4.そう思う 3.どちらでもない 2.そう思わない 1.全くそう思わない



Q5. 「自分史」や「モチベーション曲線」による自己紹介はいかがでしたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	0	8	10	5	1	1	3.0

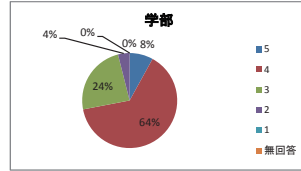
5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



Q6. ノードストローム社の物語はいかがでしたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	2	16	6	1	0	0	3.8

5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



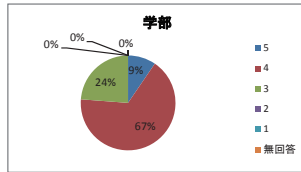
第4回メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座(2)アンケート集計

学部	21
合計	21

Q1 セミナー全体の満足度は？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	2	14	5	0	0	0	3.9

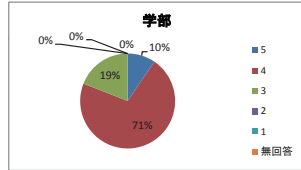
5.非常に満足 4.満足 3.普通 2.不満足 1.非常に不満足



Q2 講座の内容は、今後の就職活動を進めていく上で参考になりましたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	2	15	4	0	0	0	3.9

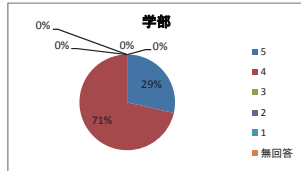
5.とてもそう思う 4.そう思う 3.どちらでもない 2.そう思わない 1.全くそう思わない



Q3 講師の話は分かりやすかったですか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	6	15	0	0	0	0	4.3

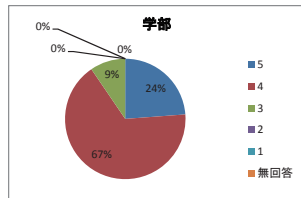
5.とてもそう思う 4.そう思う 3.どちらでもない 2.そう思わない 1.全くそう思わない



Q7 他の業界について、ボードゲームを使ったビジネス研究をやってみようと思いますか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	5	14	2	0	0	0	4.1

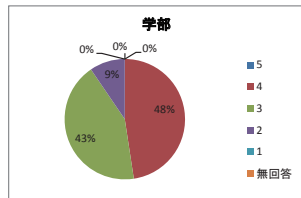
5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



Q8 ケーススタディを通したグループワークはいかがでしたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	0	10	9	2	0	0	3.4

5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



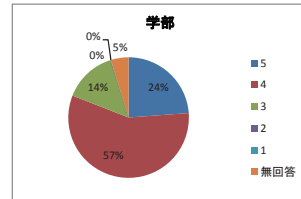
Q9. その他やってみたい業界

- 1 出版
- 1 テレビゲーム
- 1 農業
- 1 バイク
- 1 医療
- 1 サイバーエージェント

Q4 パワーポイント(スライド)は理解しやすかったですか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	5	12	3	0	0	1	4.1

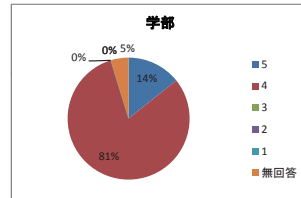
5.とてもそう思う 4.そう思う 3.どちらでもない 2.そう思わない 1.全くそう思わない



Q5 「就職活動」「自己分析」については参考になりましたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	3	17	0	0	0	1	4.2

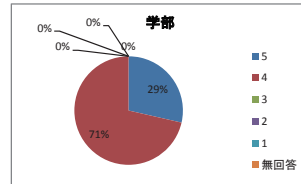
5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



Q6 ボードゲームを使ったビジネス研究はいかがでしたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	6	15	0	0	0	0	4.3

5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



プロジェクト実践（情報ビジネス学部）

担当 三好哲也

1. グループ事業の取組

（1）プロジェクト実践の目的

プロジェクト実践においては、学生の就業力育成のための一つの活動として、企業との協働プロジェクトを実施する。プロジェクトに参加し、活動を行うことにより、グループ内でのコミュニケーション能力を高め、役割分担などを行いながら主体的に行動できる能力を育成する。また、プロジェクト活動の中で、協力企業の方々との打ち合わせや意見交換を実際に体験することにより、意見形成力、意見傾聴力、コミュニケーション力など社会人として必要とされる能力（社会人基礎力）についての認識を深めさせるとともにその養成を行う。

（2）プロジェクト実践の内容

「実践的スキルのブラッシュアップ」では、学生自身が企画・立案・運営するプロジェクトを立ち上げる場の提供を行い、そのプロジェクトの運営を通して、学生自ら気付き・学ぶ「創造プロジェクト」を推進した。学生が企画するプロジェクトでは、学外の企業、団体と何らかの連携・協働するテーマを検討・実施した。この活動を進めるために、2011年から「プロジェクトマネジメント（講義）」「プロジェクト演習」の科目を開講した。プロジェクト演習では、受講学生（3年生）を13のプロジェクトグループに分割してプロジェクト活動を進めた。その活動の中で、グループ内での意識統一や他グループの進め方などを共有するために中間発表会、期末報告会の計画を立て実施した。また、プロジェクト活動のテーマ探求において必要と思われる地域での課題を理解するため、2011年度当初に予定する豊橋市役所政策企画課ならびに産業企画課担当者による講演会とグループワークによる市政提案に向け意見形成のための準備を行った。

（3）実施スケジュール

2011年2月	プロジェクト活動についての学生ガイダンス
2011年4月	キックオフミーティング1「豊橋の行政について」 豊橋市 企画部政策企画課 主査 増田 明氏
	キックオフミーティング2「豊橋の産業について」 豊橋市 産業部産業政策課 主査 田村明浩氏
2011年5月	プロジェクトテーマ提出
2011年8月	プロジェクト中間発表会
2011年12月	プロジェクト成果発表会
2012年1月	教員によるプロジェクト成果報告書の取りまとめ
2012年2月	教員による成果報告書に基づく反省会の実施

（4）実施したプロジェクト一覧

情報ビジネス学部では、平成23年度には、13のテーマに分かれてプロジェクト活動に取り組んだ。取り組んだテーマは、企業活動における物流、マーケティング、商品開発、会計処理、情報処理、経営意思決定に関する調査や提案活動、地域・学内活動の支援などを幅広いもので

あった。以下にそのテーマを示す。

1. 外食産業におけるロジスティクス・システムの研究（石田プロジェクト）
2. 福祉施設で紙芝居（今井久プロジェクト）
3. ビジネス系学生のための情報処理資格に向けた電子コンテンツの改善活動（今井正プロジェクト）
4. 豊橋市内小中学校の太陽光発電システムの稼働状況調査（見目プロジェクト）
5. 認定試験に受かるための学習環境構築と運営（五味プロジェクト）
6. 会計事務所の業務内容と組織の仕組みを知る（中野一プロジェクト）
7. 社会的企業の実証研究（中野聡プロジェクト）
8. 豊橋筆プロジェクト（花岡プロジェクト）
9. 豊橋自慢企業のトップインタビュープロジェクト（三好プロジェクト）
10. 学食広報プロジェクト by 学食おうえん団（三輪プロジェクト）
11. 東三河における繊維産業（森田プロジェクト）
12. 炎の祭典支援プロジェクト（山口プロジェクト）
13. 東三河 Bible（吉川・片岡プロジェクト）

2. 活動成果

一般に多くの人に関わるプロジェクトでは、メンバー相互の意思疎通が不可欠であり、実践的なコミュニケーション能力が求められる。本プロジェクトにおいても、コミュニケーションの実践的トレーニングがプロジェクト活動の中で繰り返し行われた。また、プロジェクトの目的達成のために、作業計画とその実行を意識して、活動に取り組む必要がある。学生は実際にプロジェクトに参加して、プロジェクト（事業）の推進のための基礎的方法を体得したと評価している。表1にプロジェクト終了後の学生自己評価アンケート結果を示す。プロジェクト推進方法についての設問では、80%以上の学生が肯定意見であり、プロジェクト進め方について積極的に考慮していたことが伺える。また、コミュニケーションスキルに関する設問では、プレゼンテーションが十分であるとの肯定評価が50%程度であり、先の項目群より相対的に小さく、課題項目として認識されている。以上のように、プロジェクト活動は、参加学生にとって協働作業における進め方の概略理解とそのために必要な能力について自己考察できる機会であったと評価できる。大学における講義では教員や友人と協働する機会が少ない中、本プロジェクトはそのような機会を提供でき、学生が組織の中で活動するための社会人基礎力の養成に貢献したと評価できる。

3. 今後の課題点

地域企業の協力を得て進める本プロジェクトは、学生にとって社会人としての擬似的体験ができるという意味で、大きな意味がある。一方で、専門知識の不足する学生の指導にご協力いただく企業の皆様には大きな御負担になっていることも否めない。そのような状況の中で、適切にテーマ設定することの困難性も指導教員の共通した考察であった。学生教育の場面として、継続できる方策について引き続き検討する必要がある。

4. その他

ここでは、プロジェクトにおける進捗管理システムの開発について述べる。プロジェクトにおいて、重要なことは設定された目的達成のために、行うべき事項を明確化し、その遂行を計画的に行う環境を形成することである。そのためには、グループ間で情報を共有し、作業内容

持続型職業人 SOZO プロジェクト
プロジェクト成果報告書 (グループ事業)

やその進捗状況の確認が不可欠である。参加学生がプロジェクトの進め方を理解し行動できるように、プロジェクト活動では「問題設定」－「行動計画」－「実施」－「評価」の実践を指導した。プロジェクト活動を iPad から記録することで、学生がその行動様式を意識できるプロジェクト管理システムを独自開発した。このシステムをプロジェクト活動で繰り返し利用することにより、プロジェクトの進め方を体得させた。利用画面を図 1 に示す。



(1)アプリトップ画面



(2)プロジェクト一覧



(3)タスク一覧



(4)議事録一覧



(5)共有ファイル



(6)タスク登録画面

図 1 iPad におけるプロジェクト管理画面

表 1 プロジェクト活動に対する学生の自己評価アンケート結果

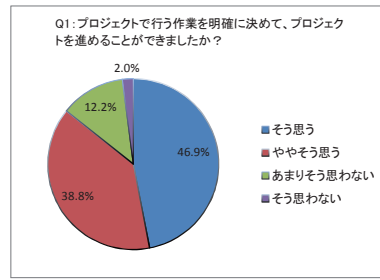
	そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	そう思わな い
Q1:プロジェクトで行う作業を明確に決めて、プロジェクトを進めることができましたか?	0.47	0.39	0.12	0.02
Q2:プロジェクトを進める上で、スケジュールを作成して取り組みましたか?	0.33	0.51	0.12	0.04
Q3:プロジェクトメンバー間で役割を決めて、プロジェクトに取り組みましたか?	0.45	0.43	0.06	0.06
Q4:他のメンバーとの情報交換を円滑に進めて、プロジェクトに取り組みましたか?	0.24	0.51	0.18	0.06
Q5:自らの意見を主張することができましたか?	0.31	0.29	0.29	0.12
Q6:自らの意見を口頭でわかりやすく伝えることができましたか?	0.06	0.43	0.43	0.08
Q7:プロジェクトの問題を認識し、必要な情報を収集・分析・整理し、問題を解決することができましたか?	0.16	0.59	0.16	0.08
Q8:既存の枠にとらわれず、新しいアイデアを出すことができましたか?	0.12	0.24	0.47	0.16
Q9:相手(他のメンバー、連携企業・団体の方)の意見を丁寧に聞き、話を引き出すことができましたか?	0.18	0.45	0.31	0.06
Q10:ビジョンを描き、目標を設定することができましたか?	0.20	0.41	0.35	0.04

プロジェクト演習学生アンケート集計結果

実施日(回収日):平成23年12月22日
 アンケート対象:情報ビジネス学部3年生 51名
 回答数:48
 回答率:96.1%

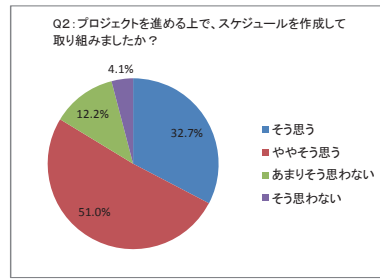
Q1:プロジェクトで行う作業を明確に決めて、プロジェクトを進めることができましたか？

プロジェクト名	在籍人数	回答数	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう思わない	合計
石田	4	4	1	3			4
今井(久)	4	4	2	2			4
今井(正)	2	2	2				2
見目	3	3	1	2			3
五味	2	2	2				2
中野(一)	4	4	1	2	1		4
中野(聡)	5	5	2		2	1	5
花園	5	5	4		1		5
三好	3	3	2	1			3
三輪	8	8	4	2	2		8
森田	4	4	4				4
山口	2	1		1			1
吉川・片岡	5	4	2	2			4
合計	51	49	23	19	6	1	49
割合		96.1%	46.9%	38.8%	12.2%	2.0%	100.0%



Q2:プロジェクトを進める上で、スケジュールを作成して取り組みましたか？

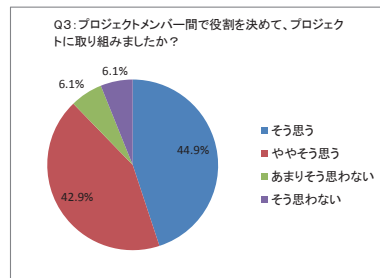
プロジェクト名	在籍人数	回答数	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう思わない	合計
石田	4	4	1	3			4
今井(久)	4	4	2	1	1		4
今井(正)	2	2		1	1		2
見目	3	3		3			3
五味	2	2	2				2
中野(一)	4	4	2	2			4
中野(聡)	5	5	2	1	1	1	5
花園	5	5	2	2	1		5
三好	3	3	2	1			3
三輪	8	8	2	5		1	8
森田	4	4	3		1		4
山口	2	1		1	1		1
吉川・片岡	5	4	1	3			4
合計	51	49	16	25	6	2	49
割合		96.1%	32.7%	51.0%	12.2%	4.1%	100.0%



プロジェクト演習学生アンケート集計結果

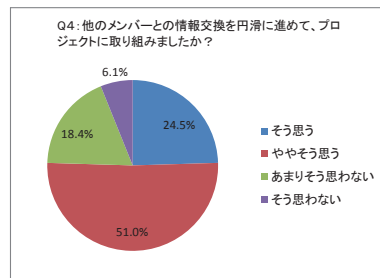
Q3:プロジェクトメンバー間で役割を決めて、プロジェクトに取り組みましたか？

プロジェクト名	在籍人数	回答数	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう思わない	合計
石田	4	4	4				4
今井(久)	4	4	2	2			4
今井(正)	2	2	2				2
見目	3	3		2	1		3
五味	2	2	2				2
中野(一)	4	4	3			1	4
中野(聡)	5	5	2	2		1	5
花園	5	5	3	2			5
三好	3	3	3				3
三輪	8	8	4	3	1		8
森田	4	4	2	1	1	1	4
山口	2	1		1			1
吉川・片岡	5	4	2	2			4
合計	51	49	22	21	3	3	49
割合		96.1%	44.9%	42.9%	6.1%	6.1%	100.0%



Q4:他のメンバーとの情報交換を円滑に進めて、プロジェクトに取り組みましたか？

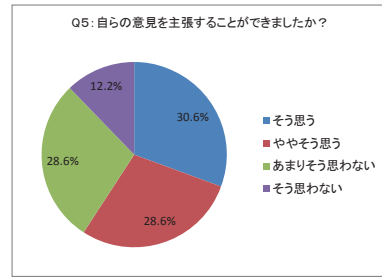
プロジェクト名	在籍人数	回答数	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう思わない	合計
石田	4	4	4				4
今井(久)	4	4		2	2		4
今井(正)	2	2		2			2
見目	3	3		2	1		3
五味	2	2	1	1			2
中野(一)	4	4		4			4
中野(聡)	5	5	1	3		1	5
花園	5	5	2	1	2		5
三好	3	3	3				3
三輪	8	8	1	4	1	2	8
森田	4	4		2	2		4
山口	2	1		1			1
吉川・片岡	5	4		3	1		4
合計	51	49	12	25	9	3	49
割合		96.1%	24.5%	51.0%	18.4%	6.1%	100.0%



プロジェクト演習学生アンケート集計結果

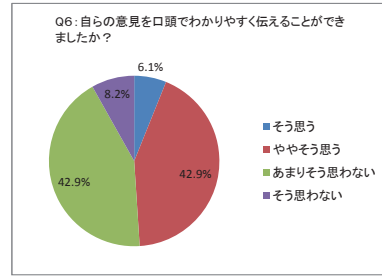
Q5: 自らの意見を主張することができましたか？

プロジェクト名	在籍人数	回答数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計
石田	4	4	2	2			4
今井(久)	4	4	1	1	1	1	4
今井(正)	2	2		1		1	2
見目	3	3	1	2			3
五味	2	2	1		1		2
中野(一)	4	4	1	3			4
中野(聡)	5	5	1		3	1	5
花園	5	5	2	2	1		5
三好	3	3	2		1		3
三輪	8	8	1	3	3	1	8
森田	4	4			3	1	4
山口	2	1	1				1
吉川・片岡	5	4	2			1	4
合計	51	49	15	14	14	6	49
割合		96.1%	30.6%	28.6%	28.6%	12.2%	100.0%



Q6: 自らの意見を口頭でわかりやすく伝えることができましたか？

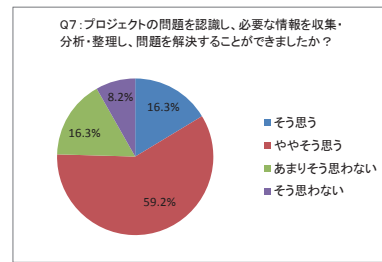
プロジェクト名	在籍人数	回答数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計
石田	4	4		3	1		4
今井(久)	4	4	1		2	1	4
今井(正)	2	2			2		2
見目	3	3	1	2			3
五味	2	2		1	1		2
中野(一)	4	4		4			4
中野(聡)	5	5		2	2	1	5
花園	5	5	1	2	2		5
三好	3	3		1	2		3
三輪	8	8		2	4	2	8
森田	4	4		2	2		4
山口	2	1		2	1		1
吉川・片岡	5	4		2	2		4
合計	51	49	3	21	21	4	49
割合		96.1%	6.1%	42.9%	42.9%	8.2%	100.0%



プロジェクト演習学生アンケート集計結果

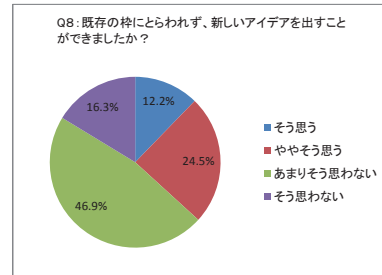
Q7: プロジェクトの問題を認識し、必要な情報を収集・分析・整理し、問題を解決することができましたか？

プロジェクト名	在籍人数	回答数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計
石田	4	4	1	2	1		4
今井(久)	4	4	2	1		1	4
今井(正)	2	2		2			2
見目	3	3		3			3
五味	2	2		2			2
中野(一)	4	4		3	1		4
中野(聡)	5	5	1	3		1	5
花園	5	5	2	2		1	5
三好	3	3	2	1			3
三輪	8	8		3	4	1	8
森田	4	4		4			4
山口	2	1			1		1
吉川・片岡	5	4		3	1		4
合計	51	49	8	29	8	4	49
割合		96.1%	16.3%	59.2%	16.3%	8.2%	100.0%



Q8: 既存の枠にとらわれず、新しいアイデアを出すことができましたか？

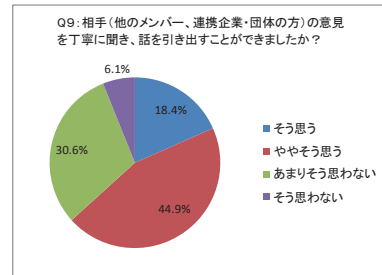
プロジェクト名	在籍人数	回答数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計
石田	4	4	1	1	2		4
今井(久)	4	4	2		2		4
今井(正)	2	2				2	2
見目	3	3	1	1	1		3
五味	2	2		1	1		2
中野(一)	4	4		2	1	1	4
中野(聡)	5	5		1	3	1	5
花園	5	5	2	1	1	1	5
三好	3	3		1	2		3
三輪	8	8		2	4	2	8
森田	4	4		2	1	1	4
山口	2	1			1		1
吉川・片岡	5	4			4		4
合計	51	49	6	12	23	8	49
割合		96.1%	12.2%	24.5%	46.9%	16.3%	100.0%



プロジェクト演習学生アンケート集計結果

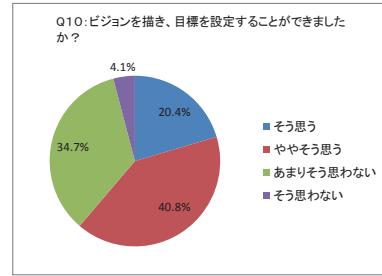
Q9: 相手(他のメンバー、連携企業・団体の方)の意見を丁寧に聞き、話を引き出すことができましたか？

プロジェクト名	在籍人数	回答数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計
石田	4	4		2	2		4
今井(久)	4	4	1	3			4
今井(正)	2	2		2			2
見目	3	3	1	1	1		3
五味	2	2		1	1		2
中野(一)	4	4	1	3			4
中野(聡)	5	5		1	2	2	5
花園	5	5	2	1	2		5
三好	3	3	2	1			3
三輪	8	8	2	4	2		8
森田	4	4		1	2	1	4
山口	2	1		1			1
吉川・片岡	5	4		1	3		4
合計	51	49	9	22	15	3	49
割合		96.1%	18.4%	44.9%	30.6%	6.1%	100.0%



Q10: ビジョンを描き、目標を設定することができましたか？

プロジェクト名	在籍人数	回答数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計
石田	4	4		3	1		4
今井(久)	4	4	1	1	2		4
今井(正)	2	2		1	1		2
見目	3	3	2		1		3
五味	2	2	1		1		2
中野(一)	4	4	1	2	1		4
中野(聡)	5	5		2	2	1	5
花園	5	5	3	1	1		5
三好	3	3	1	2			3
三輪	8	8	1	5	1	1	8
森田	4	4		1	4		4
山口	2	1		1			1
吉川・片岡	5	4		2	2		4
合計	51	49	10	20	17	2	49
割合		96.1%	20.4%	40.8%	34.7%	4.1%	100.0%



グループ事業名称 「プロジェクト実践」

担当 今泉 仁志

1. グループ事業の取組

学生の就業力育成事業の1つとして、プロジェクト活動に取り組んだ。必修の「特別研究セミナー」のコマを使い、教員の指導のもとに学生自らが企画・立案・運営するプロジェクトを経験する場とした。プロジェクト活動では携帯情報端末を活用し、ITリテラシーを体得させることを積極的に進めた。プロジェクトの運営を通して学生が人間的に成熟することを期待し、ある程度の成果をあげることができた。

2. プロジェクトの成果

プロジェクトは、以下のような全体スケジュールで進行した。

2011年04月中	プロジェクトの企画
2011年04月12日	キックオフ講演会1/2 「豊橋を知る ー行政についてー」
2011年04月19日	キックオフ講演会2/2 「豊橋を知る ー産業についてー」
2011年04月26日	テーマ決定、プロジェクト実行計画書の提出
2011年07月31日	進捗状況の確認、プロジェクト中間報告書の提出
2011年12月中	学生に対するアンケートの実施
2011年12月21日	プロジェクト発表会
2011年12月21日	プロジェクト成果報告書(学生)の提出
2012年01月20日	プロジェクト成果報告書(教員)の提出
2012年02月15日	プロジェクト活動の反省会

学生が書いた報告書やアンケート結果をみると、人間的な成長という点から見るべきものがあつた。

- ・プロジェクト活動を通して、自分の行動に対する自覚が高まつた。
- ・協力する大切さがわかつた。グループメンバーの気持ちがひとつになる経験をした。
- ・企業人と交渉することで、社会人としてのコミュニケーション能力が高まつた。
- ・仕事というものの大変さがよくわかつた。
- ・授業に対してより高いものを求めるようになった。

教員の立場から見ても、以下のような感想があつた。

- ・学生達が自発的に動いてくれるようになった。
- ・成果があがつたという実感がある。
- ・新聞で取り上げられたプロジェクトもあり、広報活動の面からもよかつた。
- ・プロジェクト活動を通じて、一人ひとりの学生をよりよく理解できた。
- ・プロジェクト活動は、スキルアップにも役立つた。
- ・ゼミ活動の一環ということで、スムーズにできた。
- ・パワーポイントを使い、グループで成果を発表する機会を持てたことはよかつた。

持続型職業人 SOZO プロジェクト
プロジェクト成果報告書（グループ事業）

- ・自信を持って成果を発表する様子を見ていて、成長している様子が伺えた。

3. 今後の課題点

今回のプロジェクト運営を総括するために、教員で反省会を開催した。

- ・テーマ選定はなかなか困難
プロジェクトのテーマ選定は、ほとんど教員がやっているのが実情である。必修のゼミのコマで対応しているが、学生によってモチベーションに大きなばらつきがある。学生が自分の課題であるという意識を持って取り組むまでに時間がかかる。
- ・ゼミの時間だけでは自ずと活動範囲に限界がある。
選んだテーマにもよるが、土曜日・日曜日を利用して活動する必要があり、通常の授業のコマを振り替える必要がでてくる。
- ・外部組織との関わりはなかなか困難
上記と密接に関連するが、とにかく時間がかかるものである。教員がやってしまえば簡単なことなのだが、わざわざ学生にやらせようとすれば匙加減がなかなか難しい。
- ・お互いのプロジェクト活動の「見える化」が不足
プロジェクト活動状況を教員同士が共有し、運営上のノウハウが水平展開できればよかった。

4. その他

- ・iPad の活用については、ハンディな携帯情報端末として、今まで以上に活用したい。

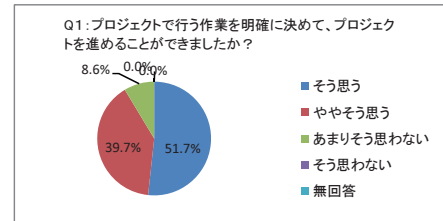
■以上。

プロジェクト演習学生アンケート集計結果

実施日(回収日):平成23年12月16日
 アンケート対象 : キャリアプランニング科2年生 43名
 延べ回答数:58

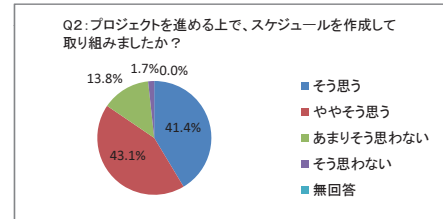
Q1:プロジェクトで行う作業を明確に決めて、プロジェクトを進めることができましたか?

プロジェクト名	在籍人数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
朝倉(コックさん)	8	6	2				8
朝倉(焼菓子)	8	3	3	2			8
今泉	4		2	2			4
木下	8	6	2				8
千賀・中島	10	1	8	1			10
寺本	2	2					2
細谷	4	3	1				4
村松	14	9	5				14
合計	58	30	23	5	0	0	58
割合		51.7%	39.7%	8.6%	0.0%	0.0%	100.0%



Q2:プロジェクトを進める上で、スケジュールを作成して取り組みましたか?

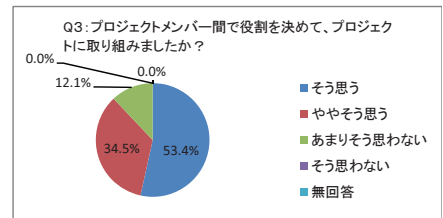
プロジェクト名	在籍人数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
朝倉(コックさん)	8	5	2	1			8
朝倉(焼菓子)	8	3	2	2	1		8
今泉	4		2	2			4
木下	8	5	2	1			8
千賀・中島	10	1	9				10
寺本	2	2					2
細谷	4		2	2			4
村松	14	8	6				14
合計	58	24	25	8	1	0	58
割合		41.4%	43.1%	13.8%	1.7%	0.0%	100.0%



プロジェクト演習学生アンケート集計結果

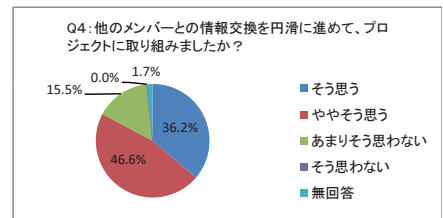
Q3:プロジェクトメンバー間で役割を決めて、プロジェクトに取り組みましたか?

プロジェクト名	在籍人数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
朝倉(コックさん)	8	4	4				8
朝倉(焼菓子)	8	4	2	2			8
今泉	4		1	3			4
木下	8	6	2				8
千賀・中島	10	2	6	2			10
寺本	2	2					2
細谷	4	3	1				4
村松	14	10	4				14
合計	58	31	20	7	0	0	58
割合		53.4%	34.5%	12.1%	0.0%	0.0%	100.0%



Q4:他のメンバーとの情報交換を円滑に進めて、プロジェクトに取り組みましたか?

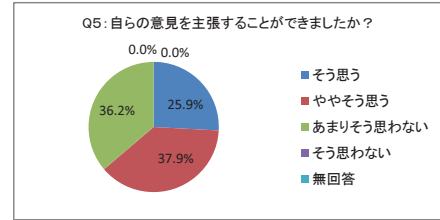
プロジェクト名	在籍人数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
朝倉(コックさん)	8	3	4	1			8
朝倉(焼菓子)	8	3	3	2			8
今泉	4		2	2			4
木下	8	3	4	1			8
千賀・中島	10	1	7	1		1	10
寺本	2	2					2
細谷	4	2	1	1			4
村松	14	7	6	1			14
合計	58	21	27	9	0	1	58
割合		36.2%	46.6%	15.5%	0.0%	1.7%	100.0%



プロジェクト演習学生アンケート集計結果

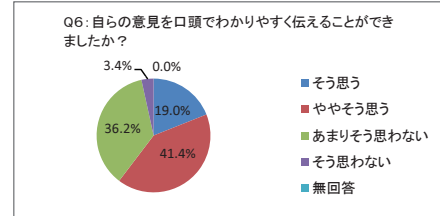
Q5: 自らの意見を主張することができましたか？

プロジェクト名	在籍人数	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう思わない	無回答	合計
朝倉(コックさん)	8	1	2	5			8
朝倉(焼菓子)	8	2		6			8
今泉	4		1	3			4
木下	8	2	5	1			8
千賀・中島	10	2	5	3			10
寺本	2	2					2
細谷	4		2	2			4
村松	14	6	7	1			14
合計	58	15	22	21	0	0	58
割合		25.9%	37.9%	36.2%	0.0%	0.0%	100.0%



Q6: 自らの意見を口頭でわかりやすく伝えることができましたか？

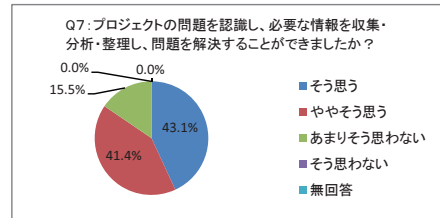
プロジェクト名	在籍人数	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう思わない	無回答	合計
朝倉(コックさん)	8	2	3	3			8
朝倉(焼菓子)	8		1	6	1		8
今泉	4			4			4
木下	8	1	5	1	1		8
千賀・中島	10		7	3			10
寺本	2	2					2
細谷	4		3	1			4
村松	14	6	5	3			14
合計	58	11	24	21	2	0	58
割合		19.0%	41.4%	36.2%	3.4%	0.0%	100.0%



プロジェクト演習学生アンケート集計結果

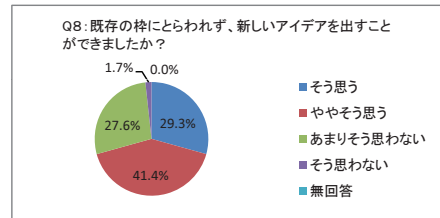
Q7: プロジェクトの問題を認識し、必要な情報を収集・分析・整理し、問題を解決することができましたか？

プロジェクト名	在籍人数	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう思わない	無回答	合計
朝倉(コックさん)	8	3	3	2			8
朝倉(焼菓子)	8	2	5	1			8
今泉	4		2	2			4
木下	8	5	2	1			8
千賀・中島	10	2	7	1			10
寺本	2	2					2
細谷	4	3		1			4
村松	14	8	5	1			14
合計	58	25	24	9	0	0	58
割合		43.1%	41.4%	15.5%	0.0%	0.0%	100.0%



Q8: 既存の枠にとらわれず、新しいアイデアを出すことができましたか？

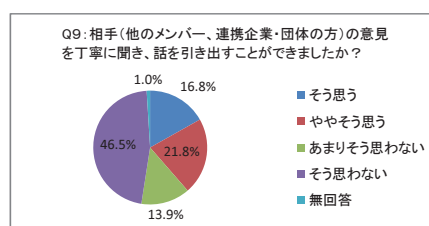
プロジェクト名	在籍人数	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう思わない	無回答	合計
朝倉(コックさん)	8	2	3	3			8
朝倉(焼菓子)	8	1	5	2			8
今泉	4		1	2	1		4
木下	8	3	3	2			8
千賀・中島	10	1	7	2			10
寺本	2	2					2
細谷	4		1	3			4
村松	14	8	4	2			14
合計	58	17	24	16	1	0	58
割合		29.3%	41.4%	27.6%	1.7%	0.0%	100.0%



プロジェクト演習学生アンケート集計結果

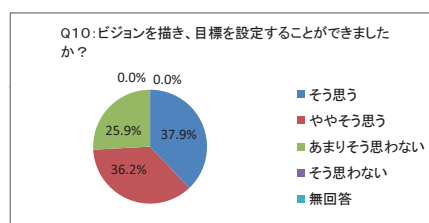
Q9: 相手(他のメンバー、連携企業・団体の方)の意見を丁寧に聞き、話を引き出すことができましたか？

プロジェクト名	在籍人数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
朝倉(コックさん)	8	1	3	4			8
朝倉(焼菓子)	8	1	1	6			8
今泉	4		1	1	2		4
木下	8	3	4	1			8
千賀・中島	10	2	7			1	10
長谷川	45				45		45
細谷	4	1	2	1			4
村松	14	9	4	1			14
合計	101	17	22	14	47	1	101
割合		16.8%	21.8%	13.9%	46.5%	1.0%	100.0%



Q10: ビジョンを描き、目標を設定することができましたか？

プロジェクト名	在籍人数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
朝倉(コックさん)	8	3	3	2			8
朝倉(焼菓子)	8	1	2	5			8
今泉	4			4			4
木下	8	3	3	2			8
千賀・中島	10	4	6				10
寺本	2	2					2
細谷	4		3	1			4
村松	14	9	4	1			14
合計	58	22	21	15	0	0	58
割合		37.9%	36.2%	25.9%	0.0%	0.0%	100.0%



ユビキタス・キャンパスの始動

担当 山口 満

1. グループ事業の取組

本グループ事業『ユビキタス・キャンパスの始動』では、大学と学生をインタラクティブに結ぶユビキタス・キャンパスの実現を目指して、携帯情報端末の配布、学内の IT 環境の整備、アプリケーション開発支援、および、『持続型職業人 SOZO プロジェクト』に特化した Web サイト・データベースの構築を目的として活動を行った。

平成 23 年度は、具体的に以下の計画に基づき活動を実施した。

- ① 情報ビジネス学部キャリアデザイン学科 3 年生に携帯情報端末（iPad）を配布し、Web 情報検索等で利用させることを通じて、IT リテラシーを習得・向上させる
- ② 携帯情報端末の利用を促進させるため、学内において、いつでも・どこでも学生がインターネット等を利用できる環境を整える
- ③ 就業力育成に寄与する電子コンテンツ・アプリケーションや情報提供の仕組み（Web サイトなど）を開発・構築・運用する
- ④ 携帯情報端末用プロジェクト管理アプリケーションの開発・配布について技術的支援を行い、『実践的スキルのブラッシュアップ』におけるプロジェクト活動で活用させることを補助する。

2. 活動成果

平成 23 年度の実施結果を以下に示す。

- ① 事前に iPad に各種設定を施したのち、平成 23 年 3 月末に学生に対して iPad を配布し、あわせて基本的な利用方法に関する説明会を実施した。
- ② iPad をより利用しやすくするため、学内ネットワークシステムにおける学生の利用状況などの調査を通じて、無線 LAN 環境の充実化方策を検討した。なお、検討結果については、平成 24 年度向けの学内ネットワーク環境整備（新・無線 LAN 環境の構築）に活かし、平成 23 年度末に具体的に充実化策を実施する予定である。
- ③ 本事業に関する学生向けポータルサイトを開設し、①で使用した説明資料をはじめとする各種マニュアル掲示等の情報発信活動を行った。また、就業力育成につながる大学独自の iPad アプリ開発について検討を行った（これについては、平成 23 年度内の完成を目指し、継続して検討中である）。さらに、平成 22 年度に導入した e-learning システム（Handbook）の利用環境整備を行うとともに、同システムで利用できる学習コンテンツの選定・導入を行った。
- ④ プロジェクト管理アプリケーションについて、ポータルサイトを通じた学内向け配布環境を整備した。また、アプリの不具合報告や改善要望等を集約し、開発業者とともに逐次不具合修正・新規機能追加などの活動に取り組んだ。

持続型職業人 SOZO プロジェクト
プロジェクト成果報告書（グループ事業）

平成 23 年度の活動については、次の方法を通じて効果を測定し評価することとした（なお、③の一部および④については調査出来ていないため、調査方法も含め今後検討していく必要がある）。

(1) iPad 貸与学生に対するアンケートの実施

iPad 貸与前後で自身に生じた変化をアンケートにより振り返らせ、iPad 配布による効果を検証する（各自の主観的評価）。実際の利用状況や利用上で生じた問題など、個々の意見を収集して整理し、運営方法に関する改善点を明らかにする。

(2) 学内ネットワークシステム等の利用実績（記録）の整理と集計

学内ネットワークシステムにおけるユーザの iPad 利用ログを収集・整理して実際の利用状況（利用者数、利用時間、利用場所、ほか）を明らかにし、本補助事業実施の前後で比較して効果を検証する（機器利用状況に関する定量的評価）。

評価

(1) アンケート結果について（抜粋）

- 週 4 日以上 iPad を使用した学生は 21 名/48 名（43.8%）となり、ほぼ日常的に使用した学生は 4 割超であった
- 自宅で iPad を利用した学生は 27 名（56.3%）であり、大学内のみならず、半数以上の学生が自宅でも iPad を使用していたことが明らかとなった
- iPad を貸与したことによって、半数以上（6 割程度）の学生に何らかの変化が生じたことが明らかとなった（図 1）
- 『やや満足』『満足』と回答した学生は 39 名（81.3%）であり、大部分の学生が iPad を使用する活動に満足感を得ていることが確認された（図 2）

この結果から、iPad の貸与を通じて学生の IT 機器に触れる機会が増大し、かつ大部分が満足したことが明らかとなり、一定の効果があつたといえる。

Q5 iPad貸与による変化(複数回答可)
(情ビ:n=48)

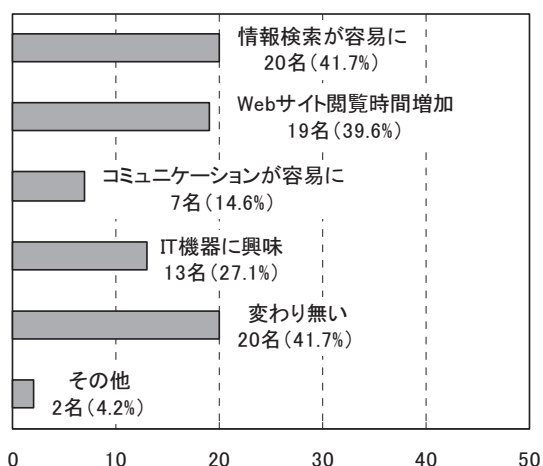


図 1 iPad 貸与による変化

Q9 iPadの貸与およびiPadを用いた活動について
(情ビ:n=48)

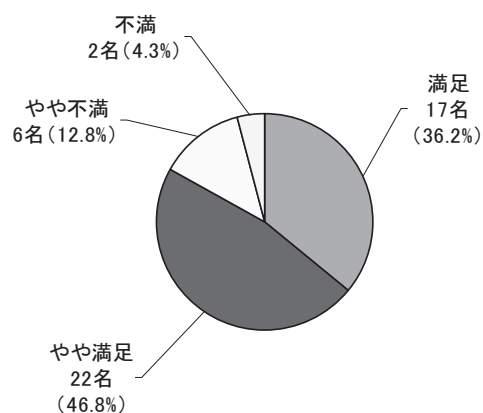


図 2 iPad を用いた活動の満足度

（２）学内ネットワークシステム等の利用実績について（抜粋）

平成 22 年度の学内無線 LAN システムの利用状況を調査したところ、学生の利用は日あたり最大 2～3 ユーザ（全学）であった。これは、個人でノートパソコンを持つ学生による利用であった。一方、平成 23 年度については、前年度と大きく異なり、日あたり最大 93 ユーザ（全学、うち当該学部については 49）となった。

以前から本学には IT 環境が整備されていたものの、その利用者はごく少数の IT に慣れ親しんだ学生に限られていた。本事業の iPad 貸与を通じて、多くの学生に無線 LAN（ネットワーク）利用を経験させることができ、事業目的である IT リテラシー習得の一助になったものと評価できる。

3. 今後の課題点

実施結果および評価結果より、今後は以下の課題について対応を検討する必要がある。

- iPad の利用頻度を高める方策を検討する。これには、プロジェクト、講義・演習での積極利用が必要であるため、支援体制の充実化（ポータルサイト等のコンテンツの充実化・周知、相談窓口の検討等）を行う。また、IT 機器の取り扱いが不得手な学生に対する興味喚起ため、講義に限らず学生生活や就職活動に役立つアプリを準備する等、iPad 利用機会を増やす仕掛けを検討する
- 就業力において重要な部分を占める学生の基礎学力の向上のため、e-learning システムの一層の活用を進める。これを行うためには、教職員が活用する上での問題や障害を把握し、それを解消する方法を検討し実施しなければならない
- 学生の IT スキル向上を図るには、指導する側である教職員の IT 活用スキルが強く影響することから、ポータルサイトを通じたチュートリアル（動画素材含む）などの情報揭示や勉強会の開催などを行い、学生とともに教職員に対する支援体制も強化する。質問や相談事項については、FAQ などの形式にまとめ、ポータルサイトを通じて情報を共有できる方法を検討する
- 『大学と学生をインタラクティブに結ぶ』仕組みを構築できていないため、インタラクティブ性を重視したアプリケーション・システムの準備を検討する。

4. その他

現在、平成 24 年度中に全学年（学部・情報ビジネス学部キャリアデザイン学科、経営学部経営学科、短大部：キャリアプランニング科）に iPad を貸与し、全学的に活用できるようにすることを計画中である。これにより、授業等での利活用を阻害する要因（持たない学年・学生がいて使用し難い、等）が排除され、iPad の効果的な活用方法の創出および実施に繋がると期待される。

【本グループ事業関連サイト】

- ポータルサイト <http://project.sozo.ac.jp/>
- Handbook Studio <http://handbook.sozo.ac.jp/>

1. グループ事業の取組

学生個々に配布された iPad を活用し、プロジェクトを円滑に進めるために、プロジェクト管理アプリを有効利用し、学生間での情報交換を活発にする。

2. 活動成果

各プロジェクトにおいて当初は活用されていたが、いつも顔を合わせているメンバーということもあり、ゼミによっては次第に利用状況が下がり、ファイル共有程度の利用だけになっていたことは否めない。しかしながら、客観的に進捗状況を把握するためにも、アプリの活用は必須であると考え。

当初の見込みと違い、就職活動で活用をされていたことは嬉しい誤算であったかもしれないが、その結果、就職に結びついたかどうかは集計していない。

3. 今後の課題点

当初、個人的に予定していた Handbook の活用が中途半端に終わってしまったため、次年度は医療秘書検定対策問題集などの構築を進めていきたい。

また、せっかくのアプリであるの、他のプロジェクトの状況が共有できると更に活用が進むのではないかという意見があった。

4. その他

iPad 自体は学生にも概ね好評であり、高校での進路相談会でも興味を持つ生徒が居た。学生たちが使いこなせるかという心配は杞憂であったので、活用方法を学生に考えさせることも検討したい。

iPad 利用状況等調査アンケート【共通】

持続型職業人 SOZO プロジェクト委員会

このアンケート調査は、文部科学省 大学改革推進事業・採択『持続型職業人 SOZO プロジェクト』において貸与した iPad の利用状況等を把握し、今後の運営方法等の改善や計画立案に役立てることを目的として実施するものです。4 月からの iPad 利用状況、および、これまでの利用を踏まえたうえでの意見など、以下の質問事項に回答してください。

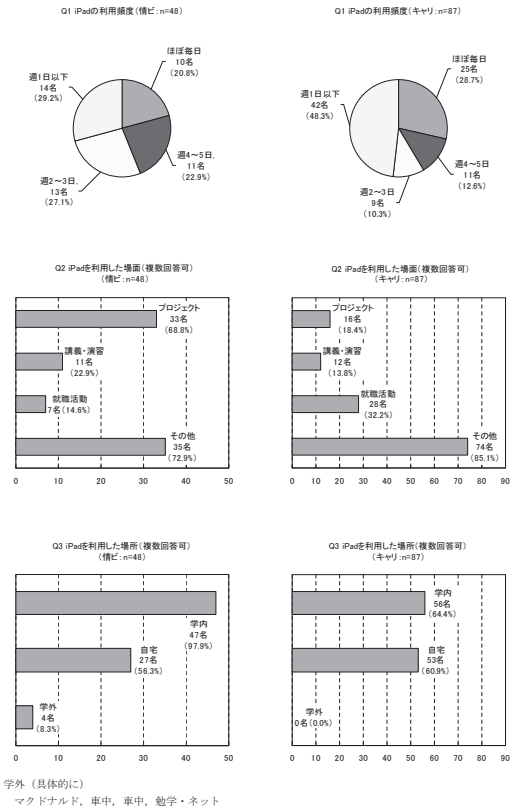
学部・学科 (該当に○)	・ 情ビ・キャリアデザイン学科		・ 短大・キャリアプランニング科	
学年 (該当に○)	1年	2年	3年	4年

質問事項	回答 (該当する項目を“○”で囲む)			
	ほぼ毎日	週 4～5 日	週 2～3 日	週 1 日以下
Q1 iPad の利用頻度				
Q2 iPad を利用した場面 (該当するもの全てに○)	プロジェクト	講義・演習	就職活動	その他
Q3 iPad を利用した場所 (該当するもの全てに○)	学内	自宅	(具体的に)	
Q4 自宅のインターネット接続環境について	Wi-Fi(無線 LAN)環境がある		Wi-Fi(無線 LAN)環境がない	
Q5 iPad を貸与されたことにより、あなたの生活にはどのような変化が生じましたか? (該当するものすべてに○)	・ 情報の検索が容易になった(インターネットが身近になった) ・ インターネット(Web サイト)を閲覧する時間が増えた ・ コミュニケーションを取りやすくなった ・ IT 機器(モバイル端末等)に興味を持つようになった ・ 特に変わりはない ・ その他 (具体的に)			
Q6 iPad にインストールしたアプリについて (Handbook、プロジェクト管理アプリを除く)	有料アプリをインストールした (掛けた費用: 約 円)	無料アプリのみ	インストールしていない	
Q7 iPad 利用上のトラブルや不具合について、どのようにして解決しましたか? (該当するものすべてに○)	・ ポータルサイトにあるマニュアルを調べた ・ インターネットで検索して調べた ・ サポートセンターや教員に相談した ・ 家族・友人に相談した ・ トラブルや不具合はなかった ・ その他 (具体的に)			
Q8 iPad 利用に関する支援について、今後望むことはありますか? (該当するものすべてに○)	・ もっと説明会を開いて欲しい ・ もっとマニュアルを充実して欲しい ・ もっとポータルサイトに情報を提示して欲しい ・ 気軽に相談できる場所(人)や時間を設けて欲しい ・ 特になし ・ その他 (具体的に)			
Q9 (全体を通して) iPad の貸与、および、iPad を用いる活動について	満足	やや満足	やや不満	不満
Q10 その他 (意見や感想等を自由に記述)				

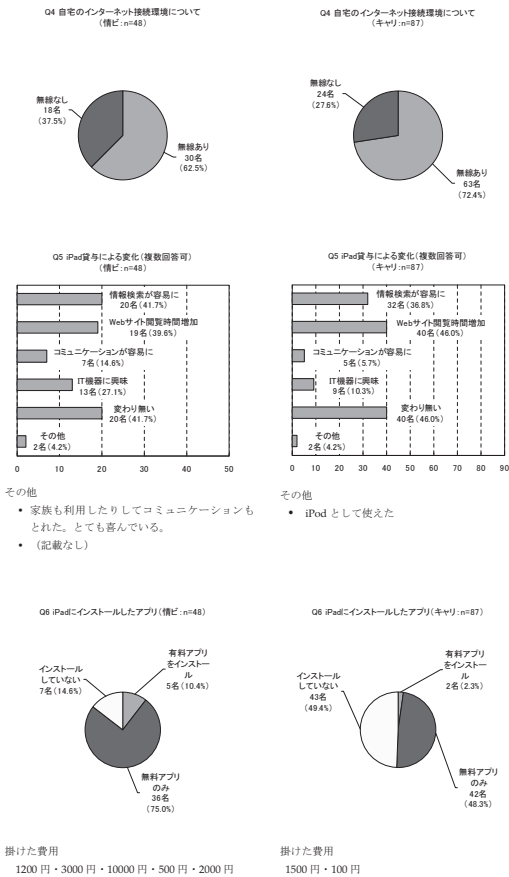
※本アンケートで収集した情報については、アンケートの目的(今後の取り組み改善の検討)のみに使用し、他の目的に使用されることはありません。

ユビキタスキャンパスグループ アンケート回答集計結果

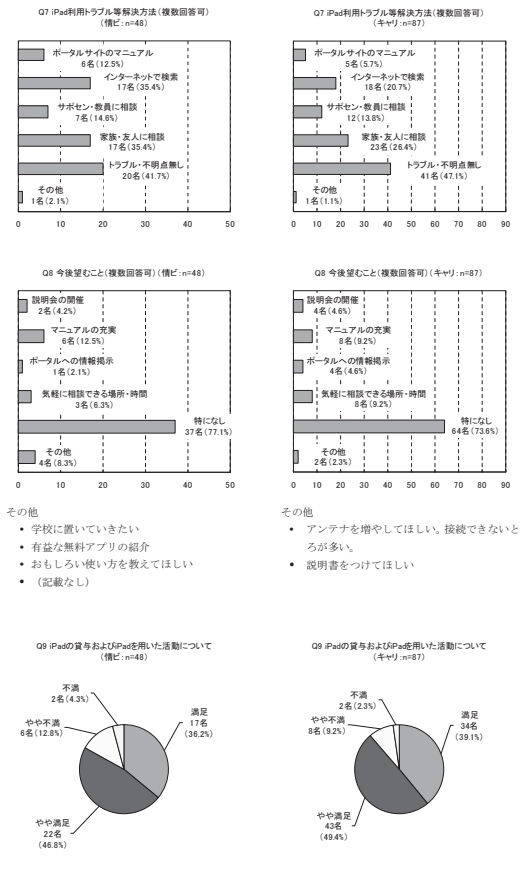
情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科 12月22日 (48名) 実施
短期大学部 キャリアプランニング科 12月中 (87名) 実施



ユビキタスキャンパスグループ アンケート回答集計結果 (2/5)



ユビキタスキャンパスグループ アンケート回答集計結果 (3/5)



Q10 その他 (意見や感想等を自由に記述) (情比)	Q10 その他 (意見や感想等を自由に記述) (キャリア)
<ul style="list-style-type: none"> iPad は持ち運びするにはやや重たい気がします。個人ロッカーがあると便利です。(A) とても役に立ちます (B) どこでも使いたい為に、小型の無線 LAN など支給して欲しい (B) 大学に保管場所が欲しい (B) どう使えばいいか、わからなかった (C) 特に iPad の必要性を感じることがなかった (D) 	<ul style="list-style-type: none"> ありがとうございました。(A) iPad があってとても役に立ちました。(A) iPad を貸与していただき、ありがとうございますでした。(A) iPad 便利なので、買取りしなかった！ (A) とても便利であった (A) iPad 欲しい！！ (A) 大学でこのような機会を増やしてくれたことはとても良かったですし、身近でふれられて嬉しかったです。ありがとうございます。(A) i-pad を通して、色々の知識や使い方が分かって良かったです。(A) 個人ではノートパソコンを持っているので iPad を買うことはないと思います。でも使ってみようと思っていたので使わせていただき感謝しています。(A) iPad ほしい！！毎日 YouTube or 音楽流しながら化粧してた。(A) 新しい iPad とか出てるから次の人にそれ買ってうちにあの iPad 下さい。(A) PC より使いやすいですよ。(A) ダンスを練習するときとても便利だった。(B) 便利でした。(B) iPad がほしい！！！！！！ (B) もっと長く貸してほしかった。(B) 自分が使っていた iPad がほしいです。(B) iPad 貸出は必要ないと思う。(B) 特に使う機会も少なかったの、いいとマフボしのオモチャにはなった程度だった。何のために配布されたのかわからなかった。(C) 持ち運ぶのが重たいし、インターネットにつながらなかったりあまり活用しなかった。(C) 重いなだけだった。iPad を活用する授業を作ってほしいと思った (C) パソコンがあるから使わない。限られた場所しかネットとか使えないなら必要ない。(C) iPhone があるのでほとんど利用しませんでした。(D)

※ 文末の記号 (・) は Q9 の回答結果を表す
 (A) 満足
 (B) やや満足
 (C) やや不満
 (D) 不満

集計結果について

- Q1 iPad の利用頻度**
 - 週4日以上使用した学生は、情比で21名/48名 (43.8%)、キャリアで36名/87名 (41.4%)であった
 - 一方、週1日以下と回答した学生が情比で14名 (29.2%)、キャリアで42名 (48.3%)であり、一部の学生はほとんどiPadを活用できていなかった事実が明らかとなった (関連: Q2)
- Q2 iPad を利用した場面**
 - 『プロジェクトで使用した』と回答する学生が少なかった。次年度以降は、『プロジェクト』および『講義・演習』での利用率を高めていく必要がある (関連: Q1)
- Q3 iPad を利用した場所**
 - 自宅でiPadを利用した学生が情比で27名 (56.3%)、キャリアで53名 (60.9%)となった。大学内にとどまらず、半数以上の学生が自宅でiPadを使用していたことがわかる。自宅のネット環境に依存していることが予想される (関連: Q4)
- Q4 自宅のインターネット接続環境について**
 - 情比で62.5%、キャリアで72.4%の学生の自宅に無線LAN環境があることがわかった。およそ3分の1の学生に無線LAN環境が無いため、講義で活用 (自宅における自習・予習等を前提とする) する際は配慮や工夫が必要である (関連: Q3)
- Q5 iPad 貸与による変化**
 - 『変わり無い』と回答した学生が情比で41.7%、キャリアで46.0%となったものの、iPadを貸与したことによって半数以上の学生には何らかの変化が生じたことがわかった
- Q6 iPad にインストールしたアプリ**
 - キャリアにおいて『インストールしていない』と回答する学生が約半数であった。Q1のほとんど活用していない学生が該当するものと予想される (関連: Q1)
 - 有料アプリをインストールする学生は少数であった。有料アプリの導入手順をマニュアル化していなかったことも一因と考えられるため、準備していく必要がある
- Q7 iPad 利用上のトラブル等の解決方法**
 - ポータルサイトはほとんど活用されていないことが明らかとなった。今後はポータルサイトの充実化を図る予定である (関連: Q6・Q8)
- Q8 iPad 利用に関する支援について今後望むこと**
 - マニュアルの整備や、サポート体制 (相談場所・時間) の強化が望まれているため、検討していく必要がある
- Q9 iPad の貸与およびiPad を利用した活動について**
 - 『やや満足』『満足』と回答した学生は、情比で39名 (81.3%)、キャリアで77名 (88.5%)となり、大部分の学生がiPadを使用する活動に満足感を得ていることが確認された

『やや不満』『不満』と回答した学生について

- iPadの利用頻度が極めて低く (全日週1日以下の利用)、プロジェクト活動でも利用されていないようである
- 全学生の傾向と比較して、自宅の無線LAN環境の整備率は低いようである
- 『トラブル・不満足』は無く (=使用していないため)、また、今後望むことは『特になし』という回答が多数であり、iPad (IT機器・携帯情報端末) に対して当初から興味が無い様子が見られる

アンケート結果を踏まえた今後の改善について

- iPadの利用頻度を高める → プロジェクト、講義・演習での積極利用が必要 (教員の努力)
- それを支援する体制の整備 → ポータルサイト等の充実化・周知、相談窓口の検討
- IT機器の取り扱いが不得手な学生に対する興味喚起策の検討
 - iPad配布当初の説明方法が重要 (便利な使い方を教授)
 - 講義に限らず、学生生活や就職活動に役立つアプリを準備 (既存アプリ/独自開発アプリ)

1. グループ事業の取組

卒業生との大学コミュニティーを活用した社会人基礎教育の展開については、これまで輩出した卒業生とのパイプを活かし人的ネットワークを再構築し、その社会活動豊富な卒業生と在学生との交流を推進し、学生の社会人力の養成を行う事業を展開することを目的として活動に取り組む。

学部では、卒業生と在学生の交流を推進する関係構築の足掛かりとして、平成 23 年度豊橋創造大学同窓会総会の会場を利用し、教職員と卒業生の『卒業生業界別交流会（学部）』を行い、就労状況に対するアンケート・ヒアリング等の情報収集を行う。短期大学部では豊橋創造大学短期大学部同窓会第 27 回総会終了後にキャリアプランニング科在学生と短期大学部卒業生を対象とした『在学生&卒業生交流会』を開催。

また、毎年卒業後 3 年の卒業生対象に就業状況についてのアンケートを実施する。

2. 活動成果

「就業に関するアンケート」

平成 23 年 3 月 卒業生対象に就業に関するアンケートを実施

平成 23 年 4 月 卒業生対象（平成 20, 21, 22 年度卒）就業に関するアンケート追跡調査

平成 24 年 2 月 卒業生対象（平成 21, 22, 23 年度卒）就業に関するアンケートを実施

「卒業生業界別交流会（学部）」

日時：平成 23 年 9 月 24 日（土） 18:50 ~ 20:00（同窓会総会后）

会場：ホテルアークリッシュ豊橋

参加者：卒業生 60 名 教職員 21 名 JSSP スタッフ 5 名

設置した業界別交流グループ一覧

・金融保険・建設業・製造業・サービス・卸小売 1, 2・情報通信 1, 2・医療理学・その他

内容：業界ごとに分かれ、勤務状況や後輩に期待すること等、教員を囲んで和やかな雰囲気での懇親会を行った。

※大学 HP に様子を掲載 <http://www.sozo.ac.jp/campus-news/2011/110924.php>

「在学生&卒業生交流会（短大部）」

日時：平成 23 年 10 月 23 日（日） 13:00 ~

会場：豊橋創造大学 A32 教室

参加者：在学生 11 名 卒業生 12 名

内容：①在学生による JSSP プロジェクトの中間発表

細谷ゼミ・千賀&中島ゼミ

朝倉ゼミ・村松ゼミ：抄録・ポスター発表のみ

②卒業生から在学生へのメッセージ

※大学 HP に様子を掲載 <http://www.sozo.ac.jp/campus-news/2011/111023.ph>

持続型職業人 SOZO プロジェクト プロジェクト成果報告書（グループ事業）

卒業生対象の就業に関するアンケートから卒業後 3 年間の離職状況調査分析を行い、本学の離職率は、3 年目は低いものの、1 年目は全国平均より高く、離職原因 1 位は人間関係であることが分かった。ここから社会の厳しさ、離職防止に対して教育的対策（コミュニケーション力、メンタルタフネス）の検討がすすめられた。

それぞれの交流会では、業界・就職先の特徴・現状が把握でき、この内容は就職ガイダンスを通じて現役学生の就職指導に活かしていくことができるものとなった。また、本学が実施するキャリア形成の授業講演・就職ガイダンスでの業界研究指導・就職合宿、就職激励会等で、在学生の指導を行う有望な OB 人材の発掘を行うことができた。在学生 & 卒業生交流会（短大部）では、在学生と卒業生の活発な意見交換ができたことにより、在学生には大きな刺激となった。特に就職活動で苦労した体験談は学生だけでなく、教職員にとっても今後の指導に活かせるものが多く大変有意義であった。

3. 今後の課題点

卒業生業界別交流会（学部）は今回、同窓会総会終了後に行った。本来、同窓会総会の目的と本学の就業力育成支援事業の目的はそれぞれ異なっており、開催にあたって同窓会役員から不安の声が上がった。相手の立場を如何に理解して、調整、融合、協力し、相乗効果を上げていくかが大きな課題であるが、開催方法について今後検討を続けることになった。

在学生 & 卒業生交流会（短大部）では、実施したこと自体は有意義であったと言える。参加人数が少なかったことは今後の課題であるが、今回のように小規模での実施の方が活発な意見交換がなされると考えられる。

卒業生との大学コミュニティーを活用した社会人基礎教育の展開については、これらの交流会開催だけが目標ではなく、卒業後の早期離職を防ぐことも重要な目的である。多くの卒業生を地元へ輩出してきた強みを生かし、社会活動が豊富な卒業生との交流ができる仕組み作りを進めたい。

4. その他

特になし

※ページ数は、3 枚以内でお願い致します。

取組名称『持続型職業人SOZOプロジェクト』 ～2年以内の早期離職防止を目指したメンタルタフネスとスキルの育成～

大学生の就業力育成支援事業とは？

この事業は、各大学・短期大学（以下、「大学」という。）において、入学から卒業までの間を通した全学的かつ体系的な指導を行い、学生が次のようなプロセスを繰り返し、その社会的・職業的自立が図られるよう、大学の教育改革の取組を国として支援するものである。

取組概要

【持続型職業人SOZOプロジェクト】は、豊橋創造大学と同短期大学部が共同で推進するメンタル面とスキル面との両方の強さを備えた職業人育成を目的としたプロジェクトです。以下の4つを柱として社会的・職業的自立に繋がる学生の就業力育成を目的としています。

(1)メンタルタフネスの育成

セルフモチベーション講座、リーダーシップ講座、目標設定・目標達成講座などの理論的背景と実践演習を組み合わせて学生自身の経験知を高める教育プログラムを開発・展開する。
メンタルタフネス会宿講座4回 ヒューマンセメント講座

(2)実践的スキルのブラッシュアップ(プロジェクトマネジメント体験)

学生自身が企画・立案・運営する学生プロジェクトを立ち上げる場の提供を行い、そのプロジェクトの運営を通して、学生自ら気づき・学ぶ「創造プロジェクト」を推進する。そのプロジェクト運営を通して「プロジェクトマネジメント体験」やプロジェクト運営に不可欠なウェブ検索サイトや携帯情報端末アプリケーション開発・運用をする。

(3)ユビキタス・キャンパスの始動

「持続型職業人SOZOプロジェクト」に特化したWEBサイト・データベースの構築・運用や大学と学生をインタラクティブに結ぶためのITリテラシーを体験させる事業を展開する。
携帯情報端末活用

(4)大学コミュニティを活用した社会人基礎教育の展開

これまで輩出した卒業生とのパイプを生かした人的ネットワークを再構築し、その社会活動豊富な卒業生と在学生の交流を推進し、学生の社会人力の養成を行う事業を展開する。
OB・OG・同窓会と連携した求人開拓

平成 24 年 2 月 吉日
豊橋創造大学
豊橋創造大学短期大学部
キャリアセンター

卒業生アンケートご協力をお願い

卒業生の皆様には各方面でますますご活躍のこととお喜び申し上げます。さて、本学での取り組み『持続型職業人SOZOプロジェクト』が文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に採択され、この事業の一環として就業に関するアンケートを実施いたします。卒業生皆様の協力なくしては成り立たない事業のため、大変お忙しい中、恐れ入りますが、母校の発展のため、アンケートの回答にご協力をお願い申し上げます。末筆になりましたが、皆様とご家族のご健康、ご発展をお祈り申し上げます。

【対象卒業生】平成 21 年、22 年、23 年3月卒業生

豊橋創造大学 (経営情報学部・情報ビジネス学部)
豊橋創造大学短期大学部(キャリアプランニング科)

【回答方法】

同封ハガキにて平成 24 年 3 月 31 日までにご回答ください。

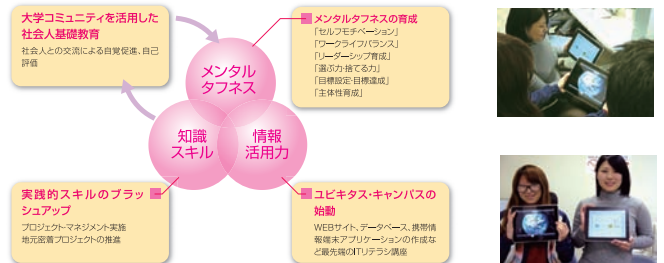
※ご回答がない場合は、電話にて確認させていただく場合がありますのでご承知おください。

卒業後3年間調査を必要のため今後もアンケートをお願いさせていただきます。その際にはご協力をよろしくお願いいたします。

アンケートの問い合わせ先

キャリアセンター 富安・中村
E-mail : job@sozo.ac.jp TEL : 050-2017-2104 FAX : 050-2017-2112

*本調査は、個人情報保護法にそって、①本学のキャリア教育におけるデータとしての利用、②在学生の就職活動に関する情報提供、③本学からの書類等送付(同窓会活動含む)のために住所等の最新情報への更新に限り利用させていただきます。その他の目的に利用することは一切ありません。



豊橋創造大学 豊橋創造大学短期大学部 卒業生アンケート回答

- Q1. 卒業後、離職又は転職をされましたか
1. はい (回) 2. いいえ (理由はを付けてください)
Q2. 離職又は転職された理由を教えてください。
(第1理由① 第2理由②を付けてください)
1. 仕業内容が予想と違った 2. 会社に馴染みがないと思った
3. 適当な理由があった 4. 労働環境が良かった (在職期間があった)
5. 給与水準が低かった 6. 人間関係が悪かった
7. 家族や私的な事情 (結婚を含む) 8. 期待通りの採用であった
9. キャリアアップのため
10. 前の職場より待遇 (給与水準、休日等) がよかった

卒業時
会社名: _____ 採用月日: _____
部署・職名: _____
雇用形態: 正社員・非正規・自営・家業・無職

現在
会社名: _____ 採用月日: _____
部署・職名: _____
雇用形態: 正社員・非正規・自営・家業・無職

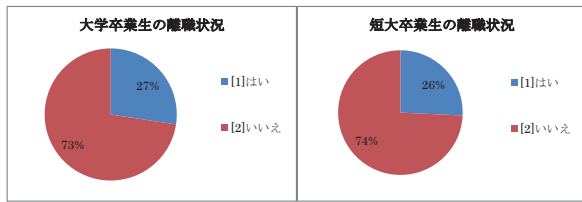
送付先
氏名: _____ (姓) _____ (名) 学籍番号: _____
〒 _____
〒 _____ 携帯: _____

平成 24 年 3 月 31 日までにご回答ください
ご協力ありがとうございます

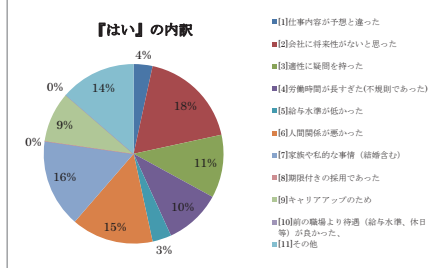
4 4 0 8 5 1 1

豊橋創造大学
キャリアセンター行
愛知県豊橋市牛川町字松下二〇一

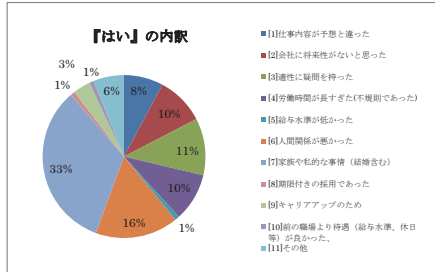
Q1. 大学卒業後、離職または退職しましたか？
対象：過去3年間（2007・2008・2009年度）卒業生



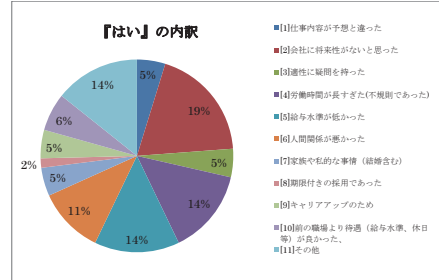
Q2.【大学】大学卒業後、離職または転職をされましたか？『はい』の第1理由



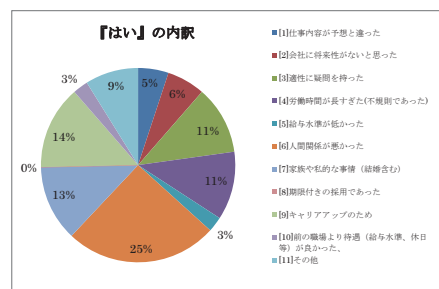
Q2.【短大】大学卒業後、離職または転職をされましたか？『はい』の第1理由



Q2.【大学】大学卒業後、離職または転職をされましたか？『はい』の第2理由



Q2.【短大】大学卒業後、離職または転職をされましたか？『はい』の第2理由



所属	定量的指標	達成目標	平成22年度末
大学	卒業後、1年以内の離職率の減少	就職者の1.5割以下	19.2%
	卒業後、2年以内の離職率の減少	就職者の2割以下	26.4%
	卒業後、3年以内の離職率の減少	就職者の3割以下	33.3%
短大	卒業後、1年以内の離職率の減少	就職者の1.5割以下	23.5%
	卒業後、2年以内の離職率の減少	就職者の2割以下	25.0%
	卒業後、3年以内の離職率の減少	就職者の3割以下	26.2%

プロジェクト演習成果報告書（教員）

【情報ビジネス学部】

氏名	プロジェクトテーマ	掲載ページ
石田 宏之	外食産業におけるロジスティクス・システムに関する研究 株式会社物語コーポレーションを事例に	P133
今井 久登	福祉施設で紙芝居	P136
今井 正文	ビジネス系学生のための情報処理資格に向けた 電子コンテンツの改善活動	P137
見目 喜重	豊橋市内小中学校の太陽光発電システム稼働状況調査	P139
五味 悠一郎	認定試験に受かるための学習環境構築と運営	P141
中野 一豊	『会計事務所プロジェクト』	P144
中野 聡	社会的企業の実証研究 サーラコーポレーションと東三河障がい者仕事センターが 展開する社会ビジネスの豊橋モデル	P145
花岡 幹明	豊橋筆プロジェクト	P148
三好 哲也	豊橋トップインタビュプロジェクト	P150
三輪 多恵子	学食応援プロジェクト by 学食おうえん団	P153
森田 和正	就業力育成プロジェクト報告書	P157
山口 満	炎の祭典支援プロジェクト	P158
吉川 優	東三河 Bible	P162

プロジェクト演習成果報告書（教員）

【キャリアプランニング科】

氏名	プロジェクトテーマ	掲載ページ
朝倉 由美子	食の伝達 「大学生コックさんのクッキング (子どもクッキング) 教室」プロジェクト	P163
	「豊橋産の野菜と米粉を使った焼菓子の開発」プロジェクト	P165
今泉 仁志	豊橋の祇園祭を考えるプロジェクト	P168
木下 賀律子	「ライスフラワー」プロジェクト	P170
千賀 博巳 中島 剛	防犯プロジェクト	P172
寺本 和子	身近な自然発見・発信プロジェクト	P173
長谷川 正志	プロジェクトテーマ	P174
細谷 邦夫	医療機関の貼り紙適正化プロジェクト	P175
村松 史子	「I ♥ ROSE プロジェクト」	P177

外食産業におけるロジスティクス・システムに関する研究 株式会社物語コーポレーションを事例に

担当 石田宏之

1. プロジェクト概要

本プロジェクトの目的は、一つ目が、株式会社物語コーポレーション(以下『物語』と略す)を事例として、食材の仕入れから各店舗へ食材が供給(納品)されるまでの『情報の流れ』と『ものの流れ』の実態を調査することにより、ロジスティクス・システムが『物語(企業)』に対して果している役割と機能を分析することである。

二つ目が、プロジェクト活動を通し、①メモの取り方・要約の仕方、②テーマの進め方、③分析力・理解力、④問題発見能力(本プロジェクトでは、これらを就業力基礎能力とする)を習得するとともに、協力企業との交渉、ヒアリング調査、施設見学を通して、①挨拶・応答態度②コミュニケーション能力、③リーダーシップ、④報告・連絡・相談(本プロジェクトでは、これらを社会人基礎能力とする)を養うことである。

調査対象企業は、『物語』(本社購買部、店舗、麺工場)、ロジスティクスの機能を委託しているワルツ株式会社(以下ワルツと略す)および株式会社キュウソー流通システムの春日井流通センター(以下 KRS と略す)である。

『物語』(本社:愛知県豊橋市神野新田町二ノ割 1)は、焼肉、ラーメン及びお好み焼レストランチェーン、専門店の直営による経営とフランチャイズチェーンを全国展開している外食産業であり、従業員数 社員 427 名 時間制従業員 3,569 名(2011年 6 月 30 日現在)である。

『ワルツ』(愛知県豊橋市神野新田町二ノ割 1)は、カフェ、喫茶店、ホテル、レストラン、洋菓子店等へのコーヒーをはじめ、紅茶、製菓・製パンの材料、食材、器材、直輸入品の卸および小売販売並びに提案営業を行っている会社であり、フライチャイブズビジネスとして「焼肉一番カルビ」、「焼肉きんぐ」、「丸源ラーメン」などを経営し、『物語』のロジスティクス機能が全て委託されている会社である。

『KRS』の春日井流通センター(愛知県春日井市神屋町字地福 1218-11)は、『物語』の食材等の保管・在庫および各店舗への配送が『ワルツ』から委託されている企業である。

訪問先日時と内容及び応対者は表の通りである。

日時	調査内容	訪問先・応対者
2011・5・25	自己紹介(各自の役割分担説明) 調査趣旨の説明	物語コーポレーション(豊橋市岩田町) 人財開発部部长 神谷さん マネージャー 河合さん
2011.6.8	次回訪問の打ち合わせ	丸源ラーメン豊川店 人財開発部部长 神谷さん

2011.6.15	購買部ヒアリング	物語コーポレーション(豊橋市)岩田町 人財開発部部长 神谷さん 購買部統括マネージャー 飯田さん
2011.7.27	ワルツヒアリング	株式会社ワルツ(豊橋市神野新田町) 統括マネージャー 河口さん
2011.9.28	KRS 施設見学	キューソー流通センター春日井営業所 上野課長さん・江崎係長さん
2011.11.16	購買部ヒアリング2回目	物語コーポレーション(豊橋市岩田町) 人財開発部部长 神谷さん 購買部統括マネージャー 飯田さん
2011.11.29	店舗見学及びヒアリング	丸源ラーメン豊川店・焼肉きんぐ花田店 人材開発部部长 神谷さん

2. プロジェクト実施の指導方法・留意点

2.1 指導方法

調査の方法は、①文献研究、②ヒアリング調査、③施設調査(含む写真撮影)の三つである。調査を実施する前に、まずテーマで対象とした物語コーポレーションにおけるロジスティクス・システムがどのくらいの水準にあるかを検証するための基礎知識を学ぶためにロジスティクス・システムの役割と機能を文献等で一般的な水準を整理する。その上で、調査対象企業を決定し、調査スケジュールを作成し、調査項目を作成させた。

2.2 留意点

メンバー各人に役割を決め、決められた役割・事項については、リーダーシップをとらせるようにした。また、相手先への挨拶、交渉、依頼、連絡等を電話およびメールで実施する際の注意事項を徹底し、メンバー全員ができるように指導した。

ヒアリング調査および施設調査は、指導教員が常に同伴するだけでなく、学生だけで実施させ、自発性、計画性を学べるようにした。

調査を進めるにあたって、全員でメモを取り、調査の後に全員で調査内容を確認させ、不明な点、調査し忘れた事項を整理し、再度調査を実施し事実を正確に把握するよう指導した。

3. プロジェクト実施に対する評価・改善点

3.1 プロジェクトについての評価

調査の目的のひとつである『物語コーポレーション』におけるロジスティクス・システムの役割と機能に関しては、当初目標にしていたレベルをほぼ達成することができ、協

力企業に対して調査報告書を作成した。

目的の二つ目である就業力の達成度を自己評価(メンバー全員の平均値)すると、本プロジェクトで設定した、就業力基礎知識および社会人基礎知識の採点は以下の通りである。

① 就業力基礎能力

- ・ メモの取り方・要約のしかた:90%
- ・ テーマの進め方:80%
- ・ 分析力・理解力:80%
- ・ 問題発見能力:70%

② 社会人基礎能力

- ・ 挨拶・応答態度:100%
- ・ コミュニケーション力:80%
- ・ リーダーシップ:70%
- ・ 報告・連絡・相談:60%

③ 学生自己評価アンケートの結果

メンバー全員が達成できた項目は、「スケジュールを立ててテーマを推進した」、「役割分担を決めプロジェクトに取り組んだ」、「他のメンバーとのコミュニケーションが上手にできた」、まあまあ達成できた項目は、「作業を明確に設定してプロジェクトを進めた」、「自分の意見を相手に伝えられた」、あまり十分にできなかった項目としては、「必要な情報を収集・分析・整理し、問題を解決した」、「新しい発想やアイデアを出すことができた」などとなっている。

3.2 次年度に向けた改善項目

次年度は、新しい学年を対象とするが、基本的には本年度の活動を踏襲して行う予定である。次年度のテーマは、①ロジスティクス(交通・物流)、②環境問題(3R)、③地域産業研究の中から学生の興味あるテーマを設定する。ただ、ゼミに所属したばかりで基礎的知識がほとんど無いので、テーマを決める前に、あらかじめ3つの分野に対してのレクチャーが必要となる。

チームでプロジェクト進めていく上で、各人の役割分担をすることは有効であるが、自分の分担以外の事項対しておろそかになり易いので、全体の流れを把握できるように指導することが必要となる。今年度も目標にしてきたことであるが、事実を正確に把握することの大変さと重要性を十分に認識させるよう指導することが不可欠である。

福祉施設で紙芝居

担当 今井久登

1. プロジェクト概要

様々の事業所の中で何を調べたいのかについてプロジェクトメンバーが話し合った。他のプロジェクトチームのテーマと重複しない領域は何かについて検討した。メンバーの話し合いの結果、豊橋市内の高齢者向けの福祉施設の現状を見てみようということになった。またただ見学するだけでは相手方にメリットがないだろうということで何ができるか考えた。メンバーの発案で本学図書館にある紙芝居を活用して高齢者の方々に見ていただくということになった。そこで図書館内の会議室で何度か紙芝居の練習を行った。訪問する福祉施設については豊橋市社会福祉協議会（あイトピア）にお願いして福祉施設を紹介していただいた。メンバーが電話で福祉施設と交渉し、了解を得られた施設を訪問した。

2. プロジェクト実施の指導方法・留意点

どの時点においても参加メンバーの自発的な行動を主体とすることに留意した。たとえば教員はテーマについて他の案を考えていたが参加メンバーの意思に従ってテーマを決定した。アポについてもメンバーが電話で行った。こちら側の要望がうまく伝わらず、幾度か断られたこともあった。しかしあきらめずに取り組んだ。

3. プロジェクト実施に対する評価・改善点

プロジェクトを実行していく中でそれ以前には予想できなかった様々の問題に気付かされた。どうすれば改善できるのか話し合い、実行した。各自が自力で発案し、改善したものもある。

ビジネス系学生のための情報処理資格に向けた 電子コンテンツの改善活動

担当 今井正文

1. プロジェクト概要

「ビジネス系学生のための情報処理資格に向けた電子コンテンツの改善活動」プロジェクトでは、ビジネス系学生のための情報処理資格である CompTIA Strata IT Fundamentals、(CompTIA Strata IT for Sales の)に向けた電子コンテンツの改善活動を行う。活動を通して情報系の学習方法を習得するとともにそれを支えるコンテンツ事業の実際を体験する。

具体的には、ILA によって配布される予定の電子コンテンツのテストおよび開発活動に参加した。電子コンテンツは、Web および ipad 用として H24 年度から公開される予定である。コンテンツのテストおよび報告、改善を繰り返しながら合わせて独自の小テストシステム開発も行った。

2. プロジェクト実施の指導方法・留意点

本プロジェクト活動では、出来る限り学生に任せる事とし、毎週のミーティング時間の調整と中間発表および成果発表等のスケジュール伝達以外は、特段の指導はせずにおいた。ただし、プロジェクト活動のための技術的な質問等があった場合や必要機材・試験環境については出来る限り対応した。また、プロジェクト進行上、コンテンツのライセンス保有者や本来のコンテンツ開発チームに対する連絡等、出来るだけ対外的に失礼が無いように配慮した。

3. プロジェクト実施に対する評価・改善点

プロジェクト進行等も含めて、学生に任せたため、最初は、作業分担から始まって、個別作業、チーム作業のスケジュールまで、全ての段階で遅延等、色々あったようだが最終的にはチーム作業を出来ていた様子であったので学生の活動としては評価できると考えている。また、独自の小テストシステムの開発にあたったチームでは、技術的な意味でも相応の学習効果もあったようである。プロジェクトとは直接関係ないが、メンタルタフネス講座のボードゲームに用に簡単な計算プログラムページ等も同様に学生同士で話し合っって作成していた点等も評価できるものであると考えている。

上記の点については、学生アンケートを見ると学生も同様の評価をしているようであるが、新しい発想やアイデアという項目では良い評価を得られていない。この項目については、私自身、気付かずに途中で意見収集の場を設定する等をしなかったという点で、担当教員として反省すべき点である。

対外的な評価については、成果物としての電子コンテンツについては、本来の開

持続型職業人 SOZO プロジェクト
成果報告書（教員）

発担当者からもテスト等学生活動に対して一定の評価を頂けている様子であった。一方、事後に学生の学外への連絡メール等をチェックする事にしたが、若干、問題のある記述等も見受けられた。また、対外的なスケジュール遅延等もあり、指導教員として今後の課題としたい。

プロジェクト専用アプリの使用に関しては、議事録とファイル管理については使いこなしていた様子であるが、タスク管理についてはあまり使いこなせて無い様子であるので、改善点としたい。

豊橋市内小中学校の太陽光発電システム稼働状況調査

担当 見目 喜重

1. プロジェクト概要

エネルギー・環境問題への対応、さらには脱原発へのエネルギー政策の転換から、再生可能エネルギーのさらなる導入が望まれている。その中でも太陽光発電は、住宅などエネルギーの需要地への導入が比較的容易であり、大きな期待が寄せられている。豊橋市でも、平成 21 年度末に豊橋市内全小中学校 74 校に太陽光発電システムを設置するなど、積極的に導入に取り組んでいる。

その一方で、太陽光発電は太陽電池モジュールの設置方法により発電量が大きく異なり、またシステムの故障など長期信頼性に関する問題点も指摘されている。そのため、発電に関するデータの長期収集・分析が必要である。

そうしたことから、本プロジェクトでは、太陽光発電システムの大量導入時代に問題となる長期信頼性の評価を行うために、豊橋市内小中学校の太陽光発電データおよび設置状況に関する情報収集を訪問調査により実施した。また、調査により得られた結果を分析し、生徒/児童のエネルギー・環境問題への意識を高める環境教育コンテンツの開発を目指した。

これまでに、17 小中学校について訪問調査を実施し、設置状況および稼働状況に関する情報を収集した。得られた情報から、一部の小中学校では発電量の低下を招く恐れのある設置状況にあること、太陽光発電システムの環境教育への活用については考慮すべき課題があることが分かった。

2. プロジェクト実施の指導方法・留意点

プロジェクトを主体的に進めるためには、学生が問題意識を持つことが重要である。そこで、春学期は本プロジェクトのテーマの根幹となるエネルギー問題の現状と太陽光発電の役割に関する講義に多くの時間を割いた。また、実際に 3 中学校の太陽光発電システムを見学し、実物を見ることでプロジェクトへの取組意識を高めるように努めた。

秋学期は学生による訪問調査および収集した情報の分析を中心にプロジェクトを進めた。訪問調査の実施に当たっては、協力頂いた豊橋市教育委員会より各小中学校の担当教員宛に予め調査実施への協力を依頼頂くとともに、指導教員からも小中学校への依頼を行うなど実施環境の下地を整備した上で、実際に学生から各担当教員へ電話連絡を行うようにした。また、電話連絡を行う際のマニュアルの作成、調査事項記入シートの作成などを指導し、よりスムーズに調査が行えるように指導を行った。

3. プロジェクト実施に対する評価・改善点

プロジェクト活動のメインとなる訪問調査を通して、学生の主体性は向上したように感じられる。最初は訪問先への電話連絡を敬遠していた学生も、経験を重ねるに連れてよりスムーズに、またより積極的に電話応対を行えるようになっていった。また、実際に一人で訪問して調査を行ったことにより、行動することへの自信のみならず、新しい知識を得たことによる充実感を持っていたように思われる。

その一方で、学生間の意見・情報交換、情報共有など協調性に関しては、多くの課題を残した。また、目標設定に関しても、学生間で差が生じた。この点について、ミーティングへの指導教員の関与の仕方に改善の余地があると思われる。

本プロジェクトの実施における最大の反省点は、訪問先との調整に時間を要したこと、また学生の講義日程と訪問先の予定との不整合生から、訪問調査は全体の 1/4 程度の小中学校にとどまり、プロジェクト開始前の目標を達成できなかったことである。この点を改善するために、次年度は訪問調査の開始時期を前倒しするなど、プロジェクトの計画立案を根本的に見直す予定である。

認定試験に受かるための学習環境構築と運営

担当 五味 悠一郎

1. プロジェクト概要

学内外を対象として、診療情報管理士認定試験の自主勉強会と対策講座の企画運営を行なった。また、OB/OG 訪問を行ない、就職活動に役立つ知識の修得や就職先などの開拓も行なった。

2. プロジェクト実施の指導方法・留意点

他のプロジェクトに参加しているゼミ生がいたので、専門ゼミナールおよびプロジェクト演習の運営に支障がない様に、他のプロジェクトを運営している教員と実施時間などの調整を行った。

本プロジェクトでは、学生の就業力養成という大きな目標を達成するため、「主体性」「社会人スキル」「メンタルタフネス」「卒業生とのコネクション」を育む指導を行った。また、大学の存在意義の一つである「地域貢献」が行え、本学が抱える課題の一つである「知名度の向上」も可能な内容とした。具体的には、以下の通りである。

1) 主体性

プロジェクトのテーマを受講生自身に考えさせるようにした。時間的な制約上、一から考えさせることは困難であったので、教員側でテーマを五つ用意し、受講生に選ばせた。テーマは受講生のメリットにもなるものとし、モチベーションが高まるようにした。例えば、受講生が診療情報管理士認定試験に合格することを目標としていたため、合格率の向上にも繋がる「診療情報管理士認定試験対策講座」の実施を内容に取り入れた。

プロジェクト運営中は適宜必要なキーワードを与え、具体的な内容は受講生自身に考えさせるようにした。また、学内の教職員を受講生に紹介することで、受講生が学内で主体的に動ける環境を構築した。

2) 社会人スキル

アポイントの取り方や名刺交換の仕方などを、プロジェクト運営を通して自然と見につけられるような指導を行った。プロジェクトが PDCA に則って行われているか、適宜確認した。

3) メンタルタフネス

学生のメンタルタフネス育成には、成功体験と失敗後のリカバリー体験が有効であると考えている。教員が提示した課題は地道に行えば必ず成功するものとし、受講生が考えた課題は失敗する流れであってもしばらく様子を見て、大きな失敗になる前にフォローするようにした。

4) 卒業生とのコネクション作り

卒業後の進路に近い仕事をしている卒業生を訪問し、学生時代にやっておいた方がよいこと、現在の仕事の内容などの話を聞くことで、将来の目標設定ができるようにした。また、卒業生との繋がりをつくることで、就職しやすい環境を構築した。

5) 地域貢献

連携先団体にもメリットがある内容とした。例えば、「認定試験に受かるための学習環境構築と運営」を学外に公開することで、地域のニーズに応えられるようにした。

6) 知名度の向上

大学の知名度を向上させる内容を取り入れた。例えば、近隣の医療機関に「診療情報管理士認定試験対策講座」の案内を発送し、インターネットのWebサイトやブログで告知することで、診療情報管理士に興味がある人達に、本学を知ってもらえるようにした。

3. プロジェクト実施に対する評価・改善点

受講生が2名と少なく、各受講生の負担も大きかったようであるが、プロジェクトの終盤では期待以上の働きをしてくれるようになった。受講生のプロジェクト自己評価アンケートを見ても、自分自身の成長を実感しているようである。初めての取り組みということもあり、学外との連絡で教員が仲介する場面も一部あったが、次年度以降は学外との連絡も受講生に全て任せたい。

プロジェクト活動成果発表会では、13プロジェクト中8位という結果になった。本プロジェクトは診療情報管理士認定試験の合格発表が行なわれる3月末まで実施されるため、プレゼン資料にあまり力を入れる余裕が無かったこと、発表会の評価基準が不明瞭であったため専門性の高い取り組みが評価されにくかったことなどが要因として考えられる。プロジェクト演習という授業の目的は、成果発表会の評価ではないことを受講生に正しく理解させ、社会人に必要なスキルを高める指導を今後も継続して行っていきたい。

「診療情報管理士認定試験対策講座」の学外参加者は20名程度と、知名度を向上させ、地域貢献することもできた。一般的に、大学の教育目的で実施するプロジェクトは連携団体の負担が大きく、WIN-WIN の関係をつくれなことが多いが、本プロジェクトにおいては WIN-WIN の関係が構築できたと評価できる。関東地方や中国四国地方からも参加者を集めることができたのは、大きな収穫であった。良い取り組みだと判断できるので、次年度以降も継続していく予定である。

卒業生とのコネクション作りでは、もう少し多くの卒業生を訪問したかった。しかし、本学では卒業生訪問という行為がキャリアセンター経由でされたことがこれまで無かったため、卒業生訪問を行う流れを作るのに時間がかかり、一件しか訪問することが出来なかった。また、医療系に就職した卒業生が少なく、訪問先選定も困難であった。

持続型職業人 SOZO プロジェクト
成果報告書（教員）

次年度以降は、卒業生訪問の手続きが整備され、卒業生も増えるので、より多くの訪問が出来るはずである。

『会計事務所プロジェクト』

担当 中野 一豊

1. プロジェクト概要

『会計事務所プロジェクト』では、平成 23 年 7 月 18 日（月）に「小畑耕一公認会計士事務所」を訪問し、地方ならではの魅力あふれる事務所経営のあり方を示唆してもらった。小畑氏は、私の知り合いで奥さんが私の大学院修了生ということもあって懇切丁寧に対応していただいた。

その際に、金融機関や会計事務所への就職には、最低限簿記や会計の基礎知識が必要であることを認識した。そこで、以後、日本商工会議所主催の簿記検定試験 3 級の合格を目指して、傾向と対策を行い、受験者 2 名中 1 名の合格者を出した。残念ながら、1 名だけの合格者にとどまったが、引き続き集中的に過去問の解法を習得できるようゼミ生一丸となって、次回（2 月）への挑戦をする。

2. プロジェクト実施の指導方法・留意点

本プロジェクト活動は、学生の主体性に重きを置き、事前にいろいろな面で実践・質問事項の用意等を行ってきた。実践面では、弥生会計ソフトを用い、会計事務所で行っているような取引例の入力をはじめ、決算書のプリントアウトを行った。その際、側面から指導をした。また、会計事務所への訪問に際し、事前に質問事項を考えさせ、インタビューする時の心構え等について助言をした。

ついで、簿記検定試験対策は、集中的に過去問を徹底的に反復練習する指導をした。今後、2 月には、3 名の 3 級受験者と 1 名の 2 級受験者となる。

3. プロジェクト実施に対する評価・改善点

会計事務所への訪問では、全員が的確な質問をし、1 時間ほどスタッフから誠意ある回答を得た。簿記検定試験対策では、受験者本人の心構えの弱さも感じている。2 名受験者のうち 1 名しか合格者（2 度目の挑戦で）が出なかったのは、本学の学生全般にも言えるが、受験勉強に対する集中心の欠如にあると思う。

プロジェクト実施に対する改善点として、この集中力を高める訓練を積むことだと感じている。就業力支援も、この方向で指導すれば、かなり学生自身に自覚が芽生えるのではなかろうか？

社会的企業の実証研究 サーラコーポレーションと東三河障がい者仕事センターが展開する 社会ビジネスの豊橋モデル

担当 中野 聡

1. プロジェクト概要

東三河地域における社会的企業から、サーラコーポレーションの社会貢献事業と東三河障がい者支援センターの活動を実証研究の対象に選定。その活動を追い、社会性、事業性、革新性を評価した。学生は、この過程を通して社会科学の実証研究の方法を学ぶ。

社会的企業は、例えば、「公共的利益の達成を目指し、企業家的戦略をもって組織される私的な活動であるが、利益の最大化ではなくある種の経済的・社会的目標の達成を主な目的とし、社会的排除や失業の問題にイノベーティブな解決をもたらす能力をもつ」と定義される(谷本, 2006 年)。その基本要件は、①社会性(今解決が求められている社会的課題に取り組むこと)、②事業性(社会的ミッションをビジネスの形に表し、継続的に事業活動を進めること)、③革新性(新しい社会的商品・サービスやその提供の仕組みの開発を通して社会的価値を実現し、社会経済システムを変革する可能性を示すこと)に求められる。

(1) サーラコーポレーションの社会貢献事業

サーラコーポレーションおよびガステックサービスの社会貢献事業から、廃油のバイオディーゼル燃料(Bio Diesel Fuel, BDF)への再生リサイクルの取り組みを取り上げ、その社会性と事業性、革新性を考察した。

①社会性 …… ある調査(2007-11 年)によれば、愛知県内 61 自治体のうち廃油の資源回収は 16 市町村にとどまる。地域の中核企業であるサーラコーポレーションが、豊橋市の行政に先行する形で、社会貢献事業の中核に位置づけている点は評価されるべきだろう。

②事業性 …… 担当者によれば、東三河と静岡地域で BDF100 の販売を開始、また、蒲郡市の車輛(観光バス)等にも利用されている。2011 年度 12 月からの事業年度での黒字化をめざしている。

③革新性 …… BDF リサイクルは、循環型社会への取り組みのひとつであり、余剰パンの飼料化、食品残さの堆肥化という 2 つの並行サイクルと共に機能している(複合性)。また、グループ各社と協力企業が、地域的なソーシャル・イノベーション・クラスター(SI クラスター)を構成している。SI クラスターは、「社会的企業や中間支援組織、大学・研究機関などが協力的かつ競争的な関係を構築することにより、多様な社会的課題への解決方法や社会的価値を生みだし、新たな社会的事業を形成するような組織の集積状態(谷本, 2006 年)を指す。

経済と環境の2者択一ではなく、その両立が民間ベースでも十分に可能であることを示している。

(3) 東三河障がい者仕事センター(WACNET)の活動

東三河障がい者仕事センターは、アメリカ、ニューヨークの「NY ファウンテンハウス」に由来するクラブハウスモデルを取り入れた、発達・精神障害者の自立・就業支援を行っている。障がい者支援として、進路・就労相談、就労に向けての訓練指導、準備支援、職場定着支援、就労の場の開発、モデルビジネスの開発訓練、企業面接の助言、就労困難となった場合の再訓練、進路相談、ジョブコーチの派遣、愛知県就労支援者の派遣等の多彩なメニューを有する。

また、日常生活・地域生活支援として、働く障がい者の生活相談、生活習慣の形成、健康管理、金銭管理、住居の確保、余暇活動、生活設計等を行う。その他にも、関係機関との協議事業や研修人材育成事業等の啓発活動、企業実習中の指導や連絡調整、継続的訪問による適応状況の把握、雇用管理に関する助言等の企業支援活動が仕事センターの機能を支えている。

① **社会性** … 発達・精神障害に苦しむ人々は、社会から排除された形で引き籠もりがちになる。そうした人々の自立と就職支援、多様なビジネスモデルによって支えてきた点に、この NPO 法人の社会性が存する。

② **事業性** … 事業性に関する詳細な情報は入手していないが、豊橋市に地域活動支援センターに認定された。また、発達・精神障害者の自立を支援するための多様な採算型事業を展開している。

③ **革新性** … コミュニケーションによる問題解決のために、クラブハウスモデルを軸にした発達・精神障害者支援を展開している。そこでは、・誰でも来ることができる、・いつでも帰ってくることができる、誰からも必要とされる人間関係を築くことができる、誰からも必要とされる役割がある、をモットーに、自活が困難な障がい者の働く意志を尊重し、加藤理事長が「豊橋モデル」と呼ぶ、多様な自立支援プログラムを開発、提供してきたところに、この NPO 法人の革新性がみられるのではないかと。

経済は、全ての人間が社会で幸福に生活するために存在する。社会的排除(social exclusion)を社会的統合(social inclusion)に転換することが必要であるにもかかわらず、それはまだ、わが国の社会・福祉政策の基本目的とみなされていない。福祉国家と家族、NPO のネットワークが有効に機能すれば、こうした原則も、社会的に共有されうるだろう。

なお、活動詳細は、同名の報告書を参照(企業と NPO の担当者にフィードバックしたものを、サーラコーポレーションの提供資料と共に図書館に所蔵)。

2. プロジェクト実施の指導方法・留意点

このゼミでは、学生が社会科学的な実証研究を経験することをプロジェクトの目的に掲げた。したがって、枠組みは教員が設定し、その中で、学生がリサーチ対象や個別テーマを選択していくアプローチを取った。この方法にはメリットとデメリットがあるが、上記目的に鑑みて、来年度も踏襲すべきだと思う。

3. プロジェクト実施に対する評価・改善点

積極的に関与しようとする学生への対応の結果でもあるのだが、進行過程における教員の関与がやや過多だった印象を受ける。来年度は、学生中心の運営へシフトしたい。

豊橋筆プロジェクト

担当 花岡 幹明

1. プロジェクト概要

本プロジェクトは、豊橋の伝統工芸である豊橋筆の幅広い普及と地域の活性化に向けた展開として、学生によるアイデアの創出と商品企画を実践することを目的としてきた。

主たる活動は、(有)筆匠榊原の北村氏の指導のもと、筆商品作りを学び、新商品の企画販売に至る全ての工程を学生のみの方で実践していくこと、並びに豊橋筆の普及・PR 活動として豊橋三大学チャレンジショップや本学チャレンジショップの活動を通じて、同世代の学生たちと協働し、企画を実践していくことであった。また、これらの当初より計画した活動に加え、ミニ筆ストラップの商品化に纏わるビジネスプランを作成し、東三河ビジネスプランコンテストの一般アイデア部分にエントリーし、最終報告会での発表に到った。

メンバー学生（ゼミ3年生）は5名で、商品企画と PR 活動（チャレンジショップ）に分かれ、作業を分担した。更に、全体の統括とサポートを担当するリーダーを1名置いた。

2. プロジェクト実施の指導方法・留意点

学生に対する直接的な指導に関して触れる前に、今回のプロジェクト全般において協力して頂いた(有)筆匠榊原の北村氏との関係について記しておきたい。北村氏とは、プロジェクト開始の約1年前より、数回の打合せを行ってきた。当初は本プロジェクトを想定したものではなかったが、学生の状況や協力者の要望など、お互いに認識すべき点を明確に理解し合っていたことは、プロジェクトを進める上で非常に重要であった。学生が自律的に行動を展開することを想定すると、協力者にかかる負担は大きなものとなる。事前にこれらの可能性なども検討し、役割や対応を了承して頂いたことは、プロジェクトの運営において大変効果的であった。

学生指導に関しては、先ず、組織として活動できるように、個々の学生にそれぞれの希望や適性にあった役割を明確に与えた。これにより、活動は重複しても、それぞれに役割は異なるため、責任感がモチベーションにつながり、個々が機能するようになった。また、リーダーを決め、互いにサポートしあうことを意識付け、作業の進捗やロードバランスにより、学生間で調整することを指示した。

対外的な活動（相談・交渉）に関しては、前半は明確な指示を与えた。その際に、相手先に本プロジェクトとして、どのような貢献が出来るかを考えさせるようにした。学生という立場を利用すれば、大方、こちらの希望に無償で応えて下さることが多い。しかし、それでは就業力というテーマにおいてあまりにも無責任なものになってしまう。ま

た、プロジェクトの趣旨を再認識させる点でも、重要なことであった。経験の少ない学生では、現場で緊張しまうケースは多いだろうと予想された。そんな場合、細かいシミュレーションを行うよりも、こちらの依頼内容とそれによりどんな貢献が成せるかというストーリーを持っておくことは、自らの立場を明確にさせる有効なトレーニングであった。

前半の数回の打合せや相談には、経験の少ない学生が多いため、学生に同行し、会話を記録させ、事後に会話の意味や交渉・議論の展開、相手の意図などを解説した。このトレーニングを数回実施することにより、以降は、事前にミッションを確認する程度で、事後報告を電話、ないし直接行わせた。打合せの様子や内容など、直接口頭で報告を受けることで、問題点をある程度明確に指摘することが可能であった。また、担当学生も不安な要素をすぐに解消できる点は、重要なことであったように思われる。

3. プロジェクト実施に対する評価・改善点

チャレンジショップでのイベント実施や筆販売、ミニ筆ストラップ新商品の企画・製造・販売の実施などの成果からすれば、メンバーそれぞれの活動に対して一定の評価を与えることが出来る。また東三河ビジネスプランコンテスト一般アイデア部門における最終審査会発表といった当初の目標イメージを超えた成果も、学外協力者との連携によるところが大きく、メンバー学生の対外的活動の成果として評価できる点である。

本プロジェクトの実施にあたり、問題点の多くは、時間的制約に関するものであった。特に、学外協力者との打合せに対する時間調整に関しては、本プロジェクトだけの問題ではなく、訪問時間と授業時間が重なることも多かったように認識している。また、学生自身も反省点として挙げていたように、期日を限定しても、実際に間に合わないことが多く、メンバー間での時間調整にも苦労していた。これは担当者のスキルや能力、メンバー数の問題などに起因することも考えられるが、学生からの申告では、授業やアルバイトによる時間的制約を挙げるが多かったように思われる。

このような問題を本質的に改善することは、現状、困難であるが、一部の活動を夏休みなどの時期に集中的に行ってしまう方法は可能であったかと思われる。実態として、本プロジェクトにおいても、チャレンジショップ、商品化、ビジコンと期間を区切った形で活動を行ってきた。但し、それでも2～3ヶ月は長く感じることもあり、より短い期間で集中的に成果を挙げるような形態も、チームとしての凝集性を高める点から、一考の余地があるものと思われる。

豊橋トップインタビュープロジェクト

担当 三好哲也

1. プロジェクト概要

「豊橋トップインタビュープロジェクト」では、三河地区で著名な企業に、学生が訪問し、企業経営の視座やビジョンを聞き取り調査し、WEBページで公開することを活動目的としている。聞き取り調査では、豊橋市もしくは三河地区を活性化するため方策やアイデアについても意見も併せて伺い、シティプロモーションの一助となる活動とすることにもなっている。

平成 23 年度には、株式会社平松食品、エフエム豊橋株式会社、サイエンスクリエイト株式会社、ヤマサちくわ株式会社、本多電子株式会社の 5 社を訪問し、インタビューを行った。特に後半の 3 社については、訪問依頼状の作成から訪問予約、インタビューの活動などの準備から実行まで全てを学生が主体的に運営した。12 月 23 日の発表後、5 社の調査成果を WEB ページへのまとめ作業を行っており、近日、公開予定である。公開に当たっては、インタビューをさせていただいた皆様にご高閲をいただき、下記アドレスで公開中である。

※公開ページ <http://projectweb.sozo.ac.jp/miyoproj/>

2. プロジェクト実施の指導方法・留意点

プロジェクト活動は、学生の主体性や協調性を醸成するための活動として実施されることを考慮し、本プロジェクト活動においてもできる限り、学生が主体的に活動するように指導を行った。本プロジェクトでは、インタビュー活動を行うための一連の活動を、インタビュー対象を変更しながら行う活動であり、主体となる学生にとっても、同様の活動を繰り返し実施する活動となっている。そのため、インタビューに係る一連の活動を一度行い、それをもとに改変していくことで新しい課題に取り組めるようになっている。

本プロジェクトは、対外的な活動でもあり、インタビューをさせていただく企業に対して、失礼やご迷惑がないように配慮が必要である。活動開始時点ではそのことを重視して、インタビュー予約なども、学内の人的ネットワークを活用して、指導者レベルで設定したが、後半では、前半で学んだ訪問予約方法に準じて学生自ら対応させるように留意して指導した。また、学生のみで訪問するに当たっては、事前に指導者から訪問先にメールもしくは電話にてご了承を得るとともに不測の場合の連絡先を連絡し、対応を依頼した。指導者が同伴しなかったケースでは、学生の訪問前後に訪問企業の担当職員とインタビュー対象の方へのご挨拶とお礼を電話で行うことにした。

インタビュー内容を WEB により公開するにあたって、公表場所の検討を行ったところ、ユビキタスグループ担当の山口講師によって、Word Press による公表環境を調整い

ただいた。学内サーバでの公表であり、校正も容易であり、インタビュー先からの対応が迅速に行える状況であることも併せて報告する。

3. プロジェクト実施に対する評価・改善点

3.1 プロジェクトについての評価

プロジェクト活動では、学生の主体性や協調性ならびにコミュニケーション力養成が目的である。本活動には、インタビュー先の決定、訪問先への依頼メールの送付、電話による確認、訪問してのインタビュー実行が学生の課題であったが、これらの活動には育成項目である主体的活動、協調活動、社会人と交渉を通してのコミュニケー

表1 プロジェクトメンバ 自己評価結果

	質問内容	そう思 う	ややそ う思う	あまり そう思 わない	そう思 わない
Q1	プロジェクトで行う作業を明確に決めて、プロジェクトを進めることができましたか？	2	1		
Q2	プロジェクトを進める上で、スケジュールを作成して取り組みましたか？	2	1		
Q3	プロジェクトメンバー間で役割を決めて、プロジェクトに取り組みましたか？	3	0		
Q4	他のメンバーとの情報交換を円滑に進めて、プロジェクトに取り組みましたか？	3	0		
Q5	自らの意見を主張することができましたか？	2	0	1	
Q6	自らの意見を口頭でわかりやすく伝えることができましたか？		1	2	
Q7	プロジェクトの問題を認識し、必要な情報を収集・分析・整理し、問題を解決することができましたか？	2	1		
Q8	既存の枠にとらわれず、新しいアイデアを出すことができましたか？		1	2	
Q9	相手（他のメンバー、連携企業・団体の方）の意見を丁寧に聞き、話を引き出すことができましたか？	2	1		

ション力向上のための活動が含まれており、一定の成果を得たと評価できる。特に、後半の企業訪問は、学生自身の計画立案と実行であったので、学生の社会人力養成にプロジェクトが寄与できたと評価できる。

学生の自己評価を表1にまとめる。10個の設問において、ほとんどが肯定的な自己評価がなされている。ただし、コミュニケーションの項目において、やや丁寧な自己評価になっている。本プロジェクトでは、企業のトップへのインタビューを行うために、十分なコミュニケーションをとるためには、インタビュー対象の専門とされる領域についての知識も必要であり、事前準備においては、企業概要の調査や教員を含めた意見交換をすることで、知識充実を図った。インタビューの中で話の流れの中で適切な質問や会話ができたかという視点で自己評価した結果として、少し厳しい評価をしていると思われる。教員がインタビューに同行した場合の状況やインタビュー対象者への聞き

取りから評価すると、準備したインタビュー内容については問題なく質問できていたと評価できる。相手方への好印象を形成するためには、積極的な態度が必要であることを、事後のミーティングで指導を行った。

3.2 次年度に向けた改善項目

次年度は、新しい学年の学生であり、基本的には本年度の活動を踏襲して行う予定である。学生の中で興味ある企業の調査方法などの整理を行うとともに、企業研究などを併用した取り組み方法の検討が必要である。経験の浅い学生が直接相手方と連絡をとることによる相手方への御迷惑を考慮すると学生の主体性養成と外部企業への失礼のない対応とは、相反する場合も考えられる。そのバランスをどの程度にするかについては、今後も検討が必要である。

学食広報プロジェクト by 学食おうえん団

担当 三輪 多恵子

1. プロジェクト概要

本プロジェクトでは“情報発信のための一連の活動”を体験することで、情報源と受信者それぞれを意識したコンテンツ制作についての理解を深めるとともに、webサイトや紙面等を用いて情報発信するための様々な知識・技術を修得することを目的とした。

連携先として、大学内にある2箇所の学食（キッチンSOZO, カフェテリア;日本ゼネラルフーズ株式会社）にご協力を頂いた。学食を選択した理由は、

- (1) 学生にとって身近であり、受信者の視点である「何が知りたいか」「どんな情報があったら便利か」等を想定しやすい。
- (2) 今回のプロジェクトにおける広報活動では、学内全体（学生、教職員）が情報の受信者であり、その反応を確認しやすい。

等が挙げられる。また二次的なものとして、印刷物の掲示場所について外部より自由度が高い、インタビュー等における移動時間の制約が少ない、等がある。

1.1 プロジェクトの具体的な内容

本プロジェクトの具体的な活動内容を以下に示す。

- (1) 学食webサイト(<http://sozocafe.web.fc2.com/>)の作成
 - ① サイト上に「今週のメニュー」や「インタビュー」等のページを設け、情報を発信する。
 - ② アクセス数を記録、分析し、様々な広報活動との相関をとることで、実際のサイト運用についての知識や経験を得る。
 - ③ サイト内にアンケートシステムを実装することで、デザインを見せるだけではないwebサイトの役割について知識と経験を得る。
- (2) 掲示物、卓上チラシを定期的に発行
 - ① webと印刷物を関連付けることで、相互作用としての反応を得る。
 - ② 各媒体の優位性について検討する。
- (3) 学食従業員の方々へ毎月のメニュー提供のお願い。インタビュー。
 - ① 情報収集の基本となる「聞きたい情報を整理し、相手から情報を引き出す」という作業を体験する。
 - ② 外部（一般社会）との交流を通して、アポイントメントの重要性、正しい言葉づかい、等について自覚を促す。
- (4) webデザイン会社や広告・印刷系の会社に就職したOBと交流
 - ① 実際の広告、デザイン系の職種について理解を深める。

② OBとの直接的な交流・対話を経験する。

(5) 学食への報告(2月予定)

① アンケートの集計結果やアクセス解析結果等をまとめ、学食へ報告する。

(6) その他(予定)

① 来年度の新生向けに「学食案内(仮)」を作成し、ガイダンス時に配布できるよう手配する。

2. プロジェクト実施の指導方法・留意点

本チームは学生 8 名と人数が多く(内 1 名は別のゼミナール)、また、編入生が 2 名含まれていた関係で時間割の調整がつかず、全員が顔を合わせられる時間がプロジェクト演習の授業時間のみに限られた。このため、報告と連絡、情報共有、作業分担、全体のスケジュール計画とその遂行、を主なポイントとしてプロジェクトの指導を行った。

2.1 iPad とプロジェクト管理アプリの利用

本プロジェクトでは、作成した web サイト上のメニューページの更新(毎週)、掲示物の作成(毎月)、等を並行して行っており、それに付随する諸作業については全員が情報共有する必要があった。このため、毎回の授業内で、各学生に対して“一週間分の進捗報告”と“次週の作業計画の報告”を課し、資料やデータについては必ず電子化した上で、プロジェクト管理アプリを通してデータ共有するように指導した。プロジェクト前半では“作業計画の連絡”についての認識が甘く、報告の際に「やる予定でしたが、できませんでした」と言う学生もいたが、

(1) “作業計画”を記録し、次週の授業で“記録”を見ながら“進捗”を報告させる。

(2) 誰かの計画に基づいて他のメンバの作業予定が組まれる可能性について、繰り返し指導する。また、そのような状況をあえて発生させる。

等を行うことで、徐々に改善されるようになった。他のメンバの作業状況を意識するようになってからは「他の人が忙しそうなので、この仕事は自分が担当します」と自発的に申し出る学生もおり、一定の効果があったと考えている。なお、1 月 10 日時点において管理アプリにアップロードしたファイルは 44、議事録は 21、タスクは 67 であり、学生が積極的にアプリを利用してプロジェクトを進めていたことが伺える。

2.2 作業分担とスケジュールの遂行

人数が多かったこともあり、明確にチームリーダーを決めず、プロジェクトの統括は教員が行った。プロジェクト中盤で欠席が続く学生や、分担した作業を忘れる学生もおり、個別に注意しなければいけない場面も多く発生したため、特定の学生に精神的な負荷がかかり過ぎることを考えると、教員主動で問題なかったと感じている。一方で、web サイト、掲示物、インタビュー等、個別の作業については“作業内容・手順を掌握してマニュアルや資料を作成する”、“何か変更があった際に管理アプリを通して全体

に連絡する”等のリーダー的な役割を自発的に担当する学生がおり、プロジェクト全体としては学生の自主性に任せる形で運営を行った。

web サイトやイメージキャラクタデザイン等、専門的なスキルが必要となる場面では、一部の学生に多くの負担を掛けることとなったが、それ以外の

- (1) web サイト上のメニューページの更新（毎週）
- (2) 掲示物のネタ・話題を考えて作成し、所定の手続きを行って掲示（毎月）
- (3) 学食にアポイントメントをとり、メニュー表の提供をお願いする（毎月）
- (4) 学生課に土曜営業日の情報提供を依頼する（毎月）

については、全員持ち回りで作業を行った。各分担については、学期の初めにスケジュール（分担）表を作成し、管理アプリでいつでも確認できるようにすると共に、前述の“進捗・作業計画の報告”の際に全員で確認することで、作業漏れ等が起こらないように留意した。

3. プロジェクト実施に対する評価・改善点

学生の自己評価アンケートの結果を表1に示す。

表1の結果から、全体的な傾向として、自分の意見を伝える、問題認識し解決する、アイデアを出す、等の項目について学生の自己評価が低いことがわかる。前述のように、本プロジェクトについては全体の統括を教員が行っており、このため、発言や提案等が教員主導で行われることが多く、「自発的に」という観点から低い評価になったと思われる。また、前述のように、全員が顔を合わせて話をする機会がプロジェクト演習の授業時間しかなく、パソコン演習室を使用していた関係で、対面でのミーティングのような形式が困難だった。このため、発言や議論がしにくく、積極的な発案に至らなかったのではないかと考えられる。

表1. プロジェクト自己評価アンケート(三輪プロジェクト:8名)

質問事項	そう思う	ややそう思う	あおそ思わない	思わない
Q1 プロジェクトで行う作業を明確に決めてプロジェクトを進めることができましたか？	4	2	2	0
Q2 プロジェクトを進める上で、スケジュールを作成して取り組みましたか？	2	5	0	1
Q3 プロジェクトメンバ間で役割を決めてプロジェクトに取り組みましたか？	4	3	1	0
Q4 他のメンバとの情報交換を円滑に進めてプロジェクトに取り組みましたか？	1	4	1	2
Q5 自らの意見を主張することができましたか？	1	3	3	1
Q6 自分の意見を口頭で分かりやすく伝えることができましたか？	0	2	4	2
Q7 プロジェクトの問題を認識し、必要な情報を収集・分析・整理し、問題を解決することができましたか？	0	3	4	1

持続型職業人 SOZO プロジェクト
 成果報告書（教員）

Q8 既存の枠にとらわれず、新しい発想やアイデアを出すことができましたか？	0	2	4	2
Q9 相手（他のメンバ、連携企業・団体の方）の意見を丁寧に聞き、話を引き出すことができましたか？	2	4	2	0
Q10 ビジョンを描き、目標を設定することができましたか？	1	5	1	1

これらの点を考慮し、教員主動と学生主動の場面を切り分け、議論等は学生に任せる形で運営することを検討している。また、議論しやすい環境作りが必要であり、対面でグループディスカッションが可能な教室を確保した上で、プロジェクトに臨む必要があると考えている。

なお、別の問題として、プロジェクト演習の作業時間を確保するために、ゼミナール1, 2の時間を削ることが多く、ゼミナールの進捗に影響が出ているのは事実である。無理の無い計画を立て、学習環境を確保することで、ゼミナールとプロジェクトを両立する必要があると強く感じている。

本プロジェクトの内容は、広報や宣伝、企画、デザインといった職種に関連するものであり、これらの分野に興味を持っている学生にとっては、非常に有意義な経験になったと考えている。また、情報の収集から加工（コンテンツ制作）、具体的な情報発信、さらに、活動の評価、改善案の検討に至るまでの各工程では、学生自身が主体的かつ具体的に行動できる様々な場面を設けることができ、学生の成長に繋がったと感じている。

就業力育成プロジェクト報告書

担当 森田和正

1. プロジェクトのテーマ
中部地域における繊維産業
2. プロジェクト概要
新規学卒者の就職内定率を向上するため、学生のエンプロイアビリティを育成することを目的とする。そのため学部3年生担当学生に対し、以下を目的とした授業を行う。
 - ① 就職状況の把握と就業意識の向上を図る。
 - ② 企業が学生に期待することの認識。
 - ③ 就職試験に臨む際の学生の心構え。
 - ④ 希望産業の把握の仕方。
 - ⑤ 実態の体験、把握。
 - ⑥ 就職戦線に臨む際の注意。
3. プロジェクト実施上の指導方法・留意点
以下を意識して実施した。
 - ① ゼミ学生が時間や約束を守ることに注意した。挨拶。
 - ② 学生の常識と企業の常識が異なることを教えた。
 - ③ 言葉だけでなく、行動で示す習慣をつけることを特に示した。
 - ④ 企業訪問時はプロと接することを意識させ、学びとるように指導した。
4. プロジェクト実施に対する評価・改善点
企業者に対する接し方（挨拶、電話、メール）の向上に関しては、少しは感じる場所があったことを期待したいが、自分で理解し行動するという点では、残念ながら効果は薄かった。
本目的に沿った真剣な対応が望まれよう。

炎の祭典支援プロジェクト

担当 山口 満

1. プロジェクト概要

1.1 プロジェクトの目的

本プロジェクトは、豊橋市を代表する祭りである『炎の祭典』昼の部イベントについて、動画素材を通じて広報することにより支援し、地域振興に貢献することを目的とする。具体的には、炎の祭典委員会および炎の祭典当日の取材（昼イベント制作過程と結果の取材）、広報用動画の作成（委員会動画、本番当日の動画）、および、その動画を Web サイト上で公開する活動を行った。

プロジェクトメンバーは山口ゼミ所属の3年生2名であり、学外の方と接触する上記の実践を通じて座学では得難い様々な知識と経験を獲得させ、コミュニケーション能力やタスク管理能力を養うことも目的とした。なお、本プロジェクトは、豊橋商工会議所青年部（YEG）のメンバーで運営される『炎の祭典』実行委員会のご協力を得て実施された。

1.2 活動概要

『炎の祭典』のメインイベントは、祭りの名のとおり、夜の部の花火演目『炎の舞』である。一方、手筒花火以外の豊橋の魅力を伝えている貴重な昼イベント（昼の部）は、夜イベントに比べて認知度が低く、より一層地域内外にアピールしていく必要があることを YEG の一員でもある村松東プロジェクト担当講師より伺った。

これを受けて、『炎の祭典』昼イベントを盛り上げるための『炎の祭典支援プロジェクト』を立ち上げ、大きく分けて以下の三つの活動を通じて広報活動を行うこととした。

- (1) 炎の祭典委員会および炎の祭典当日（昼の部）の取材（ビデオ撮影）
- (2) 広報用動画の作成（取材ビデオの編集）
- (3) 動画公開用の Web サイトの作成と運用

(1) 炎の祭典委員会および炎の祭典当日の取材（ビデオ撮影）

豊橋商工会議所青年部の関係者に対し、学生・教員からプロジェクトの主旨説明を行い、取材許可を頂くことができた。その後、およそ月に一度、豊橋商工会議所で行われる炎の祭典委員会の会議の様子について、ビデオカメラ・デジタルカメラ・ICレコーダーを用いて取材した。なお、委員会のほかに、実行委員長にインタビューする形式での撮影も行った。取材回数は全11回で、撮影画像は610枚、撮影動画は75ファイル、総ファイルサイズは約135GBで総撮影時間は約19時間となった。

炎の祭典当日については、2台のビデオカメラ・1台のデジタルカメラを用いてメインステージ撮影担当と周辺イベント撮影担当に分かれて取材を行った。なお、炎の祭

典当日時点で、プロジェクト活動メンバーが1名となる事態となり、教員が全面的に協力することにより取材を実施した。

(2) 広報用動画の作成（取材ビデオの編集）

(1)の取材で得た動画を広報用動画として加工するため、本学サポートセンターのPCにて動画編集ソフト「Corel Video Studio Pro X4」を用いて編集作業を行った。なお、作業は学内の編集環境が整った7月から開始した。

「委員会ビデオ」編集作業の途中段階で、取材データ量が膨大であることから、炎の祭典本番の日までに完成させるためには時間が不足していることが明らかとなった。このため、委員会の取材動画の編集作業を一時中断し、炎の祭典当日の取材および動画編集をし終えた後で再開することに計画を変更して対応した。

(3) Web ページの作成と運用

動画編集作業と並行して、広報用 Web サイト作成を行った。作成した動画の掲示先としては、既存の Web サービス(YouTube など)は利用せず、専用の Web サイトを構築することとした。

当初計画では、Web サイト構築のすべてを学生に実施させる予定であったが、活動員の減少により、実現が困難となった。プロジェクトの核は取材とその結果の編集であったため、Web サーバセットアップおよびサイトの基本部分の構築は教員が行い補助した。

本プロジェクトの成果（編集動画等を掲示した Web サイト）は、下記 URL にて WWW 上に公開中である(URL: <http://projectweb.sozo.ac.jp/myamaproj/>)。

2. プロジェクト実施の指導方法・留意点

2.1 指導方法

プロジェクト実施に係る「タスク管理（登録）」「議事録作成」は、学生にとっても初めての経験となるため、プロジェクト活動の前期については教員主導により「作成例」を見せる形で指導した。

週に一度のプロジェクト演習の時間では、主に現在の進捗状況・今後の予定の確認、実施に関する案出しなど、話し合いのために時間の大部分を割いた（活動本番は学外＝豊橋商工会議所での時間外活動と位置づけた）。

活動の進捗状況管理、議事録管理およびファイル共有等には、貸与された携帯情報端末 (iPad) にてプロジェクト管理システムを積極的に利用するよう指導して行った。発表資料の受け渡しや添削などについても、プロジェクト管理システムを通じて共有化することを意識した。また、他プロジェクトの Web サイトへのリンクを登録して閲覧し

やすくすることによって、他の活動の進捗を多少なりとも意識させるよう工夫した。最終的には、議事録:16件、タスク:21件、チャット:52件、登録ファイル:27となり、2名による8ヶ月程度のプロジェクトとしては、およそ適当な活動量(活発さ)であったように感じる。対面でのコミュニケーションが多かったため、チャットの利用頻度は低かった。

2.2 留意点

学生にとっても初めての経験であるため、特にコミュニケーション(プロジェクトの内容に限らず)を重視して、学生の様子を観察しながら指導を行った。

活動開始当初は、設備(ビデオ編集用機材、Web サイト構築環境)の準備が完了しておらず、具体的な活動計画を立てることが困難な状況であった。このため、学生は見通しが立たない状況に不安を感じていたようであった。これに対し、おおよその予定を伝えたくて、環境整備後にスムーズに取り掛かれるよう事前に教育しうる点については指導を行い、不安を取り除くよう配慮した。

活動中期より、活動メンバーが1名になる事態となり、該当の学生の明らかなモチベーション低下が認められた。これについては、教員が一活動員としてプロジェクトに参加し作業分担することによって、学生に過大な負担がかからないよう留意した。

3. プロジェクト実施に対する評価・改善点

3.1 評価

当初は学外の方との接触に戸惑い気味であった学生も、商工会議所青年部のメンバー(経営者多数)との会話を重ねるうちに、目上の方との話し方・接し方を自然に身につけたようである。また、大学の名前を背負って活動していることを自覚し、無責任な行動・対応(自分の仕事を投げ出す)にならないよう努力していたようであった。

学生のアンケート回答結果によると、「Q5 自らの意見を主張することができましたか?」の問いに「そう思う」と回答しており、本活動を通じて成長した様子が伺える。

動画を掲示したWebサイトを8月末から公開したが、これについて炎の祭典オフィシャルTwitterやオフィシャルブログで取り上げていただいた。これについては、学生のモチベーションが高まり、非常に良い効果を生み出したようである。取り上げていただいた豊橋商工会議所関係者の方々には、あらためて感謝申し上げたい。

本活動については、関係の方々から多数のお褒めの言葉をいただき、学生に「成功」体験を与えることが出来たと考えている。関係者の方々から次年度以降も活動を継続して欲しいという声もいただいているため、今回の経験と反省を踏まえ、積極的に検討していきたい。

3.2 改善点

活動を開始した最初の時点では、教員・学生から多数の案が出され、それらすべて

を計画の中に盛り込んでしまった。実際に活動を行ったところ、時間的な制約から実現できないことがいくつか生じた。これについては、教員の積極的な介入（手助け）により、期日までに仕上げた。今回の活動を通じて、現実的に遂行可能な無理の無い計画を立てるべきであったと反省している（紆余曲折の時間があり、学生を混乱させる結果となってしまった）。特に、今回問題となったビデオ編集環境の準備や Web サイト構築用サーバの準備遅れなど、教員側の対応遅れがないよう改善していきたい。

活動メンバーが 2 名であったため、プロジェクトとして実施可能か不安な部分もあったが、結果的に成果を残すことができた。しかしながら、学生間での意見交換やタスク分割という観点では少人数プロジェクトは好ましくないと考えており、次年度以降については、実施前にプロジェクトのあり方について関係者間で協議が必要なのではないかと考える。今回については、1 名が途中で参加できなくなったことから、残りの 1 名に負担がかかることとなった。外部の方々と連携していること（責任）もあり、学生にとっては相当の重圧であったようである。今回のケースは、元々の学生の気質（性格）により難を逃れた感があるものの、学生によってはプロジェクトを存続させることが出来ない事態となっていたことは容易に予想できる。この問題については、今後関係者間で議論していきたい。

全体を振り返り、教員が協力し過ぎた部分もあったため、今後は学生が主体的に活動できるよう留意して指導していきたい。

東三河 Bible

担当 吉川 優

1. プロジェクト概要

東三河のグルメ、温泉、観光、祭りについて個々に調べ、4つの資料を合わせてひとつのホームページを作成する。

プロジェクトを履行するにあたり、常にお互いを意識して行動することを大切にし、作業に必要な計画、メンバー間のコミュニケーションを重視しながら、コミュニケーション力の向上を行った。

調査結果はWEB ページにまとめ、地元紹介ページとして公開予定である。

2. プロジェクト実施の指導方法・留意点

プロジェクト活動は、学生の主体性や協調性を醸成するための活動として実施されることを考慮し、チームリーダーを中心に、参加メンバーの自発的な行動を主体とすることに留意した。

テーマ選びは、教員とプロジェクト参加メンバーで決定したが、調査項目、調査内容等は参加メンバーが意見調整を行い、なるべく参加メンバーの目線で企画から制作まですべて行うように指導した。

3. プロジェクト実施に対する評価・改善点

プロジェクトを実行していく中で諸事情により全体の作業に遅れが出たことで、計画していた蒲郡クラフトフェアへの出展に間に合わず活動予定が大幅に変更となった。

プロジェクト活動は、チームリーダーを中心に、参加メンバーの自発的な行動を主体とする作業であるが、チームリーダーが秋学期から欠席続きで全体の作業に大きな遅れが出た。

現在は新しいリーダーのもとで、ひとつの形として落ち着き、一丸となって作業を進めている。

食の伝達

「大学生コックさんのクッキング(子どもクッキング)教室」プロジェクト

担当 朝倉 由美子

1. プロジェクト概要

調理師コースおよび朝倉セミナーでは平成 18～20 年度の 3 年間、現代 GP「食農教育」において園児や小学生、または親子を対象に大学内もしくは開催する小学校の調理室で料理教室を実施してきた。その活動の中から「子どもたちは料理をする時はいきいきとしており、自分で調理したものは苦手な食材でも食べられた」という好結果を得た。平成 21 年度からは豊橋市の子ども未来館「ココニコ」の体験プログラムの講座に入れていただき、会場をココニコのキッチン工房に移し、小学生を対象に料理教室を継続している。本年度は年間で 4 回の実施を計画した。

調理師は自らの技術向上のために学ぶことは当然であるが、自ら作ることより他者に指導することの方が難しい。そこで、習得した技術を外部に発信することで自身の技術や知識等の問題点の確認ができる。子どもたちにおいしいものを作る楽しさや調理に参加する協調性を伝える活動の中から、クッキング教室の開催に伴うさまざまな過程を経験する。メニューの決定、試作、材料発注、配布レシピの作成、タイムテーブル作りや危険の予想に対する準備、そして当日の進行など分担を決めて話し合いながら進めていく。

昨今の食事には野菜の摂取が不足している点が指摘されている。東三河は旧来農業地域で、現在も主要産地ではあるが、一方では現代の食事情同様に野菜嫌い、野菜不足の傾向があるようだ。そこで、「野菜を多く食べられて、かつ美味しい献立の発信」を中心テーマに、郷土料理や豊橋で生産量の高い農産物を使う献立を取り上げる。

参加者(小学生)とのふれあいの中で、怪我をさせない事に細心の注意を払い、様々な想定外の場面にも遭遇しながら、臨機応変に対応できる、とっさの判断力や実行力を身に付けることを目的とする。

2. プロジェクト実施の指導方法・留意点

ー1指導方法

テーマやポイントを提示して、その後は学生が話し合いながら進めるようにした。

* 郷土料理も取り入れ、季節を考慮して 4 回分の献立を話し合い決めた。

* 各回の試作は全員で行い、手順や分量の確認をした。

・調理技量の差は試作の中で修正させるようにしたが、修正不足は各自での自主練習も課した。

* 持ち帰りレシピ作成、タイムテーブルの検討、材料の発注票作成、当日の進行シナリオ(担当者)、アンケート作成と集計等一連の活動は 2 グループに分けて、4 回を交互に 2 回ずつ担当するようにした。

* 多くを経験するために、2 回担当のうち、同じ分野を担当しない。

それぞれの文書は情報処理の授業で学んだ技術を活用して作成し、メールやフォルダーの活用により修正点等の指導のやり取りを行った。

* 担当しない学生は担当グループから提示されたタイムテーブルとレシピにより手順と内容の確認をする。そして、当日各班に分かれて指導に当たった。

* 活動の反省と今後活かすために、参加者には実施後アンケートを取った。

持続型職業人 SOZO プロジェクト
成果報告書（教員）

＊学生は実施後の感想文を提出し、参加者のアンケート結果集計と共にココニコの担当者へ報告した。

－2留意点

＊様々な場面に気を配る

①けがの想定

＊会場の実習台は小柄な小学生には少し高く、中が見えにくい状況も生じ、調理器具によっては火傷の可能性があるという、事故の想定に十分気を配るように念を押した。

②参加者の満足度

＊参加者が出来るだけ均等に参加できるように、状況を見ながら調理作業の分散、誘導した。

＊会話を交わしながら楽しい雰囲気を出すように目配り気配りを課した。

3. プロジェクト実施に対する評価・改善点

－1. 評価

① 参加者の評価：小学生 3～6年生対象だが、参加者は 4 年生が比較的多い。

アンケート結果は毎回「楽しかった」「おいしかった」「学生の指導はよく分かった」「次も参加したい」等、学生の励みとなる評価をいただいた。

② ココニコからは、食事を主にした料理教室が少ないから開催回数を増やして欲しいとの声もいただいたが、現在の人数では 4 回が限度とした。

③学生は、初回は緊張して動きがぎこちなかったが、回を重ねるうちにゆとりが出るようになってきた。子どもたちの協力にも助けられて打ち解けていき、声掛けも増えて、笑顔で指導することができるようになった。回数を重ねることは大きな実りをもたらせてくれることが分かったようだ。

－2. 改善点

① 年度初めの始動が遅く、時間の調整が忙しいときがあった。

セミナー編成が決まった時点から献立等の候補の課題を与え、新学期開始時からスムーズに試作に進めて行くようにしたい。

② 事故には気をつけていたが、初回(7月)にフライパンの端で火傷をした子がいた。

フライパンで魚を焼く場合、小柄な小学生にはキッチンが高く、フライパンの端に腕が当たったりして火傷をする子が数人出てしまった。

火傷等の事故の想定を強く意識しながら、キッチンの下見の際その点をチェックし、献立や調理方法に身長を考慮に入れる必要がある。また、救急用品の準備が必要である。

③ もう一つのプロジェクトとの活動の日程配分を綿密に計画する必要がある。



イワシの手開きの指導



小豆あん作りと豆腐切り方指導

以上

「豊橋産の野菜と米粉を使った焼き菓子の開発」プロジェクト

担当 朝倉 由美子

1. プロジェクト概要

豊橋は農業が盛んで全国一を誇るキャベツや大葉など、多くの農作物が生産されている。しかし、現代の食生活の中では野菜は嫌われる食品となり、摂取量が減っている。そのためいろいろな健康障害も報告されている。また、洋食化により主食の米の消費が減り、食料自給率の低下を招き、米農家の減少へも影響している。

現在、学生は調理師の調理実習等の授業中で、高騰し始めている輸入小麦の分野への活用が進んでいる米や米粉をテーマとして研究を続けている。一方、セミナー活動テーマでは「野菜の摂取量を増やす取り組み」を掲げており、この地域で調理を学ぶ学生として、米粉と豊橋の農産物（主に野菜）を組み合わせた新たな製品を考えて、国産や地産地消の視点から、地元豊橋の農産物への関心を高め、また豊橋の農産物の6次産業化への提案の一つにしたいと取り組みを始めた。最近野菜を使った菓子類も注目されているので、まずは日持ちのする焼き洋菓子を考案することとした。

試作と試食提供の市場によるアンケート調査から今後の製品化への問題点の検討を行い、製品化実現に向けて経過体験を重ね、創造力と実行力の向上を図ることを目的とする。

市場調査には農材や野菜生産販売等を広く手がけている株式会社イシグロローイングの店内カフェ（くくむガーデンカフェ）の協力をいただいた。

2. プロジェクト実施の指導方法・留意点

「野菜の活用範囲を探る目的で、基本的な焼き菓子の何を置換できるか考え、新たな焼き菓子の創造を行う。」という目標の中での課題を与えて検討させている。

洋菓子には輸入製品を使用せざるを得ないものが多いが、国内で調達できるもので充当できないかと考え、今年度はアーモンド粉をおからで置換することで、その配合等を試作しながら、検討を進めている。味やテクスチャー等において同等には届かないにしても、国内産、地産消費のコンセプトを具体化するための試作を進めていく。

***焼き菓子の候補:** 教員から油脂を控えて、硬いが噛むほどに味が出て来る菓子ので、「噛む」を意識した間食のビスコッティを提案した。

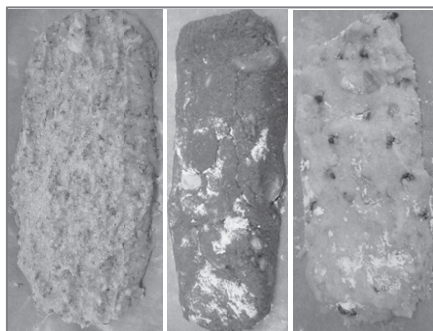
***配合と加える野菜の選択:** 学生の中からいくつか提案させた。その結果、「大葉」「人参」「牛蒡」「生姜」「玉ねぎ」等を試作に挙げた。副剤として人参にチョコチップ、牛蒡にはココアと一緒に混入させた。

課題① 野菜の大きさやおからの混入量等の検討。

手で刻む、フードプロセッサー使用、混入手順について提案させて試作を行った。

おからは市販のまま、もしくは空煎りして水分を減らしたものなどの試作と製品の比較。

◆初回試作



焼成後、
カットして
再焼成

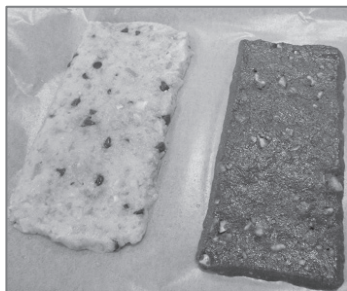


・切りにくく、大きさの統一が難しく、カットロスによる無駄が出る。
・噛むほど味は出るが、市場向けでは硬すぎる。

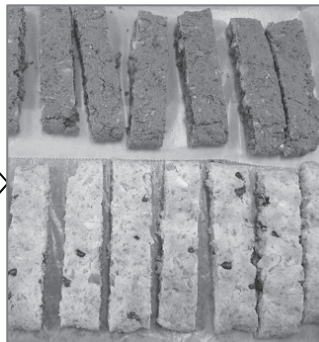
課題② 量産する場合の成形に伴う問題点

カットロス、見栄え、噛み応えなどを変えて試作を繰り返した。

◆再検討後の試作



ナッツを砕いて混入。薄くして焼成カット後、再焼成



・切り易くなり、大きさもほぼ統一できた。
 ・硬さも噛みやすくなった。
 ⇒市場調査品とした。

課題③ 市場調査での情報収集

製品化に伴い、調べることは何か、項目を挙げてアンケート用紙を作成させた。
 製品名を「野菜(ベジタブル)を食べて！(方言で食べりん)」というメッセージをこめて「ベジタりん娘」と名づけて調査に向けての製品への愛着を持たせた。

『ベジタりん娘』アンケート用紙			
…噛めば噛むほど味がです！			
豊橋創造大学短期大学部 キャリアプランニング科(調理師コース) 朝倉ゼミ			
私達は米粉をテーマに研究しています。			
米は自給率の高い穀物で、小麦粉に代わるものとして活用が期待されています。			
また、東三河は農業が盛んなので、野菜と米粉(粉の70%)を使ったお菓子を考えてみました。			
今回は油分をほとんど使わないイタリアの焼き菓子「ビスコッティ」をもとに考えました。			
本来の材料のアーモンドブードル(粉)の代わりにおからを用いることで食物繊維がアップし、カロリー控えめなお菓子となりました。			
『野菜(ベジタブル)を食べりん』というメッセージを込めた名前にしました。			
まだ開発途中ですので、製品向上のためにアンケートにご協力おねがいいたします！			
・記入年月日	平成 年 月 日()		
・年齢・性別	()歳 男性・女性		
・何味を召し上がりましたか？	にんじん	しそ	ごぼう
・野菜の味は生きていますか？	はい	いいえ	
・野菜の量はどうか？	多い	ちょうどよい	少ない
・おからは気になりますか？	気にならない	気になる	
・硬さはどうか？	硬い	ちょうどよい	軟らかい
・形は食べやすいですか？	食べやすい	食べにくい	どちらでもない
・甘さはいかがですか？	甘すぎる	ちょうどよい	足りない
・販売されたら買いたいですか？	はい	いいえ	
・飲まれたお飲みものは何ですか？	()		
・お飲み物と合いますか？	合う	合わない	どちらでもない
▼その他…			
① ニンジン・シソ・ゴボウの他にに入れて欲しい野菜や味について挙げてください。			
② 全体についてご意見をお願いします。			
貴重なご意見ありがとうございました！			



市場調査中:くくむガーデンにて

3. プロジェクト実施に対する評価・改善点

本年度からの試みであるため、本年度はビスコッティ「ベジタリン娘」の試作と市場調査までに留まった。70 枚程度の試作品を持参し、週末の午前から昼にかけて約 3 時間程度、学生が直接来客に説明しながらアンケートへの回答を依頼した。2 回の学外での市場調査によるアンケート結果を参照されたい。

2 種のアンケート結果からは来場者の学生への応援も含まれているようだが、混入野菜によっては野菜が生きていない、また硬さや製品化に付いては3分の1が負の回答であったため、今後の再検討課題となっている。市場調査には3種の内、大葉入りを7月半ば、人参入りを8月半ばに行ったが、残り一種の牛蒡に関しては次年度への課題として残ってしまった。

取り組み自体には未知の製品作りに学生は意欲的であったが、壁も多いいことを経験した。

学生からの今後への反省と課題が出された。

- * 硬さを変える。→さっくり感が出るように油分を加える。
- * 形を変える。→〇〇サブレのような大きな1枚型にする。
- * おからの配合方法や量の検討。→カットする時の崩れ、パサパサ感を減らすことができないか。
- * 別のものを取り上げる。→ビスコッティにこだわらず、例えばしっとりした焼き菓子の試作も進めてはどうか。

セミナーではもう一つの「こどもクッキング」のプロジェクトも並行して進めているために、時間的なゆとりが無かったこともあるが、次年度も同様の状況であるため時間配分等にはしっかり検討したい。

今後は別の焼き菓子も視野に入れつつ、授産所等への製造依頼に向けての取り組みも検討して進めていく予定である。

以上

「ベジタリン娘」市場調査アンケート結果		
●アンケートの結果● 7月、8月実施		
シソ(大葉)入り 7月17日(日)10:30~15:30頃 実施 (人)		
野菜の味は生きてますか?	はい 47	いいえ 7
野菜の量はどうですか?	ちょうどいい 45	多い 2
おからは気になりますか?	気にならない 51	気になる 1
硬さはどうですか?	ちょうどいい 41	硬い 13
形は食べやすいですか?	食べやすい 47	食べにくい 1
甘さはいかがですか?	ちょうどいい 43	甘すぎる 5
販売されたら買いたいですか?	はい 36	いいえ 16
お飲み物と合いますか?	合う 38	合わない 6
人参とチョコチップ入り 8月13日(土)10:00~12:40頃 実施		
野菜の味は生きてますか?	はい 19	いいえ 39
野菜の量はどうですか?	ちょうどいい 36	多い 1
おからは気になりますか?	気にならない 57	気になる 3
硬さはどうですか?	ちょうどいい 43	硬い 19
形は食べやすいですか?	食べやすい 53	食べにくい 3
甘さはいかがですか?	ちょうどいい 58	甘すぎる 2
販売されたら買いたいですか?	はい 37	いいえ 18
お飲み物と合いますか?	合う 46	合わない 2

豊橋の祇園祭を考えるプロジェクト

担当 今泉 仁志

1. プロジェクト概要

2011年3月11日の東日本大震災の後、全国に自粛ムードが広まる一方で、祭りなどによって活性化をはかろうという動きがあった。今年、全国の夏祭りはどうなるのだろうか。祭りは、街の活性化とどう関わりがあるのだろうか。そんな問題意識から、地元豊橋の代表的な祭りである豊橋祇園祭を題材にして、研究してみることにした。

今回のプロジェクト運営を通して、学生に学んでほしいことは、以下のとおりである。

- ものごとを進める上で、プロジェクト的発想が大いに役立つこと
 - (1) 計画することの重要性
 - (2) 全体を見通し、段階的に進めていく考え方
 - (3) PDCA サイクルを回すこと
 - (4) メンバー間でコミュニケーションをとる重要性

2. プロジェクト実施の指導方法・留意点

- プロジェクトにおけるタスクの考え方を教え、考えられるタスクを以下のように皆で書き出した。
 - 今年の各地の夏祭りの実施予定、例年との変化をネットで調べる。
 - 京都の祇園祭を調べる。
 - 各地の祇園祭を調べる。
 - 豊橋の吉田神社祇園祭を調べる。
 - 手筒花火、打ち上げ花火、頼朝行列
 - 今年の吉田神社祇園祭はどうなるのか。規模はどうか。
 - 祭と町内会との関係
 - どういう形で、祭りが維持されているのか。
 - 町内会の人、どれくらい熱くなっているのか。
 - 自営業の人、サラリーマンの人は、どうかかわっているのか。
 - 今後も受け継いでいかれるのか。
 - 何か、課題はあるのか。
 - 町内会の人のお話を聞きに行く。
 - 実際に手筒花火の見学に行く。

タスクを分担して調べるように指導した。

- iPad の「プロジェクト管理システム」を活用した。必要なタスクをアップし、議事録を記入したり、資料ファイルを保存していった。チャット機能も活用し、メンバーの意思疎通をはかった。

3. プロジェクト実施に対する評価・改善点

3.1 プロジェクトの評価

手筒花火奉納の日である 2011 年 7 月 15 日(金曜日)を目標にして、プロジェクトを進めた。目標の日時がはっきりしている点では、やりやすかった。プロジェクト活動の時間が限られているので、ゼミ時間外の情報収集は、教員が手助けした。iPad を活用し、情報共有が円滑に進められたのはよかった。

学生の感想をいくつか挙げる。

- ・祇園祭というものが、新鮮に感じられた。
- ・手筒花火は、まわりで見ている人達との一体感を感じた。
- ・手筒花火の見学は、人が多いし、暑いし、蚊に刺されるし、大変だった。
- ・豊橋伝統の手筒花火はこれからも続けていってほしい。

プロジェクト運営の課題

- ・学生に積極的に関わらせるのは大変である。
- ・ゼミの時間(水曜日1限目)と課外活動のバランス
- ・学生間の温度差、協力関係の確立

3.2 プロジェクトの改善点

- ・豊橋の祇園祭は歴史が古いので、いまだに「男の祭り」の面が残っている。特に、手筒花火については「女人禁制」の面が強く出ていた。そういった点からは、女子学生向けのテーマではなかったかもしれない。
- ・人混みが嫌いだったり、花火もそれほど好きでない学生がいた。

来年はまた別のテーマを検討したい。

■以上。

「ライスフラワー」プロジェクト

担当 木下 賀律子

1. プロジェクト概要

日本の食料自給率は40%程度にまで低下し、食生活の変化に伴い我が国の主要穀物である米の消費量もピーク時の半量になるなど、日本人のコメ離れは確実に進んでいる。

地元、三河・遠州地域は、日本最大の農業生産拠点であり、「地産地消」の動きは盛んである。近年米については、微細粉に加工する技術が開発され、従来小麦粉で作られていた食品のほとんどを、米粉ならではの長所を活かす形で作ることができるようになってきた。

本「ライスフラワープロジェクト」では、「米」を主とした料理や、最先端の技術でつくられる「米粉」を利用した料理・スイーツの調理法を研究し、創造祭においてその作品展示やレシピを広く一般に公開するなどの活動を通して、「米粉」の魅力を広め、ひいては「米」の消費拡大に寄与することを目的としている。

2. プロジェクト実施の指導方法・留意点

本プロジェクトの実施にあたっては、学生が自ら進んで活動し、いろいろなアイデアを出し、メンバー全員が協力し合いながら成果をあげることに留意した。

普段のプロジェクト活動で留意した点は以下のとおりである。

- ・辛抱強く練習すれば、調理技術も向上し、それが自信につながることを経験すること。
- ・調理から片付けまでの段取りを考え、手際良く行動できること。
- ・最終的な仕上がりをイメージしながら、途中のプロセスを仕上げていくこと。
- ・素材の違い、種類によって味や仕上がりにどのような結果が出るか、理解すること。
(丹波産と北海道産の大納言小豆を煮て、餡の色、艶、テクスチャーを比較するなど)
- ・切る・煮る・焼くなどの基本調理の再確認。料理と五感の関連について学ぶ。

米粉フェアに向けてグループワークとして留意したことは、以下の通りである。

- ・お米の料理、米粉の料理、米粉スイーツの各分野をどう分担するか
- ・お互いに各自のテーマを研究し、グループでレシピの共有化を図る
- ・最終表現としての作品のディスプレイをいかに効果的に演出するか話し合う
- ・ポスターの作成(チラシ・案内含む)
- ・調理室全体及び廊下の飾り付け方法
- ・料理講習に向けてのメニュー検討、わかりやすいレシピの作成
- ・料理講習のリーダーとなるための練習(調理法の把握・話し方・声の大きさ・間の取り方)
- ・当日のタイムスケジュールの作成について、意見を聞く
- ・材料注文の仕方(重複する材料については、話し合いの上で共有する)
- ・それぞれの米料理について調査研究(A3の用紙にて発表)し、困ったことがあれば、助け合う

米粉フェア当日は、お客様を迎える側として、明るくにこやかに親切に接するように指導した。

- ・会場全体の雰囲気になごやかで、にぎやかなものになるように皆で努力した。
- ・小さな子どもも含め家族全員を受け入れ、楽しんでもらう事が出来るようクイズなども取り入れた。

3. プロジェクト実施に対する評価・改善点

3.1 プロジェクト実施に対する評価

これまでの発表は、調理作品の展示と調理方法のデモンストレーションを主とした作品展であった。しかし今回は、「SOZO COOKING STUDIO」と銘打って、来場者にもデモを見ながら実際に料理講習会に参加して頂いた。

講習会後に業者から無償提供して頂いた米粉を差し上げ、家でも手軽に米粉調理が復習出来るように配慮した。何よりも、全員で和気あいあいと楽しく実施出来たことが、最も喜ばしい点である。

また本学で調理師を取得した卒業生達が、顔を見せてくれるよい機会にもなっている。

プロジェクト参加学生の感想で象徴的なものは、「自分たちが調理する楽しさをお客さんにも共有してもらえたと思う。」というものである。

その他、参加学生の全員が米粉講習会のリーダーを担当したことから、「皆の前に立った時、緊張感で足がガクガク震えたが、馴れるに従い人前で話す快感を味わうことが出来た」という意見もあった。

創造祭の「お米フェア」に対する参加者の意見をいくつか紹介する。

- ・手軽にできる料理であり、普段のメニューに加えてみたいと思った。
- ・難しいという先入観をもっていたが、実は簡単にできることがわかった。
- ・小麦粉に対して、アレルギーを持っている子どもに良いと思った。
- ・説明を聞くだけでなく、実際に作ってみて、よく分かり理解できてよかったです。
- ・目で見て楽しめ、調理に参加して楽しめ、食べてみて楽しめ、とても楽しかったです。

3.2 次年度に向けた改善点

- ・今回初めて実施した、「参加者にも実際に作ってもらう」という企画は大変に評判がよかったので、来年度も踏襲したい。
- ・次年度は、テーブルコーディネート技術も含め、「米粉のスイーツとお茶」といったテーマを考えている。
- ・今回は手土産のスイーツなどを用意したが、模擬店で売ってほしいという要望もあった。学生の労力も考え検討してみたい。レシピと共に販売すれば、米粉普及により役立つのかもしれない。
- ・個別のテーマでの講習会開催の希望があったので、検討してみたい。

■以上。

防犯プロジェクト

担当 千賀博巳 中島 剛

1. プロジェクト概要

学生たちが生育暦を振り返る中で、人との係わりの中で働いていく意識が希薄になっていることがわかり、人のために働く意識と意欲の向上を図ることが必要であると考えた。そうした中で地域の安全・安心のためにどのような取り組みができるか検討し、防犯ボランティア活動を一つの目標とすることを決めた。防犯ボランティアチームを発足し、その活動を通じて地域の安全・安心に貢献するとともに、自ら働く意識と意欲を高めることを目標とした。

2. プロジェクト実施の指導方法・留意点

本プロジェクトの実施にあたっては、学生が自ら進んで活動することを重視し、今まで自分が係わっていなかった社会を知るとともに、社会で働く人との交流を通じて学生自身が成長できることを目標とした。

防犯チーム CTS (Clean Team SOZO) を発足させ、多くのイベントに参加したが、当初の目標である「人のために自分は何ができるか。」というボランティア精神を学生が常に持って行動できるように、指導助言をした。

3. プロジェクト実施に対する評価・改善点

3.1 プロジェクトの評価

学生は大きく分けて二つの活動をした。「学校周辺の地域の安全・安心に寄与できる活動」と「防犯チーム CTS の活動」である。

学校周辺の地域の安全・安心に寄与する活動では、地域を巡回しながら清掃活動とあいさつ運動をしながら地域の人との繋がりを大切にするとともに、地域の防犯上気をつける場所などの確認をする活動を行った。

CTS の活動では、駅前での防犯キャンペーンや少年の立ち直り支援のための農業体験活動に参加するなど、今まで学生が経験することのない場面や多くの人たちとの交流を通じて、幅広い地域の人との交流が図られた。

以上の活動を通じて、当初は遠慮がちであった学生がより積極的に行事に参加するようになるとともに、多様な価値観の多くの人との交流を通じて、学生自身の社会性と価値観の構築に役立った。

学生の感想にあった「さまざまな活動を経験するなかで、私は防犯対策のチラシ配りや呼びかけなど、小さなことの積み重ねが地域の安全・安心という大きなものに繋がると気付きました。」は、このプロジェクト活動にとどまらず今後の生活のなかできっと生きてくるものと思われる。

3.2 プロジェクトの改善点

防犯プロジェクトの活動は、授業後の夜6時、7時からや土曜日、日曜日での行事が多かった。このため、学生のスケジュールの調整がうまく行かなくて参加者が少ない行事もあった。年間の予定表が早めに決まれば、学生たちの活動もより計画的かつ積極的にできると思われるので、来年度は年度当初の計画をしっかりとしていきたい。

また、今年度は CTS の活動が多かったが、来年度は地域の巡回活動を充実させながら地域の防犯マップの作成をするなど、地域の人たちとのつながりを重視した活動をしていきたい。

プロジェクトテーマ

担当 寺本和子

1. プロジェクト概要

愛知県の東三河地方は、多様性に富んだ地形を有し、その結果、東三河の自然もまた多様である。しかし、これら多様な生物の現状は決して楽観できない。生息地の破壊、生物種の持ち出し、また逆に生物の持込または侵入、地球温暖化の影響等々、東三河の自然にも変化の兆しが見られる。

私たちプロジェクト参加者は、NPO法人東三河自然観察会の指導を受けながら、まず、東三河の自然の現状を知ることに努めた。その後、地域の人たちを中心に、自分たちの知りえた情報を伝え、少しでも東三河の自然を守ることに繋がればという期待を持って、ホームページを立ち上げ、観察結果を公表した。

2. プロジェクト実施の指導方法・留意点

実際野外へ出て、自然を肌で感じてもらい、自然を身近に感じ、自然に感動する感性を養うことに努めた。

ホームページの作成に当たっては、基礎的な技術については教えたが、デザイン等はすべて学生たちに任せた。

3. プロジェクト実施に対する評価・改善点

学生の野外での自然観察の機会は3回しかなく、観察当日は楽しんでいた様子であったが、自然に対する感性が養われたかどうかは疑わしい。

また、社会人としてのNPO法人東三河自然観察会の人たちとも交流の機会があったが、人格的な影響を受けるまでには至っていないと考えられる。今後は、より頻繁に交流を図るように努めたい。

プロジェクトテーマ

担当 長谷川 正志

1. プロジェクト概要

- ①全員で合格を目指す「医療秘書検定」
- ②韓国医療視察

2. プロジェクト実施の指導方法・留意点

- ①については、授業、補講、個別学習を実施した。
- ②については、ゼミの授業の中で韓国についての基礎知識を教えた。

3. プロジェクト実施に対する評価・改善点

- ①については 10 年間実施、②についても今年で 5 年目ということで、新規のプロジェクト企画という事ではない。今後についても新規にプロジェクトを立ち上げるつもりはない。

※ページ数の制限はございません。

医療機関の貼り紙適正化プロジェクト

担当 細谷 邦夫

1. プロジェクト概要

本年度から文部科学省に、本学の「持続型職業人 SOZO プロジェクト」（以下 J S S P）が採択され、以下のような取組を実施することとなった。

- ・メンタルタフネスの育成
- ・実践的スキルのブラッシュアップ
- ・ユビキタスキャンパスの始動
- ・大学コミュニティを活用した社会人基礎教育の展開

このうち「実践的スキルのブラッシュアップ」について、細谷セミナーでは I T を活用した医療事務をテーマとしているので、実際の医療機関にお邪魔して、医療機関にも患者さんにも役に立つことが無いかと考え、本プロジェクトを立ち上げるに至った。

医療機関内の貼り紙はたくさんあって見た目にも汚いだけでなく、患者さんに対する情報伝達としての役割も果たせていないという印象があった。

JSSPではA1サイズが印刷できる大判プリンタを購入したので、これを活用して もっと患者さんに見易いような貼り紙にできるのではないかと考え、以下の医療機関の協力を得て、どのようにすればいいかを考えることにした。

2. プロジェクト実施の指導方法・留意点

貼り紙を考察する事前準備として、院内掲示に関する関連法規を勉強し、法的に必須とされる掲示内容について学んだ。

本プロジェクトで学生に学んで欲しい事として医療事務実習だけでは得られない経験をするために、「患者目線」に拘った。そのために、まずは協力医療機関を訪問し、実際の貼り紙がどれだけあるかを確認し、患者さんの立場になったときに本当に見やすいか、本当に必要な情報かを踏まえて、検証することとした。

現地調査の結果、同じような情報、即ち料金に関するもの、医療機器に関するもの、院内でのお願い事項等のグループに分け、担当者が貼り紙のデザインを考えた。

留意した点としては、自分が患者だったらどう思うかを常に意識させ、極力学生自身の頭で考えさせることであった。

情報の分類は学生だけでは難しい部分もあるので、折を見て助言はしたものの、殆どは学生達自身で作成できた。

3. プロジェクト実施に対する評価・改善点

前述のとおり、折を見て助言はしたものの、殆どは学生達自身で作成することが出来た。当初は相当助言をする必要があると考えていたが、言い意味で裏切られ、学生達の底力を感じることができた。

持続型職業人 SOZO プロジェクト
成果報告書（教員）

成果発表においても、当ゼミナーだけでなく、全ての学生が同等と発表する姿に、教員が学生には出来ない、と勝手に思いこむことがどれだけ学生達をスポイルしていか実感した。

来年度への課題としては、自分自身ももっと学生の力を信じるということと、医療機関への実地調査等の時間配分を再考することである。

特別研究セミナーの限られた時間で実施するため、医療機関へのフィードバックが思うようにいかず、医療機関にもご迷惑をかけてしまった。

今年度やり残した部分もあるので、後輩に引き継ぐ形で、継続する予定である。

プロジェクトテーマ

「I ♥ ROZE プロジェクト」

担当 村松 史子

1. プロジェクト概要

東三河の代表的な産業でもある花農家（薔薇園）と連携をして地域の産業の実態を知ることが基本としてプロジェクトを考えた。

薔薇は学生にとっても興味あるものと考えられ、の販売促進の学生コンサルタントを目指し、販売の工夫・利益を得る事の大変さを体感し考えさせる。

その実施内容として

- ①新鮮な薔薇の販売ルートを学び地産地消のシステムを考えさせる。
- ②SOZOブランド商品のマネジメント。（新商品の開発）
- ③バラについての研究を学園祭に発表し、販売をする。
- ④学生の自主性を育てる。
- ⑤売上利益を東日本大震災の復興義援金とし、寄付を行う。

<外部提携先>

- ・「Watanabe Rose Nursery」 渡辺農園 渡辺 真臣 氏
〒441-3602 田原市八王子町道上18 TEL 0531-37-0117
- ・ガーデンガーデン株式会社 坂井 奈津子 氏
〒441-3147 豊橋市大岩町字境目35-8
- ・LACLE FLORISTS 代表 市川 香織 氏
〒440-0896 豊橋市萱町14 八千代ビル1F

2. プロジェクト実施の指導方法・留意点

田原市の薔薇農園とプロジェクトを組む場合の大きな問題として、豊橋・渥美間の距離があった。問題を解決するためにはどうしたら良いかを初回のプロジェクト会議に投げかけたところ、学生たちが「ブログ」での情報交換を提案してきた。

5月下旬にブログの立ち上げをした。その「ブログ」を通して渡辺氏から薔薇の生育状態や現状の咲いている薔薇の写真などが書き込まれた。リアルタイムに情報が交換出来、学生たちにとっても身近に薔薇を感じる事が出来た効果的な方法となった。

また、現実に薔薇園の見学をする事によって、学生たちが薔薇に対する想いを深める結果となり、今後何に取り組めばよいか明確になった。

3. プロジェクト実施に対する評価・改善点

3.1 プロジェクトの評価

このプロジェクトは、学生が自ら発想し、実行することを目的としたことから、指導は、助言程度を心がけた。その結果、学生たち全員が一丸となって計画、立案、実施し、成果発表につなげたことが何よりの成果と考えている。

持続型職業人 SOZO プロジェクト 成果報告書（教員）

さらに「学生同士の信頼感や仲間意識の深まった」「接客が向いてないと思った。薔薇を売る体験を通して、仕事とはどういうものかを知ることが出来た」「協調性もついた」「リボンの縛り方は最初は難しかったが簡単に出来るようになり嬉しかった」などの声が上がり、仕事への興味が沸いてきたことが感じられた。

また、「Watanabe Rose Nursery」渡辺農園の渡辺氏、ガーデンガーデンの坂井氏、LACLE FLORISTS の市川氏等の無欲の協力が得られなければ成り立たなかったと思っている。その結果として、当初の目的、渡辺、坂井両氏の厚意をいただき売上金全額 20,460 円を東日本大震災復興支援として寄付。最終目的を果たすことが出来た。（中日新聞：24 年 1 月 12 日付に掲載）

3.2 プロジェクトの改善点

- ・ 薔薇の販売に貢献すると伝えたが、取組内容を明確に告げられなかったこと。
- ・ 「青い薔薇」の販売のみにとどまり、新たな発想まで進められなかったこと。
- ・ 学園祭には、提携会社の負担が大きかったこと。

などを今後の課題とし、長期のプロジェクトと考えて取り組んでいきたい。

※ページ数の制限はございません。

プロジェクト連携企業・団体一覧

愛知県三河繊維技術センター

飯田市立病院

S. I. plant

NPO 法人 インターネットラーニングアカデミー

(株) エフエム豊橋

小野田内科

小畑耕一公認会計士事務所

蒲郡市民病院

(株) キューソー流通システム 春日井営業所

(株) サイエンスクリエイト

(株) サーラコーポレーション

総合病院三原赤十字病院

(医) 田中会西尾病院

東京医科大学八王子医療センター

鳥取赤十字病院

豊橋観光コンベンション協会

豊橋市教育委員会教育政策課

豊橋市企画部広報広聴課

豊橋市企画部政策企画課

豊橋市産業部産業政策課

豊橋市企画部シティブロモーション推進室

(福) 豊橋市社会福祉協議会

豊橋市総合福祉センター あいトピア

豊橋商工会議所地域振興部地域振興課

豊橋商工会議所青年部炎の祭典委員会

豊橋筆振興協同組合

南部デイサービスセンター

日本ゼネラルフード (株)

東三河障がい者しごとセンター

広島国際大学

ヒロタ(株)

(株) 平松食品

(福) 福寿園 昭和の里

(有) 筆匠 榊原

(株) ブレインシティ

(医) 鳳紀会可知病院

(医) 宝美会総合青山病院

本多電子 (株)

(医) 元町病院

(株) 物語コーポレーション

ヤマサちくわ (株)

(医) 栗山会飯田病院

老人保健施設 明陽苑

(株) ワルツ

愛知県豊橋警察署

(株) イシグローイング

エイティエイト (株)

エイティエイト (株) 春日井工場

NPO 法人 東三河自然観察会

ガーデンガーデン (株)

こども未来館 ここにこ

豊橋祇園祭奉賛会

豊橋市民病院

西田メディカルクリニック

福井脳神経外科

LACLE FLORISTS

リトルバード

ワタナベローズナーセリ

(敬称略順不同)

取組名称『持続型職業人SOZOプロジェクト』

～2年以内の早期離職防止を目指したメンタルタフネスとスキルの育成～

大学生の就業力育成支援事業とは？

この事業は、各大学・短期大学（以下、「大学」という。）において、入学から卒業までの間を通した全学的かつ体系的な指導を行い、学生が次のようなプロセスを繰り返し、その社会的・職業的自立が図られるよう、大学の教育改革の取組を国として支援するものである。

取組概要

「持続型職業人SOZOプロジェクト」は、豊橋創造大学と同短期大学部が共同で推進するメンタル面とスキル面との両方の強さを備えた職業人育成を目的としたプロジェクトです。以下の4つを柱として社会的・職業的自立に繋がる学生の就業力育成を目的としています。

(1)メンタルタフネスの育成

セルフモチベーション講座、リーダーシップ講座、目標設定・目標達成講座などの理論的背景と実技演習を組み合わせ、学生自身の経験知を高める教育プログラムを開発・展開する。

メンタルタフネス合宿講座4回 ヒューマンアセスメント講座

(2)実践的スキルのブラッシュアップ(プロジェクトマネジメント体験)

学生自身が企画・立案・運営する学生プロジェクトを立ち上げる場の提供を行い、そのプロジェクトの運営を通して、学生自ら気付き・学ぶ「創造プロジェクト」を推進する。そのプロジェクト運営を通して「プロジェクトマネジメント体験」やプロジェクト運営に不可欠なウェブ検索サイトや携帯情報端末アプリケーション開発・運用をする。

(3)ユビキタス・キャンパスの始動

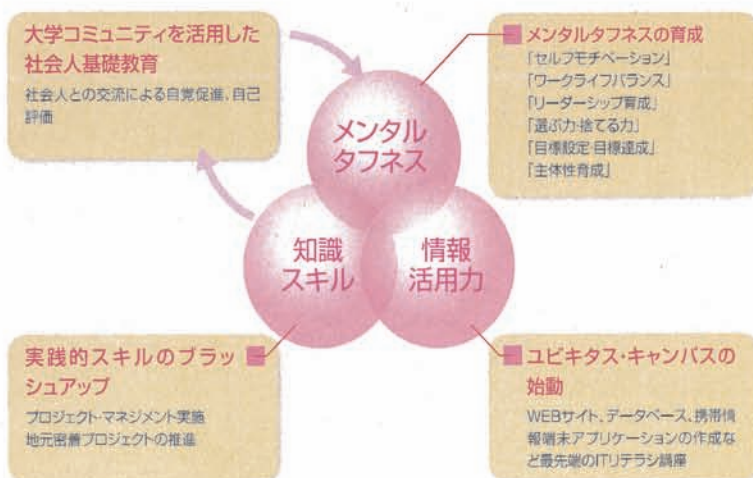
「持続型職業人SOZOプロジェクト」に特化したWEBサイト・データベースの構築・運用や大学と学生をインタラクティブに結ぶためのITリテラシーを体験させる事業を展開する。

携帯情報端末活用

(4)大学コミュニティを活用した社会人基礎教育の展開

これまで輩出した卒業生とのパイプを生かした人的ネットワークを再構築し、その社会活動豊富な卒業生と在学生の交流を推進し、学生の社会人力の養成を行う事業を展開する。

OB・OG・同窓会と連携した求人開拓



GP
就

業

力
GOOD PRACTICE

時代 ひと
に向き合う。 に向き合う。

文部科学省 大学改革推進事業
平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」採択

持続型職業人
SOZOプロジェクト

SOZO 豊橋創造大学
豊橋創造大学短期大学部

- 情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科
- 短期大学部 キャリアプランニング科

持続型職業人SOZOプロジェクト

4つの取組みを柱として 社会的・職業的・自立に繋がる学生の就業力を育てます



ご挨拶



事業推進代表者
学長 伊藤 晴康



事業推進責任者
情報ビジネス学部
学部長 佐藤 勝尚

豊橋創造大学は、藤ノ花園の実践的教育の伝統を現代に活かし、創造性豊かで人間味あふれる次世代社会の担い手を育成すべく、平成8年に設立されました。今般実施される「『持続型職業人』SOZOプロジェクト」は、まさに学園建学の精神を体現した教育プログラムであります。社会に巣立つ一歩前の段階の学生として、自らを鍛え、IT技術を活用しながら地域社会との緊密な連携の上に実社会での問題解決を教育に取り入れる取組は、有効なキャリア教育となることを確信します。この取組を通して、地域の将来を担う、たくましい若者が育つことを期待します。

多くの人が職業選択を考える最初の段階は、10代の終わりころからです。この時期の過ごし方は、将来の就業感に大きな影響を与えます。専門分野での教育がちょうどこの時期になるからです。この時期から、自分なりのビジョンを持つ必要性が圧倒的に高くなります。ビジョンは、21世紀の先の見にくい職業生活において、どちらの方向に進むべきかを決める手助けとなり、また、目標に到達するには何が必要かの手助けとなります。将来を見据え、ビジョンを基にこの時期にしか成しえない現実の行動をとる勇気を持たねばなりません。本学の就業力育成プログラムは、ごく近い将来学生が就業の場面において経験するであろうさまざまなことを疑似的に体験したり、それらに関する知的理解を得させるものであります。このプログラムで多くを学ぶことを期待します。



**取組
名称**

「持続型職業人 SOZOプロジェクト」

【取組概要】「持続型職業人SOZOプロジェクト」は、豊橋創造大学と同短期大学部が共同で推進するメンタル面とスキル面との両方の強さを備えた職業人育成を目的としたプロジェクトです。

●メンタルタフネスの育成

ストレス対応法、セルフモチベーション、メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座、目標設定などの理論的背景と実技演習を組み合わせて学生自身の経験知を高める教育プログラムを開発・展開します。

●実践的スキルのブラッシュアップ【プロジェクトマネジメント体験】

学生自身が企画・立案・運営する「創造プロジェクト」を推進し、プロジェクトマネジメントを通じて学生自らが気づき・学ぶことが出来る場を提供します。また、プロジェクトを円滑に進めるためのプロジェクト管理システムを開発・運用します。

●ユビキタスキャンパスの始動

学生一人ひとりに携帯情報端末を貸与するとともに学内のIT環境を整備し、学生の情報活用能力の向上を目指します。また、携帯情報端末アプリケーションおよび、WEBサイト・データベースを開発・運用し、大学と学生をインタラクティブに結ぶユビキタスキャンパスを実現します。

●大学コミュニティを活用した社会人基礎教育の展開

これまで輩出した卒業生との人的ネットワークを再構築し、社会活動の豊富な卒業生と在学生との交流を推進することで、学生の社会人を養成する事業を展開します。

達成目標・成果等

- | | | | |
|---------------------------------------|----------|----------------------------|----------|
| ① 取組を履修した学生の数 | 学生の90%以上 | ⑥ 卒業後、1年以内の離職率の減少 | 就職者の1割以下 |
| ② 最終学年在籍者のうち、就職希望者数(割合)の増加 | 85%以上 | ⑦ 卒業後、2年以内の離職率の減少 | 就職者の2割以下 |
| ③ 最終学年在籍者のうち、就職希望者のうちの就職者(内定)数(割合)の向上 | 95%以上 | ⑧ 卒業後、3年以内の離職率の減少 | 就職者の3割以下 |
| ④ 当該年度卒業者のうち、就職者(内定)数(割合)の向上 | 75%以上 | ⑨ 卒業生紹介求人数の開拓 | 年50件 |
| ⑤ 最終学年在籍者のうち、就職も進学も希望しない者を減少 | 10%未満 | ⑩ 学生の講座・プロジェクト満足度調査(5.0満点) | 4.5以上 |

メンタルタフネスの育成



メンタルタフネス関連講座の受講を通して、従来の資格取得支援や専門基礎教育といったスキル面だけでなく、自分自身を鼓舞する手法やストレス対処法、自主性、リーダーとして求められるスタンスを兼ね備えた「職業人」の育成を目指します。

実践的スキルのブラッシュアップ(プロジェクトマネジメント体験)



豊橋地域の多くのご協力を受けたなかから進めている「プロジェクト演習」では、学生自らが「企画・運営・進捗管理・報告の作成」といった4段階のプロセスを通して、具体的な目標を設定したテーマの実現に向けた事業運営への理解を深めます。

ユビキタスキャンパスの始動



プロジェクト参加学生全員に1台ずつiPadを貸与し、情報検索・参照を日常的に体験させることによって、ITリテラシーの習得および情報活用力の向上を目指します。これを支援・促進するための学内IT環境(アプリ開発やWEBサイト構築、eラーニングシステム導入等)の充実化を図ります。

大学コミュニティを活用した社会人基礎教育の展開



多くの卒業生を地元へ輩出してきた強みを生かし、卒業生と現役学生の交流を推進します。地元で活躍する先輩の姿から「職業人」として実社会で要求される技量・能力は何かを学生自身が気づく事、就職活動など自己アピールの場での対処法を身につけます。

● 取組みの実施体制について

就業力育成の中心的な役割を担うプロジェクトの運営には、教育スキルが強く求められます。今回の取り組みでは、教員の役割は専門教育を担当するだけでなく、学生の就職を視野に入れた教育と教育スキルが必要であるとの認識を持っています。これには、教員の教育に対する意識改革とともに学生の就業力を高めるための教育スキルの向上は不可欠であると考えています。このためには、これまでのFD活動の仕組みの中に、教員のこのようなスキル向上のプログラムを取り入れる体制の構築を計画化する予定であります。具体的には、これまでの実施している教員間の授業参観・評価に加え、他大学のベストプラクティスの検討・取り入れ、教育科目の内容まで踏み込んだ議論の場の設置、外部企業人や高校の教員による授業内容に対する検討会の導入などを予定しています。

● 評価体制について

取組の評価体制については、「『持続型社会人』SOZOプロジェクト委員会」の中で自己点検・評価を行い、さらにその結果を全学のFD委員会で評価をおこないます。

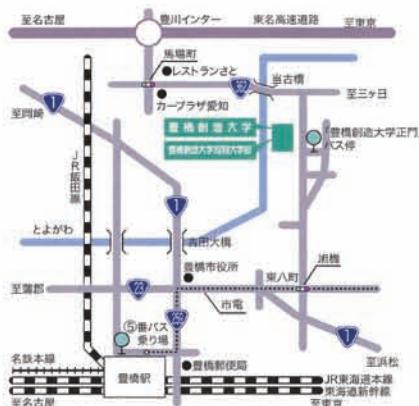
「『持続型社会人』SOZOプロジェクト委員会」の各担当がそれぞれの分野において明確な達成目標を設定し、月1回のミーティング時に進捗状況の共有と共に現状を分析して柔軟に修正・改善を行っていきます。

委員会の決定事項はメールや携帯情報端末等を通じて関係者に迅速に共有されます。取組期間終了後においても評価体制は一定期間これを維持し、5年間の取組に関する総括レポートを委員会が中心に作成する予定です。

取組の成功と失敗を明確にし、本プロジェクトのナレッジとして広く関係者が共有すると共に次回の施策に活かすものとします。



豊橋創造大学 アクセス



[交通案内]

- 豊鉄バス 豊橋駅⑤番乗り場から乗車(所要時間15分)
「豊橋創造大学正門」下車、徒歩1分
(土・休日のみ「創造大東」下車、徒歩1分)
- 豊川インターチェンジより車で約15分

SOZO 豊橋創造大学
豊橋創造大学短期大学部

- 情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科
- 短期大学部 キャリアプランニング科

〒440-8511 愛知県豊橋市牛川町松下20-1 渉外部キャリアセンター
TEL.050-2017-2104(直通) FAX.050-2017-2112(直通)
インターネット [URL] <http://www.sozo.ac.jp/> [E-mail] job@sozo.ac.jp

GP
就

業

力
GOOD PRACTICE

文部科学省 大学改革推進事業
平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」採択

時代に
ひと
に
あ
い
あ
う。

持続型職業人SOZOプロジェクト

成果報告書

〈平成22～23年度〉

SOZO 豊橋創造大学
豊橋創造大学短期大学部

- 情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科
- 短期大学部 キャリアプランニング科



文部科学省 大学改革推進事業
平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」採択

持続型職業人SOZOPROJECT

成果報告書

c o n t e n t

事業概要について

ご挨拶

事業推進代表者 学長P1

事業推進責任者 情報ビジネス学部学部長P1

取り組み状況

メンタルタフネスの育成P2

- 情報ビジネス学部
- 短期大学部 キャリアプランニング科

実践的スキルのブラッシュアップP3

- 情報ビジネス学部
- 短期大学部 キャリアプランニング科

ユビキタスキャンパスの始動P4

- 情報ビジネス学部
- 短期大学部 キャリアプランニング科

大学コミュニティを活用した社会人基礎教育の展開P5

- 情報ビジネス学部
- 短期大学部 キャリアプランニング科





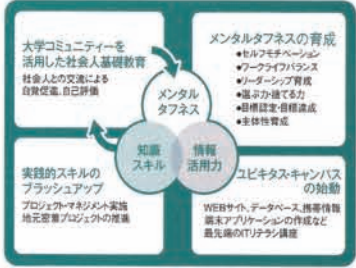
事業概要について

文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に採択されました「持続型職業人SOZOプロジェクト」の成果報告書をお届けします。本学は、平成二十二年度以来、大学改革推進事業補助金（大学生の就業力育成支援事業）を柱に魅力ある大学づくりに取り組んでいます。この事業は、本学と短期大学部が共同で推進している、スキル面とメンタル面の両方の強さを備えた職業人育成を目的としたプロジェクトであります。下記の解決策を通じて、社会的・職業的自立に繋がる学生の就業力育成を目的としています。

豊橋創造大学情報ビジネス学部ならびに短期大学部キャリアプランニング科ではこれまで1学年170名程度の少人数を活かした密度の濃いキャリア教育、スキル育成プログラムによって、職業人として必要な就業力育成を行ってきました。その結果、就職率は90%を超え、フリーター、ニートを出さない大学として定着しつつあります。しかしながら、就業後に目を向けてみると、卒業後数年内に安易な離職をしてしまう卒業生も存在し、その原因はストレス耐性や我慢の欠如などメンタルタフネスの不足に依拠するケースが見受けられました。

そのため、本取組では就業力育成のため、具体的施策を以下の4点を柱としてこれを推進することにしました。

- 1 **メンタルタフネスの育成**: セルフモチベーション、ストレスコントロールなどグループでの実技演習と座学を組み合わせて学生自身の経験知を高める教育プログラムの開発・展開しました。また、学部学生用としてビジネス研究講座を開講することによって学部学生の就業観の育成をおこなっています。
- 2 **実践的スキルのブラッシュアップ** [プロジェクトマネジメント体験]: 学生自身が企画・立案・運営するプロジェクトを立ち上げる場の提供を行い、そのプロジェクトの運営を通して、学生自ら気付き・学ぶ「SOZOプロジェクト」を推進しています。そのプロジェクト運営を通してプロジェクトマネジメント体験やプロジェクト運営に不可欠なウェブ検索サイトや携帯情報端末を活用したITリテラシーを体得させる事業を展開しています。
- 3 **ユビキタス・キャンパスの始動**: 「持続型職業人SOZOプロジェクト」に特化したWEBサイト・データベースの構築・運用。大学と学生をインタラクティブに結ぶために、携帯情報端末を貸与し、専用アプリケーション開発支援や学内IT環境の整備などをおこなっています。
- 4 **大学コミュニティを活用した社会人基礎教育の展開**: これまで多くの卒業生を地元へ輩出した強みを生かし、卒業生の人的ネットワークを再構築するために、社会活動豊富な卒業生と在学部生の交流を推進しています。



本事業の概略図

次ページ以降に本取組の詳細についてご報告いたします。次年度以降も教職員一同、全力をあげて本事業を遂行していく所存ですので、本事業においてますますのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

持続型職業人SOZOプロジェクト委員会

ご挨拶

事業推進代表者



学長 伊藤 晴康

実践的な学びの継続

豊橋創造大学は、藤ノ花学園の実践的教育の伝統を現代に活かし、創造性豊かで人間味あふれる次世代社会の担い手を育成すべく、平成8年に設立されました。今般実施された「「持続型職業人」SOZOプロジェクト」は、まさに学園建学の精神を体現した教育プログラムであります。社会に巣立つ一歩前の段階の学生として、自らを鍛え、IT技術を活用しながら地域社会との緊密な連携の上に実社会での問題解決を教育に取り入れる取組は、多くの実績を残しました。地域の将来担う、たくましい若者の育成のため、本取り組みの成果を本学の教育に活かしてまいります。

事業推進責任者



情報ビジネス学部
学部長 佐藤 勝尚

就業力育成に寄せて

多くの人が職業選択を考える最初の段階は、10代の終わり頃からです。この時期の過ごし方は、将来の就業感に大きな影響を与えます。専門分野での教育がちょうどこの時期になるからです。この時期から、自分なりのビジョンを持つ必要性が圧倒的に高くなります。ビジョンは、21世紀の先の見にくい職業生活において、どちらの方向に進むべきかを定める手助けとなり、また、目標に到達するには何が必要かの手助けとなります。将来を見据え、ビジョンを基にこの時期にしか成し得ない現実の行動をとる勇気を持たねばなりません。本学の就業力育成プログラムにより、学生は就業の場面での疑似体験や知的理解を得たことと思います。この成果を今後の学習活動に活かしていくことを期待します。

●メンタルタフネスの育成

ストレス対応法、セルフモチベーション、メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座、目標設定などの理論的背景と実技演習を組み合わせることで学生自身の経験知を高める教育プログラムを開発・展開します。

情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科

メンタルタフネスグループでは、ストレス耐性や我慢の欠如などメンタルタフネスの不足に対応するため、セルフモチベーション、リーダーシップ、目標設定・目標達成などの理論的背景と実践的演習を組み合わせることで学生自身の経験知を高める教育プログラムであるメンタルタフネス育成講座を開発・展開した。情報ビジネス学部では、2年生3月に「第1回メンタルタフネス育成 ベーシック講座」、3年生の9月に「第2回メンタルタフネス育成 セルフモチベーション講座」、10月「第3回メンタルタフネス育成 メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座(1)」、12月「第4回メンタルタフネス育成 メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座(2)」の計4回の講座を実施した。

実施講座と概要

「第1回メンタルタフネス育成 ベーシック講座」

日時 平成23年3月23日 9:00～17:00 24日 9:30～12:00

場所 豊橋創造大学 A23教室

内容 自己のメンタルタフネス

- ・メンタルタフネスの基礎知識
- ・ストレスとは、自己のストレス状況の把握(ストレス度チェック、ストレッサー、)
- ・ストレス対応のための資源、リラクゼーション法

「第2回メンタルタフネス育成 セルフモチベーション講座」

日時 平成23年9月6日 9:30～16:40

場所 豊橋創造大学 A24教室

内容 セルフモチベーション

- ・モチベーションに関する基本的な知識
- ・モチベーションの代表的な理論(良く知られている考え方)
- ・自分自身のモチベーション「持論」の研究

「第3回メンタルタフネス育成 メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座(1)」

日時 平成23年10月25日 9:30～16:30

場所 豊橋創造大学 A32教室

内容 仕事理解と企業研究

- ・企業研究の必要性と考え方
- ・ボードゲームを用いた企業研究(アパレル業界)
- ・ケーススタディを用いた仕事理解(タイプ別アドバイス)

「第4回メンタルタフネス育成 メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座(2)」

日時 平成23年12月17日 9:30～16:15

場所 豊橋創造大学 A32教室

内容 自己分析と就職活動

- ・就職活動と自己分析の関係を考える
- ・ボードゲームを用いたビジネス研究(携帯電話業界)
- ・ケーススタディを用いた仕事理解(課題解決)

メンタルタフネス育成講座では、自己のメンタルタフネス、セルフモチベーションから始めて、仕事理解と企業研究、自己分析と就職活動に至るまでの内容で実施したが、受講後に実施したアンケートの結果をまとめると、いずれの講座も5点満点中4ポイント前後であり、多くの学生が講座の内容を理解し、メンタルタフネスへの意識付けも出来ていると考えられる。一方で、各講座内で実施したワークについては、自己紹介等の自己開示関連ワークの評価が5点満点中3.4ポイントと比較的低く、ボードゲーム等の相互作用関連ワークについては5点満点中4.3ポイントと評価が高い傾向が見られた。評価の低いワークについては、内容等を改善していく予定である。

メンタルタフネス育成講座は就職活動に向けた各種ガイダンスと関連した部分もあることから、今後は本学キャリアセンターと連携し、年間を通してスケジュール調整を行うことによって、就職活動に対する学生の関心と行動がスムーズにつながることを期待している。



短期大学部 キャリアプランニング科

短期大学の取組として、2年次の直前に「メンタルタフネス育成講座」、秋学期前に「セルフモチベーション講座」を実施した。この講座を行うことにより、ストレスへの対処やモチベーションの自己調整を理解し、積極的に行動することの重要性を知ることとなった。

実施講座と概要

1.「メンタルタフネス育成講座」

日時 平成23年3月23日 9:00～17:00 24日 9:30～12:00

場所 豊橋創造大学 A24教室

内容 「自分のメンタルタフネスを活かせる「場」を見つける」と題して

- ①ストレスとは?
 - ②なぜ、メンタルタフネスが必要か?
 - ③メンタルタフネスを自分のものにするにはどうしたら良いか?
- を内容として2日間の講座とした。

- 目標として
- ①自分の学び方を理解することができる。
 - ②ストレスに興味を持ち、自信を持ってこれからの環境変化に対応することができる。
 - ③あなた自身が日常生活において気軽に実行できるストレス対応法を身につけることを目指し、アンケートによって評価を行うこととした。

活動成果および評価

受講後に実施したアンケートでは「講座に対する満足度」は5点満点中4.0ポイントであった。また、「講座内容は今後の日常生活や就職活動、働いていく上で役立つと思うか」との問いに対しては5点満点中4.1ポイントの評価を得た。今回が初めての試みで過去の実績はないが、多くの学生が講座の内容を理解し、メンタルタフネスの意識が高まったと思われる。

2.「セルフモチベーション講座」

日時 平成23年9月6日 9:30～16:40

場所 豊橋創造大学 A32教室

内容 モチベーションの探求をとらえ

- ①モチベーションとは何か?
 - ②モチベーションに関する基本的な知識
 - ③モチベーションの代表的な理論(良く知られている考え方)
 - ④自分自身のモチベーション「持論」の研究
- を内容として実施した。

- 目標として
- ①自分自身のモチベーションを探求することによって、より自分に適した「環境」や「仕事」が選択できるようにする。
 - ②「モチベーションに対する「持論」を持つことによって、自分自身のモチベーションを「自己調整」できるようにする」とし、アンケートにより評価を行うこととした。

活動成果および評価

受講後に実施したアンケートでは「参加者の講座に対する満足度」は5点満点中3.7ポイントで、前回と比べると0.3ポイントの減少となった。また、「講座を通して、以前よりモチベーション(メンタルタフネス)への興味が高まったか」との問いは、5点満点中3.6ポイント、「モチベーションの「持論」を通して、自分への理解が以前より深まったか」との問いは、5点満点中3.8ポイントであった。

一方、前回と同様の「講座内容は今後の日常生活や就職活動、働いていく上で役立つと思うか」との問いでは5点満点中4.0ポイントであったことから、多くの学生が、「モチベーションへの興味・理解」について、就職活動や日常生活に役立ちそうだと概ね良好な評価をしていると思われる。学生コメントには全体的に好意的なものも多く、メンタルタフネス講座に対する興味や学びへの関心度が伺える内容となった。





●実践的スキルのブラッシュアップ [プロジェクトマネジメント体験]

学生自身が企画・立案・運営する「創造プロジェクト」を推進し、プロジェクトマネジメントを通じて学生自らが気づき・学ぶことが出来る場を提供します。また、プロジェクトを円滑に進めるためのプロジェクト管理システムを開発・運用します。

情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科

情報ビジネス学部では、プロジェクト実践において、学生の就業力育成のための一つの活動として、企業との協働プロジェクトを実施した。プロジェクトに参加し、活動を行うことにより、グループ内でのコミュニケーション能力を高め、役割分担などを行いながら主体的に行動できる能力の育成に努力した。また、プロジェクト活動の中で、協力企業の方々の打ち合わせや意見交換を実際に体験することにより、意見形成力、意見傾聴力、コミュニケーション力など社会人として必要とされる能力(社会人基礎力)についての認識を深めさせるとともにその養成を行った。

プロジェクト実施スケジュール

2011年2月	プロジェクト活動についての学生ガイダンス	2011年8月	プロジェクト中間発表会
2011年4月	キックオフミーティング 1「豊橋の行政について」	2011年12月	プロジェクト成果発表会
	キックオフミーティング 2「豊橋の産業について」	2012年1月	教員によるプロジェクト成果報告書の取りまとめ
2011年5月	プロジェクトテーマ提出	2012年2月	教員による成果報告書に基づく反省会の実施

プロジェクトテーマ一覧

1. 外食産業におけるロジスティクス・システムの研究 (石田プロジェクト)
2. 福祉施設で紙芝居 (今井久プロジェクト)
3. ビジネス系学生のための情報処理資格に向けた電子コンテンツの改善活動 (今井正プロジェクト)
4. 豊橋市内小中学校の太陽光発電システムの稼働状況調査 (見目プロジェクト)
5. 認定試験を受けるための学習環境構築と運営 (五味プロジェクト)
6. 会計事務所の業務内容と組織の仕組みを知る (中野一プロジェクト)
7. 社会的企業の実証研究 (中野聡プロジェクト)
8. 豊橋プロジェクト (花岡プロジェクト)
9. 豊橋自慢企業のトップインタビュープロジェクト (三好プロジェクト)
10. 学食広報プロジェクト by 学食おうえん団 (三輪プロジェクト)
11. 東三河における機械産業 (森田プロジェクト)
12. 炎の祭典支援プロジェクト (山口プロジェクト)
13. 東三河Bible (吉川・片岡プロジェクト)

活動成果および評価

プロジェクト活動では、コミュニケーションの実践的トレーニングを繰り返し行うとともに、事業推進に関する基礎的方法を体得できた。また、協働作業における進行機理解とそのために必要な能力について考察できる機会となった。プロジェクト終了後の学生自己評価アンケートでのプロジェクト推進方法についての設問では、80%以上の学生が肯定意見であり、積極的に関与していたことが伺える。しかし、コミュニケーションスキルに関する設問では肯定評価が50%程度と小さく、コミュニケーション力が課題項目として認識されていることが現れていた。大学における講義では教員や友人と協働する機会が少ない中、本プロジェクトはそのような機会を提供でき、学生が組織で活動するための社会人基礎力の養成に貢献したと評価できる。

今後への課題点

地域の企業・団体の協力を得て進めるプロジェクト活動は、社会人としての疑似的体験ができるという点では学生にとって大きな意味がある。しかし、受け入れ側としてみれば大きな負担となっていることも否めないため、適切なテーマ設定と学生指導のあり方について引き続き検討する必要がある。



短期大学部 キャリアプランニング科

短期大学部では、必修の「特別研究セミナー」のコマを使い、教員の指導のもとに学生自らが企画・立案・運営するプロジェクトを経験する場とし、プロジェクトの運営を通して学生が人間的に成熟することを期待した。

プロジェクト実施スケジュール

2011年4月中	プロジェクトの企画	2011年12月中	学生に対するアンケートの実施
2011年4月12日	キックオフ講演会 1「豊橋を知るー行政についてー」	2011年12月21日	プロジェクト発表会
2011年4月19日	キックオフ講演会 2「豊橋を知るー産業についてー」	2011年12月21日	プロジェクト成果報告書(学生)の提出
2011年4月26日	テーマ決定、プロジェクト実行計画書の提出	2012年1月20日	プロジェクト成果報告書(教員)の提出
2011年7月31日	進捗状況の確認、プロジェクト中間報告書の提出	2012年2月15日	プロジェクト活動の反省会

活動成果および評価

学生が書いた報告書やアンケート結果をみると

- ・プロジェクト活動を通して、自分の行動に対する自覚が高まった。
- ・企業人と交渉することで、社会人としてのコミュニケーション能力が高まった。
- ・協力する大切さがわかった。
- ・グループメンバーの気持ちがひとつになる経験をした。
- ・授業に対して、より高いもの(質)を求めるようになった。
- 等、人間的な成長という点から見るべきものがあった。

また、教員の立場からも

- ・学生達が自発的に動いてくれるようになった。
- ・プロジェクト活動を通じて、一人ひとりの学生をよりよく理解できた。
- ・プロジェクト活動はスキルアップにも役立った。
- ・自信を持って成果を発表する様子を見ていて、成長している様子が伺えた。
- ・成果が上がったという実感がある。
- 等の感想が寄せられた。

プロジェクト活動の中には新聞で取り上げられたものもあり、本学の取り組みを多くの方に知らせる事ができ、広報活動の面からもよかったとの声もあった。

また、プロジェクト活動では携帯情報端末を活用し、ITリテラシーを体得させることを積極的に進めた。携帯情報端末の利用は学生にも好評で、ハンディな携帯情報端末として今まで以上に活用したい。

今後への課題点

今回のプロジェクト活動を通し、教員からは

- ・テーマ選定はほとんど教員が行っているのが実情であり、必修のゼミのコマで対応しているもの、学生によってモチベーションに大きなばらつきがある。
- ・テーマによっては土・日曜日を利用して活動する必要がある、通常の授業のコマを振り替えるだけではなく、時間的制約による活動範囲の限界がある。
- ・プロジェクト活動状況を教員同士が共有し、運営上のノウハウが水平展開できればよかった。
- ・プロジェクト活動は外部組織(協力企業・団体等)との密接な関連が要求されるが、学生に交渉させるのは難しい。

等が問題点として提起され、今後の活動へ活かすこととなった。



●ユビキタスキャンパスの始動

学生一人ひとりに携帯情報端末を貸与するとともに学内のIT環境を整備し、学生の情報活用能力の向上を目指します。また、携帯情報端末アプリケーションおよび、WEBサイト・データベースを開発・運用し、大学と学生をインタラクティブに結ぶユビキタスキャンパスを実現します。

情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科

本グループ事業では、大学と学生をインタラクティブに結ぶユビキタス・キャンパスの実現を目指して、携帯情報端末の配布、学内のIT環境の整備、アプリケーション開発支援、および、『持続型職業人SOZOプロジェクト』に特化したWebサイト・データベースの構築を目的として活動を行った。

- ① 情報ビジネス学部キャリアデザイン学科3年生に携帯情報端末(iPad)を配布し、Web情報検索等で利用させることを通じて、ITリテラシーを習得・向上させる
- ② 携帯情報端末の利用を促進させるため、学内において、いつでもどこでも学生がインターネット等を利用できる環境を整える
- ③ 就業力育成に寄与する電子コンテンツやアプリケーション、また、情報提供の仕組み(Webサイトなど)を開発・構築・運用する
- ④ 携帯情報端末用プロジェクト管理アプリケーションの開発・配布について技術的支援を行い、『実践的スキルのブラッシュアップ』におけるプロジェクト活動での活用を補助する

活動成果

- ① 事前にiPadに各種設定を施したのち、平成23年3月末に学生に対してiPadを配布し、あわせて基本的な利用方法に関する説明会を実施した。
- ② iPadをより利用しやすくするため、学内ネットワークシステムにおける学生の利用状況などの調査を通じて、無線LAN環境の充実化方を検討した。
- ③ 本事業に関する学生向けポータルサイトを開設し、各種マニュアル提示等の情報発信活動を行った。また、就業力育成につながる大学独自のiPadアプリ開発について検討を行った。さらに、平成22年度に導入したe-learningシステム(Hand book)の利用環境整備を行うとともに、同システムで利用できる学習コンテンツの選定・導入を行った。
- ④ プロジェクト管理アプリケーションについて、ポータルサイトを通じた学内向け配布環境を整備するとともに、アプリの不具合報告や改善要望等を集約し、開発業者とともに不具合修正・新規機能追加などの活動に取り組んだ。

評価方法と評価

二つの方法により、本グループ事業の成果を評価した。

- ① iPad貸与に対する利用状況アンケートの実施
- ② 学内無線LANシステムの利用実績の整理と集計

アンケート結果より

・週4日以上iPadを使用した学生は21名/48名(43.8%)となり、ほぼ日常的に使用した学生は4割超であった。
 ・『やや満足』『満足』と回答した学生は39名(81.3%)となり、8割以上の学生がiPadを使用する活動に満足感を得ていることが確認された。
 この結果より、iPadの貸与を通じて学生がIT機器に触れる機会が増大し、かつ大部分の学生が満足したことが明らかとなり、一定の効果があつたといえる。

利用実績(記録)の整理と集計より

・平成22年度の学内無線LANシステム利用は個人でノートパソコンを持つ学生に限られ、日あたり最大2~3ユーザ(全学)であった。
 ・平成23年度については、日あたり最大93ユーザ(うち情報ビジネス学部については49)となっており、前年度から大きく増加していた。
 等の状況から、本事業のiPad貸与を通じて、多くの学生に無線LAN(ネットワーク利用)を経験させることができ、事業目的であるITリテラシー習得の一助になったものと評価できる。

今後の課題点

- ・支援体制の充実化やiPad利用機会を増やす仕掛けづくり等、iPadの利用頻度を高める方策を検討する。
- ・学生の基礎学力の向上のため、e-learningシステムの一層の活用を進める。
- ・学生のITスキル向上には、指導する側である教職員のIT活用スキルが不可欠であるため、学生とともに教職員に対する支援体制も強化する。
- ・大学と学生をインタラクティブに結ぶ仕組みを構築し、インタラクティブ性を重視したアプリケーション・システムの準備を検討する。

本グループ事業関連サイト

・ポータルサイト <http://project.sozo.ac.jp/>



短期大学部 キャリアプランニング科

短期大学部では、大学と学生をインタラクティブに結ぶユビキタスキャンパスの実現を目指し、情報ビジネス学部キャリアデザイン学科と合同で、学内のIT環境を整備するとともに、アプリケーション支援や本事業に特化したWebサイト等の構築を行った。

また、学生個々に配布された携帯情報端末を活用し、プロジェクトを円滑に進めるための『プロジェクト管理アプリケーション』を有効利用し、学生間での情報交換を活発にするよう取り組んだ。

活動成果と評価

本グループにて事前にiPadの各種設定を行った後、平成23年3月末日に各学生へ配布するとともに、基本的な利用方法等の説明会を行った。また、情報ビジネス学部キャリアデザイン学科とともに、就業力育成に繋がる本学独自のiPadアプリケーション開発についての検討を行った。

情報ビジネス学部と合同で行ったアンケートの回答結果から、週に2日~3日という学生も含めると半数強がiPadを利用している。短大の2年生であり、授業数が少ない学生も居ることを考え合わせると高頻度での利用がうかがえる。また利用場面において、プロジェクトでの利用率が低いことは、教員の活用方法にも問題があると考えられ、次年度に向けて検討が必要である。各プロジェクトにおいて当初は活用されていたが、いつも顔を合わせているメンバーということもあり、ゼミによっては次第に利用状況が下がり、ファイル共有程度の利用だけになっていたことは否めない。しかしながら、客観的に進捗状況を把握するためにも、アプリの活用は必須であると考えられる。

当初の見込みと違い、就職活動で活用されていたことは嬉しい誤算であったかもしれないが、その結果、就職に結びついたかどうかは集計していない。また、自宅での利用率に比べ、学外での利用率の低さは、iPadを学外で使用するための設定が短大生にとって少々ハードルが高かったことがうかがえる。その反面、IT機器に興味を持ったとの結果もあり、初年度としてはまずまずの結果ではないだろうか。

今後の課題点

当初、個人的に予定していたHand bookの活用が中途半端に終わってしまったため、次年度は医療秘書検定対策問題集などの構築を進めていきたい。

教員からはせっかくのアプリであるので、他のプロジェクトの状況が共有できると更に活用が進むのではないかと意見があった。

iPad自体は学生にも概ね好評であり、高校での進路相談会でも興味を持つ生徒がいた。学生たちが使いこなせるかという心配は杞憂であったので、活用方法を学生に考えさせることも踏まえ、更なる活用方を検討したい。





●大学コミュニティを活用した社会人基礎教育の展開

これまで輩出した卒業生との人的ネットワークを再構築し、社会活動の豊富な卒業生と在学生との交流を推進することで、学生の社会人を養成する事業を展開します。

情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科

卒業生との大学コミュニティを活用した社会人基礎教育の展開については、これまで輩出した卒業生とのパイプを活かして人的ネットワークを再構築し、その社会活動豊富な卒業生と在学生との交流を推進し、学生の社会人力の養成を行う事業を展開することを目的として活動に取り組んだ。

学部では、卒業生と在学生の交流を推進する関係構築の足掛かりとして、平成23年度豊橋創造大学同窓会総会の会場を利用し、教職員と卒業生の『卒業生業界別交流会』を行い、就労状況に対するアンケート・ヒアリング等の情報収集を行った。

◆実施行事と概要

「卒業生業界別交流会」

日時 平成23年9月24日(土) 18:50~20:00 (同窓会総会後)

会場 ホテルアークリッシュ豊橋

参加者 ●卒業生 60名 ●教職員 21名 ●JSSPスタッフ 5名

設置した業界別交流グループ一覧

・金融保険 ・製造業 ・卸小売1 ・情報通信1 ・医療理学
 ・建設業 ・サービス ・卸小売2 ・情報通信2 ・その他

内容 業界ごとに分かれ、勤務状況や後輩に期待すること等、教員を囲んで和やかな雰囲気での懇談会を行った。

大学ホームページに様子を掲載

・<http://www.sozo.ac.jp/campus-news/2011/110924.php>

◆活動成果と評価

それぞれの交流会で業界・就職先の特徴・現状が把握でき、この内容は就職ガイダンスを通じて現役学生の就職指導に活かしていくことができるものとなった。

また、本学が実施するキャリア形成の授業講演・就職ガイダンスでの業界研究指導・就職合宿、就職激励会等で、在学生の指導を行う有望なOB人材の発掘を行うことができた。

◆今後への課題点

卒業生業界別交流会は今回、同窓会総会終了後に行った。本来、同窓会総会の目的と本学の就業育成支援事業の目的はそれぞれ異なっており、開催にあたって同窓会役員から不安の声があった。相手の立場を如何に理解して、調整、融合、協力し、相乗効果上げていくかが大きな課題であるが、開催方法について今後検討を続けることになった。

卒業生との大学コミュニティを活用した社会人基礎教育の展開については、これらの交流会開催だけが目標ではなく、卒業後の早期離職を防ぐことも重要な目的である。多くの卒業生を地元へ輩出してきた強みを生かし、社会活動が豊富な卒業生との交流ができる仕組み作りを進めたい。



短期大学部 キャリアプランニング科

短期大学部では、卒業生と在学生の交流を推進する関係構築の足掛かりとして、豊橋創造大学短期大学部同窓会第27回総会終了後に、キャリアプランニング科在学生と短期大学部卒業生を対象とした『在学生&卒業生交流会』を開催した。

これまで、在学生と卒業生が直接話をする機会はほとんどなく、卒業生から披露された就職活動の体験談や職場での苦労話は、在学生にとって大変貴重なものとなった。

◆実施行事と概要

「在学生&卒業生交流会」

日時 平成23年10月23日(日) 13:00~

会場 豊橋創造大学 A32教室

参加者 ●在学生 11名 ●卒業生 12名

内容 ①在学生によるJSSPプロジェクトの中間発表
 細谷ゼミ・千賀&中島ゼミ
 晴食ゼミ・村松ゼミ・抄録・ポスター発表のみ
 ②卒業生から在学生へのメッセージ

大学ホームページに様子を掲載

・<http://www.sozo.ac.jp/campus-news/2011/111023.php>



◆活動成果と評価

在学生&卒業生交流会は、在学生と卒業生の活発な意見交換ができたことにより、在学生には大きな刺激となった。特に就職活動で苦労した体験談は学生だけでなく、教職員にとっても就職ガイダンス等での就職指導に活かしていくことが可能なものが多く大変有意義であった。

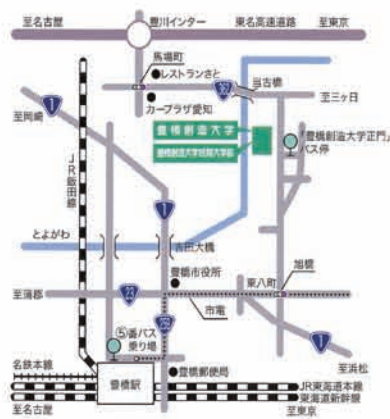
また、本学が実施するキャリア形成の授業講演・就職ガイダンスでの業界研究指導・就職合宿、就職激励会等で、在学生の指導を行う有望なOB人材の発掘を行うことができた。

◆今後への課題点

在学生&卒業生交流会は、実施したこと自体は有意義であったと言える。参加人数が少なかったことは今後の課題であるが、今回のように小規模での実施の方が活発な意見交換がなされると考えられる。

卒業生との大学コミュニティを活用した社会人基礎教育の展開については、これらの交流会開催だけが目標ではない。これまで多くの卒業生を地元へ輩出してきた本学の強みを生かし、社会活動が豊富な卒業生との交流ができる仕組み作りを進め、卒業後の早期離職を防ぐことに繋げていきたい。

A C C E S S



[交通案内]

- 豊鉄バス 豊橋駅⑤番乗り場から乗車(所要時間15分)
「豊橋創造大学正門」下車、徒歩1分
(土・休日のみ「創造大東」下車、徒歩1分)
- 豊川インターチェンジより車で約15分

SOZO 豊橋創造大学
豊橋創造大学短期大学部

● 情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科
● 短期大学部 キャリアプランニング科

〒440-8511 愛知県豊橋市牛川町松下20-1 渉外部キャリアセンター
TEL.050-2017-2104(直通) FAX.050-2017-2112(直通)
インターネット [URL] <http://www.sozo.ac.jp/> [E-mail] job@sozo.ac.jp

プロジェクト活動報告



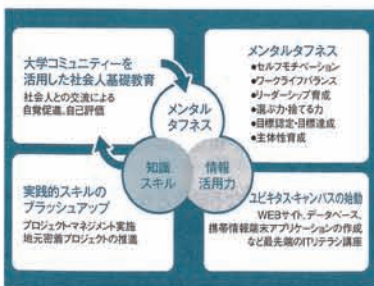
就業力育成とプロジェクト体験

持続型職業SOZOプロジェクト
事業推進責任者 佐藤勝尚

本学は、平成二十二年度以来、文部科学省にて採択された大学改革推進事業補助金（大学生の就業力育成支援事業）をはしらに魅力ある大学づくりに取り組んでいる。

この取組は、メンタル面とスキル面の両方の強さを備えた職業人育成を目的としたプロジェクトである。豊橋創造大学情報ビジネス学部ならびに短期大学部キャリアプランニング科ではこれまで1学年170名程度の少人数を活かした密度の濃いキャリア教育、スキル育成プログラムによって、職業人として必要な就業力育成を行ってきた。その結果、就職率は90%を超え、フリーター、ニートを出さない大学として定着しつつある。しかし、就業後に目を向けてみると、卒業後数年内に安易な離職をしてしまう卒業生も存在し、その原因はストレス耐性や我慢の欠如などメンタルタフネスの不足に依拠するケースが見受けられる。

そのため、本取組では就業力育成のため、具体的施策を以下の4点を柱としてこれを推進する



本事業の概略図

1)メンタルタフネスの育成

セルフモチベーション、ストレスコントロール、目標設定などグループでの実技演習と座学を組み合わせて学生自身の経験値を高める教育プログラムの開発・展開する。

2)実践的スキルのブラッシュアップ

学生自身が企画・立案・運営するプロジェクトを立ち上げる場の提供を行い、そのプロジェクトの運営を通して、学生自ら気付き・学ぶ「創造プロジェクト」を推進する。そのプロジェクト運営を通してプロジェクトマネジメント体験やプロジェクト運営に不可欠なウェブ検索サイトや携帯情報端末を活用したITリテラシーを体得させる事業を展開する。

3)上記2点を実現するためのユビキタス・キャンパスの始動

「持続型職業人SOZOプロジェクト」に特化したWEBサイト・データベースの構築・運用。大学と学生をインタラクティブに結ぶための携帯情報端末アプリケーションの開発・運用。

4)大学コミュニティーを活用した社会人基礎教育の展開

これまで多くの卒業生を地元へ輩出した強みを生かし、卒業生の人的ネットワークを再構築し、その社会活動豊富な卒業生と在学部生の交流を推進し、学生の社会人力の養成を行う事業を展開する。

本事業のうち、『実践的スキルのブラッシュアップ(プロジェクトマネジメントの実践)』では、就業力の「知識・スキル」を育成するとともに地元団体・地元企業との共同企画など組織的活動を実体験できる場を提供した。

「プロジェクトマネジメントの実践」は、情報ビジネス学部キャリアデザイン学科と短期大学部キャリアプランニング学科の学生をグルーピングし、自らが企画するプロジェクトを管理・運営させることによってプロジェクトマネジメント能力を育成することを目的とした。具体的には、携帯情報端末のアプリケーションを各プロジェクトが活用しながら、実際のプロジェクト運営を体験させ、その中でリスク管理、費用計算、資源の配分、チーム

におけるコミュニケーションの在り方など、職業人として必要な実務的スキルを身に付けていく。これは情報ビジネス学部という強みと携帯情報端末を利用したユビキタス・キャンパスの始動という本学ならではの取組と言える。特に地元団体・地元企業との共同企画などを通して地元密着プロジェクトの企画・運営を中心に進める。

携帯情報端末を利用した最先端のプロジェクト管理アプリでは、検索エンジンや携帯情報端末の機能を利用したスケジュール管理、ドキュメント管理、タスク管理、情報共有、メール管理などのITリテラシーを総合的に学ぶことを目的とする。対象者には携帯情報端末を配布することでその場でアカウントの設定や操作方法を直に学び、実践的スキルを身につける。特に、近年の就職活動においてはスマートフォンや各種ITツールの活用が会社説明会の予約可否などに直接結びついており、ITリテラシーの向上なくして就職活動の成功は困難である。また、就職活動に限らず、スケジュール管理やドキュメント管理、メール管理等は現代の職業人として最低限必要となる資質能力である。このような最新のデバイスを配布・活用した教育例は非常に少なく、大学の教育改革のフラグシップ的な役割を果たす。

今回のプロジェクト活動報告書では、本事業のうち平成23年度に『実践的スキルのブラッシュアップ(プロジェクトマネジメントの実践)』にて実施した、学部・短大それぞれのプロジェクト活動の内容について報告する。

最後に、この事業にご理解・ご協力いただいた地元団体企業各位をはじめ、関係各位に御礼を申し上げます。



GP 就

業

力

GOOD PRACTICE

情報ビジネス学部 プロジェクト活動



豊橋市内小中学校の太陽光発電システム稼働状況調査

4

担当：見目 喜重

エネルギー・環境問題、脱原子力への対応策として、クリーンで無尽蔵であり、かつ家庭など生活に身近な場所への設置が容易な太陽光発電の本格的な普及が望まれている。一方で、太陽光発電は設置方法により発電量が大きく異なり、またシステムの故障など長期信頼性に関する問題点も指摘されている。そのために、発電に関するデータの長期収集・分析が重要である。

本プロジェクトでは、平成21年度末までに豊橋市内全小中学校74校に太陽光発電システムが設置されたことから、太陽光発電の長期信頼性に関する基礎的なデータの収集・分析、生徒/児童のエネルギー・環境問題への意識を高める環境教育コンテンツの開発を目的に、市内小中学校のシステムの稼働状況および環境教育への取り組みに関する訪問調査を行った。

調査に当たっては、学生が事前に小中学校の担当者で日程調整を行った。その後の訪問時に、システムの設置場所、障害物の有無、発電量など稼働状況を確認するとともに、運転トラブルならびに環境教育への活用状況などの聞き取りを行った。

今年度の訪問調査の結果、太陽光発電の設置場所・方法は様々な制約から小中学校により大きく異なり、いくつかの小中学校では障害物の発電量への影響の詳細な調査が必要であること、この1年間はシステムのトラブルがほとんど生じていなかったこと、また環境教育へ太陽光発電システムを活用する際の課題などを確認することができた。



「外食産業におけるロジスティクス・システムの研究」 —(株)物語コーポレーションを事例に—

担当：石田 宏之

本プロジェクトの目的は、一つ目が、株式会社物語コーポレーション(以下『物語』と略す)を事例として、食材の仕入れから各店舗へ食材が供給(納品)されるまでの『情報の流れ』と『ものの流れ』の実態を調査することにより、ロジスティクス・システムが『物語(企業)』に対して果している役割と機能を分析することである。二つ目が、プロジェクト活動を通し、①メモの取り方・要約の仕方、②テーマの進め方、③分析力・理解力、④問題発見能力(本プロジェクトでは、これらを就業力基礎能力とする)を習得するとともに、協力企業との交渉、ヒアリング調査、施設見学を通して、①挨拶・応答態度、②コミュニケーション能力、③リーダーシップ、④報告・連絡・相談(本プロジェクトでは、これらを社会人基礎能力とする)を養うことである。

調査対象企業は、『物語』(本社購買部、店舗、麺工場)、ロジスティクスの機能を委託しているワルツ株式会社および株式会社キューソー流通システムの春日井流通センター(以下KRSと略す)である。

調査した内容は、物語コーポレーションのロジスティクス・システムの現状として、①顧客サービス、②店舗発注から納品までの「情報の流れ」、③KRSから各店舗納品までの「モノの流れ」、④春日井流通センターの役割を実施調査(3ヶ所を計7回)し、そのまとめとして『物語』におけるロジスティクス・システムの役割と機能を①顧客サービス水準が果たす役割、②在庫管理の効果、③各機能のコスト削減効果、④就業力達成度、⑤問題点と今後の課題にまとめた。



会計事務所の業務内容と 組織の仕組みを知る

5

担当：中野 一豊

私のプロジェクト活動では、豊橋市にある公認会計士事務所を訪問し、学生に業務内容や組織のあり方を質問させ理解させることにあった。その結果、所長氏から会計監査、税理士といった主たる業務の他に、ソフトウェアの販売とその初期指導、生命保険の指導業務等、幅広く活動している実態が分かった。また、会計事務所運営では、各担当者に関与先の会計業務を任せ、最終的に所長代理がチェックするといった組織化がなされていた。苦労話として、地方ならではの魅力ある事務所造り(駐車場、緑の癒し、客に対応しやすい応接など)を信念としており、円満な相続対策を心掛けている実話も伺った。

事務所訪問の前に、本プロジェクト活動は学生の主体性に重きを置くため、実践面で会計処理の技法を習得させた。会計事務所で行っているような取引例を想定し、弥生会計ソフトを用いて入力させた。総勘定元帳、補助元帳、現金出納帳、預金出納帳、決算書の作成を出力させてみた。

同じ取引例なのに、全員が異なる結果となった。いかに、データ入力時に緊張感が欠如しているかを学生に諭し、社会における仕事としては落第であることを知らしめた。さらに、金融機関や会計事務所、一般企業の事務職への就職には、最低限の簿記や会計の基礎知識が必要であることを認識させた。そのため、後半は日商簿記検定試験対策に取り組んだ。4名中、2名が受験(3級)し、1名合格、1名はぎりぎりで見事!

受験対策と同じで、集中力を高める訓練を継続すれば、就業力支援にも繋がるであろう。



福祉施設の現状と紙芝居ボランティア

2

担当：今井 久登

私たちのプロジェクトでは、ボランティア活動を通して福祉施設の現状を理解すること、入所者の方と触れ合うことを目的として、福祉施設に訪問してボランティア活動を行った。そして介護福祉の仕事および福祉施設が今必要としていること等、医療福祉分野への視野を広げることにした。

前期は紙芝居ボランティアを活動の中心とし、訪問施設の選定・訪問交渉、紙芝居上演を一つの流れとした。施設との交渉は主に電話で行い、電話対応のマナーや交渉内容のメモ取り等、実社会で役立つ能力の開発に努めた。また、こちらの意図が先方へ上手く伝わらず断られることが幾度もあり、メンタル面の強化にも繋がった。

後期の活動に入る前には前期の反省を行い、プロジェクトメンバー全員が訪問先施設の入所者の方や職員の表情から、活動に対する達成感・満足感を得ていない事が判明した。そこで後期は紙芝居上演をメインとするのではなく、入所者の方との共同作業を中心としたボランティア活動をメインとすることにした。これは先方に大変喜ばれ、言葉だけでなく気持ちも伝わるコミュニケーションがいかに大切であるかを体験することができ、私たちが皆さんの表情から大きな満足感を得ることができた。

今回の活動はテーマ選定から活動の反省・改善まで、一貫してプロジェクトメンバーの自発的な取り組みで運営できたことにより、それぞれの大きな自信につながった。



ビジネス系学生のための情報処理資格に向けた電子コンテンツの改善活動

3

担当：今井 正文

本プロジェクトでは、ビジネス系学生のための情報処理資格であるCompTIA Strataの電子コンテンツの改善活動に参加した。プロジェクト活動を通して、情報系の学習方法を習得するとともにそれを支えるコンテンツ事業の実際を体験することを目的とした。具体的には、ILA によって Web および iPad 用として公開される予定である電子コンテンツの開発活動に参加し、コンテンツのテストおよび報告と改善を繰り返し、併せて独自の小テストシステム開発も行った。

プロジェクト活動では、中間発表および成果発表等のおおまかなスケジュール伝達と必要機材等の技術的な質問以外は出来る限り学生に任せ、特段の指導を行わなかった。プロジェクト進行等も含めて学生に任せため、最初は、作業分担から個別作業、チーム作業のスケジュールまで全ての段階で遅延等があった。

最終的にはチーム作業が出来ていた点については評価でき、また、独自の小テストシステムの開発にあたったチームでは、技術的にも相応の学習効果もあった。余談ではあるが、関連するメンタルタフネス講座のボードゲーム用計算プログラムページ等を自主的に作成した事も評価している。

一方、新しい発想やアイデアについて、学生たちにもう少し議論する場を設定すれば、より良い活動になったのではないかと反省している。成果物としての電子コンテンツの対外的評価については、本来の開発担当者からも学生の活動に対して一定の評価を頂いているようである。



社会的企業の実証研究

6

担当：中野 聡

社会的企業は、企業家的戦略に基づく私的活動だが、利益の最大化ではなく経済的・社会的目標の達成を目的に据える。

その活動は、ネオリベラル（新自由主義的）構造改革（例えば小泉政権）が、小さい政府と福祉国家の危機をもたらしたことも背景に注目を集めてきた。営利企業は、全ての社会的に必要な製品やサービスを、適切な価格で供給しきれないからである（市場の失敗）。

このプロジェクトでは、東三河地域における社会的企業から、2活動を取り上げ、その社会性や事業性、革新性を考察した。主目的は、学生が、社会科学の実証研究の方法を学ぶことにある。

サーラコーポレーションと関連企業の社会貢献事業から、メンバーは廃油のバイオディーゼル燃料（Bio Diesel Fuel, BDF）への再生リサイクルを選択した。この事業は、1997年の京都議定書に起源をもつが、ここでは、“カーボン・ニュートラル”なく（二酸化炭素を増やさない）燃料の開発が、今事業年度での黒字化を目標に、行政に先行する形で行われている。

東三河障がい者仕事センター（WACNET）は、“ニューヨーク・ファウンテンハウス”をモデルに、発達・精神障害者の自立・就業支援を行っている。誰でも来ることができる、誰からも必要とされる人間関係を築くことができるなどをモットーに、働く意志を尊重した多様な自立支援プログラムを提供している。

ここには、地域の未来を切り開く活動がある。今後は「社会的企業の比較研究」をプロジェクトテーマとして継続する予定である。



豊橋筆プロジェクト

7

担当：花岡 幹明

本プロジェクトは『豊橋筆プロジェクト』と銘打ち、豊橋の伝統工芸である豊橋筆の幅広い普及と地域の活性化に向けた展開として、大学生によるアイデアの創出と商品企画およびPR活動を実践することを目的とした。

主たる活動は、(有)筆匠榊原の北村氏の指導のもとで筆商品づくりを学び、新商品の企画販売に至る全行程を学生のみで実践していくこと、並びに豊橋筆の普及・PR活動として豊橋三大学チャレンジショップや本学チャレンジショップの活動を通じて、同世代の学生達と協働し、企画を実践していくことである。内容としては、①工房でのミニ筆ストラップの製造、商品パッケージに使用する画像使用許可申請、学園祭・チャレンジショップでの販売といった商品企画・販売に関すること、②豊橋筆のPR活動としてのイベント開催およびHPでの情報発信の二点である。

プロジェクトの実践にあたり学生の希望や適性にあった役割を明確に与えたことで、責任感がモチベーションに繋がり、それぞれの活動成果に結びついた。学生からは『細かな点も妥協せず、使用する人のことを考えるモノづくりが大切』、『連絡の大切さ、様々な人と協力することの重要性を学んだ』、『企画趣旨や目的を明確に伝え、人とのつながり・人脈作りをすることが重要』などの感想が寄せられた。

また、東三河ビジネスプランコンテスト一般アイデア部門での最終審査発表という当初の目標を超えた成果は、学外協力者との連携によるところが大きく、学生の対外活動の成果として評価したい。



豊橋トップインタビュープロジェクト

8

担当：三好 哲也

「豊橋トップインタビュープロジェクト」では、三河地区で有名な企業に訪問し、企業経営の哲学や視座を聞き取り調査し、WEBページで公開することを活動目的とした。聞き取り調査では、豊橋市もしくは三河地区を活性化するための方策やアイデアについての意見も取りまとめ、シティプロモーションの一助になる活動とすることも課題として取り組んだ。平成23年度には、株式会社平松食品、エフエム豊橋株式会社、サイエンスクリエイト株式会社、ヤマサちくわ株式会社、本多電子株式会社の5社を訪問し、インタビューを行った。特に後半の3社については、訪問依頼状の作成から訪問予約、インタビューの活動などの準備から実行まで全てを学生が主体的に運営した。また、インタビュー後、報告書の作成、WEBページの編集、編集原稿の校閲依頼もミーティングに基づき、作業計画と作業分担を決定し、プロジェクト運営管理が適切になされていた。

トップインタビューでは、それぞれの企業の成り立ちや強み、企業経営についての考え方や将来構想を、学生にわかりやすく説明いただいた。学生にとっても実践的な企業経営を体感できる有意義な機会となった。インタビューをするため関連知識を事前学習することによって、インタビュー内容を把握でき、その結果、コミュニケーションがとりやすくなることを理解したようである。

本プロジェクト活動は、学習の重要性に気づくことができる活動になったと評価している。なお、活動報告書は、2月下旬に、下記アドレスで公開予定である。

<http://projectweb.sozo.ac.jp/miyoproj/>



学食広報プロジェクト by学食おうえん団

9

担当：三輪 多恵子

本プロジェクトでは『情報発信のための一連の活動』を体験することで、“受信者を意識したコンテンツ制作についての理解を深める”と共に、“Webサイトや紙面等を用いた広報活動のための様々な知識・技術を修得する”ことを目的とした。連携先として大学内にある2箇所の学食(キッチン SOZO, カフェテリア：日本ゼネラルフーズ株式会社)にご協力を頂いた。

主な活動として、Webによる情報発信(PC用/モバイル用サイトの運営)、印刷物の作成(ポスター、卓上チラシ)を行った。活動を通して、PC/モバイル用 Web サイトの使われ方の違い、媒体による情報の伝わり方の違い等を学生自身が考え、アイデアを実践する機会を設けられたことは、講義では得られない貴重な経験になったようだ。また Web サイトは毎週、ポスターや卓上チラシは毎月の更新を目標として取り組んだ。学食スタッフの方への定期的な連絡やインタビューなど、学生同士で連携しながら目標を達成したことは、学生の自信に繋がったと思われる。

さらに、プロジェクト活動の一環として広告業界に就職した本学OBと面談する機会を設けたことで、制作物や活動内容についてのコメントや様々なアドバイスを頂くと共に、近年の広告業界の動向などについても興味深いお話を伺うことができた。本プロジェクトの内容は、広報や宣伝、企画、デザインといった職種に関連するものであり、これらの分野に興味を持っている学生にとっては、非常に有意義な経験になったと考えている。



東三河 Bible

12

担当：吉川 優

我々のプロジェクトでは、地域貢献の一環として東三河のグルメ・温泉・観光・祭りについて個々に調べた情報をHPページにまとめ、蒲郡クラフトフェアへの出展と地元紹介ページとして公開することを目指し、コミュニケーション能力の向上を目的としてプロジェクトに取り組んだ。また、プロジェクト活動は学生の主体性や協調性を醸成するためのものとの観点から、参加メンバーの自発的な行動を主体とすることに留意した。

主な活動内容は、東三河の観光名所や魅力についての情報を調べ、実際に現地に足を運び自ら体験すること、完成度の高いHPを作成する方法を常に考えながらお互いの作業を確認しあうこと、HP作成請負企業を訪問見学し、担当者に話を伺うこと等である。

訪問先で伺った「HP作成は制作側だけの作業でなく、“依頼者の注文に従って作成し、完成したものを見せ、再度注文を受ける”を繰り返す、よりよいものを作成していく」との話は、メンバーにとって非常に刺激となるものであった。企業訪問後はメンバー間の会話も増え、積極的に相談しあう姿が見られるようになった。メンバー同士がコミュニケーションを取ることでチームワークが高まり、作業が効率よく進むことを実感したようだ。

後半はアクシデントが重なったことで作業に大幅な遅れが出たが、目標の一つであった蒲郡クラフトフェアへの出展には至らなかったが、終盤になって一つの形として落ち着き、一丸となって作業を進めることができた。



認定試験に受かるための学習環境と運営

13

担当：五味 悠一郎

学内外を対象として、診療情報管理士認定試験対策講座(以下、対策講座)の企画運営を行なった。また、卒業生訪問を行ない、就職活動に役立つ知識の修得や就職先などの開拓も行なった。

本プロジェクトに参加した学生は2名と少なく、負担が大きかったようであるが、プロジェクトの終盤では期待以上の働きをしてもらえるようになった。学生のプロジェクト自己評価アンケートを見ても、自分自身の成長を実感しているようである。初めての取組みということもあり、学外との連絡を教員が仲介する場面も一部あったが、次年度以降は学外との連絡も学生に任せてみたい。

対策講座の学外参加者は20名程度と、大学の知名度を向上させ、地域貢献することもできた。一般的に、大学が教育目的で実施するプロジェクトは連携団体の負担が大きく、WIN-WINの関係をつくれにくいことが多いが、本プロジェクトにおいてはWIN-WINの関係が構築できたと評価できる。関東地方や中国四国地方からも参加者を集めることができたのは、大きな収穫であった。客観的にも良い取組みだと証明されたので、次年度以降も継続していきたい。

卒業生訪問は一件しか出来なかった。卒業生訪問が大学経由で行われたことがなく、卒業生訪問を行う手続きを作るのに時間がかかったためと、医療系に就職した卒業生が少なく、訪問先選定が困難であったためである。次年度以降は卒業生も増えるので、今年度作成した卒業訪問の手続きを活用することで、より多くの訪問が出来ることを期待している。



東三河における繊維産業

10

担当：森田 和正

森田ゼミでは愛知県の伝統産業である繊維産業に着目し、繊維産業を事例とした就業研究をテーマとしてプロジェクト活動を行った。

中部地方の繊維産業は主要産業であるにもかかわらず、ASEAN諸国や中国との国際競争によって困難な状況にある。一方、そこで培われた技術や技能、経営手法は、他の産業に共通するものがある。そこで、繊維産業を例として産業構造を知り、社会的分業のありようを研究することにより、多様な産業分野への就業研究に役立てることを目的とした。

前期には繊維製品の川上である産業用繊維資材についての知識を深めるために、三河繊維技術センターを訪問し、衣類用繊維の原料調査の様子や繊維の強度実験を見学した。そして、海外からの低価格の輸入品が多く出回っているにもかかわらず、地域の繁栄している業種に絞って、消費者の意見を取り入れたニーズに応える商品を作ることで輸入品に対抗できることを知った。

後期には繊維産業の川下である製品企画・流通（卸売・小売）部門のアパレルメーカーを見学した。服のデザインから販売までには長い時間がかかり、基本的には1年前から次の流行を予測してデザインを考案するとの事だった。天気予報士の一言で製品の売れ行きが大きく左右されることもあり、情報分析も大変重要であることが理解できた。

これらのことから、製品が消費者の手元に届くまでには幾つもの作業工程が含まれており、学生達は自分の適性を活かせる場があることを実感したようだ。この経験を自らの就職活動にぜひ活かしてもらいたいと願っている。



炎の祭典支援プロジェクト

11

担当：山口 満

本プロジェクトでは、豊橋市の祭りである「炎の祭典」の屋イベントについて、動画素材を通じて広報し、地域振興に貢献することを目的として活動を行った。具体的には、豊橋商工会議所青年部（YEG）のメンバーで運営される「炎の祭典」委員会の協力を得て、(1) 炎の祭典委員会および炎の祭典当日の取材（ビデオ撮影）、(2) 広報用動画の作成（取材ビデオの編集）、(3) 動画公開用Webサイトの作成を実施した。プロジェクトメンバーは山口ゼミ所属の3年生2名であり、上記の実践を通じて座学では得難い様々な知識と経験を獲得させ、また、コミュニケーション能力やタスク管理能力を養うことも目的とした。本活動の成果は、本学Webサーバーにおいて公開中である。

(<http://projectweb.sozo.ac.jp/myamaproj>)

当初は学外の方とのやり取りに戸惑い気味であった学生も、委員の方々との会話を重ねるうちに、自然に目上の方との話し方・接し方を身につけたようである。また、大学の名前を背負って活動していることを自覚し、無責任な行動・対応にならないよう努力していたようであった。学生のアンケート回答によると、「自らの意見を主張することができたか」の問いに「そう思う」と回答しており、本活動を通じて成長した様子が伺える。今回の活動については関係の方々から多数のお褒めの言葉をいただき、また、次年度以降も活動を継続して欲しいという声をいただいているため、今年度の経験と反省を踏まえ積極的に検討していきたい。



プロジェクトマネジメントの効果

プロジェクト活動報告

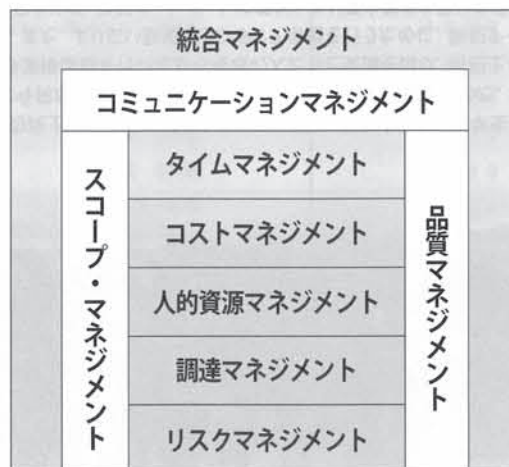
担当：村松 東

プロジェクトとは、ある成果物やサービスを創出するために、プロジェクトチームを組んで行う期限のある活動のことをいう。世界最大のプロジェクトマネジメント団体であるPMI(Project Management Institute)がプロジェクトマネジメントの知識を体系化したPMBOK OK(Project Management Body Of Knowledge)では、プロジェクトを「独自のプロダクト、サービス、所産を創造するために実施される有期性の業務である」と定義している。プロジェクトを成功させるためには、プロジェクトマネジメントというプロジェクトを適切に管理する作業が必要となる。

プロジェクトマネジメントとは、プロジェクトが目的を果たすために必要な知識やスキルなどを利用して、上手に進める管理活動をいう。プロジェクトチームで設定した目標を達成するためには、人（チームや外部組織）、タスク、スケジュール、費用などをバランスよく調整し、全体の進捗状況を的確に管理することが求められる。

適切なマネジメントが行われているプロジェクトでは、プロジェクトで行うべき作業が事前に明確になっており、作業を行う担当者や作業の所要時間が決定されている。プロジェクトの進捗状況や費用の発生状況は逐次監視され、プロジェクトの計画からずれが発生した場合には、適宜対応を行う。このため、いつプロジェクトが終わるのか（スケジュール）、いくら費用がかかるのか（費用）などを予測することができる。このように、プロジェクトの進捗管理を行うことがプロジェクト活動には重要となる。

持続型職業人SOZOプロジェクトのプロジェクト演習において、学生が企業をはじめとする外部組織と共に具体的なプロジェクトに取り組み、企画・運営・進捗管理・報告といった4段階のプロセスを踏まえた実践を通して、目標の実現に向けた事業運営への理解を深めることができたことは成果であった。



図表：PMBOKの9つの知識エリア

持続型職業人SOZOプロジェクト

キャリアプランニング科 プロジェクト活動



1 食の伝達「大学生コックさんのクッキング(子どもクッキング)教室」プロジェクト

担当：朝倉 由美子



調理を学ぶ中で自らの技術向上のためだけでなく、他者に指導することで自身の技術や知識等の問題点の確認をすることは大きな意義がある。年間4回の小学生を対象にしたクッキング教室を開催して、調理技術をはじめ、料理の楽しさや協調性を伝える活動の中から、開催に伴うさまざまな過程を経験した。メニューの決定、試作、材料発注、配布レシピの作成、タイムテーブル作りや危険の予想に対する準備、そして当日の進行など分担を決めて話し合いながら進めた。「野菜を多く食べられて、かつ美味しい献立の発信」をテーマに、郷土料理や豊橋で生産量の高い農産物を使う献立を取り上げた。ふれあいながらも怪我をさせない事に細心の注意を払い、様々な想定外の場面にも遭遇しながら、臨機応変に対応でき、とっさの判断力や実行力を身に付けることができた。

2 「豊橋産の野菜と米粉を使った焼き菓子の開発」プロジェクト

担当：朝倉 由美子



農業が盛んである豊橋で調理を学ぶ中で、セミナーでは「野菜の摂取量を増やす取り組み」を掲げて活動している。そこで、農産物への関心を高め、農産物の6次産業化への提案の一つにしたいと、米粉と豊橋の農産物(主に野菜)を組み合わせた新たな製品を考えようと、野菜入りの焼き菓子の製品化への取り組みを始めた。試作品のアンケートによる市場調査を行い、今後の製品化への問題点の検討を行った。取り組み自体には未知の製品作りに学生は意欲的であったが、製品化への壁も多いことを経験した。今後への反省と課題を出し合い製品化実現に向けて経過体験を重ね、創造力と実行力の向上が図ることができた。今後は別の焼き菓子も視野に入れつつ、授産所等への製造依頼に向けての取り組みも検討して進めていく予定である。

3 豊橋の祇園祭を考えるプロジェクト

担当：今泉 仁志



2011年3月11日の東日本大震災以降、全国に自粛ムードが広まる一方で、こういう時だからこそ祭りや花火などによって活性化をはかろうという動きがあった。全国の夏祭りはどうなるのだろうか。そもそも、伝統的な祭りは、現代において街の活性化とどう関わりあっているのだろうか。そんな問題意識から、地元豊橋の代表的な夏祭りである豊橋祇園祭をテーマに取り上げた。手筒花火奉納の日である2011年7月15日を目標にしてプロジェクトを進めた。プロジェクト活動の時間が限られ、手筒花火は「男の祭り」の面が強いことから、ゼミ時間外の情報収集は教員が手助けした。iPadを活用し、情報共有が円滑に進められたのはよかった。学生には、豊橋祇園祭というものがとても新鮮に感じられたようで、町内会に支えられた祭りであることがよく理解でき、豊橋伝統の手筒花火はこれからも続けてほしいという感想であった。

4 ライスフラワー プロジェクト

担当：木下 賀律子



我が国の米の消費量は年々減少傾向にあり、米を巡る状況は厳しくなっている。日本の食糧自給率は39%(平成22年度)と主要先進国の中で最低の水準となっている。このような社会情勢を踏まえ「米・米粉」をテーマに掲げ、食料自給率向上に向けて取り組んだ。

事前学習として①米粉の製造工場の見学②米粉専門の洋菓子店訪問③米粉の販売状況の現地調査の3グループに分れて、米粉の情報収集に努めた。また学園祭を利用して「米&米粉フェア」を開催し、料理の作品展示や米粉料理の講習会を実施した。特に料理講習会では学生達が自ら講師となって、来場者(卒業生や地域の方々)の前で米粉の使い方や料理法を紹介した。

これらの活動を通して、米粉の需要拡大に向けて些かなりとも貢献することが出来たと考えている。



5 防犯プロジェクト

担当：千賀 博巳 中島 剛



働く意欲と意識の向上を目指して、「人と人のつながり、絆を大切に学生生活を送るために、自分たちに今何ができるか。」を考え、防犯ボランティア活動を始めた。地域を巡回し、あいさつ運動や清掃活動を行いながら地域の人たちと交流を図り、防犯上心配な箇所はないかを調べた。また、より広い防犯ボランティア活動を行うために、防犯チーム (Clean Team SOZO) を発足させて、防犯キャンペーンに参加したり青少年立ち寄り支援のための活動に参加した。活動日は授業後や土曜、日曜であったが、多くの学生が参加し、地域の人たちや防犯キャンペーン参加者などと積極的に交流を図った。ある学生の感想に「小さなことの積み重ねが地域の安全・安心という大きなものにつながると気付きました。」とあったが、今後もこの活動を進めながら学生の成長を図っていきたい。

6 身近な自然発見・発信プロジェクト

担当：寺本 和子



愛知県の東三河地方は、多様性に富んだ自然を有しています。しかし、現状は決して楽観できません。私たちプロジェクト参加者は、NPO法人東三河自然観察会の指導を受けながら、東三河の自然の現状を知ること努めました。野外での自然観察の機会は3回しかありませんでしたが、自然観察は楽しく、自然に対する感性を養うことができました。また、社会人との交流は、今後、社会に出るに当たっての良い経験になりました。一方、自分たちの知れた情報を伝え、少しでも東三河の自然を守ることに繋がればという期待を持って、すべて学生たちによって作成されたホームページを立ち上げ、観察結果を公表しました。このことは、ITリテラシーの育成に役立ったと考えられます。

7 医療機関の貼り紙適正化プロジェクト

担当：細谷 邦夫



医療機関の中に貼られている掲示物は、お世辞にも綺麗とは言いがたく、情報が散らばりがちで、患者さんに対して伝えたい情報が伝わり切っていないのではないかと考え、本プロジェクトを立ち上げた。プロジェクト実施にあたっては、豊橋市内の3医療機関のご協力を頂き、学生は院内掲示の法的側面を事前学習のうえ現地調査をし、A1サイズの掲示物にまとめることができた。また創造祭において、卒業生との意見交換をする中で、患者さんの視線は年齢や体格などによって変わることを学んだ。

学生にとっては、医療機関が患者さんに対してどのような事を伝えたいのか、受付の方々がどのような事に困っているのかを学ぶことができ、医療秘書検定のプラスアルファを得ることが出来たのではないだろうか。

8 I♥ROSEプロジェクト

担当：村松 史子



東三河南部は温暖な気候を利用して農業や花の栽培が盛んである。渥美の薔薇園 (渡辺氏) の協力を得て、薔薇の栽培方法・流通の仕組みを理解し、商品として学園祭で販売するまでの過程を体験的にとらえようと考え、プロジェクトに取り組んだ。当初、豊橋~渥美の遠距離のことが問題になった。学生たちは、「ブログ」を利用することで問題解決を図った。薔薇園から発信される生育状況を見ることによって状況の共有ができ、薔薇に対する意識が高まってきた。その後、8月に薔薇園を訪問した。

学園祭で薔薇の完売を目指し、事前にラッピングの仕方の指導を受け、戸惑いながら販売を開始した。徐々に活気も出て、盛況のうちに目標の薔薇の完売を達成できた。利益を「東日本大震災寄付金」として中日新聞社へ届け、本プロジェクトを終えた。



平成23年度就業力育成支援事業活動状況

実施日	行事名
4月12日	第1回「豊橋を知る」キックオフ講演会
4月19日	第2回「豊橋を知る」キックオフ講演会
4月20日	第1回 携帯情報端末アプリケーション導入説明会
4月21日	第2回 携帯情報端末アプリケーション導入説明会
4月26日	第3回 携帯情報端末アプリケーション導入説明会
4月27日	第4回 携帯情報端末アプリケーション導入説明会
5月23日	第1回 職業研究
6月8日	社会人基礎講座
6月20日	第2回 職業研究
6月27日	第3回 職業研究
6月30日	キャリアプランニングI
8月8日・9日	メンタルタフネスアセスメント講習
8月9日	情報ビジネス学部 プロジェクト中間発表会
9月6日	セルフモチベーション講座
9月24日	業界別交流会
10月23日	短期大学部 在校生&卒業生交流会
10月25日	メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座(1)
12月17日	メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座(2)
12月21日	キャリアプランニング科 プロジェクト成果発表会
12月22日	情報ビジネス学部 プロジェクト成果発表会

プロジェクト連携企業・団体一覧

- 愛知県三河繊維技術センター
 - 飯田市立病院
 - S. I. plant
 - NPO法人 インターネットラーニングアカデミー
 - (株) エフエム豊橋
 - 小野田内科
 - 小畑耕一公認会計士事務所
 - 蒲郡市民病院
 - (株) キューソー流通システム 春日井営業所
 - (株) サイエンスクリエイト
 - (株) サラコーポレーション
 - 総合病院三原赤十字病院
 - (医) 田中会西尾病院
 - 東京医科大学八王子医療センター
 - 鳥取赤十字病院
 - 豊橋観光コンベンション協会
 - 豊橋市教育委員会教育政策課
 - 豊橋市企画部広報広聴課
 - 豊橋市企画部政策企画課
 - 豊橋市産業部産業政策課
 - 豊橋市企画部シティプロモーション推進室
 - (福) 豊橋市社会福祉協議会
 - 豊橋市総合福祉センター あいトピア
 - 豊橋商工会議所地域振興部地域振興課
 - 豊橋商工会議所青年部炎の祭典委員会
 - 豊橋筆振興協同組合
 - 南部デイサービスセンター
 - 日本ゼネラルフード(株)
 - 東三河障がい者しごとセンター
 - 広島国際大学
 - ヒロタ(株)
 - (株) 平松食品
 - (福) 福寿園 昭和の里
 - (有) 筆匠 榊原
 - (株) ブレインシティ
 - (医) 鳳紀会可知病院
 - (医) 宝美会綜合青山病院
 - 本多電子(株)
 - (医) 元町病院
 - (株) 物語コーポレーション
 - ヤマサちくわ(株)
 - (医) 栗山会飯田病院
 - 老人保健施設 明陽苑
 - (株) ワルツ
 - 愛知県豊橋警察署
 - (株) イシグロウイング
 - エイティエイト(株)
 - エイティエイト(株) 春日井工場
 - NPO法人 東三河自然観察会
 - ガーデニングガーデン(株)
 - こども未来館 ここにこ
 - 豊橋祇園祭奉賛会
 - 豊橋市民病院
 - 西田メディカルクリニック
 - 福井脳神経外科
 - LACLE FLORISTS
 - リトルバード
 - ワタナベローズナーセリ
- (敬称略順不同)



豊橋創造大学
豊橋創造大学短期大学部

〒440-8511 愛知県豊橋市牛川町松下20-1 渉外部キャリアセンター

TEL.050-2017-2104(直通) FAX.050-2017-2112(直通)

インターネット [URL] <http://www.sozo.ac.jp/> [E-mail] job@sozo.ac.jp

●情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科
●短期大学部 キャリアプランニング科

[交通案内]

- 豊鉄バス
豊橋駅⑤番乗り場から乗車(所要時間15分)
「豊橋創造大学正門」下車、徒歩1分
(土・休日のみ「創造大東」下車、徒歩1分)
- 豊川インターチェンジより車で約15分